

国立国語研究所学術情報リポジトリ

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規程集 改定版

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002846

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 形態論情報規程集 改定版

小椋 秀樹・小磯 花絵・富士池 優美・原 裕

平成21年3月

大規模汎用日本語データベースの構築とその活用に関する調査研究

©2009 独立行政法人国立国語研究所

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
形態論情報規程集
改定版

小椋 秀樹
小磯 花絵
富士池優美
原 裕

平成21年3月

大規模汎用日本語データベースの構築とその活用に関する調査研究

© 2009 独立行政法人国立国語研究所

目 次

はじめに	1
第1章 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の言語単位	
小椋秀樹 富士池優美	3
第1 語彙調査の調査単位	3
第2 BCCWJの言語単位の設計方針	5
第3 採用した言語単位	6
第4 長単位・短単位の概要	6
第5 長単位・短単位の長所	1 1
第2章 長単位	
富士池優美 小椋秀樹	1 3
I 文節認定規程 Version 1.1	
第1 文節認定規程	1 3
第2 複合辞・連語	2 4
II 長単位認定規程 Version 1.1	
第1 長単位認定規程	3 1
第3章 短単位	
小椋秀樹 小磯花絵 原裕	4 1
I 最小単位認定規程 Version 1.4	
第1 最小単位認定規程	4 1
第2 和語の最小単位認定に関する規則	5 2
第3 最小単位の分類	6 9
II 短単位認定規程 Version 1.4	
第1 短単位認定規程	7 1

第2 最小単位の結合の例	83
Ⅲ 付加情報	
第1 付加情報の概要	89
第2 品詞情報の概要	90
第3 語種情報の概要	109
Ⅳ 同語異語判別規程 Version 1.1	
第1 同語異語判別規程	141
細則 1 名詞と接辞の判定基準(1)	161
細則 2 名詞と接辞の判定基準(2)	165
細則 3 助数詞の判定基準	167
細則 4 動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準	168
細則 5 人名の扱い	171
細則 6 終止形・連体形の判定基準	174
細則 7 出現形「に」の品詞分類	176
細則 8 助詞「か」の分類基準	178
細則 9 出現形「で」の品詞分類	181
細則 10 メタ的に使われた漢字等の扱い	184
参考資料 助詞・助動詞接統一覧(終止形・連体形接続)	185
参考文献	187
資料 要注意語	
「一が～」	(1)
「一の～」	(1)
助詞	(24)
助動詞	(32)

接頭的要素	(3 7)
接尾的要素	(3 9)
全体で 1 最小単位とするもの	(5 5)

はじめに

国立国語研究所は、明治時代から現代に至るまでの日本語の全体像を解明するため、大規模言語コーパスKOTONOHAの構築を進めている。この構築計画では、まず2006年度から2010年度までの5か年計画で1976年から2005年までの30年間に出版された日本語の書き言葉を対象とする『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(*Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese*, 以下BCCWJとする。)を構築する¹。

BCCWJには、国語学・日本語学・情報工学をはじめとする幅広い分野での活用を目指して、様々な研究用の付加情報を与える。このうち形態論情報については、言語単位として、コーパスからの用例収集に適した「短単位」とBCCWJに格納したサンプルの言語的特徴の解明に適した「長単位」との2種類を採用した。この2種類の言語単位に基づいて、更に代表形・品詞・語種等の情報を与える。

本書は、BCCWJで採用した長短2種類の言語単位の認定規程、短単位に対して付与する各種情報の概要等についてまとめたものである。

以下、第1章でBCCWJの言語単位の概要について述べた後、第2章において長単位の認定規程を示す。第3章では、短単位の認定規程について示した後、短単位に付与する付加情報の概要と同語異語判別規程を示す。資料「要注意語」には短単位の認定に当たって注意すべき語を一覧にする。

なお、BCCWJの形態論情報に関する各規程には、未整備の箇所がある。そうした箇所については、今後BCCWJの構築を進める中で、順次整備していく予定である。本書を参照するに当たっては、このことについてあらかじめ了解されたい。

1 KOTONOHA計画の概要については前川(2006;2008)、BCCWJの設計については山崎(2007)を参照。

第1章

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の言語単位

小椋秀樹 富士池優美

本章では、まず国立国語研究所がこれまでにやってきた語彙調査における調査単位を概観し、続いてBCCWJの言語単位の設計方針、BCCWJで採用した言語単位の概要について述べる²。

第1 語彙調査の調査単位

国立国語研究所は、これまでに、マスメディアにおける書き言葉や話し言葉を中心に、合計10回の大規模な語彙調査を実施してきた。この語彙調査に当たっては、当然語というものを規定することが必要となる。しかし、語の定義については研究者によって様々な立場があるため、語彙調査において語（調査単位）をどのように規定するかということは常に大きな問題となる。

国立国語研究所がこれまでに行った語彙調査では、調査単位の設計に当たって、語とは何かという本質的な議論の上に立って調査単位を設計するという立場は取っていない。それぞれの語彙調査の目的に応じて最もふさわしい単位を設計するという方針の下に、一貫して操作主義的な立場を取ってきた³。そのため、表1.1に示すように、複数の調査単位が使われてきた⁴。

表1.1 国立国語研究所の語彙調査における主な調査単位

	単位の名称	語 彙 調 査 名
長い 単位 の 系 列	α単位	現代の語彙調査・婦人雑誌の用語
	W単位	高校教科書の語彙調査、中学校教科書の語彙調査
	長い単位	雑誌用語の変遷、テレビ放送の語彙調査
短い 単位 の 系 列	β単位	現代の語彙調査・総合雑誌の用語、現代雑誌九十種の用語用字、雑誌200万字言語調査
	M単位	高校教科書の語彙調査、中学校教科書の語彙調査

2 本章の内容は、国立国語研究所(2006)、小椋ほか(2007)、富士池ほか(2008)に基づくものである。

3 ここで言う「操作主義的な立場」とは、「これこれこういうものを「～単位」とする、という規定をするだけで、その「～単位」が言語学的にどのようなものなのか、単語なのか、単語でないとするば、どこが単語とちがうのか、といった問題には、まったくふれない」(国立国語研究所1987:11)という単位設計上の立場を指す。

4 単位の概略と例については、林(1982:582-583)、中野(1998:171-172)を基にした。

【調査単位の概略】

(1) 長い単位の系列 : 主として構文的な機能に着目して考えた単位。おおむね文節に相当する。

α 単位 文節を基にした単位。「| 小学校 | 卒業 |」「| 男児用 | 外出着 |」のように長い語を分割する規定を設けている。

W 単位 非活用語及び活用語のうち終止・連体形、命令形、中止用法・修飾用法の連用形を1単位とする。また、それらに接続する付属語も1単位とする。

長い単位 文節に相当する単位。「テレビ放送の語彙調査」の長い単位は、複合辞を助詞・助動詞として扱っていること、人名・地名のほか書名・番組名・商品名なども固有名詞として扱っていることから、「雑誌用語の変遷」で採用した長い単位よりも長くなっている。

(2) 短い単位の系列 : 主として言語の形態的な側面に着目して考えた単位。

β 単位 原則として、現代語において意味を持つ最小の単位(最小単位)二つが、文節の範囲内で1次結合したものを1単位とする。

M 単位 β 単位と同様に最小単位を基にした単位。漢語は、 β 単位と同様に二つの最小単位が文節の範囲内で1次結合したものを1単位とするが、和語・外来語は1最小単位を1単位とする。

【調査単位の例】

(1) 長い単位の系列

α 単位: 型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

W 単位: 型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

長い単位 (雑誌用語の変遷):

型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

長い単位 (テレビ放送の語彙調査):

型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

その | 問題 | について | 検討 | している |

(2) 短い単位の系列

β 単位: 型 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

M 単位: 型 | 紙 | どおり | に | 裁断 | し | て | 外出 | 着 | を | 作り | まし | た |

調査単位の設計に当たって、操作主義的な立場を取ってきたのは、「必要以上に学術的な議論に深入りし、実際上の作業がすすまないことをおそれたため」(国立国語研究所1987:12)であり、「学者の数ほどもある「単語」の定義について、まず、意見を一致させてから、というのでは、見とおしがたたない。」(同:12)からである。

このような立場に対しては、当然のことながら「語というものは何なのか、調査のため便宜的に設けられた単位にすぎないのか」という問題が残る。」(前田1985:740)という批判がある。確かに、語というものを定義しようとする以上、語とは何かという本質的な議論を積み重ねていくことは重要なことである。しかし、国立国語研究所(1987:12)に、「原則的にただしい定義に達したとしても、それが現実の単位きり作業に役立たないならば、無

意味である。語彙調査というのは、現象の処理なのだから。」と述べられているように、語彙調査においては対象とする言語資料に現れた個々の事象を、的確に処理するということが極めて重要なことである。このことから、これまでの語彙調査では、語とは何かという本質的な議論よりも、言語現象を的確に処理することを重視してきた。

このような立場を取って、各種の語彙調査を進めてきたことにより、「同じ資料の語彙調査を短単位と長単位との両方で行ってみてどのような違いが出てくるかを検討したことなどは、単位の区切り方を曖昧にしたまま「語彙調査」を行なうことに対する反省を促す」(前田1985:740)など、日本語の計量的な研究を進める上で先駆的な役割を果たしてきたと言える。国立国語研究所の語彙調査における調査単位の設計方針には批判もあるが、それにより現実の言語事象を的確に処理してきたことは、十分に意味があったと言える。

第2 BCCWJの言語単位の設計方針

BCCWJの言語単位の設計に当たっては、語彙調査における調査単位の設計と同様の立場を取った。つまり、まずBCCWJを日本語研究に利用するために、どのような言語単位が必要か整理し、その上で設計方針を立て、その方針に基づいて言語単位を設計したのである。

このような立場を取ったのは、語とは何かという本質的な議論の重要性はもちろん認めるところではあるが、コーパス構築という実務を考えた場合、BCCWJに現れる言語事象を的確に処理できる単位を設計することの方が、より重要であると考えたからである。このようにして大規模なコーパスを処理した結果をまとめておくことは、今後、言語単位論を進める上での基礎的な資料になると考えられる。

我々は、BCCWJの言語単位の設計方針として、次の三つを掲げた。

方針1：コーパスに基づく用例収集、各ジャンルの言語的特徴の解明に適した単位を設計する。

コーパスの日本語研究への活用としてまず考えられるのは、コーパスから用例を集めることである。そのため、BCCWJを日本語研究で幅広く利用できるようにするには、用例収集に適した単位を設計する必要がある。またBCCWJは、新聞・雑誌・書籍といった複数の媒体を対象としたコーパスであり、内容も政治・経済・自然科学・文芸等と多岐にわたっている。このようなBCCWJの構成から、媒体別・分野別の言語的な特徴を明らかにしていくことが重要な研究テーマになると考えられる。したがって、そのような分析に適した単位を設計することが必要になる。

方針2：『日本語話し言葉コーパス』と互換性のある形態論情報を設計する。

国立国語研究所が既に構築したコーパスとして、現代の話し言葉を対象とした『日本語話し言葉コーパス』(*Corpus of Spontaneous Japanese*, 以下CSJとする。)がある⁵。KOTONOHAの計画では、BCCWJ・CSJは、KOTONOHAを構成するコーパスの一つとして位置付けられている。そのため、BCCWJとCSJとを統一的に扱うことのできるような、互換性を持った単位を設計する必要がある。

方針3：国立国語研究所の語彙調査における知見を活用する。

国立国語研究所は、1949年の『語彙調査 一現代新聞用語の一例一』以来、合計10回の語彙調査を実施した。その中で、調査単位の設計や言語事象の処理に関して、様々な知見を蓄積している。そこで、BCCWJの言語単位の設計や単位認定の際に、これら語彙調査の

5 CSJの言語単位の概要については、国立国語研究所(2006)を参照。

知見を活用していく。語彙調査の結果は、日本語研究でも様々に活用されており、言語単位の設計等に語彙調査の知見を活用していくことは、BCCWJを使った日本語研究を進めていくためにも有用であると考えられる。

第3 採用した言語単位

以上の方針の下、BCCWJの言語単位について検討した結果、次のような結論を得た。

BCCWJの言語単位には、方針1で挙げた、用例収集・各ジャンルの言語的特徴の解明という二つの利用目的に応じて、次に示す2種類を採用する。

(1) 用例収集を目的とした短単位

(2) 言語的特徴の解明を目的とした長単位

この短単位・長単位は、いずれもCSJで採用した言語単位である。また短単位は国立国語研究所が行った現代雑誌九十種調査のβ単位を、長単位はテレビ放送の語彙調査の長い単位を基に設計したものである。このようにして、CSJとの互換性の保持と、国立国語研究所の持つ語彙調査の知見の活用とを図る。なお、長単位・短単位認定規程は、CSJの規程をそのまま用いるのではなく、書き言葉用に修正・拡張を行っている。長単位認定規程の主な変更点は4.1.3節に、短単位認定規程の主な変更点は4.2.3節に述べる。

第4 長単位・短単位の概要

ここでは、長単位・短単位の概要について述べる。それぞれの単位の詳細については、長単位は第2章を、短単位は第3章を参照されたい。

4.1 長単位の概要

長単位は文節を基にした単位である。長単位の認定は、文節の認定を行った上で、各文節の内部を規定に従って自立語部分と付属語部分とに分割していくという手順で行う。そのため、長単位の認定規程は、文節と長単位、二つの認定規程から成る。

本節では、文節と長単位の認定規程の概要及びCSJの長単位認定規程からの変更点、コーパスの言語単位としての長単位の長所について述べる。以下、例文中の文節の境界を「|」、長単位の境界を「|」とし、注目している境界を「||」、切らないことを示す場合には「-」を、中でも注目している部分には「=」を用いる。また、注目している単位には下線を付す場合がある。

4.1.1 文節の認定

長単位の認定に当たっては、まず文節の認定を行う。

文節は、一般に付属語又は付属語連続の後ろで切れる。BCCWJでは、CSJと同様に複合辞も付属語として認めた。文節を認定する上で問題となることの一つに、固有名、動植物名、「一の～」「一が～」で1短単位と認める体言句がある。これらについては、内部にある付属語の後ろでは切らないこととする。

源=頼朝	虎の=門交差点	タツノ=オトシゴ	ユキノ=シタ
案の=定	油絵の=具	万が=-	

4.1.2 長単位の認定

長単位は、規定に基づいて文節を分割する、あるいはしないことによって得られた要素を1単位とする形式であり、文節を超えることはない。

以下、長単位認定規程の概要を示す。

〔1〕記号は1長単位とする。

| 湾岸戦争後 | 〰 | 英 | 〰 | 仏 | など | と |

| 供給実績資料 | 〰 | 定期借地権普及促進協議会調べ |

ただし、それがないときに全体が1長単位となるものの中に現れる記号は、1長単位としない。

| 採穂 = (=種) = 園 | | 17 = . = 3 % | | 小 = . = 中学生 |

〔2〕語と同じ働きをする記号・記号連続及びそれらを含む結合体は、全体で1長単位とする。

| 2 , 000 = m² | | WHO | | PHS |

〔3〕付属語（複合辞を含む。）は1長単位とする。

| 公害紛争処理法 | における | 公害紛争処理 | の | 手続 | は | , | 原則 | として | 紛争当事者 | から | の | 申請 | によって | 開始さ | れる | 。 |

〔4〕体言及び副詞に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合、体言及び副詞と「する」「できる」「なさる」「いたす」とを切り離さない。

| 往復運動 = し | ている | | きらきら = さ | せ | た |

〔5〕同格の関係にある体言連続は切り離さない。

| 機関誌 = 計量国語学 | が | 発刊さ | れ |

〔6〕並列の関係にある語は切り離す。

| 公正 | 妥当 | な | 実務慣行 |

- (1) 並列された語のうち、①中点でつなげている場合、②漢語の最小単位の並列、③和語の最小単位二つが並列した語のうち、『岩波国語辞典』第6版（岩波書店）、『日本国語大辞典』第2版（小学館）のいずれか一方で見出し語になっている語は切り離さない。

| 麦 = ・ = 大豆 = ・ = 飼料作物 | | 前 = 後 | | 市 = 町 = 村 | | あち = こち |

- (2) 並列の関係にある体言連続のうち、並列された体言全体に係る、又はそれら全体を受ける体言的な形式や接辞がある場合及び形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」がある場合は切り離さない。

| 英語 = 日本語 - 間 | | 新 - 学年 = ・ = 学期 | | 在学 = ・ = 在校する |

〔7〕数を表す要素を含む自立語は、以下のように長単位を認定する。

- (1) 数を表す要素は、単位の変わり目の後ろで切る。

| 平成 | 15年 || 9月 || 15日 | 午後 | 7時 || 33分 |

- (2) 数を表す要素の前で切る。

| 延べ || 23時間 | 30分 |

ただし、数を表す要素と前の要素とに係る、又はそれらを受ける体言・接辞がある場合には、数を表す要素と前の要素とを切り離さない。

| 果汁 = 百パーセント - オレンジジュース | | 翌 - 平成 = 8年 |

- (3) 数を表す要素とそれに続く体言・接辞とは切り離さない。

| 月 | 80時間 = 以上 | | 96年 | 3月 | 31日 = 以前 |

〔8〕括弧内に注釈的な語句等がある場合、括弧をいったん読み飛ばして単位認定を行う。

| 大学院レベル | の | 若手研究者 | の | 短期受入れ（文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム）等 | を | 実施し、 |

→ | 短期受入れ = 等 | を長単位として認定する。括弧内は別途単位認定を行い、| 文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム | も長単位とする。

4. 1. 3 CSJの長単位からの変更点

(1) 記号に関する規定の追加

CSJの書き起こしテキストには用いられていなかった句読点等、区切り符号を含む記号を1長単位にする規定を追加し、書き言葉に対応した。

(2) 数量を表す要素に関する変更

CSJでは数量を表す要素は分割せず一続きとしていたが、長すぎるという指摘があった。

CSJ : | 1 m = 8 0 c m |

BCCWJでは前述のとおり、単位の変わり目の後ろで分割することとした。

BCCWJ : | 1 m || 8 0 c m |

(3) 係り受けが関係する規定の簡素化

CSJでは「体言連続の一部分が連体修飾語を受けている場合、その後ろで切る」「2文節を受ける、若しくは2文節以上に係る接辞はその前後で切る」という規定があった。

CSJ : | 項構造 | の | 曖昧性 || 解消 |

| 円形劇場 | とか | 水路 || 等 |

これらは、語と語との係り受けを厳密に考えたところから作られたものである。しかし実際に単位分割をする際には、体言連続の一部分が連体修飾語を受けているかどうかの判定が難しいものがある。そのため、特に判定が難しい「体言＋以降、間（かん）、ごと、自体、達」という形式は、

CSJ : | 住ん | でる | 人 = 達 |

のように、体言と「達」などを切り離さないという例外規定を設ける等、煩雑な規定となっていた。このことが単位認定のゆれにつながっていたため、BCCWJでは規定を簡素化することとした。

BCCWJ : | 項構造 | の | 曖昧性 = 解消 |

| 円形劇場 | とか | 水路 = 等 |

(4) 語中の注釈に関する規定の追加

書き言葉では、括弧を付して注釈的な語句・文を示す形式がしばしば見られる。このような形式のうち、

まとめて登録（申請から登録まで最短1日）可能になるほか

のように、長単位の中に注釈的な語句・文を示す括弧が入る場合の扱いが単位認定上、問題となる。この場合、括弧内の語句・文をいったん読み飛ばし、括弧がない形式（上の例では「登録可能」）を長単位として認定し、括弧内の語句・文については別途、単位認定を行うこととした（上の例では「| 申請 | から | 登録 | まで | 最短 | 1 日 | 」と分割）。これは過去の国立国語研究所の語彙調査の方針に基づくものである⁶。

4. 2 短単位の概要

短単位は、言語の形態的側面に着目して規定した言語単位である。短単位の認定に当たっては、まず現代語において意味を持つ最小の単位（以下、最小単位）を規定する。その上で、最小単位を長単位の範囲内で短単位の認定規程に基づいて結合させる（又は結合させない）ことにより、短単位を認定する。そのため、短単位の認定規程は、最小単位と短単位、二つの認定規程から成る。

本節では、最小単位と短単位の認定規程の概要及びCSJの短単位認定規程からの変更点、コーパスの言語単位としての短単位の長所について述べる。以下、例文中の最小単位の境界を「/」、短単位の境界を「|」とし、注目している境界を「||」、切らないことを示す場合には「-」を、中でも注目している部分には「=」を用いる。また、注目している単位には下線を付す場合がある。

6 国立国語研究所(1987:21)を参照。

4. 2. 1 最小単位の認定

最小単位は、現代語において意味を持つ最小の単位であり、和語・漢語・外来語・記号・人名・地名の種類ごとに、次のように認定する。

和 語：／豊か／な／暮らし／に／つい／て／

／大／雨／が／降っ／た／の／で／

漢 語：／国／語／ ／研／究／所／

外来語：／コール／センター／ ／オレンジ／色／

人 名：／星野／仙一／ ／ジェフ／・／ウィリアムス／ ／林／威助／

地 名：／大阪／府／豊中／市／待兼山町／ ／六甲／山／ ／琵琶／湖／

記 号：／図／A／ ／J R／

上記のように認定した最小単位を短単位認定の必要上、表 1. 2 のように分類する。

表 1. 2 最小単位の分類

分 類		例
一 般		和 語：豊か 大 雨 … 漢 語：国 語 研 究 所 … 外来語：コール センター オレンジ …
数		一 二 十 百 千 …
そ の 他	付 属 要 素	接頭的要素：相 御 各 … 接尾的要素：兼ねる がたい 的 …
	助詞・助動詞	う だ ます か から て の …
	人名・地名	星野 仙一 大阪 六甲 …
	記 号	A B ω イ ロ ア J R …

上記の分類のうち「付属要素」とは、接頭辞・接尾辞・補助用言のことである。ただし、すべての接頭辞・接尾辞・補助用言を付属要素に分類するわけではない。現代雑誌九十種調査やCSJに出現したものの中から造語力が高いなど注目されるものを付属要素に分類している。今後、BCCWJに出現した接頭辞・接尾辞・補助用言からも、造語力が高いものなどを追加していく予定である。

なお、最小単位は短単位認定のために必要な概念として規定するものである。そのため、BCCWJのサンプルを最小単位に分割することはしない。

4. 2. 2 短単位の認定

短単位の認定規定は、表 1. 2 の分類ごとに適用すべき規定が定められている。その規定に基づいて最小単位を結合させる（又は結合させない）ことにより、短単位を認定する。なお、最小単位を結合させる際には、長単位境界を超えないという制約を設け、長単位と短単位とが階層構造を持つようにしている。

以下、一般・数・その他に分けて、短単位認定規程の概略を示す。

[1] 一般

《原則》

(1) 和語・漢語は、2 最小単位の 1 次結合体を 1 短単位とする。

母=親 | | 食べ=歩く | | 言=語 | 資=源 | | 研=究 | 所 |
本=箱 | 作り |

(2) 外来語は、1 最小単位を 1 短単位とする。

コール | センター | | オレンジ | 色 |

《例外規定》

(1) 省略された外来語の最小単位の扱い

①省略された外来語の最小単位は、和語・漢語の最小単位と同様に扱う。

| パソ=コン | | 塩=ビ | | ピン=ぼけ |

②省略された外来語の最小単位と省略されていない外来語の最小単位との1次結合体は1短単位とする。

| エア=コン | | マス=コミ |

(2) 1最小単位を1短単位とするもの

①最小単位が3個以上並列した場合の各最小単位

| 衣 | 食 | 住 | | 松 | 竹 | 梅 | | 都 | 道 | 府 | 県 |

②類概念を表す部分と名を表す部分とが結合してできた固有名詞のうち、類概念を表す部分と名を表す部分とが共に1最小単位の場合の、それぞれの最小単位

| さくら | 屋 | | 歌舞伎 | 座 | | のぞみ | 号 |

(3) 最小単位の3個以上の結合体を1短単位とするもの

①3個以上の最小単位からなる組織の名称等の略称

| 日経連 | | 通総研 |

②切る位置が明確でないもの、あるいは切った場合と一まとめにした場合とで意味にずれがあるもの

| 大統領 | | 不可解 | | 明後日 | | 殺風景 |

| 輸出入 | | 国内外 | | 原水爆 | | 市町村長 |

| 大袈裟 | | 大丈夫 | | 二枚目 | | 十八番 |

ただし二つ以上の漢語の最小単位が並列して1短単位と結合している場合は、次のように短単位を認定する。

| 中 | 小 | 企業 | | 小 | 中 | 学校 | | 都 | 道 | 府 | 県 | 知事 |

[2] 数

「数」以外の最小単位と結合させない。「数」どうしの結合は、一・十・百・千のとなえを取る桁ごとに1短単位とする。「万」「億」「兆」などの最小単位は、それだけで1短単位とする。小数部分は1最小単位を1短単位とする。

| 十 | 二 | 月 | 二十 | 三 | 日 | | 七百 | 五十 | 二 | 万 | 語 |

| 五 | 分 | の | 二 | | 二三十 | 回 | | 〇 | . | 四 | 五 |

[3] その他

1 最小単位を1短単位とする。

付属要素 : | 筒 | 状 | | 扱い | 兼ねる |

助詞・助動詞 : | 豊か | な | 暮らし | に | つい | て |

人名 : | 星野 | 仙一 | | ジェフ | ・ | ウィリアムス | | 林 | 威助 |

地名 : | 大阪 | 府 | 豊中 | 市 | 待兼山町 | | 六甲 | 山 | | 琵琶 | 湖 |

記号 : | 図 | △ | | J R |

4. 2. 3 CSJの短単位からの変更点

CSJの短単位や現代雑誌九十種調査のβ単位では、「一般」の外来語の最小単位も、和語・漢語と同様、2個の1次結合を1短単位としていた。つまり、「コールセンター」「オレンジ色」を1単位としていた。ただし、(1)欧米語の冠詞・前置詞に当たるものは1最小単位を1短単位とする、(2)β単位では最小単位2個の1次結合が7拍を超える場合、短単位では同じく10拍を超える場合、結合させずに1最小単位を1短単位とするという例外規定を設けていた。

しかし、外来語の最小単位2個の1次結合を1短単位とすることについては、CSJの構築当初から和語・漢語に比べて長すぎるのではないかという指摘があった。このような指摘を踏まえ、上記(2)の拍数による例外規定を設けたが、10拍を超える場合としたことに言語学的な意味があるわけではなく、そういう意味でこの例外規定にも問題があった。

以上のことから、BCCWJでは「一般」の外来語の最小単位は、原則として1最小単位を1短単位とし、和語・漢語の最小単位とは異なる扱いにした。

第5 長単位・短単位の長所

ここでは、長単位・短単位がコーパスの言語単位として、どのような長所を持つのかについて述べる。

5. 1 長単位の長所

一般に単位を短くすればするほど、取り出した単位はいわゆる基本的な語となる。反対に、より長い単位とすれば、当該資料の性格を反映する特徴語を取り出せるようになる。短単位は基準が分かりやすくゆれが少ないため、用例収集を行う上では便利な単位であるが、合成語を構成要素に分割してしまうという問題点がある。

中央省庁刊行白書の人手修正済み短単位データ（約20万語）を基に、白書を安全・科学技術・外交・環境・教育・経済・国土交通・農林水産・福祉に分類した場合、どのような語と結合するかという点から、ジャンル別の差異を見る。以下、「生活」という語を例に説明する。20万語中、「生活」は211例見られる。そのうち「生活」単独で使われた例が42例、合成語の構成要素として使われている例が169例と、「生活」という短単位は、合成語の構成要素として使われることが多いことが分かる。

ここで、経済と福祉それぞれのジャンルでの「生活」を見てみよう。経済では「生活」は7例使われており、そのうち、「生活」単独で使われた例は1例である。一方、福祉では「生活」が126例用いられており、そのうち「生活」単独で使われた例が27例である。

以下に、「生活」が合成語の構成要素として使われている例を示す。

【経済】

国民生活選好度調査 消費生活 人間生活 生活不安度指数 労働者生活

【福祉】

WHO国際生活機能分類 加齢、食生活、日常生活環境等 家庭生活
基礎的生活コスト 共同生活 国際生活機能分類 国民生活センター
国民生活選好度調査 市町村障害者生活支援事業
施設サービス・精神障害者生活訓練施設 自立生活 社会生活 消費生活
消費生活センター 障害者就業・生活支援センター 障害者生活訓練
食生活環境 食生活関連情報 生活コスト 生活する 生活できる
生活確保体制 生活環境 生活教養テレビ番組 生活訓練・就労・住居等
生活支援 生活支援体制 生活施設 生活実態 生活上 生活水準
生活全般 生活相談 生活満足度 精神障害者地域生活支援センター
知的障害者生活支援事業 地域生活 地域生活支援 日常生活
日常生活支援体制 日常生活上 避難生活 別居生活

上に挙げた中で、下線を付した語はそれぞれ経済のみ、福祉のみに出現しているものである。つまり、「生活不安度指数」「労働者生活」などは経済の白書の特徴付ける語であり、「障害者生活訓練」「生活コスト」「地域生活」などは福祉の白書の特徴付ける語であると言える。このように「労働者生活」を「労働」と「者」と「生活」とに、「生活コスト」を「生活」と「コスト」とに分割するのではなく、全体で一つとして扱う長い単位を使うことで、各分野の特徴的な語を把握することができる。長単位は各ジャンルの言語的特徴を解明するという目的にかなう、各媒体・各分野の資料的な性格を反映する単位と言える。

5. 2 短単位の長所

短単位の長所としては、次の2点が挙げられる。

長所1:基準が分かりやすく、ゆれが少ない。

これは、短単位の基礎となる最小単位の認定に当たり、個人によってとらえ方に幅のある要素を基準に持ち込んでいないことによる。

なお、基準が分かりやすく、ゆれが少ないという短単位の長所は、作業効率の向上につながるだけでなく、コーパスの使いやすさにもつながる。基準が分かりやすければ、利用者が語を検索する際、どのように検索条件を指定すればよいか迷うことが少なくなる。また、ゆれの少なさ、つまりデータの精度の高さは、分析結果の確かさにもつながる。

長所2:取り出した単位が文脈から離れすぎない。

上で短単位はゆれが少ない単位であると述べたが、実は最もゆれが少ない単位は、短単位ではなく、その基礎となっている最小単位である。それにもかかわらず、最小単位を言語単位として採用しなかったのは、最小単位は文脈から離れすぎるため、日本語の研究に使いにくいからである。

例えば、短単位「気持ち」は「気」と「持ち」の二つの最小単位に分割することができる。もしこのような最小単位でコーパスが解析されていると、動詞「持つ」を検索した際に、「荷物を持つ」などの「持つ」とともに、「気持ち」の「持ち」も検索結果として得られることになる。

しかし、動詞「持つ」の分析を行う際に、「気持ち」の「持ち」まで検索結果に含まれるのは望ましいとは言い難い。それは、実際の文脈の中では、動詞「持つ」として機能していないからである。したがって、コーパスから用例を収集し、分析することを考えた場合、正確に単位認定ができるとしても、最小単位のような単位では問題が多いということになる。

以上のように考えた場合、短単位は、基準の分かりやすさ・ゆれの少なさという条件を満たしつつ、用例を収集して分析を行うという利用目的にもかなう単位と言える。

第2章

長単位

富士池優美 小椋秀樹

長単位は文節を基にした言語単位である。長単位の認定は、文節の認定を行った上で、各文節の内部を規定に従って自立語部分と付属語部分とに分割していくという手順で行う。そのため、長単位の認定規程は、文節と長単位の二つの認定規程から成る。

《凡例》

1. 以下の規程に示した例は、コーパスに現れた例又は作例である。
2. 文節・長単位の境界を示すために次の記号を用いた。
文節の境界 …… | 例：| 国立国語研究所の |
長単位の境界 …… | 例：| 国立国語研究所 | の |
当該規定で着目している箇所 …… || 例：| 国立国語研究所の ||
| 国立国語研究所 || の |
3. 文節・長単位について分割しないことを特に示す必要があるときには、次の記号を用いた。
文節・長単位のつなぎ目 …… - 例：| からかわれて-ばかり-いる |
| 機関誌-計量国語学 | が |
当該規定で着目している箇所 …… = 例：| からかわれて=ばかり=いる |
| 機関誌=計量国語学 | が |
4. 各バージョンで変更した規定には、「(◆ver. 1.1修正)」「(◆ver. 1.1追加)」などと表示した。

I 文節認定規程 Version 1.1

第1 文節認定規程

【句読点・空白に関する規定】

(◆ver. 1.1修正)

1. 句読点（句読点として用いられているカンマ・ピリオド・エクスクラメーションマーク・クエスチョンマークを含む。）及び空白の後ろで切る。

【例】 | 低コストで | 機動的に | 商業施設として | 活用する | 例なども | ある。 ||
| 米は | 湾岸戦争後、 || 英、 || 仏などと | とともに | 国連安保理決議を |
| 実包八百五十六個等を | 発見、 || 押収すると | とともに、 ||
| この | ような | 社会情勢の | 下で、 || 公害に関する | 法制の | 整備が | 急
がれると | とともに、 ||
| || それは、 | 現実の | 世界情勢が |
| 第2部 || 森林 | 及び | 林業に関して | 講じた | 施策 |

句読点が連続している場合、最後の句読点の後ろで切る。

【例】 | 無理やり | 押し込んで | いいんですか !=? ||
| 響きが | いいね。 =。 =。 ||

1. 1 次に挙げる読点、カンマ、小数点の後ろでは切らない。

(1) 数字連続の中に現れるもの

【例】 | 大学院には | 約 2 万 5 =, = 0 0 0 人が | 在籍している |
| 年に | 1 =, = 2 日間の | 活動を | 義務付けたり、 |
| 大都市（政令指定都市）は | 1 7 =. = 3 %であるが、 |

(2) それがないときに全体が 1 文節となるもののの中に現れるもの

【例】 | 小 =, = 中学生では | 内容的に | 早すぎる | ものが | あるからだ。 |
銀行取引停止	避け	自ら	転 =, = 休 =, = 廃業選択	
こう	した	動きを、	名目 =, = 実質 GNP の	構成要素としての
神さまの	火は	ぜったいに	安全だ =, = という	気持ちが、

(◆ver. 1.1 追加)

1. 2 規定 3 以下によって定められる文節境界が句読点の直前に位置する場合、その規定は適用しない。

【例】 | 地域活動への || 参加、 | 地産地消といった || 小さな | 経済で || 充足感を ||
得る | 社会と || なります。 |

※ 上記の例の文末「なります。」は、用言の終止用法に当たるため、規定 1 と規定 4. 4 とを適用すると、「 | なります |。 | 」となる。しかし、句点のみの文節を認定するのは問題があるため、本規定を設け、上記のとおり文節を認定することとした。

2 句読点以外の区切り符号の扱いは、補則 1 に示す。

【付属語に関する規定】

3 助詞・助動詞・接尾辞連続（言いよどみの助詞・助動詞・接尾辞も含む。）の後ろで切る。助詞・助動詞には第 2 「複合辞・連語」の表 2. 1, 表 2. 2 に挙げた複合辞を含む。

【例】 | 地域活動への || 参加、 | 地産地消といった || 小さな | 経済で || 充足感を ||
得る | 社会と || なります。 |
| 地域住民に || よる | ネットワークが || 形成さ = れ = にくい || 状況が || 生じて
おり、 |
| その | 目的が || 個人に || 絞られ || 過ぎている || 傾向が || ある |

3. 1 複合辞の中に副助詞など（言いよどみの助詞・助動詞も含む。）が挿入された場合も、文節認定の上では全体で一つの複合辞と見なす。

【例】 | お友達には | からかわれて = ばかり = いる | 三枚目で = も = ありました。 |

3. 2 助詞・助動詞連続の後ろであっても切らない場合は、補則 2 に示す。

【構文的情報による規定】

4 助詞・助動詞を伴わない自立語は、以下の各項に該当する箇所です。

4. 1 主語・主題の後ろで切る。

【例】 | 空気まで | 碧く | 染め変えてしまった | ような | 緑 || あふれる | 風景の |
中に、 |
| 気持ち || 悪いから、 | ばかていねいな | 物の | 言い方を | するのは |
| 源泉徴収だけで | 確定申告は | 原則 | 必要 || ないが、 |

4. 2 連用修飾成分の後ろで切る。

【例】 | 柔らかい | 日差しに | きらめきながら | 空 || 高く | 飛んで | 行った。 |
| 山 || 深く | 谷 || 深く、 | 数十年前までは | なかなか || 入っていく | この
できなかった	秘境です。				
彼は	事故報告を	正しく		しなかったことになりますので、	
自分で	行動するなど、	とても		できは	しない。
終わったら、	やっと		パン		食べられる！
今日		来てらっしゃいますけども			
平成十四年六月十八日		IT戦略本部決定			
もっと		ゆっくり	歩いて	ください。	

ただし「消滅する」「紛失する」「死去する」の意の「なくなる」は切らない。

【例】 | 親と | 同居する | ことにより | 支出する | 必要が | なく=なるもの |

4. 3 連体修飾成分の後ろで切る。

【例】 | この || 資格には | 3級から | 1級まで | あり、 |
| 繊細で | 突き詰めて | ものを | 考える || タイプながら、 |
| 第二次大戦中に | 存在した | 大きな || 軍事基地の | 名前に | ちなんだ |

4. 4 用言の中止法・終止法・命令法の後ろで切る。

【例】 | ちょっとした | 山も | あり || 緑 | 溢れる |
| 何か | (F あの) | 頑張れ || 池田高校ナイン |

(◆ver.1.1修正)

4. 5 接続詞の前後で切る。

【例】 || しかし || 退職金制度などの | 整備状況の | 違いや、 |
| 内閣府を | 中心に、 | 我が | 国 || そして || 世界の | 科学技術の | 進歩の |
一翼を | 担い、 |
| 公害等調整委員会の | 委員長 || 及び || 委員 || 又は || 公害審査会の | 委員等
の | うちから |
|| と-すれ-ば || 選挙で | 国民受けする | ような | 公約を | しても、 |

(◆ver.1.1修正)

4. 6 感動詞の前後で切る。

【例】 || はい || そうです | (M 金沢に | 旅行したいので)と | いう | ような |

4. 7 体言の独立格の後ろで切る。

【例】 | 犬の | 方から | (F あー) | お父さん || 起きてよと | いう | ような |
| 打倒 || 趙を | 合言葉に | 五十期の | リーグが | 展開されている。 |

4. 8 規定 4. 1 から 4. 7 に該当しても切らない場合は、補則 2 に示す。

5 文節の認定上問題となる点については、以下の規定に従う。

【意味情報による規定】

5. 1 擬音語・擬態語の類は一続きにする。

【例】 | わいわい=がやがや |

5. 2 同じ要素及び類似の要素の繰り返しは切り離す。

【例】 | はい || はい | え | はい || はい | (F あ) | 分かりました |

ただし、次に挙げるものは切り離さない。

あとあと	ごくごく	さてさて	ただただ	どうこう	なおなお
まずまず	またまた	まだまだ	よくよく		

【例】 | ごく=ごく | 簡単に | 申しますと |
| まず=まずの | 着順を | 受けて、 |

【単位の内部構造による規定】

5. 3 体言に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合、体言と「する」「できる」「なさる」「いたす」とを切り離さない。

【例】 | まるで | 1つの | 光点が | 往復運動=している | ように |
| 私は | この | 予選を | 1位で | 通過=できると | 信じている |
| 久保田藩内を | 巡回=なさっている | わけですな |

国語辞典でサ変動詞語幹としての用法が示されていないものについても、形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合は、「する」「できる」「なさる」「いたす」を切り離さない。

【例】 | 青空に | 桜の | 花が | 満開=してる | 様子は |
| ぷらぷらと | (F あの一) | ウィンドーショッピング=する |

(◆ver. 1.1修正)

5. 3. 1 「お(ご)～する・できる・くださる・いただく・なさる・いたす・ねがう・もうしあげる・あそばす」という形式の敬語表現は、全体を一続きのものとする。

【例】 | ご理解と | ご協力の | ほど | よろしく | お=願い=申し上げます。 |
いかが	お過ごしでしたか、	お=聞か=せ=ください。				
民事訴訟の	ご専門としての	ご意見を	お=聞か=せ=願いたいと	思います。		
お時間	ある	とき、	気が	向いた	とき、	お=返事=くださいね

5. 4 体言＋用言という形式のうち、『岩波国語辞典』第6版(岩波書店)、『日本国語

大辞典』第2版(小学館)のいずれか一方で見出し語(連語としての見出し語は除く。)になっているものは、体言と用言とを切り離さない。

【例】 |しかた=なく|洗ってもらったら、|やっと|もとの|通りに|なりました。|

5. 5 副詞に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合、副詞と用言とを切り離さない。

【例】 |「何が|始まるのかな」と|目を|きらきら=させた|

(◆ver. 1.1追加)

5. 5. 1 副詞に「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合のうち、「する」「できる」「なさる」「いたす」が「行う・やる」又は「行える・やれる」に置き換えることができる場合は、副詞との間を切り離す。

【例】 |準備は|十分||しています|
|需要に対して|供給を|きちんと||できる|社会で、|

(◆ver. 1.1追加)

5. 5. 2 「こう」「そう」「ああ」「どう」に「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合は、切り離す。

【例】 |こう||した|サークル活動が|盛んに|なる|背景には、|
|どう||したらいいですか？|
|そうこう||している|うちに|だんだん|犬と|仲良く|なってきた|

(◆ver. 1.1修正)

5. 6 同格の関係にある体言連続は切り離さない。

【例】 |機関誌=計量国語学が|発刊され|
機関誌=計量国語学-発行の	年に				
大江健三郎さんの	長男=光さん				
大山の	堅陣を	打ち破ったのは、	若き	太陽=・=中原誠だった。	
東海汽船の	支店長=・=重久さんは、	運転手全員に	深々と	頭を	下げた。
中国語日刊新聞=「=星島日報」					

5. 6. 1 規定1. 1(2)にかかわらず、同格の関係にある体言の間に読点がある場合、読点の後ろで切る。

【例】 |悲願の|名人位を|つかんだ|加藤に|二十一歳の|青年、||谷川が|挑み、|

※ 同格の関係にある体言連続全体に係る、又はそれら全体を受ける体言・接辞がある場合も読点の後ろで切る。

【例】 |1カ月前から|始まった|B29の|首都、||東京-空襲。|

(◆ver. 1.1修正)

5. 7 並列された語は切り離す。

【例】 |企業会計の|標準的な|ルールは、|公正||妥当な|実務慣行を|集約した|ものという|意味で|
|あなたの|診療||治療に|最適の|専門医は|もっと|身近に|いる|ものです。|

5. 7. 1 並列された語のうち、次に挙げるものは切り離さない。

(1) 並列された語を中点でつなげている場合

【例】 | 麦=・=大豆=・=飼料作物の | 生産振興に | 資する | 水田の | 汎用化を |
| 最も | 先進的な | 青森=・=岩手=・=秋田の | 北東北三県は、 |

(2) 漢語の最小単位の並列

【例】 | その | 前=後の | 年齢階層に | 農業外からの |
| 東京の | 郊外の | 市=町=村と | 言うか |

(3) 和語の最小単位二つが並列した語のうち、『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のいずれか一方で見出し語になっている語

【例】 | あち=こち | 連れ歩いて | よく | 遊んだ | ものである。 |
| 他に | 何が | あるだろうという | ことを | あれ=これと | 思いました |
| 皆 | ととても | 頭が | ちっさくて | 長身で | 手=足が | 凄く | 長く |

※ 規定1. 1 (2)にかかわらず、並列の関係にある語の間に読点がある場合、読点の後ろで切る。

【例】 | 国民健康保険の | 保険者は | 原則として | 市、 || 町、 || 村である |
| ととても | 頭が | ちっさくて | 長身で | 手、 || 足が | 凄く | 長く |

5. 7. 2 並列の関係にある体言連続全体に係る、又はそれら全体を受ける体言的な形式や接辞がある場合は切り離さない。

【例】 | 昭和55年=、=56年に | 全国平均で | それぞれ | 前年比12.3%増 |
英語=日本語-間の	会話文の	翻訳を	行なうことができます	
学習データー=入力データー-共	マスク値で	置き換えた		
五月の	アメリカズカップに	勝てば、	米国=、=豪州-以外の	国に
初めて	ザ・カップが	持ち込まれることになる。		
優優=・=美美ペアから	五羽の	ヒナが	誕生し、	

5. 7. 3 並列の関係にある体言連続のうち、並列された体言全体を受ける形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」がある場合は切らない。

【例】 | 各語の | 状況って | いう | ものを | 観察=整理-しました |
| 職業能力開発大学校に | 在学=・=在校する | 場合で、 |

※ 規定1. 1 (2)にかかわらず、並列の関係にある体言の間に読点がある場合、読点の後ろで切る。

【例】 | 下草や | 低木等の | 下層植生が | 減少、 || 消失し、 |

(◆ver.1.1修正)

5. 8 数を表す要素は一続きにする。

数を表す要素とその直前直後の要素とは切り離さない。

【例】 | 昭和十三年=八月=八日の | 荒木文部大臣の | 発言や |
ところで	朝=八時から	もう	色んな	人に	紛れて	
平均値=三.〇六と	いう	ような	値に	なって		
日米韓=三国の	対応					
パチスロの	場合だったら	一箱=三万ぐらいなんですけど				
十年以上=前までは	(F ま)	規則合成って	いう	方式が		
ミツカンが	首都圏の	三十=・=五十代の	主婦を	対象に	行った	アンケートで、

ただし、直前の要素が数量を表す要素を連用修飾している場合は除く。

【例】 | およそ || 十カ所で | 検問を | 受け、 | 旅券を | 確かめられた。 |
| 知床には | 熊がですね | 推定 || 三百頭 | いると | 言われています |

※ 規定 1. 1 (2) にかかわらず、数を表す要素とその直前の要素との間に読点がある場合、読点の後ろで切る。

【例】 | 平均値、 || 三. 〇六と | いう | ような | 値に | なって |

(◆ver. 1.1追加)

補則 1 記号の扱い

句読点以外の区切り符号は、文節認定に当たって、次のように扱う。

(1) 文節境界(文頭・文末を含む。)にあるものは、直前又は直後の文節に含める。

【例】 || 「=—=羨ましいな」 ||
| 副社長は | 総会で || 「= (=システムの | 導入により=) || 当面 | 三百億円
程度の | 負債圧縮が | 見込める。 |

(2) 句読点の後ろに句読点以外の区切り符号(その連続体も含む。)が続いている場合、句読点の後ろで切らずに、句読点以外の区切り符号(連続体の場合は最後の記号)の後ろで切る。

【例】 | 静さんは、 | あまり | 機嫌が | よくない。=— || 楠の | 枝が | 風に | 鳴っ
ている。 |

(3) それがないときに全体が1文節となるものの中に現れるものは無視する。

【例】 | 花粉の | 少ない | スギ品種の | 普及と | 採穂= (=種=) =園の | 造成 | 及び
| 早期供給体制の | 充実 |
| こ=・=だ=・=わ=・=る・ | 貴方にこそ | 使ってほしい。 |

補則 2 規定 3・規定 4 に関する例外規定

次に挙げるものは、その内部が規定 3・規定 4 で切ることになっていても切らない。

(1) 資料「要注意語」の「一が～」 「一の～」 「全体で1最小単位とするもの」及び表 2. 3に挙げられた語

【例】 | そこが | 万が=— | 倒産すると |
この	油絵の=具を	いっぱい	買わされて		
たくさんの	歴史的な	建物が	至る=ところに	残っています	
よく	この=頃	テレビで	番組が	出てますよね	
凄い	我が=まな	患者さんに			
結局	もう	毎日	我が=物顔で	来る	もんだから
あて字と	思われる。	そう=して	その	ゴサンは	少なくとも

(2) 短単位認定規程の補則 7 に挙げられた語

【例】 | クライアントは | 得て=して | 2つの | 予算を | 持っている。 |
| これを | どう | するかって | いう | ことで | すったか=もんだした | 訳で
すけれども |

(◆ver. 1.1追加)

(3)「お(ご)～する・できる・くださる・いただく・なさる・いたす・ねがう・もうしあげる・あそばす」という形式の敬語表現

【例】 | いかが | お過ごしでしたか、 | お聞か=せ=ください。 |
| 民事訴訟の | ご専門としての | ご意見を | お聞か=せ=願いたいと | 思いま
す。 |
| お待た=せ=いたしました |

(4) 次に挙げる固有名

【例】

〔人名(芸名・しこ名・あだ名などをふくむ)〕

| ^{みなもとの}源 =頼朝 | | 千代の=富士 |

〔国名〕

| グレートブリテン=及び=北アイルランド連合王国 |

〔行政区画名〕

| お茶の=水の | 私 | あんまり | お店の | 名前とか | よく | 覚えてなくて |

〔地域名〕

〔地形名〕

| 場所は | 丹沢の | 塔の=岳が | 使われます |

〔場所名〕

| 更に | 丸の=内線も | 乗り入れています |

| 虎の=門交差点を | 先頭に | ニキロの | 渋滞です |

〔略称〕

〔建造物・施設名〕

| 浅草寺の | 境内に | ある | 五重の=塔なんですけれども |

(◆ver. 1.1修正)

〔組織の名称〕

| 国立少年自然の=家 | | 独立行政法人=国立国語研究所 |

※ (財)(社)(株)(独)(有)等は「財団法人」「社団法人」「株式会社」と書かれているものと同様に扱う。

| (財) 気象業務支援センター |

| (財) - - 自主流通米価格形成センター |

(◆ver. 1.1修正)

〔歴史的できごとの名称※〕

| 関ヶ原の=戦い | | 蛤御門の=変 | | 明治十四年の=政変 |

※ 戦争・革命・事件などで、『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版、『日本大百科全書』(スーパーニッポニカ)のいずれかで見出し語になって

おり、慣用的に一定の名で呼ばれるもののみとする。

〔祝日※〕

｜毎年｜五月五日｜子供の=日(D2 は)に｜なると｜

※ 「国民の祝日に関する法律」(1948年7月30日法律第178号)に定められたもの。

同法で定められた名称と異なれば、同じ日を指していても、固有名としない。

｜憲法記念の||日｜

(4) 動植物名

【例】 ｜タツノ=オトシゴ｜

｜ユキノ=シタ｜ ｜ワレモ=コウ｜ ｜ヒカゲノ=カズラ=科｜

(5) 分数の読み上げ

【例】 ｜三分=の=二に｜するくらいは｜できる｜

｜格の｜一致度は｜ルート五分=の=四と｜いたしました｜

公式の読み上げの類のうち「一分の～」という形のものも同様にあつかう。

【例】 ｜(F えっと)｜後続単語種類数分=の=先行単語頻度(D んな)の｜関数｜

(6) 分割すると意味が不自然になるもの

【例】 ｜しかたが=ない｜ ｜しょうが=ない｜

(◆ver.1.1追加)

補則3 同格又は並列の関係にある文節の扱い

次に挙げる文節は、文節認定に当たって、それぞれ以下のように扱う。

(1) 同格の関係にある要素の両方又は一方が2文節以上から成り、文節認定規程に従って文節を認定すると、意味的に問題のある体言連続を文節として認定することになるもの

【例】 ｜ムシャラフ大統領は、｜A. Q. カーン博士ら||一部の｜科学者が｜
｜実質的首謀者と｜見られる｜真木大将、｜荒木大将ら||皇族、｜将軍は｜
すべて｜免罪｜

※ 文節認定規程を単純に適用すれば、「A. Q. カーン博士ら一部」「荒木大将ら皇族」を文節とすることになるが、意味的に問題があるため、切り離す。

(2) 並列の関係にある要素のうち一つ以上の要素が2文節以上から成り、文節認定規程に従って文節を認定すると、意味的に問題のある体言連続を文節として認定することになるもの

【例】 ｜また、｜その｜他・||無回答が｜十五%あり、｜

※ 文節認定規程を単純に適用すれば、「他・無回答」を文節とすることになるが、意味的に問題があるため、切り離す。

(◆ver. 1.1追加)

補則4 行政区画名・組織の名称等の扱い

より上位のものから下位のものと順を追って並んでいる、意味的に段階性のある自立語のうち、次に挙げるものは、各自立語を切り離す。

【例】

〔行政区画名等〕

米国		サンフランシスコから	送られてきた							
十四日、	イラク南部		ナシリヤで、							
東京都		北区		西が丘		三丁目		九番		十四号
間も	なく	大阪府		和泉市の	プロジェクトが	スタートします。				

〔組織の名称及びそれに関連する肩書き〕

国立国語研究所		研究開発部門		言語資源グループ				
衆議院		予算委員会		香港政庁		移民局		
新進党		党首		韓国		国防部		長官

※ 人名の前にある所属と人名とは切り離す。

| 国立国語研究所 | 研究開発部門 | 言語資源グループ || 前川喜久雄 |

※ 人名の前にある肩書きと人名とは切り離さない。(同格に当たる。)

| 国立国語研究所 | 研究開発部門 | 言語資源グループ長 = 前川喜久雄 |

〔建造物・施設名〕

| 東京国立博物館 || 平成館で | 開催される |
| 法隆寺 || 五重塔の | 内部構造。 |

補則5 「対」の扱い

「対」を含む形式は、「対」が結び付けている形式によって、次のように文節を認定する。

(1) 「対」が結び付けている形式が共に1文節である場合は、「対」の前後で切らない。

【例】 | 阪神=対=巨人の | 試合を | 見る |
| 地域用水環境整備事業の | 採択に | 当たり | 費用=対=効果分析を | 試行的
に | 実施した。 |
| 星野監督 | 率いる | 阪神=対=巨人 |

(2) 「対」が結び付けている形式の一方が2文節以上である場合、「対」の前後で切る。

【例】 | 星野監督 | 率いる | 阪神 || 対 || 今年の | 覇者巨人 |

(◆ver. 1.1追加)

補則6 題名等の扱い

題名中に文節認定規程で定めた文節の切れ目がある場合、そこで文節を切る。編著者名等と題名、主題と副題は分割する。

【例】 | 彼は | 論文 | 「マルクスと | バクーニン— || 社会主義と | 無政府主義」の
なかで	書いている。			
鷹羽狩行・片山由美子著		『添削例に	学ぶ・	俳句上達法』
TBS系		「爆烈！		異種格闘技TV」

(◆ver.1.0追加)

補則 7 注釈的な語句・文を含む括弧の扱い

括弧内に注釈的な語句・文がある場合、括弧をいったん読み飛ばして文節を認定した上で、読み飛ばした語句・文についても別途文節を認定する。

【例】 | 大学院レベルの | 若手研究者の | 短期受入れ (文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム) 等を | 実施し、 |

→ 以下の二つの文節を認定することになる。

| 短期受入れ=等を |

| (文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム) |

参考 文節の例

| 平成4年度に | 創設された | 定期借地権制度は、 | 借地契約の | 更新が | なく、 | 定められた | 契約期間で | 確定的に | 契約が | 終了する | 借地権制度である。 | 貸し主 (土地所有者) にとっては | 予定時期に | 土地の | 返還を | 受ける | ことが | 保証されると | とともに、 | 一定期間の | 地代収入が | 安定的に | 得られ、 | また、 | 借り主にとっては | 土地を | 取得するよりも | 少ない | 負担で | 土地を | 利用できる | ことから、 | 双方にとって | メリットが | あり、 | 借地の | 供給拡大に | よる | 土地の | 有効利用を | 促進する | ものとして | 期待されている。 | 定期借地権には、 | 一般定期借地権、 | 建物譲渡特約付借地権、 | 事業用借地権の | 3 類型が | ある | (図表 1 - 5 - 4)。 |

| 定期借地権制度創設時に、 | 事業用借地権の | 対象として | 主に | 想定していたのは、 | 量販店、 | 飲食店等、 | 経済的な | 耐用年数が | 比較的 | 短い | ものであり、 | 事業用借地権の | 存続期間も | 10 年以上 | 20 年以下と | されている。 | しかし、 | 近年、 | 物流拠点や | アウトレットモール等、 | 従来 | 想定されていなかった | 用途での | 活用も | 行われる | ように | なっている | (図表 1 - 5 - 8)。 | 立地についても、 | 従来 | 想定されていた | ロードサイド等での | 活用に | 限らず、 | 多様化しており、 | 都心から | 数十 km 以上 | 離れた | 場所に | 立地する | 大規模アウトレットモールや | 臨海部に | 相次いで | 立地している | 大型の | 商業施設の | ような | ものも | ある。 | この | ような | 商業施設では、 | 土地取得費を | 削減する | ため、 | 借地に | よる | 立地を | 進める | 場合も | 多く、 | 特に | 大規模アウトレットモールにおいては、 | 事業用借地権を | 用いている | 事例が | 目立っている | (図表 1 - 5 - 9)。 |

第2 複合辞・連語

BCCWJでは、CSJと同様に複合辞・連語を1長単位と認めた。複合辞・連語は、現代語の研究や日本語教育でよく取り上げられるものである。国立国語研究所(2001)では複合辞として助詞相当句83語、助動詞相当句42語を挙げている。またグループ・ジャマシイ(1998)では大見出しとして1,087語を挙げており、そのうち、空見出し・活用語尾(例:かろう)・活用形(例:よかろう)・呼応の副詞(例:ぜんぜん…ない)・定型的な表現(例:をして…させる)・短単位に合致するもの(例:ばあい)等を除くと、複合辞・連語が約600語ある。この中に類似形態・異形態が多く含まれる(例:なきや・なくては・なくちゃ・なくてはいけない)としても、複合辞・連語が多く認定されていると言える。

BCCWJでは、複合辞・連語の選定に当たって、ゆれがなく認定できるものを選ぶ、長単位は短単位を基に自動解析するため、この自動解析で高い精度が維持できるものを選ぶという方針を立て、複合辞・連語とするものを先行研究よりも限定した。

具体的な手順としては、まずグループ・ジャマシイ(1998)の大見出しについて、短単位に合致する見出し語や文節を超える見出し語を削除し、類似形態・異形態を整理した上で、国語辞典等での採録状況を確認し、採録されていない語を削除した。このように絞り込んだ見出し語について、生産実態サブコーパスの入力済み書籍データ⁷(約500万語)を対象に用法の調査を行い、形式の面から複合辞・連語としてゆれなく判定できるものを選んだ。これにCSJで認定されていた複合辞・連語を加えた上で、書籍データで頻度200以上の語を抽出し、BCCWJにおける複合辞とした。

ここで、頻度200としたのは、技術的な理由による。複合辞を高精度で自動解析するためには、学習用データとなる人手修正済みデータ100万語の中に最低50例(使用率0.005%)出現することが必要である。書籍データ500万語で使用率0.005%に当たる250例よりも若干低く基準を設定し、200例とした。

複合辞に関するCSJからの変更点として、異形態の扱いが挙げられる。CSJでは体系性を考慮して複合辞の異形態を認定した。例えば、助詞相当句「に関して」の場合、異形態の連用形「に関し」、異形態の丁寧形「に関しまして」、連体修飾型の普通形「に関する」「に関した」、連体修飾型の丁寧形「に関します」「に関しました」をリストに加えていた。また、助詞相当句「として」では、異形態の丁寧形「としまして」のほかに「といたしまして」、連体修飾型の丁寧形「といたします」「といたしました」もリストに加えていた。これに対して、BCCWJでは、対応する異形態であっても頻度200未満であれば選定しないという方針を取った。例えば「に関して」については、頻度が高い「に関して」「に関する」をそれぞれ代表形として選定したが、「に関して」の連用形「に関し」や「に関する」の丁寧形「に関します」、過去形の「に関した」は頻度が低かったため選定しなかった。その一方、丁寧形であっても頻度が高い「かもしれません」「ではありません」については、それぞれ代表形として選定した。なお、融合形の扱いについては、CSJから変更はない。頻度と関係なく、融合形全体で1長単位とする。「において」など代表形が「は」を伴わない形で示されているものの末尾の助詞「て」と助詞「は」とが融合したもの、「においちゃ」のような形式が、これに当たる。

その結果、CSJでは助詞相当句79語、助動詞相当句57語、その他連語90語を1長単位とする複合辞・連語として認めていたが、BCCWJで選定した複合辞・連語は、現時点で助詞相当句24語、助動詞相当句39語、その他連語11語である。

7 人手修正済の学習用データが完成していないため、入力済みデータ量が多く、幅広い分野をカバーすると考えられる生産実態サブコーパスの調査を基に、複合辞・連語を選定した。生産実態サブコーパスについては、山崎(2007)を参照。

表 2. 1 複合辞・助詞相当句

代表形	代表表記	品詞	接続	意味・用法
トイウ	という	助詞-格助詞	1. 文あるいは文相当の語句に付く。 2. 単語（主に名詞句）に付く。	「AというN」と連体修飾に用いられ、Nの具体的な内実・内容を示す同格的な関係を形成するのが基本である。用法を細分すると、名づけ・言い換え・婉曲・伝聞・引用・未知（よく知らない事物を取り上げる）・感嘆（事物がプラスの意味でもマイナスの意味でも並はずれた状態であることを強調する）などに分かれる。数詞について意味を強め明確化する用法もある。また、「NというN」と同一の名詞を繰り返す形で「全部のN」を表す。
トイッタ	といった	助詞-格助詞	1. 文あるいは文相当の語句に付く。 2. 単語（主に名詞句）に付く。	「AといったN」と連体修飾に用いられ、Nの具体的な内実を唯一それだけとするのではなくて、幅を持たせて示す関係を形成する。AはNの例として複数挙げられることもある。
トシテ	として	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	問題にする人・物事などの位置づけを示す。どのような位置づけかで、資格・立場・部類・行為の意義づけ（名目）などを表すものに下位区分される。
ニオイテ	において	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「AにおいてB」という形で、動作・作用の行われる場所、あるいは状態が存在する場面もしくは、時を示す。また、意味が一段抽象化すると、「～という点で」といったような意味で、事柄が云々される次元・範囲などを規程しても用いられる。
ニオケル	における	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「AにおけるN」と連体修飾に用いられ、ある出来事が起こったり、状態が存在したりするときの背景となる場所・時間・状況などを表す。
ニカンシテ	に関して	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	言語・思考行動の対象・内容や、検討・評価がなされる観点・基準を示す。
ニカンスル	に関する	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「Aに関するN」と連体修飾に用いられ、言語・思考行動の対象・内容や、検討・評価がなされる基準を示す。
ニタイシ	に対し	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	(1) 述語句の動作・行為の向けられる対象を取り上げて示す。 (2) ある事物が割り当てられたり、代価・お返し等として与えられることになる対象を取り上げて示す。 (3) ある事物と対照される事物を取り上げて示す。
ニタイシテ	に対して	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	(1) 述語句の動作・行為の向けられる対象を取り上げて示す。 (2) ある事物が割り当てられたり、代価・お返し等として与えられることになる対象を取り上げて示す。 (3) ある事物と対照される事物を取り上げて示す。
ニツイテ	について	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	言語・思考行動の対象・内容や、検討・判定・評価がなされる観点・指標を示す。
ニトツテ	にとって	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「AにとってB」の形で文の内容・評価を規定する形で用いられ、「AにとってB」が保っていく文の内容・評価として述べられる個別的な判断・とらえ方を示す主体を表す。
ニヨツテ	によって	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	(1) 物事を引き起こしたり行ったりする契機・拠り所・手段・所以となる事物や人を表す。 (2) 物事のありようを区別する基準・尺度となるものを示す。
ニヨリ	により	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	(1) 物事を引き起こしたり行ったりする契機・拠り所・手段・所以となる事物や人を表す。 (2) 物事のありようを区別する基準・尺度となるものを示す。
ニヨルト	によると	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「Aによると」の形で、情報を提示する言い方で用いられ、その情報や判断の出所を表す。後ろには伝聞や推測・断定などの判断を表す表現が続きやすい。
ニヨレバ	によれば	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「Aによれば」の形で、情報を提示する言い方で用いられ、その情報や判断の出所を表す。後ろには伝聞や推測・断定などの判断を表す表現が続きやすい。
ヲハジメ	をはじめ	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	(1) 「AをはじめB、C(…)」といった形で、Aを代表例とする並列接続の名詞句を形成する。 (2) 「AガXスルノをはじめBガ(Xシ、Cガ)Xスル」といった形で、「AガXスル」ことを記述の最初として類似的な事態を列記する複文を形成する。
ヲモツテ	をもって	助詞-格助詞	名詞（名詞節を含む）に付く。	「AをもってB」の形で、 (1) Bのことにするために用いる手段・方法・概念を示す。 (2) Bのことがなされる基準となる時点・段階を示す。
トシタラ	としたら	助詞-接続助詞	文あるいは文相当の語句に付く。	「AとしたらB」の形で、前件Aの内容をいったんそう考えられると設定し、それに基づくと、後件Bのような帰結になるという論理関係を述べる。

トハイエ	とはいえ	助詞-接続助詞	文あるいは文相当の語句に付く。	「AとはいえB」の形で、前件Aの事実があることによって、後件Bの事実は、無効にならずちゃんと存在する、という関係付けで前件と後件とを結ぶ。
ニシテモ	にしても	助詞-接続助詞	1. 用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。 2. 単語（主に名詞句）に付く。	（1）「AにしてもB」と複文を形成して用いられ、前件Aの事柄があることは承認されたとしても、後件Bの事柄はそれによって無効になることなくあるという関係を示す。 （2）「AにしてもBにしても」の形で、同じジャンルの二つのもの、対立する二つの物事を取り上げて、その両方を指す。
ニモカカワラズ	にも関わらず	助詞-接続助詞	用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「AにもかかわらずB」と複文を形成して用いられ、前件Aのことがあるのに、これが期待される事柄を引き出す契機とならず、後件Bのような期待に反した事柄が成り立っているという関係を述べる。

※ 「において」など代表形が「は」を伴わない形で示されているものの末尾の助詞「て」と助詞「は」とが融合した場合は、長単位においても融合形全体で1長単位となる。

長単位： | 文部科学省 | においちゃ |

表 2. 2 複合辞・助動詞相当句

代表形	代表表記	品詞	接続	意味・用法
カモシレナイ	かもしれない	助動詞	前接語が、動詞・形容詞の場合、スル形・シタ形（動詞については、シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。形容動詞・名詞の場合、「～デアル／デアッタかもしれない」となるか、語幹もしくは名詞に直接付く。また、「～のかもしれない」といった形でも用いられる（この場合、形容動詞・名詞については、「～デアル／デアッタ／ナ」の形で承ける）。	「Aかもしれない」の形で、 (1) Aであると考えられるが、それが絶対確実とも言えないとする推量を述べる。 (2) 相手の言った内容や一般的な見解を、正しい可能性があるとは一応は認めた上で、それとは異なる意見を述べる。 (3) すでに起きてしまったことについて、条件が違えば違う結果になった可能性があるという意味を示す。
カモシレマセン	かもしれません	助動詞	前接語が、動詞・形容詞の場合、スル形・シタ形（動詞については、シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。形容動詞・名詞の場合、「～デアル／デアッタかもしれない」となるか、語幹もしくは名詞に直接付く。また、「～のかもしれない」といった形でも用いられる（この場合、形容動詞・名詞については、「～デアル／デアッタ／ナ」の形で承ける）。	「かもしれない」の丁寧な言い方。
コトガデキル	ことができる	助動詞	動作的な意味の動詞のスル形（シテイル形を含む）を請ける。「研究する」「連絡する」など”漢語＋する”型の動詞の場合は、語幹の漢語の部分を受けて、「研究ができる」「連絡ができる」などの言い方も可能である。	「Aスルことができる」の形で、Aということを実現する能力や可能性があることを表す。
コトニスル	ことにする	助動詞	名詞＋「である／であった」に付き、また、用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ系を含む）に付く。	「Aことにする」の形で、(1) あることを行うことに決める、(2) 事実上Aということだと立場をとる・想定にする、という意味を表す。
コトニナル	ことになる	助動詞	用言のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ系を含む）に付く。形容動詞・名詞については、「～デアル／デアッタ／ナ」の形で承ける。	「Aことになる」の形で、(1) Aという事実が実現する成り行きになる、(2) Aという事実認識や了解・解釈が成り立つ、といった意味を表す。
コトハナイ	ことはない	助動詞	活用語のスル形・シタ形や名詞＋「の」等に付く。	「Aことはない」の形で、(1) ある行為についてその必要がない、ありがたくない、(2) ある行為についてその機会・経験がないという意味を表す。
タライイ	たらい	助動詞	用言及び用言＋否定の助動詞”ない”の連用形（動詞については、「シテイル」の連用形「シテイ」を含む）に付く。	「Aしたらいい」の形で、当該の状況・場面で「A」という事柄の実現が望ましい・然るべきことであるという話し手のとらえ方を述べる。そこから、行為者自身が実現可能なことについては当為の意味、行為者自身では実現不可能なことについては願望の意味になる。また、当面している問題に関して相手に持ちかけることで、当為の意味から提案の用法も出てくる。事実と反対のことをこの言い方でいうことで、後悔・非難というようなニュアンスが出てくる。
ツツアル	つつある	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aつつある」の形で、Aの動詞（述語句）の表す行為が成立・完成する完了点に向けて、行為・動作・変化が継続進行していくことを示す。
ツモリダ	つもりだ	助動詞	動詞のスル形・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「Aつもりだ（／で／の）」といった言い方で、(1) 主体がAのような意向をもっている意、(2) 主体がAのような現実と違う仮定や判断・自意識をもっている意、(3) 話し手がAのような意味づけをしている意を表す。
テアル	である	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aである」の形で、Aの動作・作用の結果が現存していること、継続して保たれていることを表す。また、後のことを考えてあらかじめ準備のためにある動作をした結果の状態が保たれていることを示す。

デアル	である	助動詞	体言及び用言連体形+「の」等に付く。	「Aである」の形で、断定や原因・理由・根拠の説明を強く述べる。
テイク	ていく	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aていく」の形で、空間的・時間的・観念的に、事物・事柄が話し手から離反することを示す。具体的には、空間的な移動、ある時点からの時間的な継続、ある現象の消滅、ある状態から別の状態への変化の進行などを表す。
テイル	ている	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aている」の形で、 (1) 動作・作用がある時間継続している状態、進行中であることを表す。 (2) 生起した作用や行為の完了した状態が後まで残っている様子を表す。 (3) 現在の継続的な状態を表す。 (4) 繰り返しの動作・作用やそれが定着した習慣を表す。 (5) すでに完了している動作・作用について、経験や記録を表す。
テオク	ておく	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aておく」の形で、ある目的からあらかじめ動作・作用を行うことを表す。具体的には、動作・作用を行って対象に変化を与え、その結果の状態を持続させる働きかけや、後のことを考えてあらかじめ準備のためにある動作をすることを表す。また、当座の便宜をはかるため、一時的処置を施す言い方として用いられる。
テオル	ておる	助動詞	動詞の連用形に付く。	「ている」のやや古風で尊大な表現。丁寧な言い方や尊敬の言い方としても用いられる。
テクル	てくる	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aてくる」の形で、空間的・時間的・観念的に、事物・事柄が話し手に接近することを述べる。具体的には、空間的な移動、ある時点までの時間的な継続、ある現象の出現・生起、ある状態から別の状態への変化の開始などを表す。
テクレル	てくれる	助動詞	動詞の連用形に付く。	他者Aから話し手Bへと行為が授受されることを述べる。AがBに利益・恩恵を与えることを示しながらBからAに感謝する気持ちを表明する。また、AがBに何らかの不利益や迷惑を与えることを表す。
テシマウ	てしまう	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aてしまう」の形で、 (1) 動作・作用の終了や完了を表す。 (2) 無意志的動作の完了を強調する。また、不都合を強いられることを表す。
デナイ	でない	助動詞	体言に付く。	「である」の否定的な言い方。
デハアリマセン	ではありません	助動詞	体言に付く。	「ではない」の丁寧な言い方。
テハイケナイ	てはいけない	助動詞	動詞・形容詞（及び”動詞／形容詞”+”助動詞／補助形容詞のナイ”）の連用形（動詞については「シテイル」の連用形「シテイ」等を含む）に付く。	「Aシてはいけない」の形で、当該の状況・場面で「A」という事柄の実現が然るべきことではない・望ましくないという話し手のとらえ方を述べる。そこから、行為者自身が実行可能なことについては為すべきではないという意味、行為者が自力では自由にできないことについては危惧の意味になる。また、当面している問題に関して相手に持ちかけることで、為すべきではない意味から禁止の用法も出てくる。
デハナイ	ではない	助動詞	体言及び用言連体形+「の」等に付く。	「Aではない」の形で否定の判断を表す。
テハナラナイ	てはならない	助動詞	動詞・形容詞（及び”動詞／形容詞”+”助動詞／補助形容詞のナイ”）の連用形（動詞については「シテイル」の連用形「シテイ」などを含む）に付く。	「Aシてはならない」の形で、「A」という動作・行為について、一般論として許されない・望ましくないというとらえ方から、禁止の意味をもつ。また、当為の否定を表す。
テホシイ	てほしい	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aてほしい」の形で、心中に抱いている願望・依頼を表す。
テミル	てみる	助動詞	動詞の連用形に付く。	「Aてみる」の形で、物事を知るために実際に行為をすることを示す。
テモイイ	てもいい	助動詞	前接語が、動詞・形容詞の場合、「動詞・形容詞の連用形（「シテイル」の連用形「シテイ」なども含む）+テモイイ」の形をとる。	「Aシてもいい」の形で、基本的には、あり得ると容認できる事柄としてAもあるということを述べる。そこから、相手の側の行為・物事のあり様について許可・許容の言い方として用いられ、相手からの勧誘・依頼に応じる意志があることを表す言い方として用いられ、自分の側の行為について申し出の言い方として用いられ、また、論理・道理の上での可能性を述べる言い方にもなる。
テモラウ	てもらう	助動詞	動詞の連用形に付く。	文の主格に立つ話し手または話し手側のBが他者Aから行為を受け取ることを述べる。BがAから何らかの利益・恩恵を与えられるよう働きかけることや、BがAに許可・容認を求めることを表す。また、BがAから何らかの不利益や迷惑を与えられることを表す。

テヤル	てやる	助動詞	動詞の連用形に付く。	話し手または他者Aから他者Bへと行為が授受されることを表す。また、自分の行為を誇示したり自虐的に見せるときに用いられる。
ナクテハナラナイ	なくてはならない	助動詞	動詞の未然形（「シテイル」の未然形「シテイ」も含む。なお、サ変動詞は「～シ」の形）及び形容詞・形容動詞・「名詞＋断定の助動詞」の連用形に付く。	「Aシなくてはならない」の形で、状況や決まり・道理といった外的な制約・要請からAという行為・事態の実現が必要だという一般的な判断を述べる言い方である。
ナケレバナラナイ	なければならない	助動詞	動詞の未然形（「シテイル」の未然形「シテイ」も含む。なお、サ変動詞は「～シ」の形）及び形容詞・形容動詞・「名詞＋断定の助動詞」の連用形に付く。	「Aシなければならない」の形で、状況や決まり・道理といった外的な制約・要請からAという行為・事態の実現が必要だという一般的な判断を述べる言い方である。
ネバナラナイ	ねばならない	助動詞	動詞の未然形（「シテイル」の未然形「シテイ」も含む。なお、サ変動詞は「～シ」の形）及び形容詞・形容動詞・「名詞＋断定の助動詞」の連用形に付く。	「Aセねばならない」の形で、状況や決まり・道理といった外的な制約・要請からAという行為・事態の実現が必要だという一般的な判断を述べる言い方である。「なければならない」より書き言葉的な言い方になる。
ノダ	のだ	助動詞	用言の連体形に付く。	事実を単に客観的に描写するのではなく、疑いのない事実として確認したものを提示する。原因・理由の説明、結果の説明、納得、事実の強調、判断の主張など、様々な意味で用いられる。
ノデアル	のである	助動詞	用言の連体形に付く。	事実を単に客観的に描写するのではなく、疑いのない事実として確認したものを提示する。原因・理由の説明、結果の説明、納得、事実の強調、判断の主張など、様々な意味で用いられる。
ノデス	のです	助動詞	用言の連体形に付く。	「のだ」の丁寧な言い方。
ノデハナイ	のではない	助動詞	用言の連体形に付く。	「のだ」の否定的な言い方。
バイイ	ばいい	助動詞	用言及び用言＋否定の助動詞“ない”の仮定形（動詞については、「シテイル」の仮定形「シテイレ」を含む）に付く。	「Aばいい」の形で、 (1) 何らかの状況になることが適当である、望ましいとすることを表す。また、その適当・望ましいと判断した状況が実現するように、相手に対して直接何かすることを提案したり勧めたり、望む状況の実現に対する強い願望を表すのに用いられる。 (2) 相手に対する提案の形をとりながらも、放任や非難・軽蔑などの気持ちを強くこめるのに用いられる。
ワケダ	わけだ	助動詞	用言のスル・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「Aわけだ」の形で、何らかの事実や判断・思考を踏まえて、その結果・帰結としてAという事実や判断・思考があるということを断定的に述べる。また、前の発言や文脈の言い換えや、理由・原因を説明する言い方である。
ワケデハナイ	わけではない	助動詞	用言のスル・シタ形（シテイル形・シテイタ形を含む）に付く。	「Aわけではない」の形で、現在の状況や直前の発言から当然導き出される事柄を否定する。また、極端な例を挙げて否定し、現実がそれよりも程度の軽い、対応しやすい状況であることを示唆する。
ワケニハイカナイ	わけにはいかない	助動詞	動詞のスル形（シテイル形を含む）に付く。	「Aわけにはいかない」の形で、状況からして当然すべきと思われるAということが、社会的・道徳的・心理的理由によりできないことをいう。

(◆ver.1.1追加)

※ 可能形・融合形を含む。

【例】 | 次の | 世代に | 引き継いで=いける | 知的資産の | 創造 |
| 別の | 葛藤が | 起こるん=じゃ=ないか |

表 2. 3 連 語

代表形	代表表記	品詞
ソウシテ	そうして	接続詞
ソレカラ	それから	接続詞
イカニモ	如何にも	副詞
イツカ	何時か	副詞
イマヤ	今や	副詞
ジツハ	実は	副詞
ナニヨリ	何より	副詞
ナンドカ	何だか	副詞
ナンドモ	何でも	副詞
ナントカ	何とか	副詞
ベツニ	別に	副詞

Ⅱ 長単位認定規程 Version 1.1

第1 長単位認定規程

長単位は、以下に述べる規定に基づいて文節を分割する、あるいはしないことによって得られた要素を1単位とする形式である。

【記号に関する規定】

1 記号は1長単位とする。

【例】 | 機動的 | に | 商業施設 | として | 活用する | 例 | など | も | ある ||
米	は	湾岸戦争後		英		仏など	と	とも	に				
実包	八百五十六個等	を	発見		押収する	と	とも	に					
「		羨ましいな		」									
副社長	は	総会で		「		システム	の	導入	により		」		当面
三百億円程度	の	負債圧縮	が	見込める									
供給実績資料		定期借地権普及促進協議会調べ											
与野党逆転		海部政権誕生	と	の	願望								

(◆ver.1.1修正)

1. 1 次に挙げる記号は1長単位としない。(その前後で切らない。)

(1) 数字連続の中に現れるもの

【例】 | 大学院 | に | は | 約2万5, =000人 | が | 在籍し | ている |
年	に	1, =2日間	の	活動	を	義務付け	たり、		
大都市	(	政令指定都市	)	は	17, =3%	である	が、		
ミツカン	が	首都圏	の	三十〜五十代	の	主婦	を	対象	に
行っ | た | アンケート | で、 |

(2) それがないときに全体が1長単位となるもののの中に現れるもの

【例】 | 小, =中学生 | で | は | 内容的 | に | 早すぎる | もの | が | ある | から |
だ | 。 |
| 銀行取引停止 | 避け | 自ら | 転, =休, =廃業選択 |
| こう | し | た | 動き | を | , | 名目, =実質GNP | の | 構成要素 | とし
て | の |
| 花粉 | の | 少ない | スギ品種 | の | 普及 | と | 採穂 (=種) =園 | の | 造
成 | 及び | 早期供給体制 | の | 充実 |
| こ = だ = わ = る | ・ | 貴方 | に | こそ | 使っ | てほしい | 。 |

1. 2 語と同じ働きをする記号・記号連続及びそれらを含む結合体は、全体で1長単位とする。

【例】 | A || が || B || に | 特定 | の | 法律行為 | を | 指図し | た | 場合 |
南青山	に	ある	敷地面積		2, 000㎡		の	土地	は	,
	PKO=地域訓練ワークショップ		の	開催	や					
	E=-=ジャパン重点計画									
	() =内		は	,	総数	に	対する	種別	及び	処遇区分別
成比	である	。								
	(財)=河川情報センター		において	河川情報	の	収集	,	処理	,	

加工を|行い|、|

【付属語に関する規定】

2 付属語（複合辞を含む。）は1長単位とする。

【例】 |公害紛争処理法||における||公害紛争処理||の||手続||は||、|原則||と
|して||紛争当事者||から||の||申請||によって||開始さ||れる||。|
|その|目的||が||個人||に||絞ら||れ||過ぎ||ている||傾向||が||ある|

2. 1 複合辞の中に助詞が挿入されている場合、複合辞と見なさず、各構成要素に分割する。

【例】 |お友達||に||は||からかわ||れ||て||ばかり||いる||三枚目||で||も||あ
り||まし||た||。|

2. 2 一般に助動詞とされる「そうだ」「みたいだ」「ようだ」（その丁寧形も含む。）の活用語尾は単独で一つの助動詞とする。また語幹部分は単独で1長単位とする。

【例】 |大学||の||キャンパス||に||間違え||られ||そう||な||雰囲気||
|ハリスさん||は||、|今日||は||忙しく||ない||みたい||だ||な||。|
|誰||か||の||帰り||を||待っ||ている||よう||でし||た||。|

2. 3 次に挙げる助詞・助動詞は1長単位としない。

（◆ver. 1.1修正）

（1）それを1長単位とすると、単独の動詞型・形容詞型接尾辞が切り出されることになる場合の助詞・助動詞

【例】 |地域住民||に||よる||ネットワーク||が||形成さ||れ||にくい||状況が||生
じ||ており||、|

（2）資料「要注意語」の「一が～」「一の～」「全体で1最小単位とするもの」及び表2. 3に挙げられている語の中に現れる助詞・助動詞

【例】 |万||が||一||事故||が||発生し||た||場合||において||も||乗員||、|歩行
者等||の||保護||を||行う||ため||の||
|輪郭線||の||上||まで||絵||の||具||を||置い||ていき||ます||。|
|企業||にとって||は||単||なる||コスト||の||増加||と||も||捉え||られ
ます||が||、|

※ 資料「要注意語」の「一が～」「一の～」「全体で1最小単位とするもの」及び表2. 3に挙げられている語の扱いについては補則1を参照。

（3）「お（ご）～する・できる・くださる・いただく・なさる・いたす・ねがう・もうしあげる・あそばす」という形式の敬語表現

【例】 |いかが||お過ごし||でし||た||か||、|お聞か||せ||ください||。|
|民事訴訟||の||ご専門||として||の||ご意見||を||お聞か||せ||願ひ||たい
|と||思い||ます||。|
|お待た||せ||いたし||まし||た||

（4）分数の読み上げの中に現れる助詞「の」

【例】 |今度||の||試験||は||志願者||が||平年||の||五分||の||一||と||極端||に

| 少なく |、|

公式の読み上げに現れる「一分の～」も同様に扱う。

【例】 | 後続単語種類数分=の=先行単語頻度 | (D んな) | の | 関数 | に |

(5) 固有名・動植物名の中に現れる助詞・助動詞

【例】 | この | よう | に | ヒ=ノ=キ | の | 生産量 | が | スギ | の | それ | より | 多
く | なっ | た | の | は |
| 東京 | ・ | 霞=が=関 | の | 同省周辺 | に | 集まり | 、 | 方針撤回 | を | 求
め | た | 。 |

※ 固有名の扱いは補則2を、動植物名の扱いは補則4を参照。

- 3 付属語を伴わない文節、及び規定2によって付属語を切り出した後に残った形式（おおよそ文節の自立語部分に相当する形式）に以下の規定を適用する。それによって得られた各形式を1長単位とする。

【意味情報による規定】

3. 1 擬音語・擬態語の類は一続きにする。

【例】 | わいわい=がやがや |

3. 2 同じ要素及び類似の要素の繰り返しは切り離す。

【例】 | はい || はい | え | はい || はい | (F あ) | 分かり | まし | た |

ただし、次に挙げるものは切り離さない。

あとあと	ごくごく	さてさて	ただただ	どうこう	なおなお
まずまず	またまた	まだまだ	よくよく		

【例】 | ごく=ごく | 簡単 | に | 申し | ます | と |
| まず=まず | の | 着順 | を | 受け | て | 、 |

【単位の内部構造による規定】

3. 3 体言に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合、体言と「する」「できる」「なさる」「いたす」とを切り離さない。

【例】 | まるで | 1つ | の | 光点 | が | 往復運動=し | ている | よう | に |
| 私 | は | この | 予選 | を | 1位 | で | 通過=できる | と |
| 久保田藩内 | を | 巡回=なさっ | ている | わけ | です | な |

国語辞典でサ変動詞語幹としての用法が示されていないものについても、形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合は、「する」「できる」「なさる」「いたす」を切り離さない。

【例】 | 青空 | に | 桜 | の | 花 | が | 満開=し | てる | 様子 | は |
| ぷらぷら | と | (F あの一) | ウィンドーショッピング=する |

3. 4 「お（ご）～する・できる・くださる・いただく・なさる・いたす・ねがう・も

うしあげる・あそぼす」については、全体を一続きのものとする。

【例】 |ご理解|と|ご協力|の|ほど|よろしく|お=願い=申し上げ|ます|
|いかが|お=過ごし=|でし|た|か|、|お=聞かせ=ください|。
|民事訴訟|の|ご専門|として|の|ご意見|を|お=聞かせ=願い|たい
|と|思い|ます|。
|気|が|向い|た|とき|、|お=返事=ください|ね|

3. 5 体言+用言という形式のうち、『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のいずれか一方で見出し語（連語としての見出し語は除く。）になっているものは、体言と用言とを切り離さない。

【例】 |しかた=なく|洗っ|てもらっ|たら|、|やっ|と|もと|の|通り|に
|なり|まし|た|。
|

3. 6 副詞に形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合、副詞と用言とを切り離さない。

【例】 |「|何|が|始まる|の|か|な|」|と|目|を|きらきら=さ|せ|
た|

(◆ver. 1.1追加)

3. 6. 1 副詞に「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合のうち、「する」「できる」「なさる」「いたす」が「行う・やる」又は「行える・やれる」に置き換えることができる場合は、副詞との間を切り離す。

【例】 |準備|は|十分||し|てい|ます|

(◆ver. 1.1追加)

3. 6. 2 「こう・そう・ああ・どう」に「する」「できる」「なさる」「いたす」が直接続く場合は、切り離す。

【例】 |こう||し|た|サークル活動|が|盛ん|に|なる|背景|
|どう||し|たらいい|です|か|？|
|そうこう||し|ている|うち|に|だんだん|犬|と|仲良く|なっ|て
き|て|

(◆ver. 1.1修正)

3. 7 同格の関係にある体言連続は切り離さない。

【例】 |機関誌=計量国語学|が|発刊さ|れ|
|機関誌=計量国語学-発行|の|年|に|
|大江健三郎さん|の|長男=光さん|
|大山|の|堅陣|を|打ち破っ|た|の|は|、|若き|太陽=・=中原誠
|だった。|
|東海汽船|の|支店長=・=重久さん|は|、|運転手全員|に|深々|と
|頭|を|下げ|た|。
|いわゆる|移民|という|従来|の|パターン|を|超え|た|古里=・=
香港|の|「|移植|」|

※ 中点以外の記号で同格の関係にある体言が区切られている場合、規定1. 1(2)にかかわらず、その記号を1長単位とする。

【例】 |中国語日刊新聞||「||星島日報||」|
|若き|天才||三||羽生|へ|の|関心|

3. 8 並列された語は切り離す。

【例】 | 企業会計 | の | 標準的 | な | ルール | は | , | 公正 || 妥当 | な | 実務慣行
| を | 集約し | た | もの | という | 意味 | で |
| あなた | の | 診療 || 治療 | に | 最適 | の | 専門医 | は | もっと | 身近 | に
| いる | もの | です | 。 |

3. 8. 1 並列された語のうち、次に挙げるものは切り離さない。

(1) 並列された語を中点でつなげている場合

【例】 | 麦 = ・ = 大豆 = ・ = 飼料作物 | の | 生産振興 | に | 資する | 水田 | の |
| 最も | 先進的 | な | 青森 = ・ = 岩手 = ・ = 秋田 | の | 北東北 | 三県 | は | , |

(2) 漢語の最小単位の並列

【例】 | その | 前 = 後 | の | 年齢階層 | に | 農業外 | から | の |
| 東京 | の | 郊外 | の | 市 = 町 = 村 | と | 言う | か |

(3) 和語の最小単位二つが並列した語のうち、『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のいずれか一方で見出しになっている語

【例】 | あち = こち | 連れ歩き | て | よく | 遊ん | だ | もの | である | 。 |
| 他 | に | 何 | が | ある | だろう | という | こと | を | あれ = これ | と | 思
い | まし | た |
| と | とも | 頭 | が | ちっさく | て | 長身 | で | 手 = 足 | が | 凄く | 長く |

3. 8. 2 並列の関係にある体言連続のうち、並列された体言全体に係る、又はそれら全体を受ける体言的な形式や接辞がある場合は切らない。

【例】 | 昭和55年 = 、 = 56年 | に | 全国平均 | で | それぞれ | 前年比 | 12.3
% 増 |
英語 = 日本語 - 間	の	会話文	の	翻訳	を		
学習データ = 入力データ - 共	マスク値	で	置き換え	た			
五月	の	アメリカズカップ	に	勝て	ば	、	米国 = 、 = 豪州 - 以外
の	国	に	初めて	ザ・カップ	が	持ち込ま	れる
優優 = ・ = 美美ペア	から	五羽	の	ヒナ	が	誕生し	、

3. 8. 3 並列の関係にある体言連続のうち、並列された体言全体を受ける形式的な意味の「する」「できる」「なさる」「いたす」がある場合は切らない。

【例】 | 各語 | の | 状況 | っていう | もの | を | 観察 = 整理 - し | まし | た |
| 職業能力開発大学校 | に | 在学 = ・ = 在校 - する | 場合 | で | , |

※ 文節認定規程の規定1によって並列された語が切り離されている場合、その文節に基づいて認定される長単位においても、並列された語は切り離される。

【例】 | 下草 | や | 低木等 | の | 下層植生 | が | 減少 || 消失し | 、 |

3. 9 数を表す要素を含む自立語は、以下の規定に基づき長単位を認定する。

3. 9. 1 数を表す要素は、単位の変わり目の後ろで切る。

【例】 | 平成 | 15年 || 9月 || 15日 || 午後 | 7時 || 33分 ||
| 1m || 80cm |

3. 9. 2 数を表す要素の前で切る。

【例】 | 地域向け放送 | 延べ || 23時間 | 30分 | , | 一般向け放送 || 13時間 |

30分である。|
 | 残業時間 | が | 月 | 80時間以上 | の | 者 | は | 心筋梗塞発症 | の | リス
 ク | が | 高まる | と | する | 研究 | が | ある | 。 |
 | 南青山 | に | ある | 敷地面積 || 2,000㎡ | の | 土地 | は | 、 |
 | 平成 || 15年 | 9月 | 15日 | 午後 || 7時 | 33分 |
 | 日銀政策委員 | の | 見通し | は | 、 | 前年比 || マイナス0.3%程度 | と
 | 小幅 | だ | 。 |
 | 日米韓 | 三国 | の | 対応 |

(◆ver.1.0追加)

(◆ver.1.1修正)

ただし次に挙げるものは、数を表す要素と前の要素とを切り離さない。

(1) 接頭辞は切り離さない。

【例】 | 約=3時間 |

(2) 数を表す要素と前の要素とに係る、又はそれら全体を受ける体言・接辞がある場合

【例】 | 果汁=百パーセント-オレンジジュース | | 日独伊=三国-軍事同盟 |
 | 翌-平成=8年 |

3.9.3 数を表す要素とそれに続く体言・接辞とは切り離さない。

【例】 | 残業時間 | が | 月 | 80時間=以上 | の | 者 | は | 心筋梗塞発症 | の | リ
 スク | が | 高まる | と | する | 研究 | が | ある | 。 |
 | 96年 | 3月 | 31日=以前 | に | 設立さ | れ | た | 企業 | の | 場合 |

補則1 一覧の語の扱い

資料「要注意語」の「一が～」「一の～」全体で1最小単位とするもの、及び表2.3に挙げられている語及びそれを含む結合体は、全体で1長単位とする。

【例】 | 身の代=金目的略取等 | , | 国外移送目的略取等 | , |
 | 同じ | マンション | で | わがまま=親子 | が | い | ます | 。 |
 | 家庭観 | も | いつ=か | 変わっ | てい | た | のだ |

補則2 固有名

固有名及びそれを含む体言句は、その内部が規定1・規定2で切ることになっていても切らない。(全体で1長単位とする。)

【例】

[人名(芸名・しこ名・あだ名などをふくむ)]

| ^{みなもとの}源 =頼朝 | | 千代=の=富士 |

[国名]

| グレートブリテン=及び=北アイルランド連合王国 |

[行政区画名]

| 北区 | の | 西が=丘 | に | こう | やっ | て | 研究所 | という | もの | を |
 | お茶の=水 | の | 私 | あんまり | お店 | の | 名前 | と | か |

[地域名]

〔地形名〕

｜場所｜は｜丹沢｜の｜塔の=岳｜が｜使わ｜れ｜ます｜

〔場所名〕

｜更に｜丸の=内線｜も｜乗り入れ｜てい｜ます｜
｜虎の=門交差点｜を｜先頭｜に｜二キロ｜の｜渋滞｜です｜

〔略称〕

〔建造物名〕

｜浅草寺｜の｜境内｜に｜ある｜五重の=塔｜な｜んです｜けれど｜も｜

〔組織の名称〕

｜国立少年自然=の=家｜ ｜独立行政法人=国立国語研究所｜

※ （財）（社）（株）（独）（有）等は「財団法人」「社団法人」「株式会社」と書かれているものと同様に扱う。

｜（財）気象業務支援センター｜
｜（財）－自主流通米価格形成センター｜

〔歴史的できごとの名称※〕

｜関ヶ原の=戦い｜ ｜蛤御門の=変｜ ｜明治十四年の=政変｜

※ 戦争・革命・事件などで、『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版、『日本大百科全書』（スーパーニッポニカ）のいずれかで見出し語になっており、慣用的に一定の名で呼ばれるもののみとする。

〔祝日※〕

｜毎年｜五月｜五日｜子供の=日｜（D2 は）｜に｜なる｜と｜

※ 「国民の祝日に関する法律」（1948年7月30日法律第178号）に定められたもの。次の例のように、同じ日を指していても、同法で定められた名称と異なれば、固有名としない。

｜憲法記念〓の〓日｜

（◆ver. 1.1修正）

補則3 行政区画名・組織の名称等の扱い

より上位のものから下位のものへと順を追って並んでいる、意味的に段階性のある自立語のうち、次に挙げるものは、各自立語を切り離し、それぞれ1長単位とする。

【例】

〔行政区画名〕

｜米国〓サンフランシスコ｜から｜送ら｜れ｜てき｜た｜
｜十四日｜、｜イラク南部〓ナシリヤ｜で｜、｜
｜東京都｜北区｜西が丘｜三丁目｜九番｜十四号｜
｜間｜も｜なく｜大阪府〓和泉市｜の｜プロジェクト｜が｜

〔組織の名称及びそれに関連する肩書〕

国立国語研究所		研究開発部門		言語資源グループ				
衆議院		予算委員会		香港政庁		移民局		
新進党		党首		韓国		国防部		長官

※ 人名の前にある所属と人名とは切り離す。

| 国立国語研究所 | 研究開発部門 | 言語資源グループ || 前川喜久雄 |

※ 人名の前にある肩書きと人名とは切り離さない。(同格に当たる。)

| 国立国語研究所 | 研究開発部門 | 言語資源グループ長=前川喜久雄 |

〔建造物・施設名〕

| 東京国立博物館 || 平成館 | で | 開催さ | れる |
| 法隆寺 || 五重塔 | の | 内部構造 | 。 |

補則 4 動植物名

動植物名及びそれを含む体言句は1長単位とする。

【例】 | ツキノワグマ | | ワレモコウ | | ヒカゲノカズラ科 |

(◆ver.1.0修正)

補則 5 注釈的な語句・文を含む括弧の扱い

文節認定規程の補則7によって、括弧内に注釈的な語句・文がある場合の括弧を読み飛ばしている場合、その文節に基づいて認定される長単位においても、括弧内をいったん読み飛ばして長単位を認定した上で、読み飛ばした括弧内の文節についても別途長単位を認定する。

【例】 | 大学院レベル | の | 若手研究者 | の | 短期受入れ (文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム) 等 | を | 実施し、 |

→ 以下の二つの長単位を認定する。

| 短期受入れ=等 |

| 文部科学省若手外国人研究者短期研究プログラム |

| ワンウェイ (一方通行) 型ライフスタイル |

→ | ワンウェイ=型ライフスタイル |

| (| 一方通行 |) |

| 03 (同15) 年 | 4月 |

→ | 03=年 |

| (| 同 | 15 |) |

| 4月 |

参考 長単位の例

| 平成 | 4年度 | に | 創設さ | れ | た | 定期借地権制度 | は | 、 | 借地契約 | の | 更新 | が | なく | 、 | 定め | られ | た | 契約期間 | で | 確定的 | に | 契約 | が | 終了する | 借地権制度 | である | 。 | 貸し主 | (| 土地所有者 |) | にとって | は | 予定時期 | に | 土地 | の | 返還 | を | 受ける | こと | が | 保証さ | れる | と | とも | に | 、 | 一定期間 | の | 地代収入 | が | 安定的 | に | 得ら | れ | 、 | また | 、 | 借り主 | にとって | は | 土地 | を

取得するよりも少ない負担で土地を利用できることから、双方にとってメリットがあり、借地の供給拡大による土地の有効利用を促進するものとして期待されている。定期借地権には、一般定期借地権、建物譲渡特約付借地権、事業用借地権の3類型がある（図表1-5-4）。

定期借地権制度創設時に、事業用借地権の対象として主に想定していたのは、量販店、飲食店等、経済的な耐用年数が比較的短いものであり、事業用借地権の存続期間も10年以上20年以下とされている。しかし、近年、物流拠点やアウトレットモール等、従来想定されていなかった用途での活用も行われるようになってきている（図表1-5-8）。立地についても、従来想定されていたロードサイド等での活用に限らず、多様化しており、都心から数十km以上離れた場所に立地する大規模アウトレットモールや臨海部に相次いで立地している大型の商業施設のようなものもある。このような商業施設では、土地取得費を削減するため、借地による立地を進める場合も多く、特に大規模アウトレットモールにおいて、事業用借地権を用いている事例が目立っている（図表1-5-9）。

第3章

短 単 位

小椋秀樹 小磯花絵 原裕

短単位は、言語の形態的側面に着目して規定した言語単位である。短単位の認定に当たっては、まず現代語において意味を持つ最小の単位（最小単位）を規定する。その上で、最小単位を長単位の範囲内で短単位認定規程に基づいて結合させる（又は結合させない）ことにより、短単位を認定する。そのため、短単位の認定規程は、最小単位と短単位の二つの認定規程から成る。

《 凡 例 》

1. 以下の規程に示した例は、コーパスに現れた例又は作例である。
2. 最小単位・短単位の境界を示すために次の記号を用いた。
最小単位の境界 …… / …… 例：／国／立／国／語／研／究／所／
短単位の境界 …… | …… 例：|国立|国語|研究|所|
短単位の境界（当該規定で着目している箇所）
………… || …… 例：|国立|国語|研究||所|
3. 最小単位・短単位について分割しないことを特に示す必要があるときには、次の記号を用いた。
最小単位・短単位のつなぎ目 …… - …… 例：|大-丈夫|です|
最小単位・短単位のつなぎ目（当該規定で着目している箇所）
………… = …… 例：|パソコン=コン|を|使う|
4. 着目している最小単位・短単位が分かりにくい場合は、当該箇所に下線を付した。
5. 各バージョンで変更した規定には、「(◆ver. 1.1修正)」「(◆ver. 1.1追加)」などと表示した。

I 最小単位認定規程 Version 1.4

第1 最小単位認定規程

最小単位は、現代語において意味を持つ最小の言語単位のことである。

最小単位は、和語・漢語・外来語・記号・数・人名・地名の各種類ごとに、以下の規定によって認定する。

和語・漢語・外来語の語種の判定は、原則として『新潮現代国語辞典』第2版（新潮社）による。『新潮現代国語辞典』第2版の見出しにない語は、『日本国語大辞典』第2版（小学館）を主たる資料として語種判定を行う。また、『新潮現代国語辞典』第2版の語種判定に従い難いと判断した場合は、『日本国語大辞典』第2版等を参照し、独自に語種を判定した。

1 和 語

和語の最小単位は、以下の例のように認定する。

和語の最小単位の認定に関する詳細は、第2「和語の最小単位認定に関する規則」を参照のこと。

【例】 /母／親／ /青／白／い／ /い／い／加／減／な／
/本／箱／ /幾／人／ /オ／レン／ジ／色／
/わ／た／し／で／も／で／き／る／ /読／み／終／わ／り／ま／し／た／

1. 1 融合形は、元の形に戻さずに、融合している複数の最小単位全体で1最小単位とする。

【例】

名詞・代名詞＋助詞：

/その／とき／や（あ）／（その時は） /わた／し／や／（わたしは）

動詞＋助詞：

/行／き／や（あ）／し／ない／（行きはしない）
/考／え／り／や（あ）／（考えれば）

形容詞＋助詞：

/お／も／しろ／け／り／や／（おもしろければ） /お／も／しろ／き／や／（おもしろければ）
/悪／か／ない／（悪くはない）

その他：

/生／き／て／る／（生きている） /生／き／て／た／（生きていた）
/持／っ／て／く／（持っていく） /持／っ／て／っ／た／（持っていた）
/置／い／と／く／（置いておく） /置／い／と／い／た／（置いておいた）
/知／っ／と／る／（知っておる） /知／っ／と／っ／た／（知っておった）
/行／っ／ち／ま／う／（行ってしまう） /行／っ／ち／ま／っ／た／（行ってしまった）
/行／っ／ち／や／う／（行ってしまう） /行／っ／ち／や／っ／た／（行ってしまった）
/っ／ち／ゅう／の／は／（って言うのは） /っ／て／え／と／（って言うのと）

1. 2 省略形は、元の形に戻さずに、可能な範囲で最小単位を認定する。その際、元の形との対応をできる限り取るよう留意する。

【例】 /や／ん／だ／っ／け／（やるんだっけ）*¹
/行／っ／て／る／ん／す／*²

※1 元の形「やるんだっけ」との対応を可能な限り取るように、「や」を動詞「やる」の活用語尾が省略された形、「ん」を元の形「やるんだっけ」の「ん（準体助詞「の」の撥音便）」と考えて、最小単位の認定を行う。

※2 元の形「行ってるんです」との対応を可能な限り取るように、「す」を元の形「行ってるんです」の助動詞「です」と考えて、最小単位の認定を行う。

1. 3 現代語において分割することができない、若しくは分割することが適切でないと考えられるものは、分割せずに全体で1最小単位とする。

【例】 /あ／っ／け／ら／か／ん／ /い／な／ず／ま／ /え／が／く／ /お／も／ん／ば／か／る／
/こ／だ／ま／ /と／ん／か／ち／

1. 4 次に挙げるものは、それだけで1最小単位とせずに前の要素に含める。

(1) 形容詞語尾の「い」「く」「しい」など

【例】 /さむ=い/ /ひろ=く/ /うれ=しい/

(2) いわゆる形容動詞の語幹末尾「か」「やか」「らか」

【例】 /しず=か/ /かろ=やか/ /ほが=らか/

(3) 動詞の活用語尾

【例】 /おも=う/ /ひろ=う/ /わか=る/

(4) いわゆる副詞語尾「と」

【例】 /ぐっ=と/ /さっ=と/ /ほっ=と/

※ 「AAト」のように「A」に当たる要素が重複されている場合は、「と」を1最小単位とする。(参照：規定1. 5 (5))

【例】 /ぐら/ぐらっ/と/ /がぶ/がぶ/と/

(5) 助数詞の「とり(たり)」

【例】 /ひ=とり/ /ふ=たり/

(6) 延言の「く」「らく」

【例】 /いわ=く/ /おも=らく/ /ねが=く/

(7) コソアド類の各語末

【例】 /こ=れ/ /こ=の/ /こ=こ/ /こち=ら/
/そ=れ/ /そ=の/ /そ=こ/ /そち=ら/
/あ=れ/ /あ=の/ /あそ=こ/ /あち=ら/
/ど=れ/ /ど=の/ /ど=こ/ /どち=ら/
/だ=れ/
/いず=れ/

1. 5 次に挙げるものは、前又は後ろの要素にまとめずに助詞・助動詞と同様に単位を認定する。

(1) 接続詞・接続助詞の構成要素となっている助詞・助動詞

【例】 /だ/が/ /です/が/ /で/は/ /の/で/ /の/に/
/ところ/が/ /ところ/で/ /もの/の/

(2) いわゆる形容動詞、いわゆる形容動詞活用型の助動詞の変化部分

【例】

形容動詞 : /静か/だ/ /元気/だ/

形容動詞型活用の助動詞 : /そう/だ/ /よう/だ/

(3) いわゆる副詞語尾「に」

【例】 /実/際/に/ /非/常/に/

※ 資料「要注意語」の「全体で1最小単位とするもの」に登録されたもの以外の二型副詞の語尾。

(4) 「動詞連用形+テ」から副詞に転じた語の接続助詞「て」

【例】 /ふるっ／て／ /あわせ／て／

(5) いわゆる副詞語尾「と」のうち、「AAト」のように「A」に当たる要素が重複されているものに接続するもの

【例】 /ぐら／ぐらっ／と／ /がぶ／がぶ／と／

1. 6 擬音語・擬態語の繰り返しや、これに準ずるものは、各々を切り離す。

【例】 /どき／どき／ /びか／びか／ /もじ／もじ／
/ぷよ／ぷよ／ /ちら／ほら／
/がら／がら／と／

1. 7 それがないとき、1最小単位となるものの中に出てくるフィラーは無視する。

【例】 /ひ=え=だり／(左) /たち=い=ばな／さん／(橘)

1. 8 言いよどみは、1最小単位とする。

【例】 /わた／私／は／ /こ／ここ／から／

2 漢語

漢語（和製漢語を含む。）は、漢字1文字で表されるものを1最小単位とする。

【例】 /白／紙／ /安／価／ /含／有／量／ /数／百／

3 外来語

外来語・外国語は原語で1単語になるものを1最小単位とする。

英語起源の外来語の最小単位の認定は『リーダーズ英和辞典』第2版（研究社）による。それ以外の言語を起源とする外来語については適宜判断する。

【例】 /カラー／コピー／ /レーザー／プリンター／
/オレンジ／色／ /ビタミン／剤／

3. 1 英語起源の外来語について、原語で1語になるものの結合体が『リーダーズ英和辞典』第2版で1語として扱われている場合、その結合体を1最小単位とする。

【例】 /データ=ベース／ /ネット=ワーク／

※ 「データ (data)」「ベース (base)」「ネット (net)」「ワーク (work)」は、それぞれ原語で1語であるが、「データ」と「ベース」との結合体「データベース」、「ネット」と「ワーク」との結合体「ネットワーク」が、それぞれ『リーダーズ英和辞典』第2版で1語とされている。このような場合、「データベース」「ネットワーク」を1最小単位とする。

3. 2 外来語・外国語の1最小単位を略したのも1最小単位とする。

【例】 /塩／ビ／ /パソ／コン／ /インフレ／

3. 3 用言化した外来語の活用語尾は切り出さない。

【例】 /サボ=る／ /ハモ=る／

3. 4 外来語・外国語に漢字を当てたものも、外来語・外国語として扱う。

【例】 /菩薩／ /阿弥陀／ /倶楽部／ /背広／

3. 5 日本語としては分割不可能と考えられるもの及び二つの単語が融合して発音されたことによって分割不可能になったものは、全体で1最小単位とする。

【例】 /クーデター/ /スタンダップ/ (“stand up”の融合)

(◆ver. 1.3追加)

(◆ver. 1.4修正)

3. 6 組織の名称等の名に当たる外来語・外国語の最小単位を略した1文字の片仮名は、記号の最小単位として扱う。

【例】 /セ/リーグ/ /ナ/リーグ/ /マ/社/

/パ/関/係/者/に/よる/と/、/今/季/から/実/現/し/た/セ
/・/パ/交/流/戦/で/は/
/J/1/復/帰/を/決め/、/声/援/に/応/える/セ/大阪/

4 記号

記号は1文字に当たるものを1最小単位とする。

【例】 /表/A/ /図/B/ /U/ターン/ /V/リーグ/

/●/メイン/フロア/は/なん/と/、/二/千/四/百/名/もの/収
/容/力/、/
/元/駐/日/アメリカ/大/使/ジョセフ/・/クラーク/・/グルー/
/、/千/八/百/八/十/一/千/九/百/六/十/五/年/、/は/、/
/L. A. /で/人気/の/組み/合わせ/は/、/これ/!/
/岡野/あつこ/さん/の/場/合/二/

4. 1 ローマ字を並べた略称は全体で1最小単位とする。ローマ字の間の中点・ピリオド等は1最小単位としない。

【例】 /OHP/ /OS/ /D・N・A/ /Ph. D. /

5 数

数字は、1文字に当たるものを1最小単位とする。

【例】 /一/億/語/ /七/百/五/十/万/語/
/2/万/5/千/分/の/1/
/0/4/2/-/5/4/0/-/4/3/0/0/

(◆ver. 1.3修正)

6 人名

人名は、姓を1最小単位、名を1最小単位とする。

【例】 /星野/仙一/ /ジェフ/・/ウィリアムス/ /林/威助/

通称・雅号・しこ名（その略称も含む。）等は、次のように最小単位を認定する。

【例】 /千代大海/ /十返舎/一九/ /古今亭/志ん生/

ローマ字等を含む仮名は、次のように最小単位を認定する。

【例】 /A子/ /○田/■男/

6. 1 姓と名との間にある読み添えの「の」が本文に表記されている場合は、助詞として扱い1最小単位とする。

【例】 /藤原/の/道長/ /源/の/頼朝/

※ 本文に表記されていない場合は規定6を適用する。

【例】 /源/頼朝/

(◆ver. 1.4追加)

6. 2 人名のうち「お(御)～」という形の場合は、全体をまとめて1最小単位とする。

【例】 /お=千代/ /お=ゆき/ /お=春/さん/

(◆ver. 1.3修正)

(◆ver. 1.4修正)

6. 3 姓又は名を略したものは1最小単位とする。ただし、規定6. 3. 1に該当するものは除く。

【例】 /仙/ちゃん/ /おざ/けん/ /橋/龍/

(◆ver. 1.3追加)

(◆ver. 1.4修正)

6. 3. 1 姓又は名を略した1文字の片仮名及び新聞記事の署名等で姓又は名を略した1文字の漢字・仮名は、記号の最小単位として扱い、人名として扱わない。

【例】 /ブーテフリカ/大/統/領/ (/以/下/「/ヅ/大/統/領/」 /と/いう /) /も/
/先/発/出/場/し/た/中田/英/は/目/立っ/た/活/躍/は/な
く / , /
/盛り/だく/さん/な/内/容/だ/が / , /各/話/熱/気/が/こも
っ/て/い/て / 、 /見/応え/が/ある / 。 / (/野 /) /

6. 3. 2 人名の一部又は全部をローマ字で略記したものは、記号の最小単位として扱い、人名として扱わない。

【例】 /P/・/J/・/ブラウン/と/ジュワン/・/ハワード/だ / 。 /
/東京/・/Y/・/N/

6. 3. 3 複数の人物の名それぞれを略した要素が結合体を構成する場合、その各要素は和語・漢語・外来語の最小単位として扱い、人名としては扱わない。

【例】 /若/貴/兄/弟/ /柏/鵬/時/代/ /鳩/菅/体/制/
/角/福/戦/争/ /三/角/大/福/中/

(◆ver. 1.4追加)

6. 4 中国系の人名のうち姓と名がそれぞれ1文字ずつのものは、姓名をまとめて1最小単位とする。

【例】 /李=梅/

(◆ver. 1.4追加)

6. 5 東南アジア系の人名で短い姓名が複数連続する場合、名前全体をまとめて1最小単位とする。

【例】 /ホー=チ=ミン/

(◆ver. 1.4追加)

6. 6 西洋系の人名において、姓や名が「=」や「・」などで区切られ、二つの要素から構成される場合、原則としてその位置で最小単位を分ける。

【例】 /ジャック/・/シャパン/= /デルマス/

(◆ver. 1.4追加)

6. 7 冠詞や前置詞等に相当する部分は、原則として切り離す。

【例】 /ジョン/・/フォン/・/ノイマン/
/フェルディナン/・/ド/・/ソシュール/

ただし、「(レオナルド・)ダ・ビンチ」のように、結合した形(のみ)が一般的に用いられる場合は、結合した形を1最小単位とする。

(◆ver. 1.4追加)

6. 8 アラブ系の人名における定冠詞「アル」「アッ」「アン」「エル」は、分割せず後続する名詞と合わせて1最小単位とする。

【例】 /サアド/・/アル=ガーミディー/

7 地 名

地名は、次の規定により最小単位を認定する。

(◆ver. 1.4修正)

7. 1 行政区画を表す地名は「都・府・県・郡・市・区・町・村・字」を除いた部分をそれぞれ1最小単位とする。類概念を表す部分には最小単位の認定規定を適用する。

【例】 /東京/都/北/区/西が丘/三/丁/目/九/番/十/四/号/

7. 1. 1 「北海道」は全体で1最小単位とする。

【例】 /北海道/夕張/郡/長沼/町/
/明日/の/北海道/の/天気/

7. 1. 2 市区内の小区分の「～^{ちょう}町」は「～^{まち}町」を含めて1最小単位とする。

【例】 /大阪/府/豊中/市/待兼山町/ /千代田/区/大手町/

7. 1. 3 京都の地名のうち、通りの名称の部分には規定7. 5を適用する。

【例】 /京都/市/上京/区/今出川/通/烏丸/東/入/

7. 1. 4 地名の略称は、全体を1最小単位とする。

【例】 /ちとから/ (千歳烏山) /天六/ (天神橋筋六丁目)

(◆ver. 1.4修正)

7. 1. 5 行政区画を表す地名が他の場所名等に使われている場合には、行政区画の名を表す部分を1最小単位とし、類概念を含むそれ以外の部分は最小単位の認定規定を適用する。

【例】 /さいたま/新/都/心/駅/ /茨木/市/駅/
/日比谷/公/園/ /島根/県/立/松江/北/高/等/学/校/

7. 2 外国の国名や行政区画名などにも規定7. 1から7. 1. 5を適用する。

【例】 /アメリカ/合/衆/国/ /南アフリカ/共/和/国/
/中華/人/民/共/和/国/
/カリフォルニア/州/ /広東/省/
/メキシコ/シティー/ /ミズーリ/ステート/

(◆ver. 1.4追加)

7. 2. 1 市区内の小区分「～^{ちょう}町^{まち}」に相当する「タウン」は「～タウン」を含めて1最小単位とする。

【例】 /ジョージ=タウン/ /ケープ=タウン/

(◆ver. 1.4追加)

7. 2. 2 国名・行政区画を表す地名が他の場所名等に使われている場合は、規定7. 1. 5を適用する。

(◆ver. 1.4修正)

7. 3 行政区画や国以外の地域・地方を表す地名（通称や呼称、商業エリア名などを含む。）は、名を表す部分と類概念を表す部分及び「東・西・南・北・新」等を分割した上で、名を表す部分を地名の1最小単位とする。類概念を含むそれ以外の部分は最小単位の認定規定を適用する。

【例】 /但馬/ /摂津/ /多摩/地/区/ /心斎橋/
/九州/地/方/ /四国/地/方/ /北/関東/地/方/
/ユーラシア/ /パレスチナ/ /ソーホー/
/東/ヨーロッパ/ /ノース/アフリカ/

7. 3. 1 北海道及び七道は、「道」を含めて1最小単位とする。

/北海=道/ /東海=道/ /東山=道/ /北陸=道/
/山陰=道/ /山陽=道/ /南海=道/ /西海=道/

(◆ver. 1.4追加)

7. 3. 2 地域・地方を表す地名が他の場所名等に現れた場合の扱いは規定7. 1. 5を適用する。

7. 4 地形名は、類概念を表す部分を除いた部分を1最小単位とする。

【例】 /生駒/山/ /昭和/新/山/ /北アルプス/
/多摩/川/ /揚子/江/ /サロマ/湖/ /八郎/潟/
/マゼラン/海/峡/ /ペルシャ/湾/

(◆ver. 1.4追加)

7. 4. 1 名を表す部分が漢字一字の場合及び類概念を表す部分の直前が助詞の場合には、類概念を表す部分をまとめて1最小単位とする。

【例】 /黄=河/ /桜=島/ /浄土=が=浜/ /二色=の=浜/

(◆ver. 1.4追加)

7. 4. 2 地域・地方を表す地名が他の場所名等に現れた場合の扱いは規定7. 1. 5を適用する。

(◆ver. 1.4追加)

7. 4. 3 坂・人工の水路やダム の名称及び山号には、規定7. 5を適用する。

7. 5 場所名については、名を表す部分と類概念を含むその他の部分とに分割した後、両方の部分に最小単位の認定規定を適用する。

【例】 /山/手/通り/ /新/御/堂/筋/ /神田/橋/
/さいたま/新/都/心/駅/ /茨木/市/駅/
/山陽/本/線/ /大/江戸/線/

／首／都／園／外／郭／放／水／路／ ／アスワン／ハイ／ダム／

7. 6 地名を略した漢字1字の「日」「米」などについては、漢語の最小単位として扱い、地名としては扱わない。

【例】 ／日／米／ ／日／米／韓／ ／米／国／
 ／日／韓／漁／業／協／定／
 ／京／阪／ ／播／但／ ／阪／奈／自／動／車／道／
 ／甲／州／街／道／ ／磐／越／西／線／

7. 7 片仮名表記する外国地名を略したもので、地名を略した1字漢語（「日」「米」など）に相当する片仮名1文字の「ロ」（ロシアの略）などは、外来語・外国語の最小単位として扱う。

【例】 ／訪／ロ／

7. 8 地名をローマ字で略記したものは、記号の最小単位として扱う。

【例】 ／NY／ ／L. A.／

※ 「NY」「L. A.」は、規定4. 1によって1最小単位となる。

補則 地名

地名のうち最小単位の認定に当たり判断に迷う例について、その認定方法を示す。

(1) 地形名（下線部は地名に当たる最小単位）

／瀬戸／内／ ／瀬戸／内／海／ ／プリンスエドワード／島／
／耶馬／溪／ ／奥穂高／岳／ ／大菩薩／峠／ ／鬼押出／
／ポート／アイランド／ ／イースト／リバー／

(2) 場所名（駅名以外）（下線部は地名に当たる最小単位）

／岡田／山／古／墳／ ／加茂／岩倉／遺／跡／ ／荒神／谷／遺／跡／
／妻木晩田／遺／跡／ ／吉野が里／遺／跡／ ／田和／山／遺／跡／
／区／役／所／通り／ ／富士見／坂／ ／武田／山／トンネル／
／八方／尾根／スキー／場／
／スターリン／広場／ ／関西／国／際／空／港／ ／関／空／
／暗／闇／坂／ ／榎／坂／ ／駒ヶ坂／ ／別府／温／泉／

(3) 駅名

① 行政区画名と一致する駅名

／東中野／ ／西日暮里／ ／江戸川／ ／多賀城／

② 二つの地名から成る駅名

／祖師ヶ谷／大蔵／ ／多摩／境／ ／武蔵／境／
／武蔵／小山／ ／武蔵／小杉／ ／川西／池田／

③ その他

／表／参道／ ／二子／玉川／ ／半蔵／門／

参考 最小単位の例

／グルー／文／書／

元／駐／日／アメリカ／大／使／ジョセフ／・／クラーク／・／グルー／（／千／八／百／八／十／一／千／九／百／六／十／五／年／）／は／、／歴／代／の／駐／日／大／使／の／なか／で／も／ひと／き／わ／生／彩／を／は／な／つ／、／ア／メ／リ／カ／の／代／表／的／な／職／業／外／交／官／で／あ／っ／た／。／

彼／は／千／九／百／三／十／二／年／か／ら／四／十／二／年／ま／で／の／約／十／年／間／を／日／本／で／過／ご／し／、／日／米／関／係／の／調／整／に／数／多／く／の／足／跡／を／の／こ／し／た／。／

来／日／以／来／、／グルー／は／満／州／事／変／後／の／日／本／軍／部／の／台／頭／を／つ／ぶ／さ／に／観／察／す／る／と／と／も／に／、／日／本／の／国／際／連／盟／脱／退／（／三／十／三／年／三／月／）／、／日／中／戦／争／勃／発／（／三／十／七／年／七／月／）／、／日／独／伊／三／国／軍／事／同／盟／（／四／十／年／九／月／）／、／対／日／経／済／制／裁／（／四／十／一／年／七／月／）／、／真／珠／湾／奇／襲／攻／撃／（／四／十／一／年／十／二／月／）／な／ど／、／日／米／関／係／に／決／定／的／な／転／機／を／も／た／ら／し／た／重／大／な／歴／史／的／事／件／の／こ／と／ご／と／く／を／直／接／に／体／験／し／た／。／

グルー／の／主／著／は／、／こ／の／十／年／に／お／よ／ぶ／彼／の／滞／日／経／験／を／ま／と／め／た／も／の／で／あ／り／、／千／九／百／四／十／四／年／五／月／に／公／刊／さ／れ／る／と／、／ア／メ／リ／カ／国／民／の／あい／だ／に／大／き／な／反／響／を／よ／び／お／こ／し／た／。／

／／最／後／に／雑／誌／「／エンターテインメント／・／ウィークリー／」／に／載／っ／た／映／画／評／を／紹／介／し／よう／。／

／「／UPSIDE／／It／could／be／a／Best／Foreign／Language／Film／contender／at／next／year's／Oscars．／（／来／年／の／ア／カ／デ／ミ／ー／賞／で／最／優／秀／外／国／語／映／画／賞／を／獲／得／す／る／可／能／性／が／あ／る／）／DOW-NSIDE／／Subtitles／（／字／幕／付／き／）／」／（／追／記／／さ／て／六／月／二／十／七／日／公／開／予／定／が／、／あ／と／一／週／間／と／迫／っ／た／と／こ／ろ／で／突／然／七／月／十／一／日／に／延／期／。／

そ／の／理／由／は／、／マ／ー／ケ／ティ／ン／グ／の／結／果／だ／そ／う／だ／）／

／タマ／チャリ／と／は／比／較／に／な／ら／ない／機／動／性／と／耐／久／性／を／装／備／

米／軍／の／「／ハマー／」／の／名／が／冠／せ／られ／た／自／転／車／に／乗／ろ／う／

ハマー／折り／たたみ／マウンテン／バイク／

／中／国／や／タイ／ほ／ど／で／は／な／い／が／、／日／本／も／世／界／屈／指／の／自／転／車／大／国／。／通／勤／通／学／、／ま／た／は／日／常／の／足／と／し／て／自／転／車／を／利／用／し／て／い／る／人／は／多／い／こ／と／だ／ろ／う／。／そ／こ／で／、／ち／よ／つ／と／他／人／と／差／を／付／け／たい／な／ら／、／こ／ん／な／自／転／車／に／乗／っ／て／は／い／か／が／だ／ろ／う／か／？／

／DBS／／JAPAN／か／ら／販／売／さ／れ／て／い／る／「／ハマー／折り／た／たみ／マウンテン／バイク／」／は／、／米／軍／の／軍／用／車／・／ハマー／で／有

／名／な／アメリカ／GM／社／製／の／自／転／車／。／自／転／車／と／は／いっ／
て／も／、／ハマー／の／名／前／は／ダテ／で／は／なく／、／高い／機／動／性／と
／耐／久／性／を／兼ね／備え／た／1／台／に／なっ／て／いる／。／

第2 和語の最小単位認定に関する規則

和語の最小単位の認定は、漢語・外来語と比較して判断に迷うことが多い。そこで、以下のとおり、和語の最小単位を認定するための規定を定める。

I 語の一覧等に基づいて最小単位を認定するもの

- 1 常用漢字表（1981年、内閣告示第1号・内閣訓令第1号）の音訓欄に掲げられた訓は、1 最小単位とする。

【例】 /あわ=せる/ /まつり=ごと/ /え=がく/

可能動詞形については、元の動詞に準じて1 最小単位とする。

【例】 /え=がける/

- 2 語源的には二つ以上の要素から成る語のうち、現代仮名遣い（1986年、内閣告示第1号・内閣訓令第1号）の第2の規定5において「現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として、それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則と」すると規定されている語のうち次に挙げるものは、全体で1 最小単位とする。

【例】 /いな=ずま/ /かた=ず/ /き=ずな/ /さか=ずき/
/ときわ=ず/ /ほお=ずき/ /みみ=ずく/ /うな=ずく/
/おと=ずれる/ /かし=ずく/ /つま=ずく/ /ぬか=ずく/
/ひざ-ま=ずく/ /あせみ=ずく/ /さし=ずめ/
/で=ずっ-ぱり/ /なか-ん=ずく/ /うで=ずく/
/くろ=ずくめ/

- 3 資料「要注意語」の「助詞」「助動詞」「接頭的要素」「接尾的要素」「全体で1 最小単位とするもの」に挙げたものは1 最小単位とする。

【例】 /それ/で/も/ /話し/た/ /考え/がたい/
/乗り/こなす/ /この=頃/ /ひよんな/

可能動詞形については、元の動詞及び動詞性接尾辞に準じて1 最小単位とする。

【例】 /乗り/こなせる/ /使い/まくれる/

II 上記の規定に該当しないものに関する規定

- 1 コーパス中の文において、他の要素と結合せず単独で語として使われているものは1 最小単位とする。

【例】 /空/が/かすむ/

- 2 複合語を構成する要素については、以下の規定によって最小単位を認定する。

2. 1 複合語の構成要素のうち、現代語において単独で語として機能し得るものどうしが結合して語を構成している場合は、それぞれの構成要素を1 最小単位とする。

【例】 /空き/家/ /灰汁/抜き/ /揚げ/足/ /明け/暮れる/

2. 2 結合の際に音変化が起きているものは、以下の規定によって最小単位を認定する。

2. 2. 1 複合語の前項に音変化が起きているものは、以下の規定によって最小単位を認定する。

2. 2. 1. 1 前項が被覆形となっているものは、その音節数等によって、以下のように最小単位を認定する。

(1) 2音節以上であれば、原則として1最小単位とする。

【例】 /つま/先/

ただし、以下のいずれかに該当するものは、1最小単位とせず、全体で1最小単位とすることがある。

①既に語源意識が失われていると考えられるもの

【例】 /うつ=ぶす/

②一方の構成要素が語源未詳、若しくは語源は判明しているが、音変化等のため一般には元の語への還元が難しいと考えられるもの

【例】 /うわ=みず/ (上溝) /しら=に/ (白土) /しら=ふ/

(2) 1音節で、元の形への還元が難しくないと考えられるものは1最小単位とする。

【例】 /木/陰/ /木/枯らし/ /木/立ち/

語源意識が失われている等の理由によって一般には元の形への還元が難しいと考えられるものは1最小単位とせず、全体で1最小単位とすることがある。

【例】 /こ=だま/ /こ=ぬれ/ /か=ぶれる/ /こ=がね/
/こ=よみ/

2. 2. 1. 2 前項の名詞に音変化が生じている場合、全体で1最小単位とする。

【例】 /かい=ま/ (垣間) /かえ=で/ (<蛙手) /かん=ざし/ (簪)

2. 2. 1. 3 前項が用言の音便形となっているものは、以下のように最小単位を認定する。

(1) 後項が動詞である場合（当該の複合語が複合動詞、又はその転成名詞である場合）、前項を1最小単位とする。一般には語源が意識されることの少ない語についても同様に扱う。

【例】 /追っ/掛け/ /切っ/掛け/ /くっ/付く/

(2) 前項の動詞が連用形に見られる音便形とは異なる音便形を取っていても、それが規則的で広く用いられるものである場合は、前項を1最小単位とする。

【例】 /突っ/張る/ /引っ/掛かる/ /吹っ/切れる/

(3) 前項の動詞が連用形に見られる音便形とは異なる音便形で個別的な事例と考えられる場合や、音の脱落を生じている場合は、前項を1最小単位とせず、全体で1最小単位とする。

【例】 /おもん=ぱかる/ /しゃべ=くる/ /せっ=かち/

(4) 後項が用言以外である場合、後項と結合した形で1最小単位とする。

【例】 /追っ=手/ /同い=年/ /切=手/

2. 2. 1. 4 後項が個別の変化を起こしている等のことから、それを1最小単位と認定し難い場合は、個別の判断によって最小単位を認定する。

【例】 /飲んだくれる/

※「たくれる」を最小単位と認定する必要はないと考えられるため。

/引っ/ぺがす/

※「引っ/ぺがす」が2最小単位となることとの整合性を取るため。

2. 2. 2 複合語の後項に音変化が起きているものは、以下の規定によって最小単位を認定する。

2. 2. 2. 1 連濁を生じている場合も、元の形が規定2. 1に該当するものであれば、1最小単位とする。

【例】 /わたし/ぶね/ (渡し船) /ほん/ばこ/ (本箱)

※ 常用漢字表の音訓欄に挙げた訓には、1の規定1が優先的に適用される。

【例】 /え=がく/ /いろ=どる/

2. 2. 2. 2 後項の語頭の母音に子音が挿入されている場合も、前項・後項をそれぞれ1最小単位とする。

【例】 /あき/さめ/ (秋雨) /きり/さめ/ (霧雨)

2. 2. 2. 3 後項の語頭音が個別的に変化・脱落している場合、全体で1最小単位とする。

【例】 /かわ=も/ (川面) /かわ=ら/ (川原) /ごき=ぶり/

2. 2. 2. 4 結合部分の母音が融合している場合、全体で1最小単位とする。

【例】 /おっしやる/ /きゅうり/ /しょう/ (背負う)

ただし、「ひと(人)」に由来する「と」「うと(ど)」「っと」等を最小単位と認める関係上、本規定に該当する語であっても、「と」「うと(ど)」「っと」と前項とをそれぞれ1最小単位とすることがある。

【例】 /おちゅ/うど/ (落人) /わこ/うど/ (若人)

※ 「(う)と」の部分に「人」の意味が殆ど認められない語は、全体で1最小単位と認めることがある。

【例】 /隼人/ /もうと/ (真人)

2. 3 結合の際に挿入された促音又は撥音は、後項に含める。

【例】 /開け/っ広げ/ /朝/っばら/ /甘/ったれ/
/甘/っちょろい/ /腕/っ節 /崖/っ淵/ /首/っ引き/
/くま/ん蜂/ /下/っ端/ /しみ/ったれる/ /杉/っ葉/
/手/っ取り/早い/ /出/っ歯/ /出/っ張る/
/菜/っ葉/ /抜き/ん出る/ /猫/っ毛/ /端/っ端/
/びり/っけつ/ /宵/っ張り/

3 助詞・助動詞を構成要素に含む語は、以下の規定によって最小単位を認定する。

3. 1 以下に挙げる語の構成要素となっている助詞・助動詞は1最小単位とする。

助詞・助動詞以外の構成要素は、特に定めのない限り、他の規定に基づいて最小単位を認定する。

(1) 「一の～」

前後の要素が古語であつたり、音変化を生じていたりする場合も、助詞「の」を1最小単位とする。

【例】 /味/の/素/ /天/の/川/ /あま/の/じゃく/
/有り/の/俣/ /タツ/ノ/オトシ/ゴ/

(2) 助動詞の連用形が独立性を失い、動詞と1語化して名詞・形状詞に転じたもの

【例】 /いわ/れ/ (謂れ) /いや/がら/せ/ /知ら/せ/
/憎ま/れ/っ子/ /人/泣か/せ/ /人/騒が/せ/
/番/狂わ/せ/ /やら/せ/

(3) その他の名詞・形状詞等

【例】 /擦っ/た/揉ん/だ/ /土/踏ま/ず/ /人/で/なし/
/減ら/ず/口/ /間/に/合う/ /水/入ら/ず/

(4) 「動詞＋て」型の副詞

【例】 /あえ/て/ /改め/て/ /得/て/し/て/ /かえっ/て/
/かね/て/ /辛う/じ/て/ /極め/て/ /強い/て/
/すべ/て/ /せめ/て/ /次い/で/ /なべ/て/
/果たし/て/ /ひい/て/は/ /翻っ/て/ /まし/て/

(5) 「動詞＋ず」型の副詞

【例】 /すかさ/ず/ /取り/あえ/ず/

(6) 「動詞の未然形・已然形＋ば」型の副詞

【例】 /言わ/ば/ /例え/ば/

(7) 「形容詞の連用形＋は」型の副詞

【例】 /あわ/よく/ば/

(8) 「副詞・形容詞の連用形＋も」型の副詞

【例】 /いと/も/ /やや/も/ /奇しく/も/
/いやしく/も/ /畏く/も/ /からく/も/
/くれ/ぐれ/も/ /よく/も/

(9) その他の副詞

【例】 /飽く/まで/ /如何/せ/ん/ /いわ/ん/や/
/なる/べく/ /願わく/ば/ /びく/と/も/
/まる/で/ /わり/と/

(10) 「動詞＋ぬ・ない」型の連体詞

【例】 /素/知ら/ぬ/ /尽き/せ/ぬ/

(1 1)「動詞+べき」型の連体詞

【例】／さる／べき／　／しかる／べき／

(1 2)「動詞+たる」型の連体詞

【例】／さし／たる／

(1 3)「動詞+て+動詞」型の動詞及びその転成名詞

【例】　／取っ／て／置き／

3. 2　以下に挙げる語の構成要素となっている助詞・助動詞は1最小単位とはしない。
助詞・助動詞を含む全体で1最小単位とする。

(1)「動詞+て+動詞」のうち、助詞「て」が後続の動詞と縮約しているもの

【例】　／打っちゃる／　／置いてけ／ぼり／

(2)「持つて」に由来する「も(っ)て」を含む語(その転成名詞を含む。)

【例】　／も=て=あそぶ／　／持=て=余す／　／も=て=なす／

(3)助詞「は」を含む語のうち、助詞「は」に由来する要素が「わ」と表記される語

【例】　／イマ=ワ／(今際)

(4)「～に」型の副詞

【例】　／大い=に／　／更=に／　／ひとり=で=に／

(5)「～なる・な」型の連体詞

【例】　／色ん=な／　／大い=なる／　／大き=な／　／可笑し=な／

(6)「動詞以外+たる」型の連体詞

【例】　／何=たる／

(7)あいさつ・掛け声等の感動詞

【例】　／どう=ぞ／　／さら=ば／　／けしから=ん／

(8)その他

【例】　／あた=か=も／

※「あた」を最小単位とは認め難いため。

／そ=も／そ=も／

※指示詞「そ」が1最小単位と認定されないため。

4　副詞「と」「かく」を構成要素に含む語については、副詞「と」「かく」を1最小単位とした上で、他の要素もそれぞれ1最小単位とする。

【例】　／と／ある／　／兎／角／　／兎／に／角／　／と／も／あれ／
　／兎／も／角／　／と／て／も／
　／と／に／も／かく／に／も／

5　派生形容詞及び繰り返しの要素を含む副詞・形状詞については、以下の規定によって最小単位を認定する

5. 1 「AAしい」という語構成の形容詞は、次のように最小単位を認定する。

【例】 /青/々しい/ /軽/々しい/ /白/々しい/
/痛/々しい/ /忌/々しい/ /初/々しい/

5. 2 「黄色い」「奥ゆかしい」等、複合語に形容詞語尾が付いた語（「待ち遠しい」のようにク活用型形容詞の語幹にシク活用型形容詞の活用語尾が接続したものを含む。）は、以下のように最小単位を認定する。

【例】 /黄/色い/ /待ち/遠しい/ /奥/ゆかしい/

5. 3 複合名詞の一部が形容詞語尾として異分析された語や、後項に個別的な音変化が生じているものは、全体で1最小単位とする。

【例】 /目=ぼしい/
※ 目星の転
/目=まぐるしい/

※ 「目+紛らしい」の転。後項「紛らわしい」に音変化が生じている。

5. 4 重複要素を含む副詞・形状詞は、次のように重複する要素をそれぞれ1最小単位とする。

【例】 /粗/々/ /生き/生き/ /色/々/ /浮き/浮き/
/更/々/ /偶/々/ /つい/つい/
/いよ/いよ/ /しば/しば/ /そろ/そろ/

6 擬音・擬態的要素、及び当該語中において擬音・擬態的要素と結合して1語を構成している一般の要素については、以下の規定によって最小単位を認定する。

6. 1 掛け声などの感動詞、動物の鳴き声や物の発する音を描写したと思われる擬音語は、その1回の描写を1最小単位と認定する。

【例】 /あーと/ /あい/ /あう/ /あちゃー/ /おいしょ/
/おっと/ /おや/ /がーん/ /どっこい/ /みゅうまお/

6. 2 一般に擬音語・擬態語とされるものは、以下の規定によって最小単位を認定する。

6. 2. 1 擬音語・擬態語は、その語基を1最小単位とする。

擬音語・擬態語の語基*に結合した派生要素「っ」「ー」「ん」「っり」「ーんり」は、1最小単位とせず語基に含める。

【例】 /がくっ/ /がくっ/と/ /がくん/と/ /がくり/と/
/がっくり/と/

※「かちっ」「かちり」「かちん」の「かち」、「どきっ」「どきり」「どきん」「どきり」の「どき」、「ひやっ」「ひやり」「ひんやり」の「ひや」等が語基である。

6. 2. 1. 1 擬音語・擬態語に接続する「と」「て」は1最小単位とする。

【例】 /がちゃん/と/ /ぱりっ/て/

ただし「きつと」「ちゃんと」のように、既に副詞として1語化したものは、全体で1最小単位とする。

【例】 /き=つと/ /ちゃん=と/

※「と」の部分で「(っ)て」と交換することができない。

6. 2. 2 語基、若しくは語基に規定6. 2. 1に挙げた派生要素が結合したものが、重複されている場合には、重複されている要素をそれぞれ1最小単位とする。

【例】 /うよ/うよ/ /がた/がた/ /さら/さら/
/ずば/ば/ば/ばっ/ /が/が/が/がつん/
/ずば/ば/ば/ば/ばん/

6. 2. 2. 1 1音節の擬音語が重複して用いられている場合、以下のように最小単位を認定する。重複の末尾に付いた派生要素「ーっ」「ーん」は、最後部の音節に含める。

【例】 /が/が/ /ず/ず=ん/
/が/が/が/が/が/ /ぐ/ぐ/ぐ/ぐ/
/さっ/さっ/さ/と/ /ず/ず/ず/ず=ん/

6. 2. 2. 2 1音節の擬態語が2回繰り返されたものに「と」が接続して1語化した語は、全体で1最小単位とする。

【例】 /さっさと/ /とつとと/

※「と」の部分を「て」と交換することができない。

6. 2. 3 複数の異なる語基及び語基に規定6. 2. 1に挙げた派生要素が結合したものが結合して用いられているものは、以下のように最小単位を認定する。

【例】 /がしや/こん/ /がた/こん/ /かちん/こちん/
/かり/こり/

6. 3 元々擬音語・擬態語であった語が、ある特定の事物を指示する名詞に転じたものは、全体で1最小単位と認定する。

【例】 /とん=かち/ /ぼん=こつ/ /駄=々/

6. 3. 1 複数の擬音語・擬態語の語基などの結合したものが、1語化して副詞・形状詞として用いられているものは、全体で1最小単位と認定する。

【例】 /おっちょこ=ちょい/ /こてん=ぱん/

6. 4 擬音語・擬態語と一般語とが結合した語については、以下のように最小単位を認定する。

6. 4. 1 元の擬音語・擬態語との関係を強く想起させる要素と単独で語として使われる一般語とが結合した語は、擬音語・擬態語に当たる要素と一般語とを、それぞれ1最小単位とする。

【例】 /びく/つく/ /びしょ/濡れ/ /ぶら/下がる/
/べた/付く/ /べた/褒め/ /ぼい/捨て/
/むず/がゆい/

6. 4. 2 擬音語・擬態語に当たる要素の語源意識が失われているものや、他の構成要素が接尾辞的な性格の強いものは、擬音語・擬態語に当たる要素と一般語とが結合した全体を1最小単位とする。

【例】 /ひし=めく/ /ひよ=こ/ /ぼや=ける/ /へこ=たれる/
/よた=話/

6. 4. 3 擬音語・擬態語に接続して名詞を作る接尾辞「こ」と結合した擬音語・擬態語は1最小単位としない。

【例】 /パチン=コ/ /ブラン=コ/

6. 4. 4 単に語調を整えるための要素や語源未詳の要素と結合した擬音語・擬態語の語基及び語基に規定6. 2. 1に挙げた派生要素が結合したものは、1最小単位としない。

【例】 /ぽか=すか/ /ほにゃ=らか/

7 接頭辞は、以下の規定によって最小単位を認定する。

7. 1 接頭辞「お」「み」を含む語は、以下の規定によって最小単位を認定する。(接頭的要素「お」「み」の例外規定)

7. 1. 1 「(お(み)+○)+○」という語構成のものは、接頭辞「お」「み」と直後の要素とを併せて1最小単位とする。

【例】 /お=色/直し/ /お=門/違い/ /お=人/好し/

7. 1. 2 「おみ+○」という語構成のもののうち「み+○」が1最小単位と規定されているものは、「お」は1最小単位とする。

【例】 /お/み=くじ/ /お/み=こし/

7. 1. 3 前条に該当しない「おみ+○」という形式は全体で1最小単位とする。

【例】 /お=み=足/ /お=み=渡り/

7. 2 次に挙げる接頭辞は、1最小単位とする。
接頭辞の直後に挿入された促音は接頭辞に含める。

(1) 生物の雌雄を区別する「お(雄)」

【例】 /雄/牛/ /牡/鹿/

ただし、生物の雌雄を直接指示しない「お」は除く。

【例】 /雄=たけび/

(2) おお(大)

【例】 /大/君/ /大/雨/

(3) か

【例】 /か/細い/ /か/弱い/

(4) こ(小)

【例】 /小/商い/

ただし「小間」の「こ」を除く。

【例】 /小=間/物/ /小=間/使い/

(5) こっ

【例】 /こっ/ぱずかしい/ /こっ/酷い/

(6) さ

【例】 /さ/迷う/ /小/夜/

(7) さか (逆)

【例】 /さか/うらみ/ /さか/のぼる/

ただし、以下の「さか」は除く。

【例】 /逆=さ/ /逆=らう/

(8) だだ

【例】 /だだっ/広い/

(9) ど

【例】 /ど/田舎/ /ど/えらい/ /ど/ぎつい/
/度/肝/ /度/突く/ /どん/底/

(10) どす

【例】 /どす/黒い/

(11) ひ

【例】 /ひ/弱/

(12) ひた

【例】 /ひた/隠す/ /ひた/あやまり/

ただし、以下のものは除く。

【例】 /ひた=すら/ /ひた=むき/

(13) ま (真)

【例】 /ま/いわし/ /真ん/中/ /真っ/白/

(14) め (雌)

【例】 /雌/牛/ /牝/鹿/

(15) ゆう (夕)

【例】 /夕/焼け/ /夕/暮れ/

8 接尾辞は、以下の規定によって最小単位を認定する。

8. 1 次に挙げる接尾辞は、単独で1最小単位と認定する。

(1) がましい

【例】 /おこ/がましい/ /押し/付け/がましい/

(2) がり

【例】 /薄暗/がり/ /怖/がり/ /強/がり/ /広/がり/

(3) かす

【例】 /甘や/かす/ /脅/かす/ /おびや/かす/ /散ら/かす/

／寝／かす／ ／冷や／かす／ ／ほったら／かし／
／ほったら／かす／ ／ほっぽら／かす／ ／見せびら／かす／
／やら／かす／ ／笑／かす／

(4) け

【例】 ／真っ／暗／け／ ／真っ／白／け／

(5) ころ

【例】 ／石／ころ／ ／犬／ころ／

(6) ずむ

【例】 ／黒／ずむ／

(7) たらしい

【例】 ／長／たらしい／ ／憎／たらしい／ ／みじめ／たらしい／

(8) っこい

【例】 ／油／っこい／ ／丸／っこい／ ／ねば／っこい／
 ／ねち／っこい／

(9) ったい

【例】 ／野暮／ったい／ ／口／幅／ったい／

(10) ったけ

【例】 ／首／っ丈／ ／有り／っ丈／

(11) ったるい

【例】 ／甘／ったるい／

(12) っち

【例】 ／タマゴ／ッチ／

(13) っちい

【例】 ／丸／っちい／ ／嘘／っちい／

(14) っちょ

【例】 ／先／っちょ／ ／横／っちょ／

(15) っばち

【例】 ／嘘／っばち／ ／自棄／っばち／

(16) っぺ

【例】 ／田舎／っぺ／ ／野／っぺ／

(17) っぺら

【例】 ／薄／っぺら／

(18) っぺらい

【例】 ／薄／っぺらい／ ／やす／っぺらい／

(19) っぼ

【例】 /尾/っぼ/ /先/っぼ/ /空/っぼ/

(20) っばい

【例】 /荒/っばい/ /安/っばい/

(21) びる

【例】 /古/びる/

(22) びれる

【例】 /悪/びれる/

(23) べったい

【例】 /平/べったい/

(24) ぼったい

【例】 /厚/ぼったい/ /暗/ぼったい/ /腫れ/ぼったい/

(25) めかしい

【例】 /艶/めかしい/ /古/めかしい/

8. 2 次に挙げる接尾辞は前の要素に含める。

(1) ク語法

【例】 /いわ=く/ /ねがわ=く/ /思えら=く/

(2) こ

擬音語・擬態語に付いて、「～という状態である」という意の語や他の擬音語・擬態語を作る。

【例】 /泥ん=こ/ /どんぶら=こ=っこ/ /ぺたん=こ/
/ぺちゃん=こ/

(3) こ

名詞や擬音語に付いて、そのものに対する愛着・愛情等を表現する名詞を作る。

【例】 /にゃん=こ/ /わん=こ/

(4) ち(歳)

【例】 /はた=ち/ /三十=路/

(5) っか

【例】 /輪=っか/

(6) っかしい

【例】 /危な=っかしい/ /そそ=っかしい/

(7) っかる

【例】 /乗っ=かる/

(8) っける

【例】 /乗っ=ける/

(9) っぴら

【例】 /大=っぴら/ /真=っぴら/

(10) まか

【例】 /大=まか/ /ちょこ=まか/

(11) まる

【例】 /薄=まる/ /奥=まる/ /固=まる/ /静=まる/
/狭=まる/ /高=まる/

(12) める

【例】 /赤ら=める/ /薄=める/ /固=める/ /静=める/
/高=める/

(13) み

【例】 /とろ=み/ /柔らか=み/ /弱=み/

9 1 音節の基本語を構成要素に含む語は、その基本語を分析・還元することが難しいと考えられる場合、最小単位とせず全体で1最小単位とすることがある。

9. 1 サ変動詞「する」の連用形「し」を含む語については、「し」に当たる要素が「仕」「支」等の別字で表記されることが多いため、原則として「し」を最小単位とせず、全体で1最小単位とする。

【例】 /試=合/ /し=あわせ/ /仕=入れる/ /仕=立て/
/仕=付け/糸/ /仕=留める/ /し=にせ/ /支=払い/
/仕=舞う/ /仕=業/

ただし、「する」の意味が比較的強く感じられる語は、「し」を1最小単位とする。

【例】 /為/手/ /為/直す/

9. 2 「す(素)」「そ(素)」を含む語は、「す」「そ」を1最小単位とする。

【例】 /素っ/飛ばす/ /素っ/飛ぶ/ /素っ/ぴん/ /素っ/裸/
/素/手/ /素/通り/ /素/肌/ /素っ/気/
/そ/振り/

ただし、以下のように、他方の構成要素の意味が独立して認識される度合いの小さい語に用いられたものは「す」「そ」を1最小単位とせず、全体で1最小単位とする。

【例】 /素=直/ /素=晴らしい/

9. 3 「て(手)」を含む語は、原則として「て」を1最小単位とする。

【例】 /手/垢/ /手/上げ/ /手/足/ /手/厚い/
/手/当て/ /手/薄/ /手/落ち/ /手/紙/
/手/柄/ /手/軽/ /手/際/ /手/口/
/手/答え/ /手/塩/ /手/摺/ /手/っ取り/早い/
/手/引き/ /痛/手/ /射/手/ /受け/手/
/薄/手/ /裏/手/ /売り/手/

ただし、以下に挙げるものは「て」を1最小単位とせず全体で1最小単位とする。

(1) 他の規定によって全体で1最小単位と認定されるもの

【例】 /てんでん/ /てんやわんや/

(2) その他、語源意識が極めて希薄であるもの等

【例】 /梃子/ /てこずる/ /手伝う/ /手間/

9. 4 「ま（間）」を含む語、原則として「ま」を1最小単位とする。

【例】 /間/際/ /間/口/ /間/近/ /間/取り/
/間/に/合う/ /間/抜け/ /間/引く/
/間違/い/ /間/違う/ /間/違え/ /間/違える/

ただし、現在語源意識が極めて希薄であるもの等は、「間」を最小単位とせず全体で1最小単位とすることがある。

【例】 /万=引き/（<間引き）

9. 5 動詞「見る」の連用形「み」を含む語は、原則として「み」を1最小単位とする。

【例】 /見/合い/ /見/出だす/ /見/入る/ /見/劣り/
/見/限る/ /見/応え/ /見/詰める/ /看/取る/
/見/栄え/ /見/舞う/ /国/見/ /下/見/
/見/付かる/*

※ 「付かる」という語が単独で存在しているわけではないが、「/見/付ける/」に対応する語として「/見/付かる/」の2最小単位に分割する。

ただし、以下に挙げるものは「み」を1最小単位とはせず、「み」を含む全体で1最小単位とする。

(1) 他の規定によって1最小単位と認定されるもの

【例】 /認める/ /醜い/

(2) その他、語源意識が極めて希薄であるもの等

【例】 /見事/ /みっともない/

9. 6 「め（目）」を含む語については、原則として「め」を1最小単位とする。

【例】 /目/新しい/ /目/当て/ /眼/鏡/ /目/くじら/
/目/先/ /目/指す/ /目/敏い/ /目/覚める/
/目/付き/ /目/抜き/ /目/安/ /網/目/
/板/目/ /裏/目/ /上/目/ /負い/目/

ただし、以下に挙げるものは「め（目）」を1最小単位とはせず、「め（目）」を含む全体で1最小単位とする。

(1) 他の規定によって1最小単位と認定されるもの

【例】 /め=くるめく/ /め=じろ/ /め=ぼしい/ /目ま=ぐるしい/

(2) その他、語源意識が極めて希薄であるもの等

【例】 /め=ど/

10 語の構成要素となっている古語は、以下の規定によって最小単位を認定する。

10.1 語の構成要素となっている動詞が、文語の活用形を残存している場合にも、それを1最小単位と認定する。

【例】 /あし/げ/ (足蹴) /こじ/開ける/ /攀じ/登る/

10.2 文語の助詞「つ」及びその母音交替形や、助詞「の」の母音交替形、間投助詞「し」等の文語の助詞は、最小単位とせず全体で1最小単位とする。

【例】 /ある=い=は/ /今=し=がた/ /ひ=な=た/ /ま=つ=毛/
/果て=し=ない/

10.3 1語化した語の中に残存する文語の助動詞は、1最小単位としない。

【例】 /あら=まし/ /いわ=ゆる/

11 以下に挙げる要素は、最小単位としない。

(1) 指示代名詞の構成要素「あ」「か」「こ(ん)」「さ」「そ(ん)」等

【例】 /あそこ/ /あちら/ /あなた/ /あの/ /かの/
/きゃつ/ /こいつ/

(2) 疑問代名詞・疑問副詞などの構成要素「いか」「いく(幾)」「ど」等

【例】 /いか=なる/ /いく=た/ /いく=ばく/ /いく=ら/

(3) 単独では動植物を示すことがない一般語が複数結合し、動植物名として用いられている語の構成要素、及び構成要素の一部に動植物名を含むが、結合した全体は個々の構成要素が表す動植物とは無関係な動植物を表す語の構成要素

【例】 /あさ=がお/ /いし=もち/ /かた=つむり/ /き=くらげ/

(4) 競走馬名などの構成要素

【例】 /マチ=カネ=フク=キタル/ /マチ=カネ=ワラウ=カド/

12 以上に定めたもののほか、問題となる語の最小単位認定について、次に一覧する。

(1) 次に挙げる語は、元々は二つ以上の要素から成るが、現在は既に1語と意識されていると考えられるため、全体で1最小単位とする。

《あ》

仰向け (アオムケ) 足掻く (アガク) 論う (アゲツラウ) 曙 (アケボノ)
浅はか (アサハカ) 朝ぼらけ (アサボラケ) 嘲笑う (アザワラウ)
汗疹 (アセモ) 厚かましい (アツカマシイ) 呆気 (アッケ)
あつけらん 当てずっぽう (アテズッポウ) あどけ (ない)
脂ぎる (アブラギル) 油ぎる (アブラギル) あやふや
現人 (神) (アラヒト (ガミ)) 在処 (アリカ) 有りふれる (アリフレル)
経緯 (イキサツ) 行成 (イキナリ) 蘭草 (イグサ)
居た堪れる (イタタマレル) 𪚩 (イビキ) 息吹き (イブキ)
鋳師 (イモジ) いんちき 後ろめたい (ウシロメタイ)
団扇 (ウチワ) 自惚れる (ウヌボレル) ウバメ [ガシ]
羨ましい (ウラヤマシイ) 羨む (ウラヤム) 浮つく (ウワツク)

得手 (エテ) 干支 (エト) 花魁 (オイラン) 大凡 (オオヨソ)
落ちぶれる (オチブレル) オトギリ 一昨日 (オトトイ)
一昨年 (オトトシ) 乙女 (オトメ) 覚束無い (オボツカナイ)
おわします おんぼろ

《か》

神楽 (カグラ) 駆けずる (カケズル) 瘡蓋 (カサブタ) 気質 (カタギ)
片栗 (粉) (カタクリ (コ)) 忝い (カタジケナイ) 象る (カタドル)
形見 (カタミ) 竈 (カマド) 蒲鉾 (カマボコ) 我楽多 (ガラクタ)
カラタチ 木こり (キコリ) 如月 (キサラギ) きな粉 (キナコ)
木目 (キメ) 際どい (キワドイ) 草薙 (クサナギ) 嘴 (クチバシ)
毛羽 (ケバ) 毛むくじゃら (ケムクジャラ) 煙たい (ケムタイ)
悉く (コトゴトク) 異なる (コトナル) 言葉 (コトバ) 寿ぐ (コトホグ)
諺 (コトワザ) 小間 (コマ)

《さ》

栈敷 (サジキ) 阜月 (サツキ) 最中 (サナカ) ザリガニ
潮騒 (シオサイ) しこたま 枝垂れる (シダレル) 芝居 (シバイ)
僕 (シモベ) 白ける (シラケル) しるべ 辛抱 (シンボウ)
スダチ (スダチ) 簾 (スダレ) すっからかん すっ込む (スッコム)
住处 (スミカ) 背子 (セコ) そそくさ 某 (ソレガシ)

《た》

畳付く (タタナヅク) 忽ち (タチマチ) 七夕 (タナバタ)
たなびく 容易い (タヤスイ) ちぎれる 稚児 (チゴ)
司る (ツカサドル) 辻褄 (ツジツマ) 恙ない (ツツガナイ)
津波 (ツナミ) 唾 (ツバ) ツバキ 鶴嘴 (ツルハシ) 釣瓶 (ツルベ)
出しゃばり (デシャバリ) 出しゃばる (デシャバル) 出鱈目 (デタラメ)
てんでん (テンデン) 途切れ (トギレ) 途切れる (トギレル)
途絶える (トダエル) 怒鳴る (ドナル) とびきり (トビキリ)
戸惑い (トマドイ) 戸惑う (トマドウ) 止めど (トメド)
鳥居 (トリイ) 虜 (トリコ) 砦 (トリデ) 取り分け (トリワケ)
ドングリ とんでも (ない)

《な》

名うて (ナウテ) 亡くなる (ナクナル) なけなし 何某 (ナニガシ)
名乗り (ナノリ) 名乗る (ナノル) 名乗れる (ナノレル)
なまじっか 何ぼ (ナンボ) ねんね 仰け反る (ノケゾル) のさばる

《は》

羽織 (ハオリ) 羽交い (ハガイ) 葉書 (ハガキ) 渉る (ハカドル)
儂い (ハカナイ) 儂む (ハカナム) 狭間 (ハザマ) 梯子 (ハシゴ)
ハタハタ 葉っぱ (ハッパ) 餞 (ハナムケ) 埴輪 (ハニワ)
羽根 (ハネ) 原っぱ (ハラッパ) 遙々 (ハルバル) 日がな (ヒガナ)
蹄 (ヒヅメ) ひねくれる 日和る (ヒヨル) 平たい (ヒラタイ)
平たく (ヒラタク) ひれ伏す (ヒレフス) 広げる (ヒロゲル)
ふくらはぎ 不貞腐れる (フテクサレル) へたばる 部屋 (ヘヤ)
ほくそ笑む (ホクソエム) ほっつき[歩く] 迸る (ホトバシル)

《ま》

馬子 (マゴ) 実しやか (マコトシヤカ) まさか 真砂 (マサゴ)
真面目 (マジメ) 混ぜこぜ (マゼコゼ) まっしぐら 真秀ろば (マホロバ)
マムシ 丸切り (マルキリ) 晦日 (ミソカ) 見附 (ミツケ)
見惚れる (ミトレル) ミヤマ 蝕む (ムシバム) 息子 (ムスコ)
群がる (ムラガル) 娶る (メトル) 目眩 (メマイ) 基づく (モトヅク)
裳抜け (モヌケ) 最早 (モハヤ) 最寄り (モヨリ)

《や》

館（ヤカタ） やきもき 火傷（ヤケド） 屋敷（ヤシキ） やつとこ
 やつとこさ 屋根（ヤネ） 矢張り（ヤハリ） 流鏑馬（ヤブサメ）
 山びこ（ヤマビコ） 昨夜（ユウベ） タベ（ユウベ） 湯がく（ユガク）
 行きずり（ユキズリ） 行方（ユクエ） 蘇る（ヨミガエル）
 四方山（ヨモヤマ） 夜半（ヨワ）

《わ》

轍（ワダチ） ワビスケ

- (2) 次に挙げる語の下線部は、現在単独で用いられないことがない、あるいはほとんどない要素である。しかし、それを構成要素に持つ語について、現在のところ複数の構成要素から成る語であると意識されており、その要素も複数の語の中に認められるなど、一定の独立性を持っていると考えられるため、1最小単位とする。

《あ》

／あから／さま／ ／朝な／朝な／ ／朝な／夕な／ ／あだ／名／
 ／新／巻／ ／熱り／立つ／ ／投げ／うつ／ ／産／声／ ／産／湯／
 ／うろ／覚え／ ／うろ／つく／ ／うわ／ごと／ ／生き／餌／
 ／撒き／餌／ ／笑／顔／ ／生い／立ち／ ／おい／どん／
 ／面／影／ ／面／持ち／

《か》

／嵩／張る／ ／わり／かし／ ／神／主／ ／色／きち／
 ／くす／だま／ ／無茶／苦茶／ ／滅茶／苦茶／ ／かま／くら／
 ／おし／くら／

《さ》

／遠／ざかる／ ／今／更／ ／殊／更／ ／しか／じか／
 ／しず／しず／ ／じり／安／ ／代／物／ ／道／すがら／
 ／後／ずさり／ ／炭／すご／ ／せせら／笑う／ ／ぞろ／目／
 ／寝／そべる／

《た》

／横／たえる／ ／塗り／たくる／ ／耳／たぶ／ ／だふ／屋／
 ／たわ／ごと／ ／横／たわる／ ／千／尋／ ／千／代／
 ／乳／飲み／子／ ／乳／首／ ／ちよめ／ちよめ／ ／はい／つくばる／
 ／てんや／わんや／ ／常／夏／ ／常／世／ ／どさ／くさ／
 ／どさ／回り／ ／とど／松／ ／どんでん／返る／ ／どんど／焼き／

《な》

／ぬるま／湯／ ／のんべん／だらり／

《は》

／端／唄／ ／端／ぎれ／ ／羽／ばたく／ ／はし／ぶと／
 ／はし／ぼそ／ ／はす／向かい／ ／はちや／めちや／ ／食み／瓜／
 ／はみ／出す／ ／はみ／出る／ ／曾／孫／ ／久／方／
 ／引っこ／抜く／ ／芝／生／ ／舐／先／ ／海／辺／ ／川／辺／
 ／岸／辺／ ／へし／合い／ ／へし／折る／ ／へり／くだる／
 ／瘦せ／つぼち／ ／洞／穴／ ／ほろ／苦い／

《ま》

／ぶち／まける／ ／まて／貝／ ／まてば／しい／ ／まな／板／
 ／継／子／ ／継／母／ ／まま／ごと／ ／血／みどろ／
 ／むく／鳥／ ／女／神／ ／やたら／めったら／ ／めり／はり／
 ／もも／とり／ ／諸／手／ ／諸／刃／ ／諸／々／

《や》

／八百／屋／ ／八百／万／ ／青／柳／ ／朝な／夕な／
／ゆすら／うめ／ ／夜な／夜な／

《わ》

／板／わさ／ ／てんや／わんや／

第3 最小単位の分類

短単位を認定するために、最小単位を以下のように分類する。

表 3.1 最小単位の分類

分 類	例
一 般	和 語 : 山 川 白 い 話 す 言 葉 …
	漢 語 : 社 会 用 研 究 所 …
	外来語 : オレンジ ボックス アルゴリズム …
付 属 要 素	接頭的要素（「要注意語」の「接頭的要素」に掲げたもの。） : 相 御 各 御 …
	接尾的要素（「要注意語」の「接尾的要素」に掲げたもの。） : 合 う 致 す っ ぱ い 性 的 …
記 号	A B ω イ ロ ア NHK J R …
数	一 二 十 百 千 … 幾 数 何
固 有 名	人 名 : 星 野 仙 一 ジェフ ウィリアムス 橋 龍 …
	地 名 : 大 阪 待 兼 山 町 六 甲 天 六 …
助 詞 ・ 助 動 詞	う た です ま す か か ら て も …

- 1 音や文字・語の断片*を指示したものについては、「記号」に分類する。

【例】 |ト|と|シ|の|発音| |片仮名|の|ヨ|
|不仲|に|なる|と|いう|時|の|丕|を|用い|て|

※ ここで言う語の断片とは、次に挙げるものである。

- 漢語は1短単位未満のもの。
- 和語・外来語は1最小単位未満のもの。ただし活用語の語幹は除く。

- 2 ヒトリ（一人）・フタリ（二人）は、「一般」に分類する。

- 3 「幾」「数」「何」が「幾人」「数百」「何個」のように不定の数を表す場合は、「数」に分類する。

- 4 数詞のうち数え進むことのできないものは、「一般」に分類する。数え進むことができないとするものの例を次に示す。

【例】 一応 一家 一見 一心 一新 一定 一端 一変 一味 一命 一様
一利

一足違い
ひときわ ひとしお ひとしきり ひとまず
二枚目 ふたご
三角 三振 御三家 みつどもえ
四角 四季 四球 四捨（五入） 四天王
五臓 五輪
六腑
七転 七面鳥
（口）八丁 八倒 八起き
十字架 十文字
十八番
百科 百害 百姓 （日本）百景
千載
万一 万国 万物

※ 以上のほか，学年を表す「小六」「中二」「高三」なども数え進むことのできないものとして扱う。

Ⅱ 短単位認定規程 Version 1.4

第1 短単位認定規程

短単位は、長単位の中で、最小単位が、以下の規定に基づいて結合した（又は結合しない（これは0回結合と考える））結合体である。

短単位の認定に関する規定は、最小単位認定規程の第3「最小単位の分類」で分類した種類ごとに適用すべき規定が定められている。以下に、それを示す。

1 一般

原則として、「一般」に分類した和語・漢語の最小単位2個の1次結合は1短単位とする。

【例】 | 母=親 | | 書き=言葉 | | 食べ=歩く | | 音=声 |
| 無=口 |

言い	方	が	ま		多分		文法		的	に	は			
	部分		で		法案		を		整え直す		こと	に	なる	
いわゆる		ガイドライン		関連		法	案	に						
	対応		方針		など	に		対し		ます		国会		の
	ぐるぐる		回る											
	ぐるぐる		っと	回る			ぐるぐる		ぐるぐる		っと	回る		

「一般」に分類した外来語の最小単位のうち省略されたものは、和語・漢語の最小単位と同様に扱う。

【例】 | パソ=コン | | オートマ=車 | | 塩=ビ |

1. 1 以下に挙げるものは、3最小単位以上の結合であっても全体で1短単位とする。

(1) 三つ以上の最小単位から成る組織の名称等の略称

【例】 | 統=数=研 | | 奈=文=研 | | 日=経=連 |

※ ここでいう略称とは、組織の名称を構成する短単位すべて又はその一部を略して結合させたもののことである。したがって、以下のような構成要素の一部（「国語」「党」）が略されていないものは、略称とはしない。

【例】 | 国立 | 国語 | 研究 | 所 | → | 国語 | 研 |
| 自由 | 民主 | 党 | → | 自民 | 党 |
| 主婦 | 連合 | 会 | → | 主婦 | 連 |

(2) 切る位置が明確でないもの、あるいは切った場合と一まとめにした場合とで意味にずれがあるもの

【例】 | 大統領 | | 不可解 | | 明後日 | | 殺風景 |
輸出入		国内外		町村長		原水爆		市町村長
大袈裟		大雑把		大丈夫		一辺倒		
十文字		二枚目		十八番				

ただし、二つ以上の漢語の最小単位が並列して、1短単位と結合している場合は、次のように短単位を認定する。

【例】 | 中 | 小 | 企業 | | 小 | 中 | 学校 | | 都 | 道 | 府 | 県 | 知事 |

(3) 資料「要注意語」の「一の～」 「一が～」に挙げたもの

【例】

「一の～」 : | 日=の=丸 | | 床=の=間 | | 竹=の=子 |
「一が～」 : | 君=が=代 |

1. 2 以下に挙げるものは、1 最小単位を1 短単位とする。

(◆ver. 1.3 修正)

(1) 外来語・外国語の最小単位

【例】 | オレンジ | 色 | | インサーション | ペナルティー |
スペクトル	パラメーター							
アウト	オブ	ドメイン		ショアーズ	アット	ワイコロア		
基本	レフト	トゥー	ライト	構造		コール	フォー	ペーパー

ただし、省略された外来語の最小単位との1 次結合体は1 短単位とする。

【例】 | エア=コン | | マス=コミ | | デフレ=スパイラル |

※ 元は省略された外来語の最小単位であるが、省略されたものとして扱わないものがある。それらについては補則1を参照。

(2) 最小単位が三つ以上並列した場合の、それぞれの最小単位

【例】 | 衣 || 食 || 住 | | 松 || 竹 || 梅 | | 都 || 道 || 府 || 県 |

(3) 名を表す部分と類概念を表す部分とが結合してできた固有名のうち、名を表す部分・類概念を表す部分が共に1 最小単位である場合の、それぞれの最小単位

【例】 | さくら || 屋 | | のぞみ || 号 | | くない || 会 |

ただし、名を表わす部分が1 字の漢語である場合は、その1 次結合体を1 短単位とする。

【例】 | 阪=大 | | 仏=教 | | 儒=教 |

(4) 言いよどみ

【例】 | こ | こ | から | | 最 |、| 最初 | の |

(5) 規定1, 1. 1, 1. 2の(1)から(4)によって得られた短単位に、前又は後ろから結合した最小単位

【例】 | 内閣 || 府 || || 副 || 大統領 | | 橋本 || 元 || 首相 |
| 光 | ファイバー || 網 || | 自衛 || 隊 || | 国立 | 国語 | 研究 || 所 ||

(6) 単独で文節を構成する最小単位

【例】 | やっぱり | これ | も | ー | つ | の | | オレンジ | を | 食べる |。 |
| えーと |、| こちら | の | 場合 | でし | たら | … | … |

(◆ver. 1.3 修正)

2 記号

記号は、1 最小単位を1 短単位とする。

【例】 | 表 | A | | 図 | B | | J R | | N T T | | L . A . |

| E || が | 形態 | 素 | 情報 || F || が | 分節 | 音 | の | ラベル |
| 今回 | も || N T T || データベース | を | 用い | て |

|| P || ・ || J || ・ | ブラウン | と | ジュワン | ・ | ハワード | だ | 。 |
| 東京 | ・ || Y || ・ || N ||

2. 1 それがないときに1短単位となるものの中にある記号は無視する。

【例】 | しゅ=・=く=・=だ=・=い |
| 四百 | + | 五 | 条 | 以下 | に | 規程 | が | あ=┘=る | 。 |
| 都心 | から | 一 | 時間 | 半 | どころ | か | 、 | 三=┘=四十 | 分 | 、 |

3 数

数は、以下の規定によって単位認定する。

3. 1 数は、ほかの最小単位と結合させない。

【例】 | 四 || 月 | の || 三十 || 日 | ぐらい |
私	が		一		二		年	前	まで	住	ん	で	い	た	
コーパス	全体	で		七	百	五十	二	万		語					
	四十		八		キロヘルツ	サンプルング		十		六		ビット	な	ん	です

3. 2 数の間どうしの結合については、一・十・百・千の桁ごとに1短単位とする。
「万」「億」「兆」などの最小単位は、それだけで1短単位とする。小数部分は、1最小単位を1短単位とする。

【例】 | 千 || 九=百 || 四=十 || 二 | 年 | + | 十 | 月 | 二=十 || 五 | 日 | 、 |
現在	は	二=千		八=百		万		円	で	売	ら	れ	て	いる
毎年	何=十		億		円	も	の	都民	の	税金	を			
都心	から	一	時間	半	どころ	か	、	三=、=四十	分	、				
平成	六	年度	の	タクシー	代	の	総額	が	二=十		四=、=五		*	
億	円	に	も	なる	が	、								
地形	図	2	万		五=千	分	の	1						
0	4	2	ー	5	4	0	ー	4	3	0	0			

※ 「四、五」を結合させるのは概数の場合に限る。並列の場合は結合させない。

【例】 | 妨害 | 刺激 | の | 数 | は | 一 || 二 || 四 || 六 | の | 四 | 通り | と | し | て |
おり | ます |

4 固有名

固有名（人名・地名）は、1最小単位を1短単位とする。

【例】
〔人 名〕 | 星野 | 仙一 | | ジェフ | ・ | ウィリアムス | | 林 | 威助 |
| 千代大海 | | 十返舎 | 一丸 | | お千代 |

〔国 名〕 | アメリカ | 合衆 | 国 | | ロシア | 共和 | 国 |
| 南アフリカ | 共和 | 国 |

〔行政区画名〕 | 東京 | 都 | 立川 | 市 | 緑町 | + | 番 | 二 | 号 |
| 京都 | 市 | 上京 | 区 | 今出川 | 通 | 烏丸 | 東入る |

〔地域名〕 | 中国 | 地方 | | 九州 | 地方 | | 四国 | 地方 |
| 北海道 | 地方 |

| 東海道 | | 山陰道 |
| 東 | ヨーロッパ | | 南 | アメリカ |

〔地形名〕 | 生駒 | 山 | | 昭和 | 新山 | | サロマ | 湖 |

〔場所名〕 | 茨木 | 市 | 駅 | | さいたま | 新 | 都心 | 駅 |
| 山陽 | 本線 | | 大 | 江戸 | 線 |
| 東海道 | | 中山道 |

〔略 称〕 | ちとから | | 天六 |

(◆ver. 1.4追加)

4. 1 姓又は名を略した最小単位は、「一般」の最小単位に分類されるので、規定1から1. 2によって短単位を認定する。

【例】 | おざ=けん | | 橋=龍 |

(◆ver. 1.4修正)

4. 2 地名を略した一字漢語の「日」「米」，それに相当する片仮名の「ロ」（「ロシア」の略）などは、「一般」の最小単位に分類されるので、規定1から1. 2によって短単位を認定する。

【例】 | 米国 | | 来日 | | 日ロ | | 日 | 米 | 韓 |
| 日米 | 安全 | 保障 | 条約 |
| 京阪 | 地方 | | 阪奈 | 自動 | 車 | 道 |

ただし、地名を略した一字漢語が三つ以上並列したものが、ある地域を表す場合は、全体で1短単位とする。

【例】 | 京=阪=奈 | 丘陵 | | 京=阪=神 | 急行 | 電鉄 |

5 付属要素

付属要素は1最小単位を1短単位とする。

【例】 | お || 母 || さん | | 見 || にくい |

5. 1 付属要素に分類した動詞性接尾辞は、居体言の構成要素となっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】 | これ | も | 使い || 過ぎ || の | 誤り | と | いう | こと | に | なり | ます |

5. 2 付属要素に分類した動詞性接尾辞は、可能動詞形になっている場合も接尾的要素として扱う。

【例】 | で | それ | は | 食べ || 切れ || なく | て | 三 | 人 | で | 行っ | た | ん | です |
| けど |

6 助詞・助動詞

助詞・助動詞は1最小単位を1短単位とする。

【例】 | 統一 | 的 || な || 視点 || で || 切り || ましょ || う ||
| それ | に | つい | て | もっとも | 示唆 | に | 富む | の | は |

6. 1 助動詞として扱っている補助動詞縮約形は、可能動詞形になっている場合も助動詞として扱う。

【例】 | 結局 | (F あの一) | ほっ || とけ || ない | って | いう | ところ | で |
| もう | ちょっと | 調子 | 悪く | て | 連れ || てけ || ない |

6. 2 資料「要注意語」の「一の～」 「一が～」に挙げられた語の中の助詞「の」「が」は、助詞・助動詞として扱わない。

【例】

「一の～」 : | 日=の=丸 | | 床=の=間 | | 竹=の=子 |
「一が～」 : | 君=が=代 | | 万=が=一 |

6. 3 補則7に挙げた語の中の助詞・助動詞は1短単位とせず、それを含む全体で1短単位とする。

【例】 | 敢えて | | 飽くまで | | 却って |

補則 1 略語として扱わない外来語の最小単位

省略された外来語の最小単位のうち、表 3. 2 に掲げたものは省略された外来語の最小単位として扱わない。

表 3. 2 略語として扱わない外来語の最小単位

アイゼン (シュタイクアイゼンの略)	ニス (ワニスの略)
アクセル (アクセレーターの略)	ネル (フランネルの略)
アニメ (アニメーションの略)	ノート (ノートブックの略)
アパート (アパートメント-ハウスの略)	ノンプロ (nonprofessionalの略)
アマ (アマチュアの略)	ノンポリ (nonpoliticalの略)
アンプ (アンプリファイヤーの略)	パーマ (パーマネントウェーブの略)
イラスト (イラストレーションの略)	バイオ (バイオテクノロジーの略)
インテリ (インテリゲンチヤの略)	パブ (pubulic houseの略)
イントロ (イントロダクションの略)	ハンカチ (ハンカチーフの略)
エクス (エキストラクトの略)	ピケ (ピケットの略)
エゴ (エゴイスト, エゴイズムの略)	ビット (binary dightの略)
エレキ (エレキテルの略)	ビデオ (ビデオテープ, ビデオテープレコーダー等の略)
オートバイ (autobikeの略)	ビル (ビルディングの略)
キャッチ (キャッチャーの略)	プレミア (プレミアムの略)
キャップ (キャプテンの略)	プロ (プロフェッショナルの略)
キロ (キロメートル, キログラム, キロワット等の略)	ペーパー (サンドペーパーの略)
コーポ (コーポラスの略)	ホーム (プラットホームの略)
コンテ (コンティニューイティの略)	ポルノ (ポルノグラフィーの略)
コンパ (コンパニーの略)	マイク (マイクロホンの略)
コンビ (コンビネーションの略)	マンネリ (マンネリズムの略)
ジム (ジムナジウム)の略)	ミス (ミステークの略)
スーパー (スーパーインポーズの略)	ミリ (ミリグラムの略)
センチ (センチメートルの略)	メカ (メカニズムの略)
ダイヤ (ダイヤグラムの略)	モノクロ (モノクロームの略)
ダダ (ダダイズムの略)	ラボ (ラボラトリーの略)
デパート (デパートメント-ストアの略)	リストラ (リストラクチュアリングの略)
デマ (デマゴギーの略)	リハビリ (リハビリテーションの略)
テレビ (テレビジョンの略)	リュック (リュックサックの略)
トイレ (トイレットの略)	レジ (レジスターの略)
トランス (transformerの略)	ロケ (ロケーションの略)
ナンバリング (numbering machineの略)	ロゴ (ロゴタイプの略)

※ 表 3. 2 に掲げた語を選定した際の観点は、以下のとおりである。

(1) 元の語形が一般に余り使われないことがない。

【例】 テレビ (テレビジョン) ジム (ジムナジウム)

(2) 原語に略語形がある。

【例】 プロ (pro(プロフェッショナル)) キャップ (cap(責任者))

(3) 原語に類義の同語形がある。

【例】 バイオ (バイオテクノロジー, bio (生物学))

(4) その他

【例】 アマ (アマチュア) …… 「プロ」を略語としないこととの対応

補則 2 動詞「―(サ)ス」「―(サ)セル」

原則 1 「―(サ)ス」という形の動詞は、語末「ス」「サス」を助動詞としない。

【例】 | 言わ=す | | 書か=す | | 食べ=さす | | 受け=さす |

原則 2 五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」、五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」に分析可能なものは、語末「セル」「サセル」を助動詞とする。

【例】 | 書か || セル | | 食べ || させる |

※ 動詞が「―(サ)セル [- (s)ase-ru]」によって派生し下一段に活用するもの。

1 サ変動詞には、短単位認定規程の規定 5 の適用を優先する。

【例】 | 彷彿 | さ || セル | | 練習 | さ || セ | かける |

2 五段・サ変動詞の未然形＋助動詞「セル」、五段・サ変以外の動詞の未然形＋助動詞「サセル」と分析できないものは、語末の「(サ)セル」を分割しない。

【例】 | 見=セル | *¹ | 着=セル | *¹ | 乗=セル | *² | 寄=セル | *²

※ 1 「見る」「着る」は上一段動詞であるため、使役の助動詞としては「サセル」が接続し、「見させる」「着させる」となる。したがって、語末の「セル」を助動詞として切り出すのは、助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。

【参照】 | 見 || させる | | 着 || させる |

※ 2 関係の認められる「乗る」「寄る」は五段動詞であるが、使役の助動詞「セル」は五段動詞の未然形接続であるので、語末の「セル」を助動詞として切り出すのは、助動詞「セル」の接続の上で適切ではない。

【参照】 | 乗ら || セル | | 寄ら || セル |

3 元の動詞が文語動詞であるもの、口語動詞であっても、現代語ではほとんど使われないものについては、語末の「(サ)セル」を分割しない。

【例】 | くゆら=セル | | 遅ら=セル | | そばだた=セル |

※ 元の動詞は、以下のとおり。

くゆらせる	→	くゆる (ラ行四段)
遅らせる	→	遅る (ラ行下二段)
そばだたせる	→	そばだつ (タ行五段)

4 「―(サ)セル」という形の複合動詞 (連用形が名詞化したものも含む。) については、語末の「(サ)セル」を分割しない。

【例】 | 言い聞か=セル | | 言い聞か=セ | 続ける |

※ 元の動詞が現代語に存在しないものや、存在したとしても元の動詞と「―(サ)セル」形との間で意味にずれが認められるものが多いことから、一律に語末の「(サ)セル」を助動詞として切り出さないこととした。

言い聞かせる → * 言い聞く

- 5 「一（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が、1 最小単位と結合して複合語を構成している場合、動詞の語末「（サ）セル」は分割しない。

【例】 | 食わ=せ=物 | | 人騒が=せ | | 人泣か=せ | | 番狂わ=せ |

ただし、「一（サ）セル」という形の動詞（複合動詞は除く。）が付属要素と結合する場合、短単位認定規程の規定 5 によって、付属要素を分割した上で、動詞に当たる部分に本補則の原則 2 を適用する。

【例】 | 思わ || せ || 振り |

補則 3 可能動詞

- (1) 可能動詞は、元になった五段活用動詞と同様に短単位を認定する。

【例】 | 読める | | 行ける | | 離せる |
| 切り離せる | | 話し合える |

- (2) ら抜き言葉は語末の「れる」を切り出さない。

【例】 | 着=れる | | 来=れる | | 食べ=れる |
| 見=れる | | 透かし見=れる | | こじ開け=れる |

補則 4 文節との関係

1 最小単位の体言と 1 最小単位の用言とが接続した場合に、1 短単位として結合させるか否かの判断基準を補則 4 の 1、補則 4 の 2 として示す。なお、以下の補則によって 1 短単位としないとされた体言＋用言の形式については、体言と用言との間に文節の切れ目があると考えられる。

【例】 | 茜 || さす | | 頼り || ない | | 違い || ない |

補則 4 の 1 体言＋動詞

2 最小単位から成る動詞のうち、体言＋動詞という形式のものについては、以下の規定に基づいて短単位を認定する。

原則 『岩波国語辞典』第 6 版、『日本国語大辞典』第 2 版のいずれか一方で見出し語になっているものは 1 短単位とする。

【例】 | 苔=むす | | 心=ゆく | | 夢=見る |

- 1 『岩波国語辞典』第 6 版と『日本国語大辞典』第 2 版の両方で連語とされているもの、又は一方の辞典にしか立項されておらず、なおかつその辞典で「連語」とされているものは、体言の後ろで分割し、2 短単位とする。子見出しとして掲出されている場合も同様とする。

【例】 | 茜 || さす |

- 2 複合語の先頭又は中間に位置する体言＋動詞（連用形）については、原則及び 1 を適用せず、1 短単位とする。

【例】 | 波=打ち | 際 | | 菜=切り | 包丁 | | 血=吸い | コウモリ |

※ 体言＋動詞の品詞については、以下のように判定する。

- ①『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のいずれか一方で、動詞として立項されているものは、同語異語判別規程の細則4に基づいて動詞か名詞かを判定する。

【例】 波打ち（際） …… 動詞

- ②『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のいずれにおいても動詞として立項されていないもの、両方に立項されているが、「連語」とされているもの、又は一方の辞典にしか立項されておらず、なおかつその辞典で「連語」とされているものは、名詞とする。

【例】 菜切り（包丁）、血吸い（コウモリ） …… 名詞

補則4の2 体言＋形容詞

2 最小単位から成る形容詞のうち、体言＋形容詞という形式のものについては、以下の規定に基づいて短単位を認定する。

原則 『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のいずれか一方で、見出し語（連語としての見出し語は除く。）になっているものは1短単位とする。

（1）体言＋「ナイ（無）」

※ 『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のいずれかで見出し語になっているものを次に挙げる。1短単位とする「体言＋「ナイ（無）」」は、原則として次に挙げるものとする。

あえない（敢え無い）	あじきない（味気無い）	あじけない（味気無い）
あじない（味無い）	あやない（文無い）	いろない（色無い）
いわれない（謂われ無い）	うつつない（現無い）	おしめない（惜しみ無い）
おぼつかない（覚束無い）	おやげない（親気無い）	おやみない（小止み無い）
およびない（及び無い）	かいない（甲斐無い）	かぎりない（限り無い）
かくれない（隠れ無い）	きわまりない（極まり無い）	ころない（心無い）
ころもとない（心許無い）	ござない（御座無い）	さだめない（定め無い）
ざんない（慙無い）	しおない（潮無い）	しだらない（しだら無い）
じつない（術無い）	じゅつない（術無い）	すげない（素気無い）
すじない（筋無い）	ずつない（術無い）	ずない（図無い）
すべない（術無い）	せんない（詮無い）	そっけない（素っ気無い）
たあいがない（たあい無い）	だいもない（大も無い）	たゆみない（弛み無い）
だらしない（だらし無い）	たわいがない（たわい無い）	ちからない（力無い）
つきもない（付きも無い）	つつがない（恙無い）	ならびない（並び無い）
にげない（似気無い）	にべない（鰓膠無い）	はかない（儂い）
へんない（篇無い）	ほどない（程無い）	みつともない（みつともない）
やごとない（止事無い）	やむない	やんごとない（止ん事無い）
ゆるぎない（揺るぎ無い）	よしがない（由無い）	らちない（埒無い）

（2）体言＋「ナイ（甚）」

※ 以下に挙げたのは、飽くまで語例である。「1最小単位＋ナシ（甚）」という語構成のナシ（甚）型形容詞は、以下の語と同様に1短単位とする。

あたじけない	あどけない	あらけない（荒気ない）
いたいけない（幼気ない）	いわけない	ぎごちない
		しどけない

せつない（切ない） せわしない（忙しない） はしたない むげない

（３）上記以外の体言＋形容詞

語例略

- 1 『岩波国語辞典』第6版と『日本国語大辞典』第2版の両方で連語とされているもの、又は一方の辞典にしか立項されておらず、なおかつその辞典で「連語」とされているものは、体言の後ろで分割し、2短単位とする。子見出しとして掲出されている場合も同様とする。

【例】 | 違い || ない | | 訳 || ない |

関連事項 資料「要注意語」の「接頭的要素」に掲げていない接頭辞又は語素と1最小単位の形容詞との結合体は1短単位とする。

【例】 | うら=寂しい | | うら=恥ずかしい | | うら=若い |
 | け=だるい | | もの=悲しい | | ほの=明るい |
 | ほの=暗い | | ほの=白い |

補則5 副詞「と」「かく」を含む短単位

副詞「と」「かく」を含む全体で1短単位とする。

【例】 | とある | | 兎角 | | 兎に角 | | ともあれ |
 | 兎も角 | | ととても | | とにもかくにも |

補則6 固有名詞

一般に固有名詞とされるものに関する短単位認定の例を以下に示す。

（１）人名等

水戸	黄門		孫	悟空
李梅		ホーチミン		
ジャック	・	シャバン	=	デルマス
フェルディナン	・	ド	・	ソシュール
レオナルド	・	ダ・ビンチ		
サアド	・	アル＝ガーミディー		

（２）駅名

東中野 駅	西日暮里 駅	駒沢 大学 前 駅
栗駒 高原 駅	新 高島平 駅	新 三河島 駅
新 大久保 駅	西 八王子 駅	青山 一 丁目 駅
外苑 前 駅	半蔵 門 駅	営団 赤塚 駅
京成 上野 駅	祖師ヶ谷 大蔵 駅	武蔵 境 駅
武蔵 小山 駅	代々木 上原 駅	千歳 烏山 駅
表 参道 駅	二子 玉川 駅	

（３）路線名

| 新 | 玉川 | 線 | | 磐越 | 西線 |

(◆ver. 1.4修正)

(4) 地形名

伊良湖 岬	プリンセスエドワード 島	浄土が浜
瀬戸 内	瀬戸 内海	耶馬 溪
大菩薩 峠	奥穂高 岳	鬼押出
黄河	桜島	

※ 地形名と同じ行政区画名については、それが行政区画名として用いられていることが明確な場合及び当該行政区画内に存在する施設名である場合は、分割しない。

大分 県 下毛 郡 耶馬溪 町	江戸川 高校
江戸川 駅	

※ 類概念が外来語であり、名を表す部分が地名を表す最小単位以外の場合は結合する。

イースト=リバー	ポート=アイランド	ストーム=レイク
六甲 アイランド	テムズ リバー	

(◆ver. 1.4修正)

(5) 場所名等

北の丸 公園	岡田 山 古墳	加茂 岩倉 遺跡
吉野が里 遺跡	荒神 谷 遺跡	田和山 遺跡
妻木晩田 遺跡		
富士見 坂	区 役所 通り	武田 山 トンネル
八方 尾根 スキー場		

※ 場所名と同じ行政区画名については、それが行政区画名として用いられていることが明確な場合及び当該行政区画内に存在する施設名である場合は、分割しない。

東京都 千代田 区 北の丸公園	多賀城 高等 学校
-----------------------	---------------

(◆ver. 1.4修正 (下線部))

補則7 助詞・助動詞を含む短単位

次に挙げる語の中の助詞・助動詞は1短単位とせず、それを含む全体で1短単位とする。

敢えて	飽くまで	改めて	あわよくば	至って	言わば	況や
得てして	押して	追って	概して	却って	予て	辛うじて
極めて	決して	<u>こんにちは</u>	<u>こんばんは</u>	さしたる	さして	
定めて	<u>さようなら</u>	強いて	すったもんだ	全て	せめて	総じて
達て	例えば	断じて	次いで	取り敢えず	並べて	初めて
初めまして	果たして	晴れて	延いては	翻って	別して	枉げて
分けて						

参考 短単位の例

グルー 文書									
元 駐日 アメリカ 大使 ジョセフ ・ クラーク ・ グルー (千 八百 八十									

一|千|九百|六十|五|年|) |は|、|歴代|の|駐日|大使|の|なか|で|も
|ひと|きわ|生彩|を|はなつ|、|アメリカ|の|代表|的|な|職業|外交|官|で
|あつ|た|。|

彼|は|千|九百|三十|二|年|から|四十|二|年|まで|の|約|十|年間|を|
日本|で|過|ご|し|、|日米|関係|の|調整|に|数多く|の|足跡|を|のこ|し|た|
|。|

来日|以来|、|グルー|は|満州|事変|後|の|日本|軍部|の|台頭|を|つぶさ
|に|観察|する|と|とも|に|、|日本|の|国際|連盟|脱退|(|三十|三|年|
|三|月|)|、|日中|戦争|勃発|(|三十|七|年|七|月|)|、|日|独|伊
|三|国|軍事|同盟|(|四十|年|九|月|)|、|対日|経済|制裁|(|四十|
|一|年|七|月|)|、|真珠|湾|奇襲|攻撃|(|四十|一|年|十|二|月|)|
など|、|日米|関係|に|決定|的|な|転機|を|もたら|し|た|重大|な|歴史|
的|事件|の|ことごとく|を|直接|に|体験|し|た|。|

グルー|の|主著|は|、|この|十|年|に|およぶ|彼|の|滞日|経験|を|まと
め|た|もの|で|あり|、|千|九百|四十|四|年|五|月|に|公刊|さ|れる|
と|、|アメリカ|国民|の|あいだ|に|大きな|反響|を|よびおこ|し|た|。|

|最後|に|雑誌|「|エンターテインメント|・|ウィークリー|」|に|載つ|た
|映画|評|を|紹介|し|よう|。|

「	UPSIDE	／	It		could		be		a		Best
Foreign		La-	language		Film		contender				
at		next		year's		Oscars	.	(	来年	の	
アカデミー|賞|で|最|優秀|外国|語|映画|賞|を|獲得|する|可能|性|が|
ある|)|DOW-NSIDE|／|Subtitles|(|字幕|付き|)|」|(|
追記|／|さて|六|月|二十|七|日|公開|予定|が|、|あと|一|週間|と|迫
つ|た|ところ|で|突然|七|月|十|一|日|に|延期|。|
その|理由|は|、|マーケティング|の|結果|だ|そう|だ|)|

|タマチャリ|と|は|比較|に|なら|ない|機動|性|と|耐久|性|を|装備|
米軍|の|「|ハマー|」|の|名|が|冠せ|られ|た|自転|車|に|乗ろ|う|
ハマー|折りたたみ|マウンテン|バイク|

|中国|や|タイ|ほど|で|は|ない|が|、|日本|も|世界|屈指|の|自転|
車|大国|。|通勤|通学|、|また|は|日常|の|足|と|し|て|自転|車|を|
利用|し|て|いる|人|は|多い|こと|だろ|う|。|そこ|で|、|ちょっと|他
人|と|差|を|付け|たい|なら|、|こんな|自転|車|に|乗っ|て|は|いかが
|だろ|う|か|?|

|DBS| |JAPAN|から|販売|さ|れ|て|いる|「|ハマー|折りたたみ
|マウンテン|バイク|」|は|、|米軍|の|軍用|車|・|ハマー|で|有名|な|
アメリカ|GM|社|製|の|自転|車|。|自転|車|と|は|いっ|て|も|、|ハ
マー|の|名前|は|ダテ|で|は|なく|、|高い|機動|性|と|耐久|性|を|兼
ね備え|た|1|台|に|なっ|て|いる|。|

第2 最小単位の結合の例

1 数詞関連

※ | 八 | 番 | 目 | | 八 | 個 | 目 | | 八 | 回 | 目 | | 八 | 年 | 目 |

※ | 八 | か所 | | 八 | か国 |
| 八 | か年 | | 八 | か月 | | 八 | か日 |
| 八 | か条 |

※ | 一 | 年 | 生 | | 一 | 回 | 生 | | 一 | 期 | 生 |

※ | 一 | 月 | 号 |

※ | 八 | 週間 | | 八 | 日間 | | 八 | 時間 | | 八 | 分間 | | 八 | 秒間 |

2 曜日

| 日曜 | 日 | | 月曜 | 日 | | 火曜 | 日 |

3 漢語の複次結合語

漢語の複次結合語について、語構造の解釈の仕方を示す。

ただし、短単位認定においては、以下に挙げた解釈とは異なる解釈をしても、結果的に認定される単位が同じという場合がある。例えば、(3)のa)に※印を付けて示した「債権所有者」などがその例である。「債権所有者」の語構造は「債権を所有する者」と考えることとしているが、「債権の所有者」(債券+{(所有)+者})と考えても認定される単位は結果的に同じである。したがって、語構造の解釈について、すべて以下のとおりに解釈しなければならないというものではない。

(1) 3 最小単位語

a) 現 代 人
| 現 | 代 | 人 |
| 現 | 代 | 人 |

| 現代 | 人 | | 伝染 | 病 | | 昨年 | 末 | | 新築 | 中 | | 自主 | 性 |
| 家庭 | 用 | | 全国 | 的 |

b) 都 議 会
| 都 | 議 | 会 |
| 都 | 議 | 会 |

都	議会		市	庁舎		核	軍縮		食	中毒		正	反対
総	工費		全	理事		大	規模		不	明朗		非	能率
各	選手		同	理事									

c) 年 月 日

| 年 | 月 | 日 | | 松 | 竹 | 梅 | | 衣 | 食 | 住 |

d) 句 読 点

| 都区内 | | 統廃合 | | 町村長 |

e) 国 内 外

| 国内外 | | 輸出入 |

f) [構造を示すことができないと考えられるもの]

| 不可解 | | 不思議 |

(2) 4 最小単位語

a) 火 災 防 止

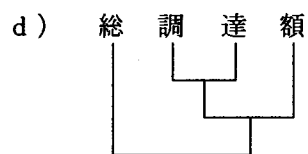
| 火災 | 防止 | | 公共 | 事業 |

b) 幼 稚 園 児

| 幼稚 | 園 | 児 | | 郵便 | 局 | 長 | | 警備 | 員 | 室 | | 解剖 | 学 | 者 |

c) 中 学 校 長

| 中 | 学校 | 長 | | 法 | 医学 | 者 |



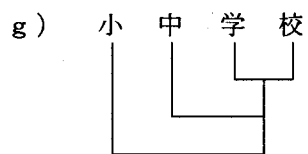
| 総 | 調達 | 額 | | 軽 | 飛行 | 機 | | 各 | 管制 | 塔 | | 同 | 動物 | 園 |



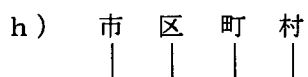
| 市町村長 |



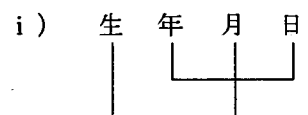
| 青少年 | 法 | | 小中学 | 生 |



| 小 | 中 | 学校 |

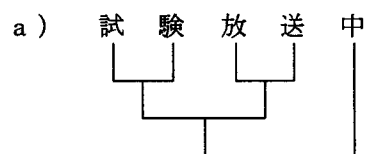


| 市 | 区 | 町 | 村 | | 都 | 道 | 府 | 県 |

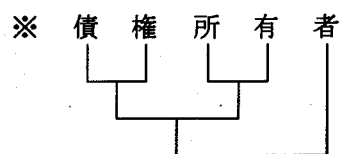


| 生 | 年 | 月 | 日 |

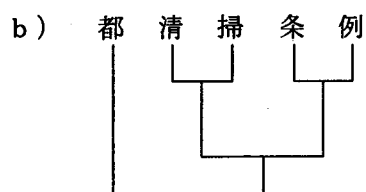
(3) 5 最小単位語



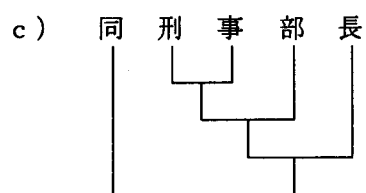
| 試験 | 放送 | 中 | | 有線 | 放送 | 網 | | 行政 | 区画 | 名 |
| 独占 | 禁止 | 法 |



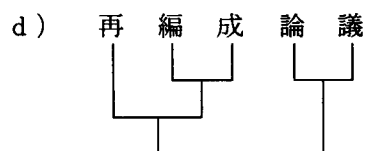
| 債 權 | 所 有 | 者 | | 宇 宙 | 飛 行 | 士 | | 沿 岸 | 警 備 | 隊 |
 | 地 震 | 観 測 | 所 | | 入 試 | 改 善 | 策 |



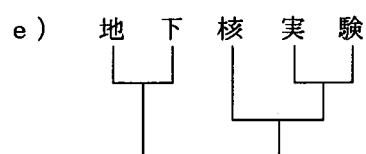
| 都 | 清 掃 | 条 例 | | 準 | 保 護 | 世 帯 |



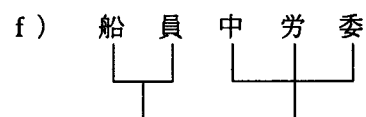
| 同 | 刑 事 | 部 | 長 | | 同 | 事 務 | 所 | 長 |



| 再 | 編 成 | 論 議 |



| 地 下 | 核 | 実 験 |

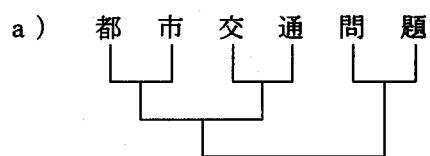


| 船 員 | 中 勞 委 |

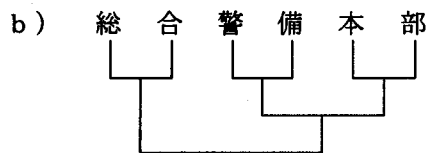


| 経 団 連 | 会 長 |

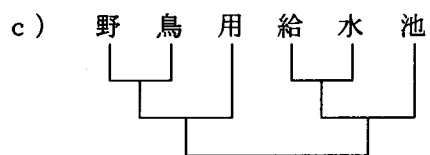
(4) 6 最小単位語



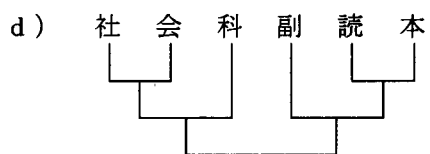
| 都市 | 交通 | 問題 | | 消費 | 減退 | 傾向 | | 高校 | 全入 | 運動 |



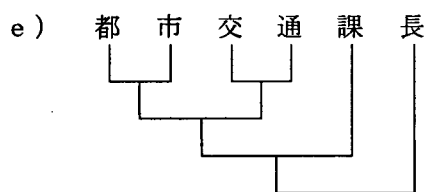
| 総合 | 警備 | 本部 | | 事故 | 合同 | 会議 |



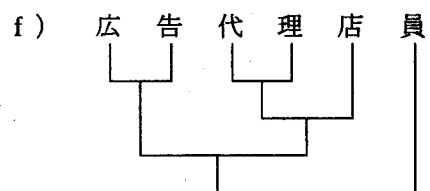
| 野鳥 | 用 | 給水 | 池 | | 自動 | 車 | 修理 | 工 |



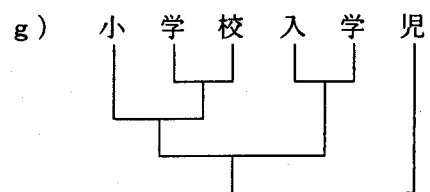
| 社会 | 科 | 副 | 読本 |



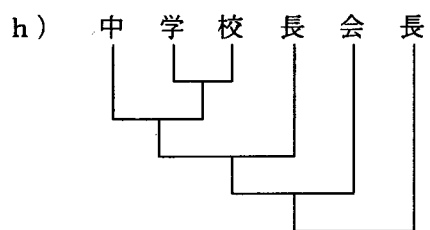
| 都市 | 交通 | 課 | 長 | | 宇宙 | 開発 | 史 | 上 |



| 広告 | 代理 | 店 | 員 |

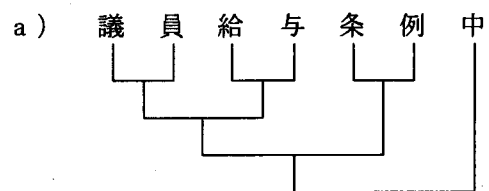


| 小 | 学校 | 入学 | 児 |

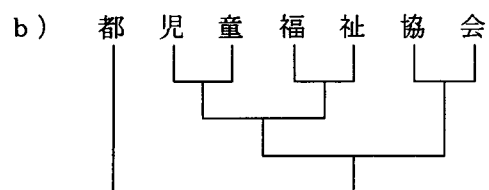


| 中 | 学校 | 長 | 会 | 長 |

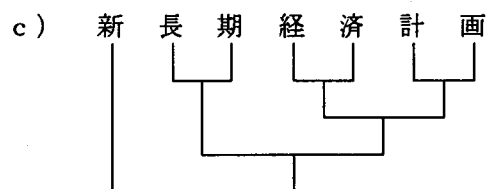
(5) 7 最小単位以上の語



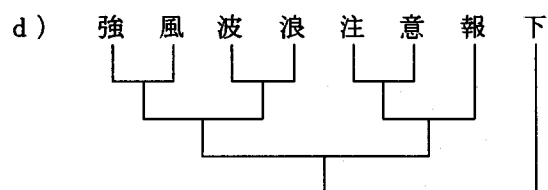
| 議員 | 給与 | 条例 | 中 |



| 都 | 児童 | 福祉 | 協会 |



| 新 | 長期 | 経済 | 計画 |



| 強風 | 波浪 | 注意 | 報 | 下 |

Ⅲ 付加情報

(注) 以下に示すのは、短単位に付与する付加情報の概要と同語異語判別規程である。現在作業を進めている長単位に対する情報付与作業においても、以下の概要・規程を準用している。

第1 付加情報の概要

短単位認定規程によって認定された各単位に、次に挙げる付加情報を付与する。

1 代表形

代表形は、同一語の活用変化・音の転化・ゆれ・省略・融合等によって生じた異形態をグループ化するための情報である。原則として、コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

2 代表表記

代表表記は、代表形に対する国語の表記である。原則として、コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

3 品詞等の情報*

各単位に対して、品詞等の情報（以下、品詞情報）として、次に挙げる情報を付与する。

- (1) 品 詞
- (2) 活用型
- (3) 活用形

※ BCCWJの形態論情報付与作業では、解析用辞書にUniDic、解析エンジンに茶筌又はMeCabを用いている。そこで、本書では品詞情報としてUniDicのものを示すこととする。

BCCWJの公開時には、UniDicの品詞情報を、より言語研究に適したものに变换することを考えている。

4 語種情報

語種とは、語をその出自によって分類したもののことである。原則として、コーパスに出現したすべての短単位に付与する。

第2 品詞情報の概要

1 品詞

品詞は、次に挙げるものとする。

1. 1 名詞

(1) 名詞-普通名詞-一般

下記以外の普通名詞

【例】 母親 国語 エアコン

(2) 名詞-普通名詞-サ変可能

形式的な意味の「いたす」「する」「できる」「なさる」などが直接続き、動詞として用いられることのあるもの。可能性を示すものであって、実際にサ変動詞の語幹として使われているか否かは問わない。

【例】 運動 アクセス

(3) 名詞-普通名詞-形状詞可能

助動詞「だ」が付いて述語になったり、連体修飾成分になったりするもの。可能性を示すものであって、実際に助動詞「だ」が付いているか否かは問わない。

【例】 安全 健康 アクティブ

(4) 名詞-普通名詞-サ変形状詞可能

形式的な意味の「いたす」「する」「できる」「なさる」などが直接続き、動詞として用いられることのあるもので、助動詞「だ」が付いて連体修飾成分にもなるもの。可能性を示すものであって、サ変動詞の語幹として使われているか否か、形状詞として使われているか否かは問わない。

【例】 安心

(5) 名詞-普通名詞-副詞可能

単独で連用修飾成分になるもの、及び句又は節による連体修飾を受けて、それ全体で連用修飾成分となるもの。可能性を示すものであって、実際に単独で、又は句や節による連体修飾を受けて連用修飾成分として使われているか否かは問わない。

【例】 今日 毎日 以上 ため

(◆ver. 1.4修正)

(6) 名詞-固有名詞-一般

下記以外の固有名詞。組織の名称や元号・ペットの名など。

【例】 ソニー 日産 阪急 阪大 平成 ポチ

(◆ver. 1.4修正)

(7) 名詞-固有名詞-人名-一般

日本・中国・韓国以外の人名及び下記に分類できない人名。あだ名やしこ名なども含む。人名の詳細は、同語異語判別規程の細則5も参照。

【例】 オバマ ジョン キリスト 橋龍 たむけん 朝青龍

(◆ver. 1.4修正)

(8) 名詞-固有名詞-人名-姓

日本・中国・韓国の人名のうち姓に当たるもの。落語家の亭号なども含む。

【例】 星野 林 三遊亭 明石家

(◆ver. 1.4修正)

(9) 名詞-固有名詞-人名-名

日本・中国・韓国の人名のうち名に当たるもの。

【例】 仙一 ジェフ 威助

(◆ver. 1.4修正)

(10) 名詞-固有名詞-地名-一般

国名以外の地名。

【例】 大阪 豊中 待兼山町 カリフォルニア

道・駅（道路・路線・航路・海路を結ぶ駅）・坂・温泉・油田の名を表す要素のうち、普通名詞等の一般語・人名・固有名詞-一般のいずれにも該当しないものは、「名詞-固有名詞-地名-一般」とする。

【例】 竹下（通り） 関空 小牧（ジャンクション）
上野原（インターチェンジ） 三宅（坂） 野中（温泉）
アブカイク（油田）

(◆ver. 1.4修正)

(11) 名詞-固有名詞-地名-国

地名のうち国名。

【例】 日本 アメリカ 韓国

歴史上の都市国家や公国は「名詞-固有名詞-地名-一般」とする。

【例】 アテナイ ブルゴーニュ（公国）

(12) 名詞-数詞

【例】 一 二十 幾（人） 何百 数千

(13) 名詞-助動詞語幹

一般に伝聞の助動詞とされる「そうだ」の語幹

1. 2 代名詞

【例】 私 それ

1. 3 形状詞

(1) 形状詞-一般

下記以外の、いわゆる形容動詞の語幹に当たるもの

【例】 静か 健やか 特別

(2) 形状詞-タリ型

いわゆるタリ活用の形容動詞の語幹に当たるもの

【例】 寂然 錚々

(3) 形状詞-助動詞語幹

一般に助動詞とされる「そうだ」（様態）及び「ようだ」「みたいだ」の語幹に当たるもの

1. 4 連体詞

【例】 あの 大きな 同じ

1. 5 副詞

擬音語・擬態語を含む。名詞としての用法を持つものは、「名詞-普通名詞-副詞可能」とする。

【例】 しっかり 決して がらんがらん ぐるっと

1. 6 接続詞

【例】 しかし じゃ そして

1. 7 感動詞

(1) 感動詞-一般

フィラー以外の感動詞

【例】 いいえ おや はい

(2) 感動詞-フィラー

【例】 あの えーと えーっと

1. 8 動詞

(1) 動詞-一般

下記以外の動詞

【例】 聞く 来たる 愛する

(2) 動詞-非自立可能

名詞に直接続くことのある「いたす」「する」「できる」「なさる」の類や補助動詞として動詞連用形や動詞連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続することのあるもの。資料「要注意語」の「接尾的要素」に上げた語のうち、品詞を動詞とするものはここに分類する。可能性を示すものであって、実際に補助動詞として使われているか否かは問わない。

【例】 する くる 始める

1. 9 形容詞

(1) 形容詞-一般

下記以外の形容詞

【例】 明るい 美しい 白い

(2) 形容詞-非自立可能

形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形や形容詞・形容詞活用型助動詞の連用形に接続助詞「て」を添えた形に接続し、補助的に用いられることのあるもの。可能性を示すものであって、実際に補助的に使われているか否かは問わない。

【例】 ない 欲しい よい

1. 10 助動詞

(1) 助動詞

資料「要注意語」の「助動詞」に挙げたもの

【例】 です とく べし

1. 1 1 助詞

資料「要注意語」の「助詞」に挙げたもの。

(1) 助詞-格助詞

【例】 が から で に の

(2) 助詞-副助詞

【例】 か きり しか たって

(3) 助詞-係助詞

【例】こそ は も

(4) 助詞-接続助詞

【例】 けれど つつ と なり ば

(5) 助詞-終助詞

【例】 い か ね よ わ

(6) 助詞-準体助詞

【例】 の

1. 1 2 接頭辞

【例】 相(変わらず) お(返事) 第(1回) 非(言語)

1. 1 3 接尾辞

(1) 接尾辞-名詞的-一般

【例】 (国語)学 (ペースト)状 (お父)さん

(2) 接尾辞-名詞的-サ変可能

名詞に接続してサ変動詞の語幹となり得る語を作るもの

【例】 (活性)化 問題(視)

(3) 接尾辞-名詞的-形状詞可能

名詞に接続して作られた語に助動詞「だ」が付いて述語になったり、連体修飾成分になったりするもの

【例】 (贅沢)三昧 (意味)深

(4) 接尾辞-名詞的-サ変形状詞可能

名詞に接続して作られた語が、サ変動詞の語幹となり得るもので、助動詞「だ」が付いて述語になったり、連体修飾成分になったりするもの

【例】 語例なし

(5) 接尾辞-名詞的-副詞可能

名詞に接続して作られた語が、単独で連用修飾成分になり得るもの

【例】 (1平方メートル)当たり (停車)中 (終戦)後

(6) 接尾辞-名詞的-助数詞

【例】 個 人^{じん} メートル

(7) 接尾辞-形状詞的

名詞・動詞の連用形に接続して形状詞を作るもの

【例】 (行き) 過ぎ (具体) 的 ほこり (だらけ)

(8) 接尾辞-動詞的

名詞・動詞の連用形・形容詞の語幹に接続して動詞を作るもの

【例】 (時) めく (哀れ) がる (でき) 兼ねる (うれし) がる

(9) 接尾辞-形容詞的

名詞・形状詞・動詞の連用形・形容詞の語幹に接続して形容詞を作るもの

【例】 (文章) らしい (安) っぽい (書き) 易い

1. 14 記号

(1) 記号-一般

下記以外の記号。簡条書きの項目名に使われた1文字の片仮名，地名以外の固有名を略した1文字の片仮名を含む。新聞記事の署名等で姓又は名を略した1文字の漢字を含む。

【例】 ブ (大統領) マ (社)

(2) 記号-文字

アルファベットやギリシャ文字。

【例】 A α Σ

1. 15 補助記号

(1) 補助記号-一般

【例】 ・ △ ※ — ’

(2) 補助記号-句点

【例】 。 . !

(3) 補助記号-読点

【例】 、 ,

(4) 補助記号-括弧開

【例】 (《 「

(5) 補助記号-括弧閉

【例】) 》 」

(6) 補助記号-AA-一般

【例】 o r z ミ田 ε =

(6) 補助記号-AA-顔文字

【例】 (^ o ^) m (. _.) m (=° ω°) ノ

1. 1 6 空白

行頭の字下げなどの空白

表 3. 3 品 詞 一 覧

品 詞	類
名詞-普通名詞-一般	体
名詞-普通名詞-サ変可能	体
名詞-普通名詞-形状詞可能	体
名詞-普通名詞-サ変形状詞可能	体
名詞-普通名詞-副詞可能	体
名詞-固有名詞-一般	固有名
名詞-固有名詞-人名-一般	人名
名詞-固有名詞-人名-姓	姓
名詞-固有名詞-人名-名	名
名詞-固有名詞-組織名	組織名
名詞-固有名詞-地名-一般	地名
名詞-固有名詞-地名-国	国
名詞-数詞	数
名詞-助動詞語幹	体
代名詞	体
形状詞-一般	相
形状詞-タリ	相
形状詞-助動詞語幹	助動
連体詞	相
副詞	相
接続詞	他
感動詞-一般	他
感動詞-フィラー	他
動詞-一般	用
動詞-非自立可能	用
形容詞-一般	相
形容詞-非自立可能	相
助動詞	助同
助詞-格助詞	格助
助詞-副助詞	副助
助詞-係助詞	係助
助詞-接続助詞	接助
助詞-終助詞	終助
助詞-準体助詞	準助
接頭辞	接頭
接尾辞-名詞的-一般	接尾体
接尾辞-名詞的-サ変可能	接尾体
接尾辞-名詞的-形状詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-サ変形状詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-副詞可能	接尾体
接尾辞-名詞的-助数詞	接尾体
接尾辞-形状詞的	接尾相
接尾辞-動詞的	接尾用
接尾辞-形容詞的	接尾相
記号-一般	記号
記号-文字	記号
補助記号-一般	補助
補助記号-句点	補助
補助記号-読点	補助
補助記号-括弧開	補助
補助記号-括弧閉	補助
空白	補助

2 活用型

UniDicに動詞を登録する際に付与する活用型のうち、現代語のコーパスにかかわる主なものを、以下に挙げる。

2. 1 動詞

2. 1. 1 五段活用

(1) 五段-ガ行

【例】 泳ぐ 注ぐ

(2) 五段-カ行-一般

下記以外のカ行五段活用動詞

【例】 空く 頂く

(3) 五段-カ行-イク

語形が「イク」のもの。連用形の音便形が促音便となる。

【例】 行く 逝く

(4) 五段-カ行-ユク

語形が「ユク」のもの。連用形に音便形がない。

【例】 行く 逝く

(5) 五段-サ行

【例】 致す 話す

(6) 五段-タ行

【例】 明け放つ 育つ

(7) 五段-ナ行

【例】 死ぬ

(8) 五段-バ行

【例】 遊ぶ 学ぶ

(9) 五段-マ行

下記以外のマ行五段活用動詞

【例】 込む 済む 進む

(10) 五段-ラ行-一般-一般

下記以外のラ行五段活用動詞

【例】 煽る 売る

(11) 五段-ラ行-アル-一般

助動詞「ます」が接続する場合に連用形がイ音便となる。命令形の語末が「い」である。

【例】 いらっしゃる おっしゃる 下さる

(12) 五段-ラ行-アル

動詞「有る」

(13) 五段-ワア行-一般

下記以外のワア行五段活用動詞

【例】 争う 整う

(14) 五段-ワア行-ア段

語幹末尾がア段音のワア行五段活用動詞。連用形がウ音便になる場合、語幹末尾がオ段音に変わる。語幹が仮名書きされている場合、この変化が表記に現れる。

【例】 合う 扱う 損なう

(15) 五段-ワア行-イウ

動詞「言う」。連用形が「ユウ」と発音されることがある。

2. 1. 2 上一段活用

(1) 上一段-ア行

【例】 居る 射る

(2) 上一段-カ行

【例】 飽きる 出来る

(3) 上一段-ガ行

【例】 過ぎる

(4) 上一段-ザ行

【例】 甘んじる 信じる

(5) 上一段-タ行

【例】 落ちる 満ちる

(6) 上一段-ナ行

【例】 似る 煮る

(7) 上一段-ハ行

【例】 干る

(8) 上一段-バ行

【例】 浴びる 減びる

(9) 上一段-マ行

【例】 試みる 見る

(10) 上一段-ラ行

【例】 下りる 足りる

2. 1. 3 下一段活用

(1) 下一段-ア行

【例】 会える 得る

(2) 下二段-カ行

【例】 赤茶ける 行ける

(3) 下二段-ガ行

【例】 上げる 告げる

(4) 下二段-ザ行

【例】 掻き混ぜる はぜる

(5) 下二段-サ行

【例】 伏せる 見せる

(6) 下二段-タ行

【例】 当てる 捨てる

(7) 下二段-ダ行

【例】 出る

(8) 下二段-ナ行

【例】 重ねる 寝る

(9) 下二段-ハ行

ア行下二段活用動詞を歴史的仮名遣いで表記したもの

【例】 言い換へる

(10) 下二段-バ行

【例】 遊べる 食べる

(11) 下二段-マ行

【例】 止める 誉める

(12) 下二段-ラ行-一般

下記以外のラ行下二段活用動詞

【例】 上げれる 遅れる

(13) 下二段-ラ行-呉レル

動詞「呉れる」。命令形に「～よ」「～ろ」の形がなく、「くれ」である。

2. 1. 4 変格活用 (口語)

(1) カ行変格

【例】 来る

(2) サ行変格-為ル

下記以外のサ行変格活用。単独の「する」。未然形で、助動詞「ず」が接続する場合に「せ」、「せる」が接続する場合に「さ」という区別がある。

(3) サ行変格-スル

「1字漢語+する」の形のもの

【例】 愛する 称する

(4) ザ行変格

【例】 甘んずる 信ずる

2. 1. 5 文語四段活用

(1) 文語四段-カ行

【例】 行く 置く

(2) 文語四段-ガ行

【例】 仰ぐ 凌ぐ

(3) 文語四段-サ行

【例】 明かす 致す

(4) 文語四段-タ行

【例】 うがつ 放つ

(5) 文語四段-バ行

【例】 遊ぶ 滅ぶ

(6) 文語四段-ハ行-一般

下記以外の文語ハ行四段活用動詞

【例】 争ふ 追ふ

(7) 文語四段-ハ行-ア段

語幹末尾がア段音の文語ハ行四段活用動詞。連用形がウ音便になる場合、語幹末尾がオ段音に変わる。語幹が仮名書きされている場合、この変化が表記に現れる。

【例】 会ふ 買ふ

(8) 文語四段-ハ行-イウ

動詞「言ふ」。連用形が「ユウ」と発音されることがある。

(9) 文語四段-マ行

【例】 当て込む 読む

(10) 文語四段-ラ行

【例】 煽る 散る

2. 1. 6 文語上二段活用

(1) 文語上二段-カ行

【例】 起く 生く

(2) 文語上二段-ガ行

【例】 過ぐ

(3) 文語上二段-タ行

【例】 落つ 満つ

(4) 文語上二段-ダ行

【例】 閉づ 恥づ

(5) 文語上二段-ハ行

【例】 憂ふ

(6) 文語上二段-バ行

【例】 浴ぶ 滅ぶ

(7) 文語上二段-マ行

【例】 試む

(8) 文語上二段-ヤ行

【例】 飢ゆ 報ゆ

(9) 文語上二段-ラ行

【例】 降る 懲る

2. 1. 7 文語下二段活用

(1) 文語下二段-ア行

【例】 得る 心得る

(2) 文語下二段-カ行

【例】 避く 溶く

(3) 文語下二段-ガ行

【例】 上ぐ 告ぐ

(4) 文語下二段-サ行

【例】 乗す 見す

(5) 文語下二段-タ行

【例】 当つ 捨つ

(6) 文語下二段-ダ行

【例】 出づ 撫づ

(7) 文語下二段-ナ行

【例】 ぬ(寝)

(8) 文語下二段-バ行

【例】 比ぶ 並ぶ

(9) 文語下二段-ハ行-一般

下記以外の文語ハ行下二段活用動詞

【例】 和ふ 終ふ

(10) 文語下二段-ハ行-経

【例】 ふ(経)

- (1 1) 文語下二段-マ行
【例】 留む 止む
- (1 2) 文語下二段-ヤ行
【例】 消ゆ 燃ゆ
- (1 3) 文語下二段-ラ行
【例】 暮る 忘る
- (1 4) 文語下二段-ワ行
【例】 植う

2. 1. 8 変格活用（文語）

- (1) 文語カ行変格
【例】 来
- (2) 文語サ行変格
【例】 す 接す
- (3) 文語ザ行変格
【例】 信ず 甘んず
- (4) 文語ナ行変格
【例】 死ぬ
- (5) 文語ラ行変格
【例】 あり 居り

2. 2 形容詞

2. 2. 1 口語活用

- (1) 形容詞-良イ
形容詞「良い」。「いい」という語形のものも含む。
- (2) 形容詞-無イ
形容詞「無い」。様態の助動詞「そうだ」が接続するとき、「無さ」という形を取る。この場合の「無さ」は語幹の一形態とする。
- (3) 形容詞-〇段
①語幹末尾がア段音の形容詞は、連用形がウ音便になる場合に語幹末尾がオ段音になる。また、終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（たかい→たけえ）。②語幹末尾がウ段音の形容詞は、終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（たかい→たけえ）。③語幹末尾がオ段音の形容詞は、終止形・連体形の語幹末尾がエ段音になる場合がある（たかい→たけえ）。
語幹が仮名書きされている場合、以上の変化が表記に現れる。
【例】 高い 寒い 重い

2. 2. 2 文語活用

(1) 文語形容詞-ク

ク活用の形容詞。

【例】 白し 高し

(2) 文語形容詞-シク-シク

下記以外のシク活用の形容詞

【例】 美し 楽し

(3) 文語形容詞-シク-ジク

シク活用の形容詞のうち活用語尾の語頭が「じ」のもの

【例】 いみじ

(4) 文語形容詞-多シ

形容詞「多し」。終止形に「多し」のほか、「多かり」がある。

2. 3 助動詞

助動詞の活用は、動詞・形容詞の活用と比べて個別的であるため、以下に示すように、助動詞ごとに活用型を立てている。

【例】 だ …… 活用型：助動詞-ダ
たい …… 活用型：助動詞-タイ
ず …… 活用型：文語助動詞-キ

なお、動詞と同じ活用型を付与するものもある。

【例】 たがる …… 活用型：五段-ラ行-一般-一般
てる …… 活用型：下一段-タ行

2. 4 接尾辞

「接尾辞-動詞的」は動詞の活用型を、「接尾辞-形容詞的」は形容詞の活用型を付与する。

【例】 難い …… 活用型：形容詞-ア段
ばむ …… 活用型：五段-マ行

表 3. 4 活 用 型 一 覧

活 用 型	解析活用型	活 用 型	解析活用型
五段-〇行	五段-〇行	文語四段-〇行	文語四段-〇行
五段-カ行-一般	五段-カ行-一般	文語四段-ハ行-一般	文語四段-ハ行
五段-カ行-イク	五段-カ行-イク	文語四段-ハ行-ア段	文語四段-ハ行
五段-カ行-ユク	五段-カ行-ユク	文語上二段-〇行	文語上二段-〇行
五段-ラ行-一般-一般	五段-ラ行-一般	文語下二段-〇行	文語下二段-〇行
五段-ラ行-アル-一般	五段-ラ行-アル	文語下二段-ハ行-一般	文語下二段-ハ行
五段-ラ行-アル-有ル	五段-ラ行-アル	文語下二段-ハ行-経	文語下二段-ハ行
五段-ワア行-一般	五段-ワア行-一般	文語カ行変格	文語カ行変格
五段-ワア行-〇段	五段-ワア行-一般	文語サ行変格	文語サ行変格
五段-ワア行-イウ	五段-ワア行-イウ	文語ザ行変格	文語ザ行変格
上一段-〇行	上一段-〇行	文語ナ行変格	文語ナ行変格
下一段-〇行	下一段-〇行	文語ラ行変格	文語ラ行変格
下一段-ラ行-一般	下一段-ラ行-一般	文語形容詞-ク	文語形容詞-ク
下一段-ラ行-呉レル	下一段-ラ行-呉レル	文語形容詞-シク-シク	文語形容詞-シク-シク
カ行変格	カ行変格	文語形容詞-シク-ジク	文語形容詞-シク-ジク
サ行変格-為ル	サ行変格	文語形容詞-多シ	文語形容詞-多シ
サ行変格-スル	サ行変格	文語助動詞-キ	文語助動詞-キ
ザ行変格	ザ行変格	文語助動詞-ケム	文語助動詞-ケム
形容詞-良イ	形容詞	文語助動詞-ケリ	文語助動詞-ケリ
形容詞-無イ	形容詞	文語助動詞-ゴトシ	文語助動詞-ゴトシ
形容詞-〇段	形容詞	文語助動詞-ズ	文語助動詞-ズ
助動詞-ジャ	助動詞-ジャ	文語助動詞-タリ-完了	文語助動詞-タリ-完了
助動詞-タ	助動詞-タ	文語助動詞-タリ-断定	文語助動詞-タリ-断定
助動詞-ダ	助動詞-ダ	文語助動詞-ツ	文語助動詞-ツ
助動詞-タイ	助動詞-タイ	文語助動詞-ナリ-断定	文語助動詞-ナリ-断定
助動詞-デス	助動詞-デス	文語助動詞-ナリ-伝聞	文語助動詞-ナリ-伝聞
助動詞-ナイ	助動詞-ナイ	文語助動詞-ヌ	文語助動詞-ヌ
助動詞-ヌ	助動詞-ヌ	文語助動詞-ベシ	文語助動詞-ベシ
助動詞-マス	助動詞-マス	文語助動詞-マジ	文語助動詞-マジ
助動詞-ヤ	助動詞-ヤ	文語助動詞-ム	文語助動詞-ム
助動詞-ヤス	助動詞-ヤス	文語助動詞-ラシ	文語助動詞-ラシ
助動詞-ラシイ	助動詞-ラシイ	文語助動詞-ラム	文語助動詞-ラム
無変化型	無変化型	文語助動詞-リ	文語助動詞-リ

※ 活用型：短単位データベース登録時の活用型

解析活用型：コーパスに表示される活用型

3 活用形

UniDicの活用形のうち現代語のコーパスにかかわる主なものを、以下に挙げる。

3. 1 語幹

(1) 語幹-一般

下記以外の活用語の語幹

(2) 語幹-サ

いわゆる様態の助動詞「そうだ」が接続する場合の形容詞「ない」の語幹「なさ」と形容詞「よい」の語幹「よさ」

3. 2 未然形

(1) 未然形-一般

下記以外の未然形

(2) 未然形-サ

助動詞「せる」が接続する場合のサ変動詞「する」の未然形「さ」

(3) 未然形-セ

助動詞「ず」が接続する場合のサ変動詞「する」の未然形「せ」

(4) 未然形-撥音便

活用語尾がラ行音の動詞で、未然形が撥音便になったもの

【例】 分かん（ない） 知ん（ない）

(5) 未然形-へ

助動詞「ます」の未然形「ませ」が「まへ（ん）」になったもの

(6) 未然形-補助

文語形容詞の補助活用

3. 3 意志推量形

(1) 意志推量形-一般

下記以外の意志推量形

(2) 意志推量形-促音

意志推量形が促音便になったもの

【例】 行こっ（か） 食べよっ（と）

(3) 意志推量形-短縮

意志推量形の語末「う」が縮まったもの

【例】 行こ（か） 寝よ

3. 4 連用形

(1) 連用形-一般

下記以外の連用形。助動詞「ます」が接続する一般的な形。

- (2) 連用形-○音便
助動詞「た」や助詞「て」が接続する場合の一般的な音便形
- (3) 連用形-融合
助動詞「だ」の連用形と係助詞「は」の融合形「じゃ」
- (4) 連用形-チャ
助動詞「だ」の連用形と係助詞「は」の融合形「ちゃ」
【例】 (そんなこっ) ちゃ (だめだ)
- (5) 連用形-シ
サ行下一段活用動詞の活用語尾「せ」が「し」になったもの
【例】 見し (て)
- (6) 連用形-スッ
ラ行五段活用動詞の促音便で語幹末尾の「さ」が「す」になったもの
【例】 なすっ (た)
- (7) 連用形-ト
文語助動詞「たり」の連用形「と」
- (8) 連用形-ニ
文語助動詞「なり」の連用形「に」
- (9) 連用形-補助
文語形容詞の補助活用

3. 5 終止形

- (1) 終止形-一般
下記以外の終止形
- (2) 終止形-ウ音便
文語ハ行四段動詞「給う」の終止形「たもう」
- (3) 終止形-促音便
形容詞の終止形末尾が促音便になったもの
【例】 うまっ 高っ
- (4) 終止形-撥音便
動詞・助動詞の終止形末尾が撥音便になったもの
【例】 見ん (なよ) (ありませ) ん
- (5) 終止形-エ
形容詞及び助動詞「たい」「ない」の終止形末尾の連母音「アイ」が長母音「エー」になったもの
【例】 高え 行かねえ
- (6) 終止形-チャ

助動詞「だ」の終止形が「ちゃ」になったもの
【例】 (何のこっ) ちゃ

- (7) 終止形-補助
文語形容詞「多し」の終止形「多かり」

3. 6 連体形

- (1) 連体形-一般
下記以外の連体形
- (2) 連体形-エ短縮
助動詞「つう」(副助詞「て」+「言う」の融合)の連体形のうち、語末が「え」で終わるものの「え」が脱落したもの
【例】 (何) て (んだ)

3. 7 仮定形

- (1) 仮定形-一般
下記以外の仮定形
- (2) 仮定形-融合
形容詞及び形容詞型活用の助動詞・接尾辞の仮定形の活用語尾が接続助詞「ば」と融合して、「けりゃ」になったもの
【例】 面白けりゃ 有り難けりゃ (なり) たけりゃ
- (3) 仮定形-キャ
形容詞及び形容詞型活用の助動詞・接尾辞の仮定形の活用語尾が接続助詞「ば」と融合して、「きゃ」になったもの
【例】 面白きゃ (し) にくきゃ (やら) なきゃ
- (4) 仮定形-ニャ
助動詞「ず」の仮定形の活用語尾が接続助詞「ば」と融合して、「にゃ」になったもの
【例】 (頑張ら) にゃ

3. 8 已然形

- (1) 已然形-一般
下記以外の已然形
- (2) 已然形-補助
文語形容詞の補助活用

3. 9 命令形

- (1) 命令形-一般
下記以外の命令形

(2) 命令形-イ

ラ行五段活用動詞の命令形で、語末が「い」のもの

【例】 ください なさい

(3) 命令形-コ

文語動詞「来」の命令形のうち「こ」

(4) 命令形-シ

助動詞「ます」の命令形のうち「まし」

(5) 命令形-ロ

一段活用動詞・サ変活用動詞の命令形のうち語末が「ろ」のもの

【例】 食べろ しろ

表 3. 5 活 用 形 一 覧

語幹一般	終止形一般
語幹-サ	終止形-○音便
未然形一般	終止形-エ
未然形-ケ	終止形-ズ
未然形-サ	終止形-チャ
未然形-シカ	終止形-短縮
未然形-セ	終止形-補助
未然形-撥音便	連体形一般
未然形-へ	連体形-エ短縮
未然形-補助	連体形-省略
意志推量形一般	連体形-短縮
意志推量形-促音	連体形-補助
意志推量形-短縮	仮定形一般
連用形一般	仮定形-融合
連用形-○音便	仮定形-キャ
連用形-融合	仮定形-ニヤ
連用形-キ接続	命令形一般
連用形-チャ	命令形-イ
連用形-クッ	命令形-コ
連用形-シ	命令形-シ
連用形-スッ	命令形-ロ
連用形-ト	
連用形-ニ	
連用形-省略	
連用形-補助	

第3 語種情報の概要

1 語種とは

日本語の語種は一般に、和語、漢語、外来語と、これら3種類の語種のうち異なる2種類以上の語が結合した混種語の4種類に分けられる。BCCWJでは、この4種類のほかに固有名、記号、語種不明の3種類を加えた7種類に分類した。

なお、各語に語種を付与するに当たっては、〔 〕内の略称等を用いた。

(1) 和語〔和〕

日本固有の語

【例】 暖かい 言葉 話す

(2) 漢語〔漢〕

近世以前に中国から入った語

【例】 音楽 国語 報告

和製漢語も漢語とする。

【例】 大根 返事

(3) 外来語〔外〕

欧米系の諸言語から入った語

【例】 ゲーム コーパス データ

上記のほか、以下のものも外来語とする。

①和製英語

【例】 アフレコ ナイター

②梵語等を中国で音訳した語に由来する語

【例】 阿羅漢 孟蘭盆 卒塔婆

③アイヌ語から入った語

【例】 昆布 鮭 ラッコ

④中国以外のアジア諸国語から入った語

【例】 キムチ カボチャ パッチ

⑤近代以降に中国から入った語

【例】 クーニャン シュウマイ メンツ

(4) 混種語〔混〕

和語・漢語・外来語のうち異なる2種類以上の語種の語が二つ以上結合した語。漢語・外来語であったものの末尾が活用するようになった語

【例】 塩ビ トラブる 本箱 力む

(5) 固有名〔固〕

人名・地名・商品名等。品詞が固有名詞となる語

【例】 大阪 星野 仙一 ソニー

(6) 記号〔記号〕

句読点・括弧などの補助記号や、簡条書きの項目名として使われた一字の片仮名などの記号。固有名以外の英字略語。

【例】 ア イ A B OHP

(7) 語種不明〔不明〕

語源が未詳であるため語種の判定ができない語

【例】 蜻蛉^{とんぼ} 豚 風呂

2 語種の判定

語種の判定は、次の手順によった。

(1) 原則として『新潮現代国語辞典』第2版（新潮社）による。

※ 『新潮現代国語辞典』第2版を使ったのは、見出し語が漢語・外来語の場合は片仮名で、和語及び不明の場合は平仮名で表記しており、その表記を手掛かりにして語種を知ることができるためである。

(2) 『新潮現代国語辞典』第2版の見出しにない語は、『日本国語大辞典』第2版（小学館）を主たる資料として語種判定を行う。

また、『新潮現代国語辞典』第2版の語種判定に従い難いと判断した場合は、『日本国語大辞典』第2版等を参照し、独自に語種を判定した。

なお、『新潮現代国語辞典』第2版では、見出し語が和語の場合のほか、語種が不明の場合も見出し語を平仮名で表記している。見出し語が平仮名表記のものを一律に和語とすると、語種が不明であるため平仮名表記されていた語まで和語と判定してしまうことになる。

そのため、見出し語が平仮名で表記されている場合、『新潮現代国語辞典』第2版の注記や他の辞書等を参照して和語とすべきか不明とすべきか適宜判断した。

コーパスに出現した語のうち、以下のいずれかに該当する語を表3.6に一覧する。（ただし、判断の根拠等を示す必要がないと判断した語は除く。）

- ①『新潮現代国語辞典』第2版と異なる判定をした語
- ②『新潮現代国語辞典』第2版で見出しが平仮名表記されている語のうち語種不明と判断した語
- ③『新潮現代国語辞典』第2版の見出しにない語のうち『日本国語大辞典』第2版等を参照し、独自に語種を判定した語

表3. 6 語種注記一覧表

語彙素	語彙素読み	語種	注
阿吽	アウン	外	梵語の音写。
青二才	アオニサイ	和	新潮国語は「あおニサイ」とするが、「にさい」は本来「新背(にいせ)」の転で、「二才」は当て字と見るべきである。
閼伽	アカ	外	梵語の音写。
赤蜻蛉	アカトンボ	不明	「とんぼ」は語源未詳。日本国語大辞典には、「語源未詳で、歴史的かなづかいも不明確であるが、室町時代までの表記が「とうぼう」のように「ぼう」であって「ぼう」でないところから「とうぼう」とする。なお、「とぼう(蜻蛉)」を「とばふ」であるとし、これに「う」音が添って「とうばふ」(さらに「とんばふ」となったとする説もある」とある。
朝風呂	アサプロ	不明	風呂には、「室(むろ)」語源説と「風炉(ふろ)」語源説とがあつて、いずれとも決せられない。新潮国語は、以前見出し語を「フロ」としていたが、新潮現代国語第2版から、「ふろ」と改めた。但しこの処置が「室(むろ)」説に従ったためのものか、語源未詳と考えたためであるかは不明。
阿闍梨	アジャリ	外	梵語の音写。
阿僧祇	アソウギ	外	梵語の音写。
遊び傀儡	アソビクグツ	不明	「傀儡」については、莎草(くぐ)など編んだ「くぐつ」と呼ばれる袋を持っていたことによるとする説などがあるが、詳細は不明である。
阿檀	アダン	不明	「榮蘭(エイラン)」の転と見る説があるが詳細は不明である。
阿茶羅	アチャラ	外	ポルトガル語で「野菜や果物の漬物」を意味するacharに由来する語。
あちゃらか	アチャラカ	和	掛け声。こうしたものは和語として扱う。
あつけらかん	アツケラカン	不明	「あつけ」は、「呆気(あつけ)」と同源の語で、「開け」に由来するものと考えられる。これに状態性接尾「ら」がついたのが「あつけら」と考えられるが、「かん」については語源未詳。因みに「あつけらこん」「あつけらほん」などの形も併用された。
当てずっぽう	アテズッポウ	不明	「あて寸法」、或いは「あて推量」の転と見るのが穏当だろう。但しいずれか決め難く、語源不明と扱う。
アナド	アナド	不明	嵩山地方の伝説に出てくる蛇穴にすむ老女の妖怪。「アナド婆」。「穴-戸」かとも思うが不明としておく。
阿婆擦れ	アバズレ	和	「あば」は、「暴る」などの「あば」、或いは「軽率」の意の「あわあわし」の「あわ」と同源などと説かれる。詳細は未詳であるが、いずれにしても和語と見てよい。
アバタ	アバタ	外	「瘡蓋」の意の梵語からとする説に従う。
油蟬	アブラゼミ	不明	「セミ」は、その鳴き声を表す擬音語からとも、蟬の字音からとも言うが語源未詳である。因みに「蟬」字はn韻尾字で、セミとは直接はつながらない。
阿片	アヘン	外	古代ギリシア語opionに由来する英語opiumの音訳語。
阿呆陀羅	アホダラ	不明	「阿呆太郎」の転か。又は、「阿呆」と「ダラスケ」との複合した語とも言う。「ダラスケ」は、乾燥エキス剤の名である「ダラニスケ」の略で、僧侶が陀羅尼を誦するに際してその苦味で睡魔を防ぐために口に含んだが、その苦味に耐える表情から、文楽において下世話な端敵役に用いる首の名に転じ、更に、下世話な人を指す語へと転じたものと言われるが、確かな説ではない。

尼	アマ	外	パーリ語で‘母’‘女性’を意味する語からかたとされる。
阿弥	アミ	外	梵語の音写「阿弥陀」に由来する語。
阿羅漢	アラカン	外	梵語の音写。
あらせいとう	アラセイトウ	不明	ブラナ科の多年草。日本国語大辞典には「外来語と思われるが語源未詳」とある。
阿頼耶	アラヤ	外	梵語の音写。
塩梅	アンバイ	不明	「安排」或いは「按排」（調整しながら配置・采配する意）に由来する語と見る説と、味加減を調える意の「塩梅（えんばい）」に由来する語と見る説とがあり、更に、これらが1語と認識されるにいたって生じた語とも、和語「あわい」から生じたとする説もあって、定まらない。
あんぽんたん	アンポンタン	不明	「あほだら」の強調形である「あほんだら」を薬品名「〇〇丹」のようにもじった語というが、「あほだら」の語源に諸説あって定まらない。
菴羅	アンラ	外	梵語の音写。
硫黄	イオウ	不明	「湯泡（ゆあわ）」から「ゆわう」を経て「いわう」と転じた語とも、「硫黄」の字音「るわう」が「ゆわう」に転じ、更に「いわう」になった語ともいわれ、定まらない。
筏師	イカダシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
いけ図図しい	イケズウズウシイ	不明	「ずうずうしい」は語源未詳。「図に乗る」「図に当たる」などの「図（ず）」の疊語に由来すると見る説があるが確かでない。或いは、「ず」は、「図抜ける」「図外（ずはずれ）」「図太い」などに見える接頭語と見て、その疊語が形容詞化したものと見た方がよいかとも考えられる。因みに、接頭語「ず」（歴史的仮名遣いは「づ」か）は、「ど偉い」「どぎつい」「度肝」「ど吝嗇」「ど根性」「ど真ん中」などに見えるの接頭語「ど」と関連付けることも可能である。
いけぞんざい	イケゾンザイ	不明	「ぞんざい」は語源未詳。「粗雑」の転、「存在」から転じた語、などの語源説があるが、いずれも確証を欠く。漢語起源である可能性は高いが、一応不明とする。新潮国語にも「ぞんざい」と平仮名表記で立項されている。
いごっそう	イゴッソウ	漢	土佐地方の方言。「異骨相」に由来する語とする説に従い漢語とする。
石柰	イシワク	不明	「柰」は語源不明。𦵏（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
いたせんばら	イタセンバラ	不明	魚名。語源未詳。愛知県の濃尾地方で秋の産卵期に鮮やかなピンク色になるオスを「鮮腹（せんばら）」と呼んでいたものに、その平べったい形状から「板」を付けて呼んだ語とする説がある。
イチジク	イチジク	外	ヒンディ語injurの音写に由来する語。
一八	イチハツ	不明	アヤメ科の中で開花時期が最も早いことから「一（イチ）初（はつ）」と名づけられたとする説があるが、確かでない。
一闍提	イッセンダイ	外	梵語の音写。
いっそ	イッソ	漢	「一層」の転とする説に従う。
糸柰	イトワク	不明	「柰」は語源不明。𦵏（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。

燐りがっこ	イブリガッコ	不明	「がっこ」は漬物を指す秋田方言。一般には「雅香」といわれるが、「香々（かうかう）」の転、或いは「香（かう）」に接尾語「こ」が付いた語と見られる。
矣栗駄	イリダ	外	梵語の音写。
囲炉裏	イロリ	不明	日本国語大辞典には、「「囲炉裏」は当て字。「いるり」「ゆるり」などの形もあって、語源は明確にしがたいが、「でい（出居）」などに対比して、「居る（スワル）居（座席）」ではないかとする説がある」とある。
いんちき	インチキ	不明	賭博用語の「いかさま」の「いか」の転じたものに「高慢ちき」などに見える接尾語「ちき」のついた語とも、近世駿河国小笠郡の方言で、釣り針だけで魚を釣る方法を言った「インチキ」に由来する語とも、福井方言で、人をごまかす意の「インツク」より転じた語とも言うが、いずれも定説とは言い難い。
海髪	ウゴ	不明	「おごのり」の「おご」の転というが、「おごのり」自体の語源が不明である。
牛柶	ウシワク	不明	「柶」は語源不明。簠（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
内風呂	ウチフロ	不明	風呂には、「室（むろ）」語源説と「風炉（ふろ）」語源説とがあって、いずれとも決せられない。新潮国語は、以前見出し語を「フロ」としていたが、新潮現代国語第2版から、「ふろ」と改めた。但しこの処置が「室（むろ）」説に従ったためのものか、語源未詳と考えたためであるかは不明。
空蟬	ウツセミ	和	一般に「蟬」は不明として扱ってあるが、「うつせみ」は「現（うつ）し臣（おみ）」の転であるから、和語として扱った。
善知鳥	ウトウ	外	‘突起’の意のアイヌ語に由来する語。
優曇	ウドン	外	梵語の音写「優曇波羅」の略。
ウラボン	ウラボン	外	梵語の音写。
浮塵子	ウンカ	不明	雲霞（ウンカ）のごとく群集することからの名とする説があるが、詳細は未詳である。
えいさあ	エイサア	和	沖縄本島とその周辺の盆踊り。浄土宗系の念仏歌に挟まれる囃子の一つ「エイサー、エイサー、ヒヤルガエイサー」から来ているとする説、又、「おもろさうし」に見られる「ゑさおもろ」に由来するとする説がある。「善（え）し」の語幹に接尾サが付いた語に由来するものと見てよいだろう。
えげつない	エゲツナイ	不明	「意気地（イゲチ）ない」の転とも「えぐっけない」の転ともいうが、詳細は未詳である。
えた	エタ	不明	「蝦夷（えぞ）」との関連を指摘する説、又、掃除人夫を意味する「穢手（えて）」の転とする説などがあるが、詳細は不明である。
エッチ	エッチ	外	「変態」のローマ字書きhentaiの頭文字に由来する語と見る説に従う。
夷	エビス	外	「蝦夷（えみし）」の転であり、「蝦夷（えみし）」はアイヌ語emchui enchuiに由来すると見る説に従う。
えんこ	エンコ	不明	「エンジン故障」の略という説もあるが、語源未詳の幼児語からとするのが通説である。但し、いずれとも決せられず語源未詳として扱った。
槐	エンジュ	不明	古くは「ゑにす」であり、「槐子」の呉音とも言うが詳細は不明である。
閻羅	エンラ	外	梵語の音写「閻魔羅社」の略。

オイチョカブ	オイチョカブ	不明	遊戯の中で、九を「カブ」、八を「オイチョ」と呼ぶところからの称。「オイチョ」は、「8」を意味するスペイン語、或いはポルトガル語に由来する語であるが、「カブ」については近世中国語由来と見る説はあるものの未詳である。
おうけい	オウケイ	不明	使用文脈は「えー二行目三行目でございますが、工匠家来楯取おうけい、えー世界の人、おー、これらに、漢文訓読語が用いられた例が、括弧五から括弧十三であります」。対象は竹取物語と思われ、「おうけい」は「その年渡りける唐土船の王卿といふ者の許に」の「王卿」と思われるが、かな書きゆえ不明とする。
大井	オオドンブリ	和	「どんぶり」については、「どんぶり鉢」の略で、ものが水中に投げ込まれた際の擬音語「どんぶり」「どぶり」に由来する語と見る説に従う。
オーモンデー	オーモンデー	不明	五島列島に見られる念仏踊り。
大枠	オオワク	不明	「枠」は語源不明。𪛗（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
オカッパラー	オカッパラー	混	釣り用語で陸釣りをする人のことを言う。「陸（おか）」と英語の人化語尾ラーとに由来する。
沖仲仕	オキナカシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
おごい	オゴイ	不明	方言。「御御嬢」など一応想定できるが、不明としておく。
おごう	オゴウ	不明	方言。「御御」など一応想定できるが、不明としておく。
おごじょ	オゴジョ	不明	方言。「御御嬢」など一応想定できるが、不明としておく。
オショックス	オショックス	混	「お食事」と「セックス」とからなる造語。
御多福	オタフク	不明	「多くの福」に由来するとする説や、「膨らむ」、または魚の河豚との関係を指摘する説などが知られているが、いずれも推測の域を出ない。新潮国語は「お多福」を当て字としたうえで平仮名表記とする。
御多福顔	オタフクガオ	不明	「御多福」が不明語であるため、不明語として扱う。「御多福」の項を参照。
御多福顔	オタフクガオ	不明	同上。
お多福風	オタフクカゼ	不明	同上。
お多福豆	オタフクマメ	不明	同上。
おちよくる	オチヨクル	不明	ことを冗談にしてはぐらかしてしまうことを指す表現「お茶にする」に類似の表現「お茶繰る」「お茶に化かす」の存在を想定し、それが「おちよくる」「おちよらかす」などの語を派生したとする説があるが確かでない。
おつつかつ	オツツカツ	不明	「乙甲（オツカツ）」の転とも、「追つつ縫（すが）つつ」の転ともいい、いずれとも決せられない。
おっぺけぺえ	オッペケペエ	不明	壮士節の相の手。
おっぺけぺっぼう	オッペケペッポウ	不明	壮士節の相の手。
御転婆	オテンバ	不明	すばしこい意の中世語「手捷（てば）し」「手捷（てば）しかし」「手捷（てば）しこし」から、擬態語「てばてば」などが生じ、それに「お」を冠したオテバに由来するかとも思われるが確かではない。新潮国語は平仮名表記とするが、和語と認定したものか語源未詳かははっきりしない。和語である可能性は高いが、不明としておく。
オナグラ	オナグラ	不明	カヤカベ教の勤行に関する用語。

おべっか	オベッカ	不明	「弁舌」を意味する「弁」に外見的な華やかさをいう「花(か)」がついたとする説や、人に追従し取り巻くさまから「帯(おび)」にかかわりのある語と見る説などがあるが、いずれも民間語源説の域を出ない。
おべんちゃら	オベンチャラ	不明	「ちゃら」は擬態語と見てよいが、「べん」は語源未詳。
おらほ	オラホ	混	「うちのほう」の意の方言で、「おら方」の転と見る。
おわら	オワラ	不明	「越中八尾おわら風の盆」
おんぼろ	オンボロ	不明	「ぼろ」は擬態語と見てよいだろう。梵論僧との関連を言う説もあるが、対応する擬態語「ぼろぼろ」の存在に鑑みて、和語の擬態語と見られる。「おん」は語源未詳。日本国語大辞典には「「おん」は接頭語」とあるが、この注記は「おんぼろ」にのみ施されたもので、「おん」の語性などは説かれていない。語源不明とする。
回教	カイキョウ	混	イスラム教がウイグル族を通じて中国に伝来したため、ウイグルの音訳である「回紇」に由来する「回回(フイフイ)教」と呼ばれたことから生じた呼称。
迦字	カウ	不明	カード賭博の一種。現代の「(オイチョ)カブ」に類したものか。「かぶ」と同源の語と思われ、「迦鳥」は当て字と見るべきだろう。近世の「9」を表す語の中に、近世中国語に由来するかと考えられている「クワイ」などがあり、それらとの関連も想定されるが、尚検討を要する。
ががんぼ	ガガンボ	和	「蚊が乳母(うば)」の転と考えてよい。「かとんぼ」の転とする一説があるが、「かとんぼ」は後発の語と見られる。
がさつ	ガサツ	不明	「口達者」の意の「江帥(ゴウソツ)」の転と見る説、「がさつく」の略語と見る説などがあるが、いずれも確かでない。
ガジリ	ガジリ	不明	カジノで行われる不正行為。「齧り」からというが確かではない。
がたい	ガタイ	不明	「彼はがたいがいい」などの「がたい」。体型を意味する「がかい」と「図体(ずうたい)」との混交によってできた語かとされるが、「がかい」の語源が不明である。
片跛	カタチンバ	不明	「ちんば」は語源未詳。
型枠	カタワク	不明	「枠」は語源不明。𣪠(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
ガチマヤー	ガチマヤー	混	「食いしん坊」を意味する琉球方言。「餓鬼」に現代中国語「猫(mao)」がついた語と言われる。
カツ井	カツドン	混	「どん」は「どんぶり」の略。「どんぶり」は、「どんぶり鉢」の略で、ものが水中に投げ込まれた際の擬音語「どんぶり」「どぶり」に由来する語。
合羽	カッパ	外	ポルトガル語capaに由来する語。「合羽」は当て字。
羯磨	カツマ	外	梵語の音写。
蚊蜻蛉	カトンボ	不明	「とんぼ」は語源未詳。日本国語大辞典には、「語源未詳で、歴史的かなづかいも不明確であるが、室町時代までの表記が「とうぼう」のように「ぼう」であって「ぼう」でないところから「とうぼう」とする。なお、「とぼう(蜻蛉)」を「とばふ」であるとし、これに「う」音が添って「とうばふ」(さらに「とんばふ」)となったとする説もある」とある。
かなぶん	カナブン	和	「金(かな)」に擬音語の「ぶん」が付いたとする説に従う。

鞆	カバン	外	‘文ばさみ’の意の中国語「夾板」の音読み「キャバン」に由来する語。
紙師	カミシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
我武者羅	ガムシャラ	不明	「ら」は接尾語と見てよいが、「がむしゃ」の語源は未詳である。「我無性（がむしょう）」の転、「我」に「むしゃくしゃする」などの「むしゃ」がついた語、「我-食（むさぼ）り」の略など、「が」については「我」で一致するが、「むしゃ」については諸説あって、いずれとも決せられない。
迦羅	カラ	外	梵語の音写。
伽藍	ガラン	外	梵語の音写「僧伽藍摩」の略語。
がらんど	ガランドウ	混	「伽藍堂」から転義した語という。「伽藍」は梵語の音写語「僧伽藍摩」の略であり、混種語となる。
汗栗駄	カリダ	外	梵語の音写。
迦陵	カリョウ	外	梵語の音写「迦陵頻伽」の略。
仮杵	カリワク	不明	「杵」は語源不明。𣎵（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
川蟬	カワセミ	不明	「セミ」は、その鳴き声を表す擬音語からとも、蟬の字音からとも言うが語源未詳である。因みに「蟬」字はn韻尾字で、セミとは直接はつながらない。
瓦	カワラ	外	梵語に由来する語とする説に従う。
考え	カンガエ	不明	動詞「考える」の連用形より転成した名詞。「考える」については、「処（か）-むかふ（下二）」説と、「勘」の字音に由来するとする説があつて、語源未詳の語として扱った。
考え合う	カンガエアウ	不明	「考える」が不明語であるため、不明語として扱う。「考える」の項を参照。
考え合わせる	カンガエアワセル	不明	同上。
考え至る	カンガエイタル	不明	同上。
考え入る	カンガエイル	不明	同上。
考え浮かぶ	カンガエウカブ	不明	同上。
考え及ぶ	カンガエオヨブ	不明	同上。
考え返す	カンガエカエス	不明	同上。
考え事	カンガエゴト	不明	同上。
考え込む	カンガエコム	不明	同上。
考え締める	カンガエシメル	不明	同上。
考え出す	カンガエダス	不明	同上。
考え溜める	カンガエタメル	不明	同上。
考え違い	カンガエチガイ	不明	同上。
考え付く	カンガエツク	不明	同上。
考え詰める	カンガエツメル	不明	同上。
考え所	カンガエドコロ	不明	同上。
考え直す	カンガエナオス	不明	同上。
考え深い	カンガエブカイ	不明	同上。
考え耽る	カンガエフケル	不明	同上。
考え迷う	カンガエマヨウ	不明	同上。
考え巡らす	カンガエメグラス	不明	同上。
考え悶える	カンガエモダエル	不明	同上。
考え求める	カンガエモトメル	不明	同上。
考え物	カンガエモノ	不明	同上。

考える	カンガエル	不明	「処(か)-むかふ(下二)」説と、「勘」の字音に由来するとする説がある。新潮国語は平仮名表記とするが、和語と認定したのか語源未詳と見たのかは不明である。
かんじき	カンジキ	不明	「寒敷き」かとも思われるが確かでない。新潮国語は「かんじき」と平仮名表記する。
かんてき	カンテキ	漢	七輪を意味する関西方言。癩癩もちの意の「癩癩(かんへき)」の訛った「かんてき」が「(火が)おこりやすい」という洒落を介して道具の名前に転用されたとする説に従う。
鉄穴	カンナ	和	「かなあな」の音便形。
葛蔓	カンネンカズラ	不明	「寒根鬘」の転かとも考えられるが、詳細は不明である。
ぎこちない	ギコチナイ	不明	「ぎごつない」より転じた語とされる。「ぎこつ」が漢語であることはほぼ間違いないと思われるが、該当する漢語として、「詰屈(きつくつ)」「気骨」など諸説がある。新潮国語は平仮名表記で、語源未詳として扱っているものと見られる。混種語の可能性が高いが、一応不明としておく。
キスネビツ	キスネビツ	不明	「米櫃」の意の方言。「け(食)-しね-櫃」と見られるが「しね」が不明である。或いは「稲(しね)」かとも思われるが、一応語源未詳としておいた。
ぎつちよ	ギツチョ	不明	「左ぎつちよ」の略。「左器用」の転とも、「左毬杖(ぎつちよう)」(毬杖は球子(きゅうし)を打つための木製のスティック)の転ともいうが未詳。
木櫃	キツツ	和	「木・櫃」の略と見てよい。
狐井	キツネドンブリ	和	「どんぶり」は、「どんぶり鉢」の略で、ものが水中に投げ込まれた際の擬音語「どんぶり」「どぶり」に由来する語。
奇天烈	キテレツ	不明	「奇妙奇態(キミョウキタイ)」と「奇妙伍天連都(キミョウゴテレツ)」のコンタミネーションとする説が有力。但し、「伍天連都(ゴテレツ)」については、「ごてる奴」の転と言うが、詳細は未詳である。
規那	キナ	外	植物名。オランダ語kinaから。
きな臭い	キナクサイ	不明	「衣(きぬ)臭い」の転とする説が有力である。但し、「衣(きぬ)臭い」という語の存在が確認されないため、語源未詳としておく。
伽羅	キャラ	外	梵語の音写。
牛井	ギユドン	混	「どん」は「どんぶり」の略。「どんぶり」は、「どんぶり鉢」の略で、ものが水中に投げ込まれた際の擬音語「どんぶり」「どぶり」に由来する語。
きょうら	キョウラ	和	「きよら」の転とする説に従う。
木杵	キワク	不明	「杵」は語源不明。簀(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
傀儡	クグツ	不明	莎草(くぐ)など編んだ「くぐつ」と呼ばれる袋を持っていたことによるとする説などがあるが、詳細は不明である。
俱舎	クシャ	外	梵語の音写。
口杵	クチワク	不明	「杵」は語源不明。簀(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
口説き落とす	クドキオトス	不明	「口説く」が不明語のため、不明語として扱う。「口説く」の項を参照。
口説き立てる	クドキタテル	不明	同上。

口説く	クドク	不明	新潮国語は「口(ク) 説く」の意と見て「クどく」とするが、日本国語大辞典には、他に「くどい」「くどくど」などと同源か」との説を掲げる。「くどくど」と関連ある語として「くだくだ」が古くから使用されており、「くだ」については「くだいて言う」などの「くだく」との関連も想定される。
苦無	クナイ	不明	忍者が使用した武器の名。「苦無」は当て字だろう。
熊襲	クマソ	和	本来は地名で、古代の地名「クマ」と「ソ」との複合した形であったものが(肥後国球磨郡、大隅国贈於郡に比定される)、そこに住んだ種族名に転じたもの。所謂大和言葉である保証はないが和としておく。
茱萸	グミ	和	「刺(くい)」の多い木になる果実の意「クイミ」の転、「含実(くくむみ)」の転、「黄実(きみ)」の転など諸説あるが、いずれにしても和語であろう。
車枠	クルマワク	不明	「枠」は語源不明。簀(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
黒豚	クロブタ	不明	「ぶた」は一般に和語と見られているが、「ゑのこ」と「ゐのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ボタン」(牡丹の転用)から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。
黒枠	クロワク	不明	「枠」は語源不明。簀(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
ゲオビツ	ゲオビツ	和	「米櫃」の意の方言。「け(食) お櫃」と見てよい。
怪我	ケガ	不明	「怪我」は当て字。「けがれる(汚)」の語幹かというが未詳。或いは仏語の「仮我」からかとも考えられる。
怪我負け	ケガマケ	不明	「怪我」が不明語のため、不明語として扱う。
袈裟	ケサ	外	「濁」の意の梵語の音写。
けち	ケチ	不明	本来は「けちがつく」などのように、「不吉なこと」「縁起の悪いこと」の意であり、「怪(け)」との関連が想定されるがはっきりとしない。
けちる	ケチル	不明	名詞「けち」からの派生動詞と考えられる。「けち」は不明語とした。「けち」の項を参照。
検見	ケミ	不明	混種語「検見(ケンミ)」の撥音無表記とも、又「検」の字音に母音が添加した「ケミ」の転ともいい、いずれとも決せられない。
毛むくじゃら	ケムクジャラ	不明	「じゃら」は語源・歴史的仮名遣いともに未詳。
けんけん	ケンケン	不明	「片足とび」の意。語源未詳。
ケンツケ鳥	ケンツケドリ	和	「ケンツケ鳥」。闘鶏に用いる鶏を指す語と見られ、「けんつけ」は「蹴付」の転と考えられる。
けんりょ	ケンリョ	漢	ケンリョ節。伊勢の「松坂くずし」が越後に入り松崎謙良が編曲し広めたといわれる。
こうこ	コウコ	不明	漬物の意。「香(かう)」の疊語「こうこう」の転とも、「香(かう)」に接尾語「こ」が付いた語とも言う。
ごうごう	ゴウゴウ	不明	方言。「御御」など一応想定できるが、不明としておく。
高慢ちき	コウマンチキ	不明	「ちき」については諸説あり、「痴気」とも、「的(テキ)」の転とも、和語の接尾語とも言うが、詳細は不明である。
甲羅	コウラ	不明	字音語「甲(コウ)」に接尾「ら」が付いたと見る説、「瓦(かわら)」の音便「かうら」に由来する語と見る説とがあり、いずれとも決せられない。新潮国語には「コウら」とあり、前者の説に従うようである。

梱る	コウル	混	「行李（コウリ）」が活用した語と見る説と、「梱（こ）る」の転じた語と見る説とがある。但し、古く「梱（こ）る」の存在が確認されないため、逆に「梱（こう）る」が「梱（こ）る」に転じたと見る説もあって有力である。「梱（こう）る」を「行李」が活用した語とし、「梱（こ）る」を「梱（こう）る」の転と見る前者の説に従った。
こぎん	コギン	不明	弘前付近の郷土工芸「こぎん刺し」の一部として用いられたもの。「こぎん」は語源未詳。
極く極く	ゴクゴク	漢	極字の呉音から。
こけし	コケシ	不明	「木でできた芥子人形」の意の「木芥子人形」の略語で、「木（こ）芥子」と見る説が有力である。但し、民間語源も含め諸説あるため、一応語源未詳と看做した。
ごこ	ゴゴ	不明	方言。「御御」など一応想定できるが、不明としておく。
こじつけ	コジツケ	不明	新潮国語は平仮名表記した上で、「「故事つける」の意か」と注記する。混種語である可能性が高いが、一応語源未詳として扱った。
こじつける	コジツケル	不明	同上。
狐狗狸	コックリ	和	「狐狗狸」は当て字で、ものが傾くさまをいう擬態語「こっくり」から生じた語とする説が妥当だろう。理学博士増田英作が吉原でこれを実演した「告理」も、当て字と見てよい。
コテンパン	コテンパン	和	「こてんこてん」「こつてり」などと同源の「こてん」に口調を合わせるための「ばん」が付いた形と見て問題ないだろう。
琴柱	コトジ	混	新潮国語は「ことじ」と平仮名表記。「じ」は「柱」と見られる。「柱」は、琴では「ヂ」だが琵琶では「チュウ」という。
ゴト師	ゴトシ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
子豚	コブタ	不明	「ぶた」は一般に和語と見られているが、「ゑのこ」と「ゐのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ボタン」（牡丹の転用）から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。
護摩	ゴマ	外	梵語の音写。
ごまかし	ゴマカシ	不明	「護摩を焚く」などの「護摩」に接尾語「かす」がついたとする説、胡麻をまぶした団子を油で揚げた胡麻団子、胡麻菓子が、その中空であるところから、虚偽の意の名詞「ごまかし」に転じ、更に動詞形を派生させたとする説とがある。
ごまかす	ゴマカス	不明	同上。
ごろた	ゴロタ	不明	擬音語「ころころ」「ごろごろ」の「ごろ」に接尾語「た」が付いたものか。
こんがらかる	コンガラガル	不明	本来は「こぐらかる」。「煮凝り」などに残る「こごる」という動詞に接尾「かる」が付いた形「こごらかる」があり、「こんがらかる」は、それが様々に訛ったものの1つかとも考え得る。因みに「こごる」自体に、「こんがらかる」の意がある。但し、「こごらかる」の形は確認されず、語源未詳として扱った。
ごんご	ゴンゴ	不明	方言。「御御」など一応想定できるが、不明としておく。

巨頭	ゴンドウ	不明	ゴンドウクジラ。新潮国語は、見出しを「ゴンドウくじら」とするが、「（「ごんどう」は「ごとう」のなまりか）」と注記する。ここでいう「ごとう」は「五島（列島）」と見られる。「五島くじら」説は日本国語大辞典などにも採られており、有力説と見られるが、一応語源未詳とする。
昆布	コンブ	外	アイヌ語kombuに由来する語。「昆布」は当て字。
サアヤ	サアヤ	外	ポルトガル語sáiaから。
サイヨレー	サイヨレー	和	若狭地方で肩車を意味する方言。本来祭りで神輿を担ぐ際の掛け声に由来する語で、「幸（さち・さき）寄れ」の転とされる。
酒杜氏	サカトウジ	不明	「杜氏」については、酒造の創始者と伝えられる「杜康」の名からとも、年長女性の呼称である「刀自（とじ）」からともいわれるが、詳細は未詳である。
逆蜻蛉	サカトンボ	不明	「とんぼ」は語源未詳。日本国語大辞典には、「語源未詳で、歴史的かなづかいも不明確であるが、室町時代までの表記が「とうぼう」のように「ぼう」であって「ぼう」でないところから「とうぼう」とする。なお、「とぼう（蜻蛉）」を「とばふ」であるとし、これに「う」音が添って「とうばふ」（さらに「とんばふ」）となったとする説もある」とある。
鮭	サケ	外	日本国語大辞典では、「アイヌ語「シャケンベ（夏食）」からという」としてアイヌ語説を採る。新潮国語の見出語表記は「さけ」だが、（アイヌ語からともいう）と注記する。身の赤いことから「酒」の転用と見る説、塩気が強いところから「塩気」の転と見る説など、和語起源の説もあるが、アイヌ語源説に従ってよいだろう。
サボテン	サボテン	不明	日本国語大辞典には「スペインsapotenからとも、ポルトガルsābaoと「手」が複合して転じたものともいう」とある。
朱欒	ザボン	外	ポルトガル語zamboaから。
鞘師	サヤシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
娑羅	サラ	外	梵語の音写。
更紗	サラサ	外	ポルトガル語saracaから。
猿楽	サルガク	漢	日本国語大辞典には「「さんがく（散楽）」の変化という。また、「さるめ（猿女）」との関係もあるとする説もある」とあるが、一般には「散楽」の転とする説がほぼ通説化している。
サルマカ	サルマカ	不明	「肩車」のこと。「さる」は「猿」と見られるが「まか」については詳細は不明である。
ザン	ザン	不明	「ザンヌイユ」の略か。
棧留	サントメ	外	棧留縞。本来インドのサントメから将来された縞織りの綿布の称であったが、縞縞で赤或いは浅黄のまじった布一般を称するに至った。地名サントメは、ポルトガル語の「聖トマスSão Thomé」に由来する。
ザンヌイユ	ザンヌイユ	不明	儒艮（じゅごん）の沖縄方言。語源未詳。
三昧	サンマイ	外	梵語の音写。
三昧耶	サンマヤ	外	梵語の音写。
牛尾菜	シオデ	外	アイヌ語起源とする説に従う。
塩豚	シオブタ	不明	「ぶた」は一般に和語と見られているが、「ゑのこ」と「ゐのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ポタン」（牡丹の転用）から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。

閥値	シキイチ	混	漢語「閥値（イキチ）」を誤って湯桶読みした語。
しだらない	シダラナイ	不明	「しだら」は、「自堕落（じだらく）」からとも、梵語の「修多羅」（秩序の意）からともいう。
下枠	シタワク	不明	「枠」は語源不明。簍（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
悉曇	シッタン	外	梵語の音写。
しっちゃかめっ ちゃか	シッチャカメッ チャカ	不明	奈良時代の弦楽器で弦が23本もあり名人以外には演奏が困難であったとされる「弛衣茶伽（ちいちゃか）」に由来するとする説、戦前の料亭や芝居の世界で使われていた「不器量な女性」を意味する隠語「しっちゃか面子」に由来するとする説などがある。
ジャガイモ	ジャガイモ	混	「ジャガタラ芋」の略。「ジャガタラ」はジャガルタのオランダにおける古名。
しゃかりき	シャカリキ	不明	一般に「釈迦力」という語源説が受け入れられているが確かでない。
しゃぎり	シャギリ	不明	「砂切り」とも、「さえぎり」の転ともいうが詳細は未詳である。
シャチホコ	シャチホコ	不明	「鯨（しゃちほこ）」は、魚群を追って泳ぐため、その前方に魚群がいることが多く、漁師が、海面上に矛のように突き出た鯨の背びれを追って船を移動させることから、「（海の）幸（しゃち）（に導く）矛」名付けられたという説があるが、確かでない。
鯨立ち	シャチホコダチ	不明	「しゃちほこ」が不明語のため、不明語として扱う。「シャチホコ」の項を参照。
鯨張る	シャチホコバル	不明	同上。
娑婆	シャバ	外	梵語の音写。
しゃぶ	シャブ	不明	アンプルの水溶液を振る擬音語からとも、英語のshave（削る、薄くそぐ）からとも、又、「骨までシャブる」から来たともいうが、詳細は不明である。
しゃぶ中	シャブチュウ	不明	「シャブ」が不明語のため、不明語として扱う。
沙弥	シャミ	外	梵語の音写の略。
軍鶏	シャモ	外	タイの旧称「シャムロ」から。
沙門	シャモン	外	梵語の音写。
舍利	シャリ	外	梵語の音写。
戎克	ジャンク	外	英語junkから。
じゃんけん	ジャンケン	漢	新潮国語は「じゃんけん」とするが、近世中国語の「石拳（じゃんけん）」を語源と看做す説がある。地方によって「いしけん」「しゃりけん」などとも言うようであり、この説に従った。
じゃんこ	ジャンコ	不明	「あばた」の意。語源未詳。
繻珍	シュチン	不明	ポルトガル語setimからとも、中国語「七糸緞」からともいうが、いずれとも決せられない。
修羅	シュラ	外	梵語の音写「阿修羅」の略語。
悄気返る	ショゲカエル	和	「しよげる」は和語と認める。「しよげる」の項を参照。
悄気込む	ショゲコム	和	同上。
悄気る	ショゲル	和	「しよげる」という形も認められるが、新潮国語には「悄気」は当て字とある。「しよげ」は、「塩気（しおけ）」の転で、それが活用語に転じたものだろう。
しょっちゅう	ショッチュウ	不明	「初中後（しよちゅうご）」の約語の変化した語かという説がある。新潮国語は平仮名表記とする。

じょんがら節	ジョンガラプシ	和	じゃんがら念仏などのジャンガラと同源で、鉦を打ち鳴らす擬音からきた語と見なして和語とする。
白太	シラタ	不明	丸太の白い部分。「タ」は「マルタ」の「タ」だろうが出自がはっきりしない。
白豚	シロブタ	不明	「ぶた」は一般に和語と見られているが、「ゑのこ」と「みのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ボタン」（牡丹の転用）から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。
しんどい	シンドイ	混	「心労（しんろう）」が形容詞化した語より転じたもの。混種語と看做す。
芋茎	ズイキ	不明	民間語源説としては、夢窓国師の「いもの葉に置く白露のたまらぬはこれや随喜の涙なるらん」という和歌によるというものがある。
ずい菜	ズイナ	不明	語源未詳。
図々しい	ズウズウシイ	不明	「図に乗る」「図に当たる」などの「図（ず）」の疊語に由来すると見る説があるが確かでない。或いは、「ず」は、「図抜ける」「図外（ずはずれ）」「図太い」などに見える接頭語と見て、その疊語が形容詞化したものと見た方がよいかとも考えられる。因みに、接頭語「ず」（歴史的仮名遣いは「づ」か）は、「ど偉い」「どぎつい」「度肝」「ど吝嗇」「ど根性」「ど真ん中」などに見えるの接頭語「ど」と関連付けることが可能である。
すかたん	スカタン	不明	「すか」は「透（すか）」などと同源だろう。「たん」は「あんぽんたん」などに見える接尾の要素だが、語源については未詳である。
素寒貧	スカンピン	不明	「す」は接頭語で「極貧」の意の「寒貧」を強めた語、とする通説があるが、「寒貧」の初出が「素寒貧」に相当遅れることから、一説に、「すっかり貧」の転とする。新潮国語は「素寒貧」を当て字とする。
すかんぼ	スカンボ	不明	「酸（す）し」の「す」に生薬名の「酸摸（サンモ）」が付いた「スサンモ」が順行異化した語かとも考えられるが、詳細は不明である。
助惣	スケソウ	不明	鱈の名。「すけ」は鮭の一種をいう語かとする説がある。ソウ、トウは当て字でなく、スケの仲間（党、惣）の「鱈」ということかとも考えるが、尚詳細は不明である。
介党	スケトウ	不明	鱈の名。「すけ」は鮭の一種をいう語かとする説がある。ソウ、トウは当て字でなく、スケの仲間（党、惣）の「鱈」ということかとも考えるが、尚詳細は不明である。
スッポン	スッポン	不明	川に飛び込んだときの音に由来するとする説、漢語「出沒」より転じたとする説、又、ポルトガル語源説など多くの語源説があるが、いずれも確かなものではない。
素敵	ステキ	混	「素」は当て字で、「すばらしい」の「す」に接尾語の「的」が付いて一語化したものという。
図逆上せる	ズノボセル	和	接頭語「ず」（歴史的仮名遣いは「づ」か）は、「ど偉い」「どぎつい」「度肝」「ど吝嗇」「ど根性」「ど真ん中」などに見えるの接頭語「ど」と関連づけることが可能である。
ずべら	ズベラ	不明	「ずばら」の転か。「ずばら」については、大坂堂島で米相場がずるずる下がることをいった擬態語「ずんべらぼん」の転、破戒坊主を嘲笑って「ずぼう」（「ぼうず」の転倒語）と言ったものの転など、諸説があるが、いずれも確かでない。

ずぼら	ズボラ	不明	大坂堂島で米相場がずるずる下がることをいった擬態語「ずんべらぼん」の転、破戒坊主を嘲笑って「ずぼう」（「ぼうず」の転倒語）と言ったものの転など、諸説があるが、いずれも確かでない。
ずわい蟹	ズワイガニ	和	「ずわい」は「木の枝」の意の「すわえ」の転とする説に従った。
寸切り	ズンギリ	混	「髓（ズイ）切り」の転という説に従う。
寸胴	ズンドウ	不明	新潮国語には「寸胴は当て字」とあり、平仮名表記である。但し、和語と認めたのか、語源未詳として扱ったものなのかは不明である。擬音語の「ずどん」などと関連ある語かとも思われるが、確かでない。
せき	セキ	漢	「もう手を施すせきが無い」などの「せき」で、「余地がない」の意で用いられる。岩波現代国語では、「席」か」と保留つきであるが、日本国語大辞典では「席」の項目の1ブランチとして扱われている。
節介	セツカイ	混	すり鉢の窪みの部分にたまった滓などを掻きだすための器具、「切匙（セツかひ）」に由来する語であり、「節介」は当て字とする説に従う。
摂氏	セッシ	混	「摂」は、考案者セルシウスの中国語音写「摂爾思」による。
刹那	セツナ	外	梵語の音写。
背広	セビロ	外	日本国語大辞典は、「背広」を当て字とし、「市民服の意の英語civil clothesから、セビロ服を売りだした店のあるロンドンの高級洋服店街Savile Rowから、良質の羊毛・服地の産地Cheviotから」などの諸説を引く。いずれにしても外来語と見てよい。
蟬	セミ	不明	「セミ」は、その鳴き声を表す擬音語からとも、蟬の字音からとも言うが語源未詳である。因みに「蟬」字はn韻尾字で、セミとは直接はつながらない。
蟬時雨	セミシグレ	不明	「蟬」が不明語のため、不明語として扱う。「蟬」の項を参照。
蟬捕り	セミトリ	不明	同上。
闍提	センダイ	外	梵語の音写「一闍提」の略。
旃陀羅	センダラ	外	梵語の音写。
薇	ゼンマイ	不明	「千巻き」の転、「銭巻き」の転など、いずれも混種語である点では一致するが、諸説あって特定されない。
発条	ゼンマイ	不明	「発条（ぜんまい）」は植物の「薇（ぜんまい）」に形状が似るところからの命名である。ただし「薇」の語源については不明。「千巻き」の転、「銭巻き」の転など、いずれも混種語である点では一致するが、諸説あって特定されない。
僧伽	ソウガ	外	梵語の音写。
僧祇	ソウギ	外	梵語の音写。
そうけ	ソウケ	和	新潮国語は「総毛」と認め「ソウけ」とするが、「寒気（さむけ）」の転とする説が有力である。後者の説にしたがい、和語と認める。
総枠	ソウワク	不明	「枠」は語源不明。簍（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
増枠	ゾウワク	不明	同上。
底枠	ソコワク	不明	同上。
ぞっき本	ゾッキボン	不明	「ぞっき」は、「ひとまとめ」の意の方言からとも、「殺（そ）ぎ屋」からとも言うが、尚不明である。
卒塔婆	ソトバ	外	梵語の音写。

外杵	ソトワク	不明	「杵」は語源不明。簀（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
算盤	ソロバン	漢	「算盤」の唐音「ソワンバン」の転という説に従う。
ぞんざい	ゾンザイ	不明	「粗雑」の転、「存在」から転じた語、などの語源説があるが、いずれも確証を欠く。漢語起源である可能性は高いが、一応不明とする。新潮国語にも「ぞんざい」と平仮名表記で立項されている。
橙	ダイダイ	不明	果実が冬期には黄色に熟し、翌年の夏にまた緑色にもどることから「代々」と名付けられたとも、また、「橙」の字音の転とも言うが、確かなことはわからない。新潮国語も平仮名表記である。
橙色	ダイダイイロ	不明	「橙」が不明語のため、不明語として扱う。
竹蜻蛉	タケトンボ	不明	「とんぼ」は語源未詳。日本国語大辞典には、「語源未詳で、歴史的かなづかいも不明確であるが、室町時代までの表記が「とうぼう」のように「ぼう」であって「ぼう」でないところから「とうぼう」とする。なお、「とぼう（蜻蛉）」を「とばふ」であるとし、これに「う」音が添って「とうばふ」（さらに「とんばふ」）となったとする説もある」とある。
竹杵	タケワク	不明	「杵」は語源不明。簀（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
達陀	ダッタン	外	梵語の音写。
達磨	ダツマ	外	梵語の音写。
殺陣師	タテシ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
種豚	タネブタ	不明	「ぶた」は一般に和語と見られているが、「ゑのこ」と「ゐのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ポタン」（牡丹の転用）から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。
茶毘	ダビ	外	梵語の音写。
たまじ	タマジ	混	‘小玉のジャガイモ’の意。「ジャガイモ」の「ジャガ」はジャカルタの古名「ジャガタラ」に由来する。
タマン	タマン	不明	ハマフエフキ（浜笛吹）の沖縄方言。「鯛（たひ）」と関連あるかとも思われるが、詳細は不明である。
陀羅	ダラ	外	梵語の音写「陀羅尼」の略。
だらし	ダラシ	不明	「しだら」の転倒語。「しだら」については、「自堕落（じだらく）」の略とも、梵語で‘秩序’を意味する「修多羅」からともいうが、詳細は不明である。
陀羅尼	ダラニ	外	梵語の音写。
たらんぼ	タランボ	和	「タラの穂」の転。
達磨	ダルマ	外	梵語の音訳。本来は‘法’の意の一般名詞である。
たわい	タワイ	不明	いずれの辞書も「たわい」が本来の形で「他愛（たあい）」は当て字とする。‘手応え’や‘ひねり’という意味から見て、和語「たわみ」から転じた語である可能性が高いとは思われるが、一応語源未詳と見ておく。
檀越	ダンオチ	外	梵語の音写。
たん瘤	タンコブ	不明	「たん」は語源不明。赤色を表す「丹」の字音からとも、ものをうちたたく際の擬音語からとも言うが、いずれも確かでない。
段通	ダンツウ	漢	漢語「毯子」の宋音に由来する語。
旦那	ダンナ	外	梵語の音写「檀那波底」の略。

段平	ダンピラ	不明	新潮国語は「ダンびら」とするが、「太広平（だびろびら）」の転かとする説が有力である。「だ」は強意の接頭語で和語と見てよく、「太広平（だびろびら）」説に拠れば和語と認定されるが、尚検討を要する。
たんぼ	タンボ	不明	タンボ槍の「タンボ」。語源未詳。
たんま	タンマ	和	「待った」の転倒語とする説に従う。
ちえすと	チェスト	不明	示現流の掛け声。語源未詳。
ちぐはぐ	チグハグ	不明	金槌を意味する「鎮具（チグ）」と釘抜きを意味する「破具（ハグ）」とを交互に使うさまを言う語とする説があるが、確かでない。揃いの道具が散在するさまをいう「一具（イチグ）はぐれ」という語があり、その略とも考えられるが、尚検討を要する。
ちちんぷいぷい	チチンブイブイ	不明	「智仁武勇（ちじんぶゆう）」の訛り、真言の一部の訛り、おならの音を表す擬音語の転などさまざまな説があるが、いずれも確かな説ではない。
茶宇	チャウ	外	インドのチャウル地方に由来する名称。
茶化す	チャカス	不明	「茶にする」などに関連のある語であると考えられる。但し、「茶にする」という表現自体の由来が不明であり、「茶tea」との関連も未詳である。或いは「水をさす」などに関連するか？因みに、「ちゃ」は他にも「ちゃちゃを入れる」「ちゃを言う」などの表現でも用いられる。新潮現代国語は「チャカす」とする。
ちゃち	チャチ	不明	現代中国語の「差勁」の転じた語、「チャカす」などと同様「茶」に由来する語など、さまざまな語源説があるが、尚詳細は不明である。
チャボ	チャボ	外	紬（つむぎ）風の太糸の称。インドシナ半島の地名「チャンパ」に由来する。
ちゃらかす	チャラカス	不明	ことを冗談にしてはぐらかしてしまうことを指す表現「お茶にする」に類似の表現「お茶繰る」「お茶に化かす」の存在を想定し、それが「おちよくる」「おちやらかす」などの語を派生したとする説があるが確かでない。
ちゃらんぼらん	チャランポラン	不明	「ちゃらほら」より転じた語。「ちゃらほら」は「ちゃら法螺」で、「ちゃら」は口から出任せを言う様子を言う語であり、他に「おちやらせる」「ちゃらかす」などといった語に見える。これを一種の和語の擬態語と見る説もあるが、「お茶にする」などの表現と関連付ける説もあって、尚検討を要する語である。「法螺（ほうら）」の転で漢語であるが、「ちゃら」が不明語であるため、不明語として扱う。新潮国語の見出しは「ちゃらんぼらん」である。
茶利	チャリ	不明	「ちやる」の連用形の名詞化形で、「利」は当て字と見られる。「ちやる」は「ちゃかす」などと同様「茶」との関連が想定される語であるが、尚確かではない。新潮国語には、「チャリ」とあるが、語性などについては「未詳」とする。
ちゃんころ	チャンコロ	不明	日本国語大辞典は、「「ちゃんちゃん」と同語源の語か。または、中国語のzhōngguó rén（「中国人」の意）からか」と注記する。因みに「ちゃんちゃん」については、同じく「中国、清時代のふうの服装をして江戸の町中を、鉦（かね）をちゃんちゃんたたきながらあめを売り歩いていた者の、その鉦の音から出た語という」とある。

ちゃんぽん	チャンポン	不明	中国福建省で簡単な御飯を意味する「喰飯（シャンボン）」から転じた語とする説、食材などを混ぜる意のマレー語「チャンプール」に由来するとする説、「撓和」の中国音から転じた語とする説などがあるが、チャンポン、チャンプールなど、東アジア一帯に広く使用される語で、本来の起源ははっきりしない。新潮国語は、「チャンポン」と片仮名表記し、「撓和」か」と注記する。
猪牙	チョキ	不明	「猪牙船」。ほっそりした形が猪の牙に似ているところから言った名、櫓をこぐ擬音語から、長吉という男が押送舟を真似て作り長吉舟と名付けたものから転じた語、など諸説あるが、いずれも確かでない。新潮国語は「ちょきぶね」とする。
猪口	チョコ	不明	形状が猪の口に似るところから、という説もあるが、「猪口」は当て字と見る説が有力である。古くは「チョク」であり、「鍾」の呉音、或いは福建音、朝鮮漢字音に由来する語かともいわれるが、詳細は不明である。
ちょっかい	チョッカイ	不明	「ちょっ」は「ちよつと」の意、「かい」は「掻き」というが確かではない。新潮国語は平仮名表記であるが、和語と認定したものか、語源未詳として扱っているのかは不明である。
チョベリバ	チョベリバ	混	「超-very bad」の略。
草石蚕	チョロギ	不明	ミミズを意味する朝鮮語「チョロンイ」が転じた語とも、「朝に露が落ち地中にできた球根」の意味するという漢名「朝露葱」の重箱読みともいうが、いずれとも決せられない。
ちょんがれ	チョンガレ	不明	天保年間に願人坊主が歌った「弔歌連」が訛った語、或いは蝶が浮かれ舞うような節という意で「蝶浮かれ」とよばれたことに由来する語などの説があるが、いずれも確かでない。
ちょんきな	チョンキナ	不明	狐拳の一種の掛け声、「ちょんきなちょんきな、ちょんちょんきな、ちょんがなのはで、ちょんがのほい」の一部。
狎	チン	不明	「狎」は中国の民族名を表す文字であるが、これは偶合で、国字だろう。よみについては、「中」の近世中国音の転じたもの、或いは、「ち（小）いぬ」の転などの説があるが不明である。新潮国語は、「中」の近世中国音の転じたものか、とするが、見出しは平仮名表記で「ちん」とする。
丁幾	チンキ	外	オランダ語tinctuurから。
狎くしゃ	チンクシャ	不明	「狎」は語源不明。「狎」は中国の民族名を表す文字であるが、これは偶合で、国字だろう。よみについては、「中」の近世中国音の転じたもの、或いは、「ち（小）いぬ」の転などの説があるが不明である。新潮国語は、「中」の近世中国音の転じたものか、とするが、見出しは平仮名表記で「ちん」とする。
ちんけ	チンケ	不明	「ち」は、賽子（さいころ）博打で「一」を意味する「チ」に由来する語とされる。
狎ころ	チンコロ	不明	「狎」は語源不明。「狎」は中国の民族名を表す文字であるが、これは偶合で、国字だろう。よみについては、「中」の近世中国音の転じたもの、或いは、「ち（小）いぬ」の転などの説があるが不明である。新潮国語は、「中」の近世中国音の転じたものか、とするが、見出しは平仮名表記で「ちん」とする。
ちんちくりん	チンチクリン	不明	一休諸国話などに載せる竹林坊の話など、諸説あるが、いずれも俗説の域を出ない。
跛	チンバ	不明	「ちんば」は語源未詳。

ちんぴら	チンピラ	不明	大阪方言でスリを表す俗語「ちんぺら」の転というが、「ちんぺら」の語源が未詳である。
ちんぴら役	チンピラヤク	不明	「ちんぴら」が不明語のため。不明語として扱う。
ちんぷんかん	チンプンカン	不明	近世語。近世中国語或いはオランダ語などの響きを表した一種の擬音語かと言われるが不明である。
ちんぷんかんぷん	チンプンカンブン	不明	「チンプンカンブン」は「チンプンカン」のヴァリエーションと見てよいだろう。「チンプンカン」は近世中国語或いはオランダ語などの響きを表した一種の擬音語かと言われるが不明である。
ちんぽ	チンポ	不明	男性器。古くは男性器全般をさした「きんたま」の幼児語「ちんたま」乃至「ちん」に接尾語の「こ」「ぽ」「ぼ」などが付いたとする説があり、「きんたま」については「酒(き)の玉」乃至「気だまり」の転とされる。又、「ちっこい」の略が、「背の低い人」を表す「ちっこ」となったのと同様、幼児語で「ちいさいもの」の意で用いられた「ちっこい」の略が一般化したとする説もある。
でかい	デカイ	和	「いかい」の強調形「どいかい」の転とも、「でかす」の連用形「でかし」が形容詞に転じた語とも言われる。いずれにしても和語と見てよい。
でかでか	デカデカ	和	「でかい」の語幹の疊語。「でかい」については、「でかい」の項を参照。
木偶	デク	不明	「手くぐつ」の転、「出狂い」の転、又「泥偶(デイグウ)」の転など、諸説があるが、いずれも確かな説ではない。
木偶の坊	デクノボウ	不明	同上。
でっかち	デッカチ	和	形容詞「でかし」の強調形か。但し、「でかい」は、「いかい」の強調形「どいかい」の転とも、「でかす」の連用形「でかし」が形容詞に転じた語ともいわれ、いずれにしても和語と見てよい。
鉄枠	テツワク	不明	「枠」は語源不明。𩇛(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
でぶ	デブ	和	「出っ張る」の転じた、「でっぷり」「でぶでぶ」という擬態語に由来するとする説が有力である。異説もなく和語と認めた。
擬土	デモツチ	不明	建築用語。詳細未詳。
天草	テングサ	不明	「トコロテン草」の略。「ところてん」については、「こころぶと(心太)」を訛ってよんだ「こころてい」から転じた語かとされるが、確かでない。
でんぐり返し	デングリガエシ	不明	「でんぐり」は語源未詳。
でんぐり返る	デングリガエル	不明	同上。
天こ盛り	デンコモリ	不明	「てんこ」については、「頂上」を意味する方言「てんこつ」に由来するという説が有力であり、「頂上」の意の「てんこつ」は「天骨」に由来するとされる。但し、「天骨」の本義と「頂上」との意味上の開きが少し大きいようにも思われる。新潮国語は「デンこもり」としており、「てん」を「天」と認めた上で、「こ」を接尾語と考えているようだ。尚検討を要する。
天井	テンドン	混	「どん」は「どんぶり」の略。「どんぶり」は、「どんぶり鉢」の略で、ものが水中に投げ込まれた際の擬音語「どんぶり」「どぶり」に由来する語。
天麩羅	テンプラ	外	ポルトガル語で「調理」を意味するtempero、或いは、鳥獣の肉を食べることを避け魚肉を揚げたものを食べると定められていた日を指すtemploに由来する語とされる。いずれにしても外来語と見てよい。

礬水	ドウサ	不明	オランダ語起源とも、「陶砂」ともいうが、詳細は不明である。
杜氏	トウジ	不明	酒造の創始者と伝えられる「杜康」の名からとも、年長女性の呼称である「刀自（とじ）」からともいわれるが、詳細は未詳である。
藤四郎	トウシロウ	和	「素人（しろうと）」を転倒した造語。和語として扱う。
塔婆	トウバ	外	梵語の音写「卒塔婆」の略。
唐変木	トウヘンボク	不明	「唐の変な木偶（でく）」の転とする説、「唐人・変人・木人」の略とする説など諸説あるが、いずれも確かでない。
同粹	ドウワク	不明	「粹」は語源不明。簾（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
トースカン	トースカン	不明	工具の名。語源未詳。
研師	トギシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
心太	トコロテン	不明	「こころぶと（心太）」を訛ってよんだ「こころてい」から転じた語かとされるが、確かでない。
泥鰌	ドジョウ	不明	「泥」の「ど」、「うお」の「う」などとの関係が想定されるが、詳細は未詳である。
兜率	トソツ	外	梵語の音写。
どっこい	ドッコイ	不明	「何処へ」が「どこい」を経て、掛け声の一種に転じた語とする説があるが、尚詳細は不明である。
とっぱい	トッポイ	不明	「大きい」「太い」を意味する香具師・的屋言葉に由来するという説があるが、確かでない。「利口」「ずる賢い」などの意味との関連から、形容詞「利（と）し」との関連も想定されるが、詳細は不明である。
どでかい	ドデカイ	和	「でかい」は、「いかい」の強調形「どいかい」の転とも、「でかす」の連用形「でかし」が形容詞に転じた語とも言われる。いずれにしても和語と見てよい。
土手っ腹	ドテッパラ	不明	新潮国語に、「「布袋（ほてい）腹」の転か」とするが、尚詳細は不明である。
ドドンパ	ドドンパ	混	日本国語大辞典には、「日本でつくられたとする説、フィリピンからはいったとする説、コンガのリズム音からという説などがある」と注記する。一般に行われている説では「都都逸+ルンパ」説が有力で、仮にこの説に従う。「都都逸」自体は、天保年間に江戸の都都逸坊扇歌が新たに作詞改曲したもので、名前も都都逸坊に由来する。
土鳩	ドバト	不明	寺社等に多く見られる鳩を言う。「土鳩」は当て字で「堂鳩」「塔鳩」の転とする説が有力である。いずれにしても混種語となるが、語源未詳の語として扱い語種不明とする。新潮国語は、「どばと」とするが、「土鳩」という表記についての注記などは見られない。
どぶろく	ドブロク	漢	醪混じりの濁酒を指す「濁醪（だくらう）」の転とする説が有力である。異説もなく漢語と認めた。
どべ	ドベ	和	強意の接頭語「ど」に「尻」の意の「ベ」が付いた語。
どら	ドラ	不明	「どら息子」などの「どら」。「のらりくらり」などに見られる「のら」の転とする説、「泥（どろ）」の転とする説などが有力である。「金（かね）尽く」から生じた「銅鑼（ドラ）付く」という一種の地口に由来する説は、俗説と見てよい（但し「銅鑼（ドラ）付く」という表現は存在する）。詳細は尚不明で、語源未詳の語として扱う。

トライパリン	トライパリン	不明	牛乳パックと王冠で作る楽器の名。語源未詳。
泥棒	ドロボウ	不明	「どろ（盗）坊」説、「とりうぼう（取奪）」の転とする説など諸説あるが、いずれも通説となるにいたっていない。
井	ドン	和	「どんぶり」の略。「どんぶり」は、「どんぶり鉢」の略で、ものが水中に投げ込まれた際の擬音語「どんぶり」「どぶり」に由来する語。
どんがら	ドンガラ	混	「胴殻（どうがら）」に由来すると説く説が有力である。異説もなく混種語と認めた。
団栗	ドングリ	和	その形状が独楽に似るところからの呼称で、古語で‘独楽’を意味する「つむぐり」の転とする説にしたがい、和語と認める。
ドンコ	ドンコ	漢	カワアナゴ科の淡水魚の名。一般には「鈍甲」と表記され漢語として扱われる。因みに「鈍子」とする一説がある。
ドンコ釣り	ドンコツリ	混	「ドンコ」は漢語と看做す。前項参照。
井	ドンブリ	和	「どんぶり鉢」の略で、ものが水中に投げ込まれた際の擬音語「どんぶり」「どぶり」に由来する語と見る説に従う。
井鉢	ドンブリバチ	混	「井」は和語と認める。
井飯	ドンブリメシ	和	同上。
井物	ドンブリモノ	和	同上。
蜻蛉	トンボ	不明	日本国語大辞典には、「語源未詳で、歴史的かなづかいも不明確であるが、室町時代までの表記が「とうぼう」のように「ぼう」であって「ぼう」でないところから「とうぼう」とする。なお、「とぼう（蜻蛉）」を「とばふ」とし、これに「う」音が添って「とうばふ」（さらに「とんばふ」となったとする説もある」とある。
蜻蛉返り	トンボガエリ	不明	「とんぼ」が不明語のため、不明語として扱う。
とんま	トンマ	不明	新潮国語は「トンマ」とし、「頓馬」をそのまま漢語と認めているかと考えられる。但し、諸辞書にこの説をとるものはない。「とん」は「とんちき」の「とん」、「ま」は「のろま」の「ま」とする説がある一方で、「とんちき」について「頓痴気」を当て字とし、「とん」は「とんま」の「とん」、「ちき」は「いんちき」などの「ちき」に同じものかとするものがあるなど、循環する。一説に「鈍間（のろま）」の「鈍」をトンとよんだとするが、いずれにしても確かとは言えず、語源未詳としておくのが穏当である。
仲仕	ナカシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
鉛杵	ナマリワク	不明	「杵」は語源不明。𣪠（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
南無	ナム	外	梵語の音写。
納屋	ナヤ	不明	新潮国語は「ナヤ」とし混種語と認めている。「ナ」は「納（ナフ）」の転と見ているのだろう。但し、中世漁村に魚介類を加工するための小屋としての「魚（な）屋」があり、そうした作業用の小屋が、農村においても用いられるようになった語とする説も有力であり、語種を特定しきれない。
奈落	ナラク	外	梵語の音写。
ナンバ	ナンバ	不明	「ナンバ歩き」「ナンバ走り」「ナンバ式健康法」などの「ナンバ」。本来は歌舞伎の所作の呼称で、西洋人の歩き方を嘲って「南蛮」と呼んだことに由来するというが、確かでない。

肉豚	ニクブタ	不明	「ぶた」は一般に和語と見られているが、「ゑのこ」と「ゐのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ボタン」（牡丹の転用）から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。
鯨	ニシン	不明	身を二身に割いて食べることから「二身（にしん）」と名付けられたとする説や、アイヌ語の「ヌースィ」に由来する語と見る説など、多くの語源説がある。
鯨漁	ニシンリョウ	不明	「にしん」が不明語のため、不明語として扱う。
入	ニユウ	不明	陶磁器などの釉（うわぐすり）の表面にできる気泡やひびを言う語。「入」「乳」などの字があてられるが、語源は未詳である。
庭師	ニワシ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
塗師	ヌシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
塗り師	ヌリシ	和	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
双節棍	ヌンチャク	外	福建語で、「節で二つに分かれた棒」を意味する「両節棍n ng chiat kun」に由来する語。
涅槃	ネハン	外	梵語の音写。
のっけ	ノッケ	和	「あおのけ」の「のけ」、或いは、除く意の「のける」からという説などがあり確かでないが、いずれにしても和語と考えられる
のっぺい	ノッペイ	和	「ぬめり」の転じた語である「のっぺ」に由来すると説くのが一般的であり、それに従う。
のっぽ	ノッポ	不明	近世語「のっぽり」と関係のある語であると思われるが、「のっぽり」自体の語源が未詳である。
祝女	ノロ	和	琉球王朝以来の神職の女性。和語「祝（の）る」の転とされる。
売女	バイタ	不明	「売（バイ）」は当て字か。新潮国語は「（語源未詳）」と注記する。北陸方言に見られる「板きれ」の意の「ばいた（端板）」と関連ある語かとも考えられる。
薄伽	バガ	外	梵語の音写。
馬鹿	バカ	不明	梵語の音写語「慕何」（「痴」の意）、或いは、同じく梵語の音写語「摩訶羅」（「無智」の意）の転とする説が有力である。但し、「若（わか）し」の語幹の強調形と見る説や、「破家」の転義とする説などの異説もあって、詳細は不明である。
馬鹿げる	バカゲル	不明	「馬鹿」が不明語のため、不明語として扱う。
馬鹿でかい	バカデカイ	不明	同上。
馬鹿馬鹿しい	バカバカシイ	不明	同上。
箱師	ハコシ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
婆娑羅	バサラ	外	梵語の音写。
土師	ハジ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
ハジチ	ハジチ	和	沖縄の旧習である刺青の一種。「針突き」の転とされる。

はちやめちや	ハチャメチャ	和	「はちやめちや」「めちやくちや」などは、元来「滅茶」を中心に派生した語群と見られ、「ハチャ」「クチャ」などは口調を整えるために添えられたものと考えられる。「滅茶」は、「無茶」の転かと考えられており、「無茶」は、「むさと」「むさい」などの「ムサ」の転と言われる。「ムサ」については、「武者」に由来する語かとする説もあるが、「むさぼる」（「むさ-欲（ほ）る」）の「むさ」などとも同源と見られ、固有の和語である可能性が高い。
波止	ハト	不明	近世中国語の「埠頭」「馬頭」などの転とも、「泊（はて）」の転ともいう。
波戸場	ハトバ	不明	「波止」が不明語のため、不明語として扱う。
ハヤシ	ハヤシ	不明	ハヤシライス。由来については、人名起源説、英語 hashed の転とする説など諸説あって定まらない。
玻璃	ハリ	外	梵語の音写。
針槐	ハリエンジュ	不明	「槐」は古く「忽にす」であり、「槐子」の呉音とも言うが詳細は不明である。
春蟬	ハルゼミ	不明	「セミ」は、その鳴き声を表す擬音語からとも、蟬の字音からとも言うが語源未詳である。因みに「蟬」字はn 韻尾字で、セミとは直接はつながらない。
破礼句	バレク	混	「ばれ」は、「ばれる」と同根、「俗っぽいこと」「卑猥なこと」の意の語で「破礼」は当て字。「ばれる」は「晴れる」の強調形と見てよい。
破礼話	バレバナシ	和	同上。
半可	ハンカ	不明	「南華真經」という經典が、寓話やたとえ話を多く載せるところから生じた、「たあいのない作り話をする人」を意味する「南花」より転じた語とする説など、諸説あるが、尚詳細は不明である。新潮国語は、「はんか」で語源未詳扱いである。
ばんじろう	バンジロウ	漢	グアバの異名。「蕃石榴」の転という。
バンダクイナ	バンダクイナ	不明	琉球方言で「崖」を意味する「ばんだ」と関係ある語か。語源未詳とする。
半ちく	ハンチク	不明	チクは語源未詳。
般若	ハンニヤ	外	梵語の音写。
半平	ハンペン	不明	料理人の名「半平（はんぺい）」説、碗の蓋で半分の肉を半円にもとるところからの名とする説、魚肉に山芋が半分まざっているところからの名とする説など諸説ある。概ねいずれの語源説においても漢語となるが、語源未詳としておくのが穏当だろう。
比丘	ビク	外	梵語乃至パーリ語の音写。
比丘尼	ビクニ	外	梵語乃至パーリ語の音写。
左ぎつちよ	ヒダリギッチョ	不明	「ぎつちよ」については、舞楽「打球楽（たぎゅうらく）」で本来右手に持つはずの桴（ばち）、「毬杖（ギッチョウ）」を左手に持って舞ったところからとも、「器用」の転ともいうが、詳細は不明である。
日向ぼっこ	ヒナタボッコ	和	「日向」に、「裕福に暮らす」「栄える」の意の「ほこる」の付いた「ひなたぼこり」から「ひなたぼこ」が生じ、「ひなたぼっこ」に転じたとする説が有力である。他にもさまざまな語源説があるようだが、「ひなたぼこり」に文証があることから、上記の説を妥当と見て、和語と認めた。
毘尼	ビニ	外	梵語の音写。
毘婆舍那	ビバシャナ	外	梵語の音写。
辟支	ビヤクシ	外	梵語の音写。

表六	ヒョウロク	不明	のろまな亀が、危機に瀕しても手足、頭、尻尾を表に出しっぱなしの状態を「表六（ひょうろく）」と言うことに由来する語、花火の一番小さい玉を指す「瓢六玉」から転じた語、などの諸説があるが、詳細は不明である。
ひょんな	ヒョンナ	不明	「ひょいと振り向く」などの「ひょい」と同じく擬態語かとも思われるが、「凶」の唐宋音からとする説もあり、和語と断定することができない。
ビラ	ビラ	和	「片（ひら）」に由来する語とする説が有力である。英語のbillとの関係は偶合であろう（但し、日本国語大辞典が指摘するように「アジビラ」など外来語と結合する「ビラ」に、外来語としての意識がある可能性は否定できない）。「片（ひら）」に由来するという説に従って、和語と見ておくのが穏当である。
ビラ配り	ビラクバリ	和	「ビラ」は和語と認める。「ビラ」の項を参照。
びら撒き	ビラマキ	和	同上。
飛竜頭	ヒリョウズ	外	ポルトガル語filhosから。
尾籠	ビロウ	漢	「愚か」の意の「おこ」の当て字「尾籠」の音読みより生じた語。漢語として扱う。
ビンガ	ビンガ	外	梵語の音写「迦陵頻伽」の略。
紅型	ビンガタ	和	沖縄方言。「ベニガタ」の転と見て問題ない。
編木	ビンザサラ	不明	「編」に擬音語の「ささら」が付いた語とも、チベット語経由の梵語ビンザサーラからとも言うが、詳細は不明である。
吹聴	フィチョウ	漢	「吹」は当て字で、本来「風聴」であったとする説が有力である。「フウ」が「チャウ」の口蓋の性格に引かれてフィに転じたものと見ておくのが穏当だろう。但し「風聴」と表記された例の文証がない点に問題は残る。新潮国語は見出しを「フィチョウ」とし、「（「風聴」の転か）」と注記する。
不甲斐	フガイ	和	「言ふ甲斐」の略と見てよいだろう。「腑（甲斐）」「不（甲斐）」は当て字と見てよい。
腑甲斐無い	フガイナイ	和	「ふがい」は和語と認める。前項を参照。
ぶくる	ブクル	和	ウェブサイト「知恵ぶくろ」を利用する意で、「ぶくろ」を活用させた語。
布薩	フサツ	外	梵語の音写。
布薩	フサツ	外	梵語の音写。
ふしだら	フシダラ	不明	「しだら」は、「自堕落（じだらく）」からとも、梵語の「修多羅」（秩序の意）からともいう。
ブス	ブス	漢	中世には例の見える「ぶす顔」、或いは近世以降に例の見える「ぶす面」の略と言われる。「ぶす」については、毒草の「附子（ブス）」に由来する語で、その毒にあたった遺体の顔が酷く変質することから、醜悪な相貌を意味するようになったとする説が有力である。
豚	ブタ	不明	一般には和語と見られているが、「亥のこ」と「ゐのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ボタン」（牡丹の転用）から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。
豚皮	ブタガワ	不明	「ぶた」が不明語のため、不明語として扱う。「豚」の項を参照。
豚しゃぶ	ブタシャブ	不明	同上。
豚丼	ブタドン	不明	「ぶた」が不明語のため、不明語として扱う。「丼（どん）」については「丼（どんぶり）」の項を参照。
豚肉	ブタニク	不明	「ぶた」が不明語のため、不明語として扱う。「豚」の項を参照。
豚肋	ブタバラ	不明	同上。

豚まん	ブタマン	不明	同上。
補陀落	フダラク	外	梵語の音写。
弗化	フッカ	混	「弗」はfluorineの音写の略。
弗素	フッソ	漢	同上。
仏陀	ブツダ	外	‘覺者’の意の梵語の音写。
不束	フツツカ	和	本来は太く立派なことの意であり、「太(ふと)柄(つか)」の転と見てよいだろう。
風呂	フロ	不明	「室(むろ)」語源説と「風炉(ふろ)」語源説とがあつて、いずれとも決せられない。新潮国語は、以前見出し語を「フロ」としていたが、新潮現代国語第2版から、「ふろ」と改めた。但しこの処置が「室(むろ)」説に従ったためのものか、語源未詳と考えたためであるかは不明。
風呂敷	フロシキ	不明	「風呂」が不明語のため、不明語として扱う。「風呂」の項を参照。
風呂場	フロバ	不明	同上。
風呂水	フロミズ	不明	同上。
襴	フンドシ	不明	「ふみとおし(踏通)」の転とも「ふもだし(絆)」の転ともいい語源未詳である。
ぺいぺい	ペイペイ	外	「平社員」の「平」を「ペイ」とよんで重ねた語とする説に従う。
ペイユ	ペイユ	外	白柚(ぺいゆ)。台湾原産のザボンに似た果物で、在地のものより晩成の種が熊本に移植され、晩白柚(ばんぺいゆ)という特産品となったもの。
ペケ	ペケ	外	マレー語の人を追いかう掛け声「pergi」に由来する語、中国語の「不可puko」に由来する語などの諸説があるが、詳細は不明である。
兵児	ヘコ	不明	鹿児島方言でおおむね15～25歳程度の男子をいう語だが、これ自体は「へこ祝いを済ませた男子」の意で、「へこ」そのものの語源は不明である。或いは「へこのふんどし」の「へこの」同様‘陰囊’の意で、‘体の縁についているもの’の意の「辺(へ)の子」かかとも考えられるが、尚検討を要する。
へったくれ	ヘッタクレ	不明	「ひょうたくれ」と関連がある語らしいが、詳細は不明である。
別珍	ベツチン	外	英語velveteenから。
別枠	ベツワク	不明	「枠」は語源不明。簾(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
ぺてん	ペテン	外	中国語「繃子(bengzi)」より転じた語。
埴猪口	ヘナチョコ	不明	「へな」は擬態語「へなへな」と同源とも、粘り気のある粘土を指す「埴(へな)」に由来する語ともいうが、いずれとも決せられない。又、「埴(へな)」については「埴(はに)」と関係づけることも、擬態語「へな」とも関係づけることも可能であり、それ自体の語源が未詳である。「ちょこ」については、擬態語「ちょこちょこ」とも「猪口」とも関連付けられるが、これも詳細は未詳である。因みに、「猪口」については、形状が猪の口に似るところから、という説もあるが、「猪口」は当て字と見る説が有力である。古くは「チョコ」であり、「鍾」の字音が転じた語かとも言われる。
紅鮭	ベニザケ	混	「鮭」について、日本国語大辞典では、「アイヌ語「シャケンベ(夏食)」からという」としてアイヌ語説を採る。新潮国語の見出し語表記は「さけ」だが、「(アイヌ語からともいう)」と注記する。身の赤いことから「酒」の転用と見る説、塩気が強いところから「塩気」の転と見る説など、和語起源の説もあるが、アイヌ語源説に従ってよいだろう。

へぼ	へボ	不明	新潮国語に「平凡の略かというが未詳」とある。
へぼい	へボイ	不明	「へぼ」より派生した形容詞。「へぼ」については、新潮国語に「平凡の略かというが未詳」とある。
へま	へマ	不明	「下手（へた）」の転と言うが未詳である。或いは「へぼ」と同源かとも考えられる。
篋棒	ベラボウ	不明	近世初期に「便乱坊」という崎人の見せ物があり、その名が一般語彙に転じたとする説が通説である。日本国語大辞典には、「寛文末年から延宝初年にかけて、見世物で評判をとった崎人。容貌きわめて醜く、全身真っ黒で、頭は鋭くとがり、眼は赤くて円く、あごは猿のようで、愚鈍なしぐさを見せて観客の笑いを誘ったという」とある。但し、この便乱坊が何に由来する語であるのか、何かのもじりであるのか、などの詳細は不明である。一説に、飯粒をつぶすための「篋棒」が、「飯（ごく）潰し」という洒落を介して、「どうしようもない人」の意になったとも言われる。語源未詳として扱うのが妥当だろう。
変ちくりん	ヘンチクリン	混	同義の「へんてこりん」より転じた形。「へんてこりん」については、「変」に接尾語「的（てき）」が付いた「変的（ヘンテキ）」の転である「ヘンテコ」に、口調を整えるための「りん」が付いた語とする説に従う。「りん」は「妙ちきりん」「ちんちくりん」などにも見える接尾的要素で、固有の意味はなく、和語として扱って良いものと見た。
ぺんちゃら	ペンチャラ	不明	日本国語大辞典には、「弁口たくみに言う「ちゃら」の意という。「ちゃら」は「でたらめ」のこと」とあるが、「ちゃら」は語源がはっきりしない。「お茶にする」「お茶に化かす」などと関連ある語かとも言われるが、尚検討を要する。
変挺	ヘンテコ	漢	「変」に接尾語「的（てき）」が付いた「変的（ヘンテキ）」の転とする説に従う。
変挺りん	ヘンテコリン	混	「変」に接尾語「的（てき）」が付いた「変的（ヘンテキ）」の転である「ヘンテコ」に、口調を整えるための「りん」が付いた語とする説に従う。「りん」は「妙ちきりん」「ちんちくりん」などにも見える接尾的要素で、固有の意味はなく、和語として扱って良いものと見た。
ホールザー	ホールザー	不明	神司である「大阿母（おおあも）」の八重山方言。
ぽか	ポカ	不明	本来は、囲碁・将棋で不注意から悪い手を打ち形勢が悪くなることを意味する語であるが、語源は未詳である。
北叟笑む	ホクソエム	不明	「北叟（ほくそう）」の転で、「塞翁が馬」の故事で知られる北叟（塞翁）が、吉凶を達観しうずれに際しても微笑したことによるとする説があるが、民間語源の類と見るべきである。
朴念仁	ボクネンジン	不明	当て字だろうと思われるが、詳細は不明である。新潮国語は片仮名表記であり、或いは漢語と認めたものかもしれないが、一応語源未詳として扱っておく。
ぼした	ボシタ	不明	藤崎八幡宮秋季例大祭（通称、ボシタ祭り）で用いられる掛け声。「滅ぼした」の略とする説が一般に知られているが、熊本方言の「ボボした」を語源とする卑猥語説や、韓国語の「ボッシンダ」「ボシンダ」を語源とする説などもあって定まらない。
ポシャる	ポシャル	混	新潮国語は平仮名表記だが、語源未詳扱いということだろう。一般に行われる語源説には、降参する意の「シャッポを脱ぐ」の「シャッポ」の転倒語「ポシャ」が活用語尾をともなしたものの見る説がある。シャッポはフランス語chapeauに由来する外来語で、上記の説に従い混種語とした。

菩提	ボダイ	外	梵語の音写。
木杭	ボックイ	混	「棒杭」の転かという。新潮国語は「ぼっくい」とするが語源未詳ということであろう。「棒杭」説、「木杭」説のいずれによっても混種語となる。
ほっけ	ホッケ	不明	魚名。アイヌ語「ボッケ」の借用、「北花」の音による語、法華宗と関連するなどの諸説があるが語源未詳である。
ぼったくる	ボッタクル	混	「ぼりたくる」の転だろう。「ぼる」については、日本国語大辞典には「暴利」の動詞化形とある。「むさぼる」の略という一説があり、新潮国語は平仮名表記とするが、日本国語大辞典の説に従って混種語とした。
掘り師	ホリシ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
ぼる	ボル	混	日本国語大辞典には「暴利」の動詞化形とある。「むさぼる」の略という一説があり、新潮国語は平仮名表記とするが、日本国語大辞典の説に従って混種語とした。
幌	ホロ	不明	「母衣」「保侶」などとも表記する。新潮国語は「ほろ」と平仮名表記するが、和語と認めたものか語源未詳と扱ったのかは不明である。
糞糞糞	ボロクソ	和	「ぼろ」は擬態語と見てよいだろう。梵論僧との関連を言う説もあるが、対応する擬態語「ぼろぼろ」の存在に鑑みて、和語の擬態語と見られる。「くそ」は罵詈雑言の「糞」と見てよい。
ぼん引き	ボンビキ	不明	近世には「ぼん引き」の形で見える。「ぼん引き」の「ぼん」は「ぼんやり」の略語と見る説が有力だが確かではない。
本ボシ	ホンボシ	混	「ボシ」は「目星」の略という説に従う。
摩訶	マカ	外	梵語の音写。
牧場	マキバ	和	和語と結合している「馬（ま）」は和語として扱った。
秣	マグサ	和	同上。
秣場	マグサバ	和	同上。
馬糞	マグソ	和	同上。
まじむん	マジムン	不明	琉球方言。沖縄県や鹿児島県奄美諸島に伝わる悪霊をさす語で、「魔物」などの転と考えられるが、詳細は不明である。
松蟬	マツゼミ	不明	「ゼミ」は、その鳴き声を表す擬音語からとも、蟬の字音からとも言うが語源未詳である。因みに「蟬」字はn韻尾字で、ゼミとは直接はつながらない。
窓枠	マドワク	不明	「枠」は語源不明。𪛗（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
末那	マナ	外	梵語の音写。
丸枠	マルワク	不明	「枠」は語源不明。𪛗（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
まんこ	マンコ	不明	「女子（めのこ）」の転、万子、万幸、体の中心を意味する「真処（まこ）」の転など様々な語源があつて定まらない。
満更	マンザラ	不明	新潮国語は見出しを「まんざら」とし、漢字表記も「真（ん）更」とする。「まさら」の転と看做すかのようにあるが、慎重に語源未詳扱いとなっている。
曼珠沙華	マンジュシャゲ	外	梵語の音写。

翻車魚	マンボウ	不明	「丸魚（まるうお）」の転、「漫魚（まんうお）」の転、お守りの「万宝」の転義、など諸説あるが、詳細は不明である。
水風呂	ミズプロ	不明	風呂には、「室（むろ）」語源説と「風炉（ふろ）」語源説とがあつて、いずれとも決せられない。新潮国語は、以前見出し語を「フロ」としていたが、新潮現代国語第2版から、「ふろ」と改めた。但しこの処置が「室（むろ）」説に従ったためのものか、語源未詳と考えたためであるかは不明。
味噌	ミソ	漢	「未醬（マッシュウ）」の転とする説に従う。
無考え	ムカンガエ	不明	「考える」は語源未詳。「処（か）-むかふ（下二）」説と、「勘」の字音に由来するとする説がある。新潮国語は平仮名表記とするが、和語と認定したのか語源未詳と見たのかは不明である。
蒸し風呂	ムシプロ	不明	風呂には、「むろ（室）」語源説と「風炉（ふろ）」語源説とがあつて、いずれとも決せられない。新潮国語は、以前見出し語を「フロ」としていたが、『新潮現代国語辞典 第2版』から、「ふろ」と改めた。但しこの処置が「むろ（室）」説に従ったためのものか、語源未詳と考えたためであるかは不明。
目仁奈	メジナ	和	「目-近（ぢか）-魚（な）」の転とする説に従う。
娘師	ムスメシ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
むぞなぎ	ムゾナギ	不明	「かわいそうだ」の意の宮崎方言。「無慙（むざう）らしげ」からかという。一応語源未詳として扱った。
無駄	ムダ	不明	「むなし」の語幹「むな」の転とも、「無分別」の意の「むたむた」と同源の語とも言うが、いずれも確かでない。
無鉄砲	ムテッポウ	不明	「（無）鉄砲」は当て字で、「無点法（むてんぼう）」の転とも、「無手法（むてほう）」の転ともいうが、いずれとも決せられない。
眼鏡枠	メガネワク	不明	「枠」は語源不明。簍（糸巻きのワク）の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
滅茶苦茶	メチャクチャ	和	「はちゃめちゃ」「めちゃくちゃ」などは、元来「滅茶」を中心に派生した語群と見られ、「ハチャ」「クチャ」などは口調を整えるために添えられたものと考えられる。「滅茶」は、「無茶」の転かと考えられており、「無茶」は、「むさと」「むさい」などの「ムサ」の転と言われる。「ムサ」については、「武者」に由来する語かとする説もあるが、「むさぼる」（「むさ-欲（ほ）る」）の「むさ」などとも同源と見られ、固有の和語である可能性が高い。
目茶目茶	メチャメチャ	和	「滅茶」は、「無茶」の転かと考えられており、「無茶」は、「むさと」「むさい」などの「ムサ」の転と言われる。「ムサ」については、「武者」に由来する語かとする説もあるが、「むさぼる」が「むさ-欲（ほ）る」などとも同源と見られ、固有の和語である可能性が高い。
メチャもて	メチャモテ	和	「メチャ」は和語と認める。前項を参照。
めんそーれ	メンソーレ	和	琉球方言。「参り召しおわれ」「往み有り召しおわれ」の転とされる。
めんち	メンチ	不明	「面子切る」の転というが、一説に「めんた切る」という表現の転として、「目ん玉切る」に由来する語とする説もある。
モーカ	モーカ	不明	「モーカ」は語源未詳。
モーカ鮫	モーカザメ	不明	同上。

もっこ	モッコ	漢	津軽地方に伝わる化け物の名。「蒙古」に由来する語とする説に従う。
畚褌	モッコフンドシ	不明	「もっこ」は、日本国語大辞典などが「持ち籠（こ）」の転とする説に従い和語と見る。但し、「ふんどし」については、「ふみとおし（踏通）」の転とも「ふもだし（絆）」の転ともいい語源未詳である。
元ちんぴら	モトチンピラ	不明	「ちんぴら」は語源未詳。大阪方言でスリを表す俗語「ちんべら」の転というが、「ちんべら」の語源が未詳である。
ももんが	モモンガ	和	「もみ」より転じた「もも」に、鳴き声をあらわす擬音語「グワ」が付いた「ももぐわ」の転とする説が有力である。近世資料には「モモグワ」の例が認められる。
ももんじい	モモンジイ	不明	本来獣の肉をいう語だったらしい。その色から、「桃（もも）の肉（しし）」の転かとも考えられるが、尚検討を要する。因みに「ももんが」と同義にも用いられる。
もんぺ	モンペ	不明	「股引（ももひき）」の転とも、アイヌ語で「ずぼん」を意味するオムンペに由来する語ともいわれるが、詳細は未詳である。
もんぺ姿	モンペスガタ	不明	「もんぺ」が不明語のため、不明語として扱う。
やおい	ヤオイ	混	主に少年愛などを扱った小説やコミックを指して言う。その内容的特徴から、「山なし、オチなし、意味なし」の略として用いられるようになったとする説に従う。
焼き豚	ヤキブタ	不明	「ぶた」は一般に和語と見られているが、「ゑのこ」と「ゐのこ」とが混同されるようになった結果、猪の肉を意味する「ポタン」（牡丹の転用）から転じたものと見る説があり、この説に拠ると漢語になる。
やくざ	ヤクザ	混	日本国語大辞典に説くように、「カブ賭博の一種である三枚ガルトで、八（や）九（く）三（さ）の札がくると、ぶたのうちでも最悪の手になるところから」とするのが通説である。「八（や）」は和語、「九（く）」「三（さ）」が漢語由来の語で混種語となる。
自棄っぱち	ヤケッパチ	不明	「っぱち」は語源未詳。
香具師	ヤシ	不明	「野武士（やぶし）」の略、「山師」の略など諸説あるが、詳細は不明である。
野次	ヤジ	不明	「野次馬」の略語。次項を参照。
野次馬	ヤジウマ	不明	「親父（おやじ）馬」の転、「やんちゃうま」の転などの諸説があり、歴史的仮名遣いも特定できない。上記の前者の説によれば和語、後者に説によれば混種語となる（「やんちゃ」は「脂（やに）茶」の転であり混種語である）。但し、いずれの説とも決しがたく、語源未詳として扱う。
夜叉	ヤシヤ	外	梵語の音写。
弥次	ヤジル	不明	「野次」の動詞化形。「野次」は「野次馬」の略語である。「野次馬」の語源については、「親父（おやじ）馬」の転、「やんちゃうま」の転などの諸説があり、歴史的仮名遣いも特定できない。上記の前者の説によれば和語、後者に説によれば混種語となる（「やんちゃ」は「脂（やに）茶」の転であり混種語である）。但し、いずれの説とも決しがたく、語源未詳として扱う。
耶蘇	ヤソ	外	ラテン語乃至ポルトガル語Jesusに相当する近代音訳語「耶蘇」を音読みにした語。
矢鱈	ヤタラ	不明	一般に知られる説として、雅楽において二拍子と三拍子の複合拍子をいう「やたら拍子」に由来する語と見る説があるが、「やたら拍子」は語源未詳である。

矢鱈減多ら	ヤタラメッタラ	不明	「やらた」について一般に知られる説として、雅楽において二拍子と三拍子の複合拍子をいう「やたら拍子」に由来する語と見る説があるが、「やたら拍子」は語源未詳である。「めったら」は「めた」の強調形と見られる「めった」に接尾語「ら」のついた形と見てよいか。
厄介	ヤッカイ	不明	「家（やか）居（い）」「家（や）抱（かか）え」の転で、家族に生活の面倒を見てもらいながら非生産者として家内にとどまるものを言う語に由来すると見る説が有力である。ただし漢語「厄会（ヤクカイ）」の転と見る一説もある。
やっさもっさ	ヤッサモッサ	和	「ヤッサ」は掛け声の一種。「モッサ」は不明だが語調を整えるためだけの要素だろう。
野暮	ヤボ	不明	「野夫（ヤブ）」の転、笙で通常奏音されない「也（や）」「毛（もう）」の管「也（や）毛（もう）」に由来する語、などの諸説があるが未詳である。
ヤボったい	ヤボッタイ	不明	「ヤボ」が不明語のため、不明語として扱う。「野暮」の項を参照。
山師	ヤマシ	混	和語と結合している「師（し）」に就いては原則的に「為（し）」の当て字と看做した。
維摩	ユイマ	外	梵語の音写。
夕蟬	ユウゼミ	不明	「セミ」は、その鳴き声を表す擬音語からとも、蟬の字音からとも言うが語源未詳である。因みに「蟬」字はn韻尾字で、セミとは直接はつながらない。
瑜伽	ユガ	外	梵語の音写。
瑜伽師地	ユガシジ	外	梵語の音写。
油断	ユダン	不明	北本涅槃經に載せる「王勅一臣、持一油鉢經由中過、莫令傾覆、若棄一滯当断汝命」という説話に由来する語とも、「寛（ゆた）に」の転ともいう。
宵恵比須	ヨイエビス	混	「恵比須」は「蝦夷（エミシ）」の転であり、「蝦夷（エミシ）」はアイヌ語emchui enchuに由来すると見る説に従う。
よいさあ	ヨイサア	不明	ハヤマ信仰の田遊びの名。
よくせき	ヨクセキ	不明	「よくよくのこと」などの「よく」と同語であることは間違いないと思われるが、「せき」が不明である。「急（せ）く」と関連あるかとも思われるが、未詳である。
よせ	ヨセ	不明	ハヤマ信仰で箸を意味する忌言葉。
与太る	ヨタル	不明	愚かでだらしない男を意味する「与太郎」が動詞に転じた語とされる。「ヨタ」については、「どこにでもいる」を意味する「多」という字を「ヨタ」と分解してよんだところから生じた語、足取りの定まらない様子の擬態語「ヨタヨタ」に由来する語、などの語源説があるが、定まらない。
ラー油	ラーユ	外	「油（ユ）」についても現代中国語として扱う。
羅字	ラウ	外	ラオス産の斑紋のある竹を用いたことに由来する語。
羅漢	ラカン	外	梵語の音写「阿羅漢」の略語。
羅刹	ラセツ	外	梵語の音写。
埒口	ラチクチ	不明	「埒（ラチ）」を強めた言い方。「クチ」は語調を整えるための語尾語かと思われるが確かでない。
蘭鑄	ランチュウ	不明	中国語「蚕種」からという説があるが、詳細は不明である。
りんぎり	リングリ	不明	林業の専門用語。詳細未詳。
坩堝	ルツボ	不明	「いる（鑄）つぼ（壺）」、或いは「ろ（炉）つぼ（壺）」の転というが、いずれとも決せられない。
瑠璃	ルリ	外	梵語の音写語「吠瑠璃（ペイルリ）」の略語。

連子鯛	レンコダ	不明	「ダ」は「鯛」の訛りと見てよいが、レンコは語源未詳である。
連荘	レンチャン	混	「荘(チャン)」は麻雀の親を意味する現代中国語で、本来は連続して麻雀の親役をつとめる意。「連」は漢語として扱った。
粋	ワク	不明	「粋」は語源不明。簍(糸巻きのワク)の字音からとする説が有力だが、一応語源未詳とした。新潮国語の見出しも平仮名表記である。
粋外	ワクガイ	不明	「粋」が語源未詳のため不明語として扱う。「粋」の項を参照。
粋囲み	ワクガコミ	不明	同上。
粋型	ワクガタ	不明	同上。
粋組み	ワクグミ	不明	同上。
粋材	ワクザイ	不明	同上。
粋順	ワクジュン	不明	同上。
粋線	ワクセン	不明	同上。
粋台	ワクダイ	不明	同上。
粋内	ワクナイ	不明	同上。
粋番	ワクバン	不明	同上。
粋連	ワクレン	不明	同上。
業師	ワザシ	混	和語と結合している「師(し)」に就いては原則的に「為(し)」の当て字と看做した。
ワッショイ	ワッショイ	不明	和語「わっさり」の転とも「和背負う」の転ともいうが、詳細は未詳である。
わやくちゃ	ワヤクチャ	混	「くちゃ」は「滅茶苦茶」などの語群の中から生じた語形かと思われ、単に口調を整えるための言葉であると考えられる。「わや」は「枉惑(ワウワク)」の転である「わやく」の略で漢語由来の語と考えられる。
藁ぼっち	ワラボッチ	不明	「ぼっち」には「帽子」説、「ぼち(点)」説などがあって定まらない。
腕白	ワンパク	不明	「関白」の転かとも言うが、詳細は不明である。

IV 同語異語判別規程 Version 1.1

第1 同語異語判別規程

《 凡 例 》

1. 例として挙げる語の表記は、以下の原則による。
 - ① 語の形を問題とする場合は、片仮名で表記する。
 - ② 語の形を特に問題としない場合は、外来語を除き片仮名以外で表記する。
2. UniDicの階層名を示す場合には、「語彙素」「語形」「書字形」のようにカギ括弧を付けて表記する。
3. 一つの「語彙素」「語形」にまとめる語を併記する場合、語と語の間に「／」を記入する。
亭主っ／亭主 レンジュウ／レンチュウ
4. 別の「語彙素」「語形」とする語を併記する場合、語と語の間に「←→」を記入する。
とつても←→とつても アイザワ←→アイサワ
5. 「語彙素」「語彙素読み」を併記して示す場合には、「語彙素読み」に【 】を付ける。
暖かい【アタタカイ】
6. 語例で文脈を補う場合は丸括弧に入れて示し、注記を付ける場合は[]に入れて示す。

1 同一「語形」・別「語形」の判定

任意の二つの出現形について、UniDicに登録する際に、一つの「語形」にまとめるか、異なる「語形」として別にするか判断するための規定は、以下のとおりである。

1. 1 語形

出現形の形に基づく規定は、以下のとおりである。

1. 1. 1 同一の「語形」とする出現形

次に示す形の差異を持つ任意の二つの出現形は、語源が同一であり、かつ意味の違いを生じていない限り、同じ「語形」とする。

1. 1. 1. 1 和語・漢語

臨時的に促音・長音が付加された形と元の形

【例】 亭主っ／亭主 (だー) かーらー／(だ) から
だーめ／だめ

臨時的な促音・長音の付加か否かの判断は、『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版による。いずれか一方の辞書の見出しになっていれば、臨時的な促音・長音の挿入とはしない。異なる「語形」とする。

【例】 とつても* ←→とつても

※ 「とつても」は『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版の両方で見出しになっているため、「とつても」と「とつても」とは別の「語形」とする。

一方、「とーつても」は『岩波国語辞典』第6版、『日本国語大辞典』第2版のどちらでも見出しになっていないため、次に示すように「とーつても」とその

元になった「とつても」とは同じ語形とする。

【例】 とつても／とーつても←→とても

活用形を自動生成するために別の活用型を与える必要がある場合には、促音・長音が臨時的に付加された形と元の形とを異なる「語形」とする。

【例】 ですう* ←→です

※ 活用形を自動生成するために、次のように異なる活用型を与える必要がある。

デ ス：助動詞，助動詞-デス

デスウ：助動詞，無変化型

1. 1. 1. 2 外来語

(1) 長音符号を用いた出現形と直前の母音と同じ母音字を重ねた出現形

【例】 ゴール／ゴオル カバー／カバア

連母音「アウ」「エイ」「オウ」など直前の母音と異なる母音字の連鎖については、長音符号を用いた出現形と母音字を重ねた出現形とは異なる「語形」とする。

【例】 ファール←→ファウル メール←→メール
コーカサス←→コウカサス

(2) 臨時的な仮名の小書きあるいはその逆と元の形

【例】 スイーツ／スイーツ キャノン／キャノン シェア／シェア

臨時か否か迷う場合はまとめない。

【例】 ファン←→ファン

(3) 表 3. 7 の付表 B の仮名で記された出現形と本表の仮名で記された出現形

【例】 ヴァイオリン／バイオリン クイーン／クイーン
グァム／グアム

(4) 本表の仮名「ツァ」「ツェ」「デュ」「フュ」を含む出現形と本表の仮名「ツァ」「チェ」「ジュ」「ヒュ」を含む出現形

【例】 モーツァルト／モーツアルト フィレンツェ／フィレンチェ
デュース／ジュース (jeuce) フューチャー／ヒューチャー

(5) 以下の仮名・記号（躍り字）で記された出現形と本表・付表 A の仮名で記された出現形

「ヂ」・「ヅ」	ケンブリッジ／ケンブリッジ
「キ」・「キゝ」	スキフト／スウィフト ウキスキー／ウイスキー
「エ」・「エゝ」	エスト／ウェスト エーテル／エーテル
「ヲ」・「ヲゝ」	ラルポール／ウォルポール
「ハ」・「バ」	シハリー／シシリール ハバロフスク／ハバロフスク

表 3. 7 外来語の表記に用いる仮名・符号

本 表				
ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キシ	クス	エケ	オコ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	リ	ユ	レ	ヨ
ラ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ワ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
ガ	ビ	ブ	ベ	ボ
ザ	ピ	プ		ポ
ダ		キ		キョ
バ		シ		ショ
パ		チ		チョ
キャ		ニ		ニョ
シャ		ヒ		ヒョ
チャ		ミ		ミョ
ニャ		リ		リョ
ヒャ		ギ		ギョ
ミャ		ジ		ジョ
リャ		ビ		ビョ
ギャ		ピ		ピョ
ジャ				
ビャ				
ピャ				
ン(撥音)				
ッ(促音)				
ー(長音符号)				

付 表 A				
ツア	ティ	トウ	シェ	ツオ
ファ	フィ		フェ	フォ
	ディ	ドウ	ジェ	
	デュ			
	フュ			
付 表 B				
クア	クイ		クエ	クオ
グア				
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ
		テュ		
		ヴュ		

(6) 本表・付表にない小書きの仮名を含む出現形と本表・付表Aの仮名で記された出現形

具体的には以下の事例が見られる。

a. 付表Bの仮名に関連する仮名

グオン／グオン ヴョールカ／ビョールカ

b. 母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」が臨時的に小書きされたとみなせるもの

ゴール／ゴール グレイ／グレイ ハウス／ハウス

c. 拗音「ャ」「ュ」「ョ」の変わりに臨時的に小書の母音字「ア」「ウ」「オ」が用いられたとみなせるもの

クリスチャン／クリスチャン テューバ／チューバ

d. 上記以外

キェルケゴール／キルケゴール フォードル／ヒョードル

(◆ver. 1.1追加)

- (7) 漢字や原語で表記された外来語の出現形と語彙素と同形の出現形（ルビの有無はかわらない。）

英吉利／イギリス innovation／イノベーション

1. 1. 2 異なる「語形」とする出現形

1. 1. 2. 1 和語・漢語

次に示す形の差異を持つ出現形は、異なる「語形」とする。

- (1) 清濁の差異及び濁音と半濁音との差異（連濁を含む。）

【例】 レンチュウ ↔ レンジュウ ナンピト ↔ ナンピト
(三) カイ ↔ (三) ガイ

- (2) 語末長音の短呼形と元の形との差異

【例】 センセ ↔ センセイ ニョウボ ↔ ニョウボウ
モ (一つ) ↔ モウ (一つ)

- (3) 音が弱まって母音音節となったものと元の形との差異

【例】 アタクシ ↔ ワタクシ ソイ (から) ↔ ソレ (から)

- (4) 撥音化した形と元の形との差異

【例】 アンタ ↔ アナタ ソン (なら) ↔ ソレ (なら)

- (5) 促音化した形と元の形との差異

【例】 アッタカイ ↔ アタタカイ カッテ [曾て] ↔ カツテ [曾て]
(～な) コッ (た) ↔ (～な) コト (だ) テッカク ↔ テキカク

- (6) 撥音が挿入された形と元の形との差異

【例】 アンマリ ↔ アマリ ミンナ ↔ ミナ
(見た) マンマ ↔ (見た) ママ

- (7) 促音の有無の差異

【例】 ケッシテ ↔ ケシテ タッタ ↔ タダ

- (8) 連声によって生じた形と元の形との差異

【例】 アンノン ↔ アンオン (三) ミ ↔ (三) イ

- (9) 語末以外の長音の有無の差異

【例】 シイカ ↔ シカ

- (10) サ行音がチ・チャ・チェ・チョ・ツァに交替した形と元の形との差異

【例】 チッチャイ ↔ チイサイ (お父) ツァン ↔ (お父) サン

(◆ver. 1.1追加)

- (11) 呉音・漢音・慣用音等の差異

【例】 サイシキ←→サイショク チョウフク←→ジュウフク

1. 1. 2. 2 外来語

(1) 規定1. 1. 1. 2に記載したもの以外の差異を持つ出現形は、異なる「語形」とする。

【例】 コンピューター←→コンピュータ メール←→メイル
アルミニウム←→アルミニューム

1. 2 品詞

1. 2. 1 無活用語

無活用語が複数の品詞として機能している場合、別に定める品詞判別に関する規程*により、それぞれ異なる品詞が与えられるのであれば、それらは異なる「語形」とする。

※ 品詞判別に関する規程は現在未整備である。現時点で作成しているものについては、本規程末尾に細則として挙げた。

1. 2. 1. 1 同一の「語形」とするもの

名詞が形状詞としても機能する場合、名詞として用いられている出現形・形状詞として用いられている出現形のいずれにも「名詞-普通名詞-形状詞可能」という品詞が与えられるので、各出現形は同じ「語形」とする。

【例】 健康（を守る）／健康（な体） 安全が（第一）／安全（な街）

名詞が副詞としても機能する場合も、上記と同様に「名詞-普通名詞-副詞可能」という品詞が与えられるので、各出現形は同じ「語形」とする。

【例】 明日（には着く）／明日（出発する）
多く（を語らない）／多く（食べる）

1. 2. 1. 2 異なる「語形」とするもの

ある無活用語が形状詞としても副詞としても機能する場合、形状詞として用いられている出現形には「形状詞-一般」又は「形状詞-タリ」、副詞として用いられている出現形には「副詞」という品詞が与えられるので、各出現形は異なる「語形」とする。

【例】 特別（な扱い）←→特別（問題はない）
格別（に安い品）←→格別（安い品）

1. 2. 2 動詞連用形と動詞連用形転成名詞

動詞連用形とそれから転成した名詞は、それぞれ異なる「語形」とする。

【例】 動き（ます）←→動き（が固い） 遊び（に行く）←→遊び（をする）

（◆ver. 1.1修正）

1. 3 固有名

品詞と語の形とが同じであれば、指し示す物が同じか否かにかかわらず、同じ「語形」として一つにまとめる。語の形が同じであるか否かの判断は規定1. 1による。

【例】
〔人名-姓〕 檜山／桧山 星野／ほしの モーツァルト／モーツアルト
〔人名-名〕 進次郎／進二郎 輝弘／昭浩 一郎／イチロー
〔地名-一般〕 茨木／茨城 緑町／美土里町／美登里町
 ケンブリッジ／ケンブリッチ

2 同一「語彙素」・別「語彙素」の判定規定

任意の二つの「語形」について、一つの「語彙素」にまとめるか、異なる「語彙素」として別にするか判断するための規定は、以下のとおりである。

2. 1 語形

語の形に基づく規定は、以下のとおりである。

2. 1. 1 同一の語彙素とする「語形」

2. 1. 1. 1 和語・漢語

次に示す差異を持つ「語形」は、語源が同一であり、かつ意味の違いを生じていない限り、同じ「語彙素」とする。

- (1) 清濁の差異及び濁音と半濁音との差異（連濁を含む。）

【例】 レンチュウ／レンジュウ ナンピト／ナンピト
(三) カイ／(三) ガイ

- (2) 語末長音の短呼形と元の形との差異

【例】 センセ／センセイ ニョウボ／ニョウボウ モ（一つ）／モウ（一つ）

- (3) 音が弱まって母音音節となったものと元の形との差異

【例】 アタクシ／ワタクシ ソイ（から）／ソレ（から）

- (4) 撥音化した形と元の形との差異

【例】 アンタ／アナタ ソン（なら）／ソレ（なら）

- (5) 促音化した形と元の形との差異

【例】 アッタカイ／アタタカイ カッテ〔曾て〕／カツテ〔曾て〕
(～な) コッ（た）／(～な) コト（だ） テッカク／テキカク

- (6) 撥音が挿入された形と元の形との差異

【例】 アンマリ／アマリ ミンナ／ミナ （見た）マンマ／（見た）ママ

- (7) 促音の有無の差異

【例】 ケッシテ／ケシテ タダ／タッタ

- (8) 連声によって生じた形と元の形との差異

【例】 アンノン／アンオン カンノン／カンオン

- (9) 語末以外の長音の有無の差異

【例】 シイカ／シカ

- (10) サ行音がチ・チャ・チェ・チョ・ツァに交替した形と元の形との差異

【例】 チッチャイ／チイサイ （お父）ツァン／（お父）サン

ただし「ちゃん」と「さん」とは別の語彙素とする。

【例】 チャン↔サン

(◆ver. 1.1追加)

(11) 呉音・漢音・慣用音等の差異

【例】 サイシキ／サイシヨク チョウフク／ジュウフク

(◆ver. 1.1修正)

2. 1. 1. 2 外来語

外来語の「語形」のうち、原語が同じであるか極めて近い場合で、かつ音声的に類似する場合の表記の差異を持つものは、同じ語彙素とする。

典型的には以下に示す差異、又は差異の組合せで説明できるものを同じ語彙素とする。

a. 連母音「アウ」「エイ」「オウ」と長音符号を用いた形との差異

【例】 ファウル／ファール メール／メール コウカサス／コーカサス

b. 以下の文字対のうち左の文字を用いた形と右の文字を用いた形との差異

「シェ・ジェ」と「セ・ゼ」 シェパード／セパード ジェリー／ゼリー

「ティ」と「チ」 ティーム／チーム

「ティ・ディ」と「テ・デ」 スティッキ／ステッキ／ ハンディ／ハンデ

「ディ」と「ジ」 ディレンマ／ジレンマ

「トゥ・ドウ」と「ツ・ズ」 トゥール／ツール ヒンドゥー／ヒンズー

「ドウ」と「ド」 マドウモアゼル／マドモアゼル

「ファ・フィ・フェ・フォ」と「ハ・ヒ・ヘ・ホ」

セロファン／セロハン／ テレフォン／テレホン

「ツイ」と「チ」 エリツィン／エリチン

「ウィ・ウエ・ウオ」と「ウイ・ウエ・ウオ」

ウィーン／ウイーン ウォッチ／ウオッチ

「ウィ」と「イ・エ・オ」 スウィート／スイート スウェーデン／スエーデン

「イエ」と「エ」 イエール／エール

「クア・クイ・クエ・クオ」と「カ・キ・ケ・コ」

クアルテット／カルテット

「グア」と「ガ」 グアテマラ／ガテマラ

c. 語末あるいは原語における子音に先行する位置での「トゥ」「ドウ」を用いた形と「ト」「ド」を用いた形との差異

【例】 カットゥ／カット ドゥライヴ／ドライブ

d. 特殊拍（促音・長音・撥音）の有無の差異

【例】 ヒットラー／ヒトラー マシーン／マシ

エンターテインメント／エンターテイメント

e. 半母音 /j/, /w/ の有無の差異（ /j/ の場合は特にイ段・エ段に後続する場合）

【例】 イタリア／イタリア ダイヤル／ダイアル

コートジボワール／コートジボアール

f. 母音の有無の差異

【例】 グラウンド／グラント レインジャー／レンジャー

g. 長音と促音の交替

【例】 オーケー／オッケー アンティーク／アンティク

h. 特殊拍（促音・長音・撥音）とそれ以外の交替

【例】 ケッパー／ケイパー シンボジウム／シムボジウム パーム／パルム

i. 母音と半母音の交替

【例】 ギリシャ／ギリシア アダージョ／アダージオ

j. 異なる母音間の交替

【例】 ボディ／バディ サクソフオーン／サキソフオーン マニー／マネー
ルーブル／ルーブリ マスタング／ムスタング パジャマ／ピジャマ

k. 清音と濁音（に相当するもの）の交替

【例】 スムース／スムーズ ベット／ベッド
ウィトゲンシュタイン／ビットゲンシュタイン（←ヴィトゲンシュタイン）

l. 調音法や調音点の類似した子音間の交替

【例】 ゴシック／ゴチック エカチェリーナ／エカテリーナ

m. 原語のつづり“a”に対する「ア／エイ」，“i”に対する「イ／アイ」の交替

【例】 カオス／ケイオス オーガニゼーション／オーガナイゼーション

上記以外についても、それに類する差異については同一の語彙素とする。

【例】 アンビリーバブル／アンビリーバボー

なお英語に関して、単数形と複数形の差異や原形と分詞形の差異などは原則として異なる「語彙素」とする。ただし語形的に類似し、かつ文脈的にも区別が難しいものについては同じ「語彙素」とする。類似の条件は本節の規定a～mを適用する。典型的な例を以下に示す。

複数形	同語彙素	【例】 ブック／ブックス ^{*1}	ウーマン／ウイメン
	別語彙素	【例】 チャイルド↔チルドレン	
名詞所有格	同語彙素	【例】 ブック／ブックス ^{*1}	メン／メンズ（普通名詞）
	別語彙素	【例】 ジェニー↔ジェニーズ	（固有名詞） ^{*2}
動詞派生型	同語彙素	【例】 ビルド／ビルト	ウォーク／ウォークス
	別語彙素	【例】 ウォーク↔ウォーキング	

※1 多くの普通名詞は単数形、複数形、所有格が同じ「語彙素」となる。

※2 固有名詞の所有格は普通名詞となるため、規定2.2により異なる「語彙素」となる。

2.2 品詞

ある無活用語がその用法によって異なる品詞を与えられていても、その品詞の属する類が同じであれば、同じ「語彙素」とする。一方、その品詞の属する類^{*}が異なれば、それらは異なる「語彙素」とする。

【例】 特別（な扱い）／特別（問題はない）
自然（を守る）↔自然（と動く）／自然（な振る舞い）

※ UniDicにおいて「語彙素」に付与される情報の一つで、「体」「用」「相」「他」などがある。各品詞がどの類に属するかについては表3.3を参照。

動詞・形容詞に基づくものであっても、別に定める品詞判別に関する規程により無活

用語とされたものについては、元の動詞・形容詞とは異なる「語彙素」とする。

【例】 動き（が固い）←→動き（ます）
（ドル）安 ←→安（請け合い）

2. 3 活用型

活用型が異なる活用語のうち、次に挙げるものは同じ「語彙素」とする。

（1）文語活用の活用語と、それに対応する口語活用の活用語

【例】 す／する 受く／受ける 少なし／少ない 白し／白い
ず／ぬ らる／られる

（2）サ行五段活用動詞と、その元になったサ行変格活用動詞

【例】 愛す／愛する 対す／対する

（3）ザ行上一段活用動詞と、その元になったザ行変格活用動詞

【例】 感じる／感ずる 信じる／信ずる

（4）可能動詞と、その元になった五段活用動詞

【例】 書ける／書く 読める／読む

（5）活用形を自動生成するために別の活用型を与えた活用語と、その元になった活用語

【例】 でしょう／です

2. 4 方言形

方言形と、それに形の上で対応する口語の共通語形とは、意味のつながりがある場合、同じ「語彙素」とする。

【例】 オトロシイ／オソロシイ

2. 5 人名

（◆ver. 1.1修正）

2. 5. 1 日本の人名

日本の人名には、原則として規定2. 1. 1は適用しない。

【例】 アイザワ ←→ アイサワ

2. 5. 1. 1 姓と名との間にある読み添えの「の」を含む語形は、「の」を含まない語形と同じ「語彙素」とする。

【例】 フジワラ／フジワラノ

（◆ver. 1.1追加）

2. 5. 1. 2 日本の神話の神名や昔の人名などについては規定2. 1. 1を適用する。

【例】 タカミムスビ／タカミムスヒ（高御産巢日）
カグヤヒメ／カクヤヒメ
ウマヤド／ウマヤト

（◆ver. 1.1追加）

2. 5. 2 日本の人名と外国の人名

日本の人名・日本漢字音で読んだ中国・韓国の人名と、それ以外の人名は、異なる「語彙素」とする。

【例】 アンナ（杏奈など） ←→ アンナ（Annaなど）

(◆ver.1.1追加)

2. 5. 3 外国の人名

外国の人名（日本漢字音で読んだ中国・韓国の人名を除く。）については、同じ人名であると判断できる場合に限り、規定2. 1. 1. 2のaからmの範囲で同じ「語彙素」とする。著名人の場合や長めの人名の場合などがこれに相当する。

【例】 ウィトゲンシュタイン／ビトゲンシュタイン／ウィットゲンシュタイン
ブーメディエヌ／ブーメディエンヌ
リップントロップ／リップントロープ

同じ人名か否か判断に迷うものについては、規定2. 1. 1. 2のaからmを無理に適用することはせず、明らかに同一人物と分かる場合に留める。一つの指標として次を参考にする。冒頭のアルファベットは規定2. 1. 1. 2のaからmに対応する。

(1) 同一の「語彙素」にまとめる可能性の高い差異

- | | |
|------------------|-------------------------|
| a. 連母音と長音の差異 | デイビッド／デービッド |
| b. 類似子音の差異 | マーティン／マーチン |
| d. 語末長音の有無 | エディ／エディー |
| 促音の有無 | ミシェル／ミッシェル |
| e. 半母音の有無 | ソフィア／ソフィヤ オーウェン／オーエン |
| k. 語中・語末の清音濁音の交替 | デビット／デビッド ジョセフ／ジョゼフ |

(2) 同一の「語彙素」にまとめる可能性のある差異

- | | |
|----------------|-------------|
| d. 語中長音の有無 | ガルーチ／ガルチ |
| h. 特殊拍とそれ以外の交替 | マーク／マルク |
| i. 母音と半母音の交替 | ジョルジオ／ジョルジョ |

(3) 同一の「語彙素」にまとめない可能性の高い差異

- | | |
|--------------------|------------|
| d. 撥音の有無 | ヨンナム←→ヨナム |
| f. 母音を含むモーラの有無 | トーマス←→トーマ |
| g. 長音と促音の交替 | マーク←→マック |
| j. 異なる母音間の交替 | タイラー←→テイラー |
| k. 語頭の清音と濁音の交替 | カルダン←→ガルダン |
| m. 「ア／エイ」「イ／アイ」の交替 | サラ←→セーラ |

2. 6 地名

(◆ver.1.1修正)

2. 6. 1 日本の地名と外国の地名

日本の地名と外国の地名は異なる「語彙素」とする。

【例】 ハワイ（羽合）←→ハワイ（Hawaii）

(◆ver.1.1修正)

2. 6. 2 日本の地名

日本の地名については、規定2. 1. 1. 1の範囲で同じ「語彙素」とする。

【例】 カンサイ／カンセイ イバラキ／イバラギ

読み添えの「の」を含む語形は、「の」を含まない語形と同じ「語彙素」とする。

【例】 ヒゴ／ヒゴノ

(◆ver.1.1修正)

2. 6. 2. 1 過去の日本の地名

過去の日本の地名については、規定2. 1. 1. 1に類する音韻変化の範囲で語彙素をまとめる。

【例】 モロガタ／モロアガタ (諸県)
クナ／クヌ (狗奴国)

(◆ver.1.1修正)

2. 6. 3 外国の地名

外国の地名については、同一の地名である限りにおいて、規定2. 1. 1. 2の範囲で同じ語彙素とする。

【例】 スウェーデン／スエーデン カルフォルニア／カリフォルニア

2. 7 略語

二つの略語が同語形であっても、その元になった語が異なる「語彙素」として扱われる場合、略語も別の「語彙素」として扱う。

【例】 (大阪) 大←→(実物) 大

その元になった語が異なる「語彙素」であっても、概念に共通性が高い場合には、略語は同じ「語彙素」にまとめる。

【例】 漁[「漁業」の略]／漁[「漁労」の略]

3 「書字形」の定め方及び表記

「書字形」は、出現形を基に次のように定める。

(1) 活用のない語

原則として出現形をそのまま「書字形」とし、「書字形」の表記も出現形のとおりとする。

【例】 (だー) かーらー → かーらー
だーめ → だーめ

(2) 活用のある語

出現形を終止形に直したものを「書字形」とし、「書字形」の表記も出現形を終止形に直したものとす。

【例】 話し(た) → 話す
受けつご(う) → 受けつぐ
ウマかつ(た) → ウマイ

4 「語形」の定め方及び表記

4. 1 「語形」の定め方

4. 1. 1 和語・漢語

和語・漢語については、「書字形」の読み(語形)を「語形」として立てる。

【例】 亭主 → テイシュ
とつても → トツテモ
話す → ハナス

ウマイ → ウマイ
 ですう → デスウ

同じ「語形」とする任意の二つの「書字形」の読みに差異がある場合、臨時的ではない形・くずれていない形を「語形」として立てる。

【例】 ダーメ／ダメ → ダメ

4. 1. 2 外来語

外来語については次のとおりとする。なお、以下の外来語に関する記述の中で「辞書」といった場合、『大辞林』第2版と『日本国語大辞典』第2版を指す。両辞書の記述が異なる場合は、原則として『日本国語大辞典』第2版の記述に従う。

(1) 長音符号を用いた出現形と直前の母音と同じ母音字を重ねた出現形

原則として長音符号を用いた形を「語形」として立てる。

【例】 ゴール／ゴオル → ゴール カバー／カバア → カバー

ただし、以下に該当する場合は母音を用いた形を「語形」とする。

a) 母音字表記の形が辞書の見出し（空見出しを除く、以下同）になっている場合

【例】 バレー／バレエ → バレエ レゲー／レゲエ → レゲエ

b) 母音連鎖部に原語の形態素境界がある場合

【例】 カットーフ／カットオフ → カットオフ (cut-off) *¹
 コーカランス／コオカランス → コオカランス (co-occurrence) *¹
 コーポレーション／コオペレーション
 → コーポレーション (co-operation) *²

※1 例として記したものであり、これらが長音符号で記されることは稀である。

※2 辞書に長音符号で記されているものはそれに従う。

(2) 臨時的な仮名の小書きあるいはその逆と元の形

原則として元の形を「語形」として立てる。

【例】 スイーツ／スイーツ → スイーツ
 キヤノン／キャノン → キャノン シェア／シェア → シェア

臨時か否か迷う場合はまとめない。

【例】 ファン←→ファン

(3) 表3. 7の付表Bの仮名で記された出現形と本表の仮名で記された出現形

本表の仮名で記された形を「語形」として立てる。

具体的には次のとおり。

付表B「ヴァ」→本表「バ」	ヴァイオリン／バイオリン	→	バイオリン
付表B「ヴィ」→本表「ビ」	ヴィオラ／ビオラ	→	ビオラ
付表B「ヴ」→本表「ブ」	ジュネーヴ／ジュネーブ	→	ジュネーブ
付表B「ヴェ」→本表「ベ」	ヴェール／ベール	→	ベール
付表B「ヴォ」→本表「ボ」	ヴォーカル／ボーカル	→	ボーカル
付表B「ヴュ」→本表「ビュ」	デジャヴュ／デジャビュ	→	デジャビュ
付表B「テュ」→本表「チュ」	チューバ／チューバ	→	チューバ
付表B「イエ」→本表「イエ」	イエーツ／イエーツ	→	イエーツ

付表B「クア」→本表「クア」	クアルテット／クアルテット	→	クアルテット
付表B「クイ」→本表「クイ」	クイーン／クイーン	→	クイーン
付表B「クエ」→本表「クエ」	クエート／クエート	→	クエート
付表B「クオ」→本表「クオ」	クォーツ／クォーツ	→	クォーツ
付表B「グア」→本表「グア」	グアム／グアム	→	グアム

- (4) 本表の仮名「ツァ」「ツェ」「デュ」「フュ」を含む出現形と本表の仮名「ツア」「チェ」「ジュ」「ヒュ」を含む出現形

辞書の見出しにある場合はその形を「語形」として立てる。

- 【例】 フューズ／ヒューズ → ヒューズ
デュース／ジュース → ジュース (jeuce)
フィレンツェ／フィレンチェ → フィレンツェ
モーツァルト／モーツアルト → モーツァルト

それ以外は原音に近い仮名を用いた形を「語形」として立てる。

- 【例】 フュージョニズム／ヒュージョニズム → フュージョニズム (fusionism)

- (5) 以下の仮名・記号（躍り字）で記された出現形と本表・付表Aの仮名で記された出現形

本表・付表Aの仮名で記された形を「語形」として立てる。具体的には以下のとおり。

- 「ヂ」 → 本表「ジ」
「ヅ」 → 本表「ズ」
「キ」 → 付表A「ウイ」／本表「イ」（「ウ」が先行する場合）
「キゝ」 → 本表「ビ」
「エ」 → 付表A「ウエ」／本表「エ」
「エゝ」 → 本表「ベ」
「ヲ」 → 付表A「ウォ」／本表「オ」
「ヲゝ」 → 本表「ボ」
「ゝ」 → 前の文字を重ねる
「ゞ」 → 前の文字を濁音にして重ねる

- (6) 本表・付表にない小書きの仮名を含む出現形と本表・付表Aの仮名で記された出現形

- a. 付表Bの仮名に関連する仮名

上記(3)に記す規定に準じ、本表の仮名で記された形を「語形」として立てる。

表外「グイ」→本表「グイ」	グイード／グイード	→	グイード
表外「グエ」→本表「グエ」	グェルフ／グェルフ	→	グェルフ
表外「グオ」→本表「グオ」	グオン／グオン	→	グオン
表外「ヴァ」→本表「ビャ」	ヴァチェスラフ／ビャチェスラフ	→	ビャチェスラフ
表外「ヴォ」→本表「ビョ」	ヴォールカ／ビョールカ	→	ビョールカ

- b. 母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」が臨時的に小書きされたとみなせるもの

小書きされた仮名に対応する母音字の書字のユレとみなした上で「語形」を定める。
具体的には次のとおり。

小書きされた母音字が直前の母音と同じ場合、(1)の規定に従い原則として長音

符号を用いた形を「語形」として立てる。

【例】 ゴォル → ゴール アンジィ → アンジー

それ以外については、母音字「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」を用いた形を「語形」として立てる。

【例】 グレイ → グレイ ハウス → ハウス

c. 拗音「ャ」「ュ」「ョ」の変わりにり臨時的に小書の母音字「ア」「ウ」「オ」が用いられたとみなせるもの

「ャ」「ュ」「ョ」を用いた形を「語形」として立てる。

【例】 クリスチァン → クリスチャン テゥーバ → チューバ

d. 上記以外

辞書の見出しにある場合はその形を「語形」として立てる。

【例】 キェルケゴール → キルケゴール

それ以外は、本表・付表Aの仮名を用いた形を「語形」として立てる。

【例】 フョードル → ヒョードル

(◆ver. 1.1追加)

4. 1. 3 人名・地名

人名・地名の語形の定め方は、規定4. 1. 1と規定4. 1. 2に準ずる。

漢字表記された中国・韓国の人名は、ルビの有無等にかかわらず一律に日本漢字音(漢音)で読む。

【例】 金 日成 → キン ニッセイ ×キム イルソン

漢字表記された中国・韓国の地名は、『日本国語大辞典』第2版、『大辞林』第2版に基づいて語形を定める。二つの辞書の記述が異なる場合は、『日本国語大辞典』第2版に従う。辞書に立項されていないものは、ルビの有無等にかかわらず一律に日本漢字音(漢音)で読む。

【例】 平壤 → ピョンヤン × ヘイジョウ
昆明 → コンメイ × クンミン

4. 2 語形の表記

4. 2. 1 和語・漢語

和語・漢語は、片仮名を用いて、現代仮名遣い(1986年、内閣告示第1号・内閣訓令第1号)に基づき表記する。

【例】 縮む → チヂム
上積み → ウワヅミ
先生 → センセイ
ですう → デスウ

拗音・促音は、小書きに統一する。

【例】 切手 → キッテ
社会 → シャカイ

現代仮名遣いでは、長音の表記に長音符号を用いないため、語形の表記でも長音符号を用いない。

【例】 そー(です) → ○ ソウ × ソー

4. 2. 2 外来語

外来語は、表3. 7に示した片仮名・符号を用いて表記する。個々の語の具体的な表記については、規定4. 1. 2を参照する。

(◆ver. 1. 1追加)

4. 2. 3 人名・地名

人名・地名の語形の表記は規定4. 2. 1, 規定4. 2. 2を適用する。

5 「語彙素」の定め方及び表記

5. 1 「語彙素」の定め方

「語形」を「語彙素」として立てる。

【例】 チヂム → 縮む【チヂム】
ウワヅミ → 上積み【ウワヅミ】
センセイ → 先生【センセイ】

複数の「語形」を一つの「語彙素」にまとめる場合、以下の規定によって「語彙素」を定める。なお、「語形」が一つしかない場合でも、その「語形」が以下の規定に該当するものであれば、その規定に基づいて「語彙素」を定める。

【例】 アタクシ → ワタクシ【私】*

※ 「アタクシ」は、規定5. 1. 1. 1の(3)に該当する語であるので、「語形」に「アタクシ」のみが登録されている場合でも、「ワタクシ」を「語彙素」とする。

5. 1. 1 語形

5. 1. 1. 1 和語・漢語

和語・漢語については、以下のとおりとする。

(1) 清濁の差異及び濁音と半濁音との差異がある場合は、以下のとおりとする。

①濁音化・半濁音化が短単位の語頭で生じている場合、濁音化・半濁音化する前の元の形を「語彙素」として立てる。

【例】 (三) カイ / (三) ガイ → 階【カイ】
ハコ / (道具) バコ → 箱【ハコ】

②濁音化・半濁音化が短単位の語頭以外で生じている場合、「語彙素」は語ごとに定める。

【例】 レンチュウ / レンジュウ → 連中【レンチュウ】
ナンピト / ナンピト → 何人【ナンピト】

(2) 語末長音の短呼形と元の形とがある場合、元の形を「語彙素」とする。

【例】 センセ / センセイ → 先生【センセイ】
ニョウボ / ニョウボウ → 女房【ニョウボウ】
モ (一つ) / モウ (一つ) → もう【モウ】

(3) 音が弱まって母音音節となったものと元の形とがある場合、元の形を「語彙素」とする。

【例】 アタクシ／ワタクシ → 私【ワタクシ】
ソイ（から）／ソレ（から） → 其れ【ソレ】

(4) 撥音化した形と元の形とがある場合、元の形を「語彙素」とする。

【例】 アンタ／アナタ → 貴方【アナタ】
ソン（なら）／ソレ（なら） → 其れ【ソレ】

(5) 促音化した形と元の形とがある場合、元の形を「語彙素」とする。

【例】 アッタカイ／アタタカイ → 暖かい【アタタカイ】
カッテ／カツテ → 嘗て【カツテ】
(～な) コッ(た)／(～な) コト(だ) → 事【コト】
テッカク／テキカク → 的確【テキカク】

(6) 撥音が挿入された形と元の形とがある場合、元の形を「語彙素」とする。

【例】 アンマリ／アマリ → 余り【アマリ】
ミンナ／ミナ → 皆【ミナ】
(見た) マンマ／(見た) ママ → 俚【ママ】

(7) 促音がある形とない形とがある場合、「語彙素」は語ごとに定める。

【例】 ケッシテ／ケシテ → 決して【ケッシテ】
タダ／タッタ → 唯【タダ】

(8) 連声によって生じた形と元の形とがある場合、原則として連声によって生じた形を「語彙素」とする。

【例】 アンノン／アンオン → 安穩【アンノン】
カンノン／カンオン → 観音【カンノン】

※ 短単位境界で連声が生じており、後続の短単位の語形が連声によって変化している場合、連声によって生じた形ではなく元の形を「語彙素」として立てる。

【例】 (三) ミ／(三) イ → 位【イ】

(9) 語末以外に長音がある形とない形とがある場合、「語彙素」は語ごとに定める。

【例】 シイカ／シカ → 詩歌【シイカ】

(10) サ行音がチ・チャ・チェ・チョ・ツァに交替した形と元の形とがある場合、元の形を「語彙素」とする。

【例】 チッチャイ／チイサイ → 小さい【チイサイ】
ツァン／サン → さん【サン】

(◆ver.1.1追加)

(11) 呉音・漢音・慣用音等の差異がある場合、「語彙素」として立てる語形は、

①漢音、②呉音、③慣用音の優先順位で定めるのを原則とする。

【例】 サイシキ／サイシヨク → 彩色【サイシヨク】
ジュウフク／チョウフク → 重複【チョウフク】

5. 1. 1. 2 外来語

外来語については、以下のとおりとする。

(◆ver. 1.1修正)

- (1) 単数形と複数形、動詞の原形と派生型などがある場合、原則として単数形、原形を「語彙素」とする。

【例】 ブック／ブックス → ブック
ビルド／ビルト → ビルド

複数形しか辞書の見出しにないものは複数形を「語彙素」とする。

【例】 データ／データム → データ

- (2) 連母音「アウ」「エイ」「オウ」と長音符号を用いた形がある場合は、原則として長音符号で記された形を「語彙素」とする。

【例】 メール／メール → メール

辞書に母音字で記された形があればそれを「語彙素」とする。

【例】 ファウル／ファール → ファウル

- (3) 以下に記す差異がある場合、①②のとおり「語彙素」を定める。

「シェ・ジェ」と「セ・ゼ」
「ティ」と「チ」
「ティ・ディ」と「テ・デ」
「ディ」と「ジ」
「トゥ・ドウ」と「ツ・ズ」
「ドウ」と「ド」
「ファ・フィ・フェ・フォ」と「ハ・ヒ・ヘ・ホ」
「ツイ」と「チ」
「ウィ・ウエ・ウォ」と「ウイ・ウエ・ウオ」
「ウイ」と「イ・エ・オ」
「イエ」と「エ」
「クア・クイ・クエ・クオ」と「カ・キ・ケ・コ」

- ①辞書の見出しに後者の仮名で記された形がある場合は、それを「語彙素」とする。

【例】 ミルクシェーキ／ミルクセーキ → ミルクセーキ
ディレンマ／ジレンマ → ジレンマ
セロファン／セロハン → セロハン
スウィート／スイート → スイート

- ②それ以外は原則として前者の仮名で記された形を「語彙素」とする。

【例】 ウィーン／ウイーン → ウィーン
エリツィン／エリチン → エリツィン
ディファレンス／デファレンス → ディファレンス

- (4) 語末あるいは原語における子音に先行する位置で、「トゥ」「ドウ」を用いた形と「ト」「ド」を用いた形との差異が見られる場合は、「ト」「ド」で記された形を「語彙素」とする。

【例】 カットゥ／カット → カット
ドゥライヴ／ドライブ → ドライブ

- (5) 規定2. 1. 1. 2に示した音の挿入・脱落・交替の差異が見られる場合は、原則として以下の方針に従い「語彙素」を定める。上記(3)(4)に相当するものは

その方針に従う。

①辞書の見出しにある形を「語彙素」とする。

②以下の方針により「語彙素」を定めることができるものはそれに従う。

a. 長音記号の有無：原則として長音符号を用いた形を「語彙素」とする

【例】 コンピューター／コンピュータ → コンピューター

b. イ段・エ段に後続する半母音/j/の有無：原則として/j/のない形を「語彙素」とする

【例】 イタリア／イタリア → イタリア
エアコン／エヤコン → エアコン

c. 語末が“(i)um”のものは、原則として「イウム」に相当する形を「語彙素」とする。

【例】 アルミニウム／アルミニウム → アルミニウム

d. それ以外で特に強い慣習があるもの：その慣習に従う形を「語彙素」とする。

【例】 レックス／レクス → レックス*

※ lex, fix, box のような形の場合は原音にない促音を入れる慣習があるなど。

③明らかに原音からの挿入・脱落・交替であることが分かる場合は、原音に近い仮名を「語彙素」とする。

【例】 マニファクチュア／マニファクチュア → マニファクチュア

④それ以外は語ごとに「語彙素」を定める。

5. 1. 2 活用型

活用型が異なる活用語のうち、次に挙げるものは同じ「語彙素」とする。

(1) 文語活用の活用語と、それに対応する口語活用の活用語とがある場合、文語活用に
対応する口語活用の活用語を「語彙素」とする。

【例】 す／する → スル【為る】
少なし／少ない → スクナイ【少ない】

ただし、打ち消しの助動詞「ず」「ぬ」は、文語活用の終止形を「語彙素」とする。
ず／ぬ → ズ【ず】

(2) サ行五段活用動詞と、その元になったサ行変格活用動詞とがある場合、サ行変格活
用動詞を「語彙素」とする。

【例】 愛す／愛する → アイスル【愛する】
対す／対する → タイスル【対する】

(3) ザ行上一段活用動詞と、その元になったザ行変格活用動詞とがある場合、ザ行変格
活用動詞を「語彙素」とする。

【例】 感じる／感ずる → カンズル【感ずる】
信じる／信ずる → シンズル【信ずる】

(4) 可能動詞動詞と、その元になった五段活用動詞とがある場合、五段活用動詞を「語

彙素」とする。

【例】 書ける／書く → カク【書く】
読める／読む → ヨム【読む】

- (5) 活用形を自動生成するために別の活用型を与えた活用語と、その元になった活用語とがある場合、その元になった活用語を「語彙素」とする。

【例】 ですう／です → デス【です】

5. 1. 3 方言形

方言形と、それに形の上で対応する口語の共通語形とがある場合、共通語形を「語彙素」とする。

【例】 オトロシイ／オソロシイ → オソロシイ【恐ろしい】

(◆ver. 1.1追加)

5. 1. 4 人名・地名

人名・地名については規定 5. 1. 1 を適用する。

5. 2 「語彙素読み」の表記

「語彙素読み」には、「語彙素」として立てることになった「語形」をそのまま登録する。したがって、その表記の仕方については、規定 4. 2 を参照のこと。

(◆ver. 1.1修正)

5. 3 「語彙素」の表記

(1) 和語・漢語

付属語は平仮名表記とする。

自立語は原則として漢字表記とし、次に示す手順に従ってその漢字表記を定める。

- ① その語が『岩波国語辞典』第 6 版の見出しにあり、漢字表記されていれば、その漢字表記を「語彙素」とする。複数の漢字表記が挙げられている場合は、原則として最初に挙げられている漢字表記を「語彙素」とする。
- ② 『岩波国語辞典』第 6 版の見出しにない語、及び『岩波国語辞典』第 6 版の見出しになっているが、語の一部又は全部が漢字表記されていない語については、『日本国語大辞典』第 2 版を参照する。
『日本国語大辞典』第 2 版の見出しにあり、漢字表記されていれば、その漢字表記を「語彙素」とする。複数の漢字表記が挙げられている場合は、原則として最初に挙げられている漢字表記を「語彙素」とする。
- ③ 『日本国語大辞典』第 2 版の見出しにない語、『日本国語大辞典』第 2 版の見出しにあるが、漢字表記されていない語については、原則として「語彙素」を平仮名で表記する。
- ④ 常用漢字を用いて「語彙素」を表記する場合、送り仮名の付け方は次の基準に従う。
常用漢字表外の漢字を用いて「語彙素」を表記する場合も、送り仮名の付け方は、次に示す基準を準用する。

《活用のある語》

「送り仮名の付け方」(1973年、内閣告示第 2 号・内閣訓令第 2 号)の通則 1、通則 2、通則 6 の各本則に従って送り仮名を付ける。各通則の例外、許容は採用しな

い。

《活用のない語》

「送り仮名の付け方」の通則 3 の本則，通則 4 の本則・例外及び許容，通則 5 の本則及び許容，通則 6 の本則，通則 7 に従って送り仮名を付ける。

(2) 外来語

外来語の「語彙素」には，「語彙素読み」をそのまま用いる。

(3) 人名・地名

人名・地名の「語彙素」には，「語彙素読み」をそのまま用いる。

細則 1 名詞と接辞の判定基準（１）

（注）本基準は、元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため、以下に挙げる例のほとんどは、CSJに出現したものである。

なお、BCCWJの構築作業に利用するに当たり、一部修正を行った。

意味に差異がない場合、接頭辞・接尾辞ではなく、できる限り名詞・形状詞・形容詞語幹に統合するのを原則とする。

判定に当たっての基本的な観点は、以下のとおりである。

I 接頭辞に関するもの

（１）形容詞語幹に相当する最小単位が、後接の短単位（短単位の連続体を含む。）と結合する場合、その最小単位は接頭辞とせず形容詞とする。

【例】 粗（利益） 深（用心） 古（道具） 安（普請）

（２）地名を略してできた１字漢語は、接頭辞とせず名詞（普通名詞）とする。

【例】 米（政府） 露（皇帝） 英（会話）

（３）後接する短単位（短単位の連続体を含む。）を連体修飾するものは、接頭辞とせず名詞等とする。

【例】

名詞-普通名詞-一般	主（要因），他（言語），初（登場）， 平（社員），満（９歳）
名詞-普通名詞-形状詞可能	急（傾斜），逆（輸入）
形状詞-一般	直（輸入）

（４）上記の規定には当てはまらないが、一般に１字漢語として使われ得るもの（単独用法のあるもの）は、接頭辞とせず名詞とする。

【例】 強（母音） 残（日数） 禁（帯出）

II 接尾辞に関するもの

（１）前接する短単位（短単位の連続体を含む。）の連体修飾を受けるものは、接尾辞とせず名詞とする。

【例】

名詞-普通名詞-一般 （訂正）箇所，（文字）列，（要約）文

（２）上記の規定には当てはまらないが、一般に１字漢語として使われ得るもの（単独用法のあるもの）は、接尾辞とせず名詞とする。

【例】 （被写）体

具体的な判定の基準及び語例は、以下のとおりである。

1 名詞とするもの

1) 地名と結合した以下のもの

① 行政区画を表すもの

【例】

東京/都/ 大阪/府/ パンジャープ/州/

② ①以外のもの

【例】

表参道/駅/ 西表^{じま}/島/

2) その他

単独で用いられる時と読み方・意味が同じものは名詞とする。

【例】

箇所	不要/箇所/ 訂正/箇所/
	cf. 二/ヶ所/ ⇒ 接尾辞-名詞的-助数詞
側	相手/側/
句	名詞/句/ 引用/句/
座	主教/座/ (座る場所の意)
	cf. ミラノ座 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
札	千円/札/
死	事故/死/ 安楽/死/
式	方程/式/ 予測/式/ (計算式の意)
	入学/式/ 結婚/式/ (儀式の意)
	cf. 東京式 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
食	日本/食/ /食/中毒
職	管理/職/ 事務/職/
数	従業員/数/ 周波/数/
節	修飾/節/ 名詞/節/
線	地平/線/ (境界の意)
	cf. 京王線 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
他	/他/言語 /他/地域
体	被写/体/ 被験/体/
	cf. 集合体 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
地	観光/地/ 発信/地/
点	問題/点/ 調音/点/ (A エム;M)/点/ 二/点/を結ぶ
	cf. 五/点/ ⇒ 接尾辞-名詞的-助数詞 (得点, 項目の数)
弁	関西/弁 ^{べん} / 江戸/弁/
主	動作/主/
比	圧縮/比/ (A エス エヌ;S N)/比/
年	/年/会費/
場	温泉/場/ ごみ捨て/場/
拍	特殊/拍/
番	留守/番/
便	臨時/便/ 直行/便/
文	会話/文/ 要約/文/
法	少年/法/ (法律の意)
	cf. 分析法 ⇒ 接尾辞-名詞的-一般
元	遷移/元/ /元/同級生
率	合格/率/ 認識/率/
類	魚介/類/ 柑橘/類/
列	文字/列/ 音素/列/
論	方法/論/ 進化/論/

2 接辞とするもの

1) 数詞と結合したもの

① 通貨の単位

【例】

円 ドル パーツ

② 単位

【例】

カロリー デシベル ヘルツ

③ 序列・カウントを表すもの

【例】

回 行 件 粒 番 名 組み

④ 助数詞

【例】

個 本 枚 台 軒

2) 「数詞＋接尾辞」と結合したもの

【例】

九/年/目/ 三/回/生/ 三/人/共/ 五/人/用/ 二/者/間/
二/年/後/ 一/番/線/ 六十/年/代/ 二/個/組み

※ /一/軒/家/

一 名詞-数詞
軒 接尾辞-名詞的-助数詞
家 名詞-普通名詞-一般

3) その他

A 省略された形で元の意味を添加するもの

【例】

界	自然/界/	パチンコ業/界/	(ある世界)
金	援助/金/	入学/金/	(資金)
具	防寒/具/	文房/具/	(道具)
計	体重/計/	(計器)	/計/七/通り (合計)
座	文学/座/	ミラノ/座/	(劇場, 劇団を表す)
作	失敗/作/	感動/作/	(作品)
史	語彙/史/	古代/史/	(歴史)
紙	新聞/紙/	模造/紙/	方眼/紙/ (用紙)
式	東京/式/	ねじ/式/	(方式, 方法)
質	神経/質/	筋肉/質/	(性質)
実	/実/時間	/実/世界	(実際, 現実)
社	新聞/社/	旅行/社/	ニューロマグ/社/ (会社)
術	腹話/術/	健康/術/	(技術)
線	京王/線/	東武/線/	(路線)
体	構造/体/	自治/体/	(体系)
代	宿泊/代/	飛行機/代/	(代金)
調	上昇/調/	演説/調/	(調子)
堂	礼拝/堂/	公会/堂/	(建物を表す)

品	衣料/品/	骨董/品/	(品物)
法	改善/法/	分析/法/	(方法)
両	/両/側面	/両/情報	(両方)
録	議事/録/	(記録)	

B 単独で使われるときと読み方（音訓）の異なるもの

【例】

後	訓練/後/	
骨	尾てい/骨/	
時	反応/時/	/時/系列
酒	日本/酒/	食前/酒/
心	好奇/心/	信仰/心/
物	目標/物/	特産/物/
名	役職/名/	歌集/名/

C その他

【例】

軒	来来/軒/			
共	両方/共/	両親/共/		
部	経済学/部/	美術/部/	人事/部/	下線/部/

細則 2 名詞と接辞の判定基準 (2)

(注) 本基準は、元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため、以下に挙げる例のほとんどは、CSJに出現したものである。

複合語の末尾に位置する動詞連用形（連用形転成名詞）を名詞とするか接尾辞とするかに関する基準を以下に示す。番号の若いものが優先する。

1 名詞とするもの

以下のいずれかに該当する

- (1) 元の動詞の意味用法に照らして、「～すること」という意味をもつ

【例】

お客様扱い、食器洗い、よちよち歩き、仲間入り、衝動買い、商売替え、原稿書き、単位切り、時間切れ、資金繰り、年金暮らし、お墓探し、手綱捌き、一時凌ぎ、証拠調べ、体育座り、草木染め、語義立て、耳頼り、見当違い、無駄遣い、菓子作り、順序付け、意味付け、対応付け、不運続き、時間潰し、言葉咎め、一足飛び、体言止め、通行止め、場所取り、模様眺め、試験慣れ、雑草抜き、五人抜き、文字化け、浮世離れ、分割払い、門前払い、八方塞がり、一目惚れ、お寺参り、成り行き任せ、根気負け、順番待ち、札所巡り、放射能漏れ、チェック漏れ、野焼き、二日酔い、喧嘩別れ、のれん分け、愛想笑い

- (2) 単独用法を有し、それと同じ意味を持つ

【例】

帰り（帰路）……仕事帰り、学校帰り
誤り……単語誤り、認識誤り
踊り……阿波踊り
狩り……潮干狩り
代わり……親代わり、灰皿代わり
騒ぎ……火事騒ぎ
育ち……坊ちゃん育ち、北国育ち
連れ……家族連れ
抜き……アルコール抜き
晴れ……五月晴れ
歪み……量子化歪み
振る舞い……形容詞的振る舞い
祭り……漫画祭り、七夕祭り
向き……下向き、若者向き
読み……重箱読み

2 接尾辞とするもの

- (1) 行為・現象そのものでなく、生産物、人、道具、方式等を表わす

【例】

野菜炒め、大根おろし、砂糖煮、お好み焼き、一戸建て（生産物）
雷鳥売り、空き巣狙い（人）
郵便受け、段ボール入れ、退院祝い、進退伺い、退職願（道具）
仮名遣い（方式）

(2) 複合語全体が状態・性質を表わす修飾語になりうる

【例】

カルシウム入り，情報処理絡み，沖縄行き，親思い，消費税込み，街道沿い，箇条書き，条件付き，大学出，課長止まり，タクシー泣かせ，常識外れ，犯罪紛い，漢字仮名交じり，シベリア回り，子供向け

(3) 数詞に接続する

【例】

二日置き，0.5刻み，十時過ぎ，八人乗り

※ なお，上記の基準によると，同じ語が必ずしも同じ品詞をとることにならない。

例1 焼き：野焼き（名），お好み焼き（接尾）

例2 行き：沖縄行き〔が決定〕（名），沖縄行き〔の便〕（接尾）

細則 3 助数詞の判定基準

助数詞とするものの範囲を、次のとおり定める。

- 1 名詞が助数詞的に用いられている場合でも、品詞は助数詞とせず名詞とする。

【例】 県 都 道 箱 府 文

- 2 助数詞的に用いられている接尾辞のうち、次の各項に該当する語は助数詞とする。

2. 1 『日本国語大辞典』第2版に助数詞としての記述があるもの。

【例】 アール インチ ウオン 円 日 (か) 回 階 回忌 海里 箇月

※『日本国語大辞典』第2版の記述の例

アール〔名〕({フランス}are) メートル法の面積の単位。

かい【回】〔接尾〕数または順序に関する語に付いて、回数を表わすのに用いる。

かん【巻】〔接尾〕①書籍、巻き物の数をかぞえるのに用いる。

2. 2 『日本国語大辞典』第2版に立項されていない、若しくは立項されていても助数詞としての記述がないもののうち、『大辞林』第2版に助数詞としての記述があるもの。

【例】 位 箇年 期 球 キロ キロヘルツ 組 元 周 週 色
センチ ダース 投 針 版 バーツ 筆 PPM ヘクトパスカル
ミリ メガバイト p p b エキュ ナノセカンド ベクレル
メガワット日

※『大辞林』第2版の記述の例

かねん【箇年】(接尾) 助数詞。年数を数えるのに用いる。

き【期】(接尾)(1) ある一定の時期。期間。名詞や数詞に付いて、接尾語的にも用いられる。「少年一」「第三一」

とう【投】(2)(接尾語的に用いて) 投げた回数を表す。

※『大辞林』第2版に立項されている助数詞のうち、あらかじめUniDicに登録すべきと判断したものについては、既にUniDicに登録した。現時点で、登録していないのは、次のような現代語では余り使用しないと考えられる語である。

【例】 あた(咫) 上代の長さの単位。

けつ(頁) 文献などの紙面を数えるのに用いる。

くさ(種) 物の種類を数えるのに用いる。

2. 3 2. 1, 2. 2に該当しないもののうち単位を表すもの。

【例】 ERB SDR オクターブ 日間 月 キロビット ギガ
ギガバイト ギガヘルツ

2. 4 2. 1から2. 3に該当しないもののうち、特に助数詞と認め得るもの。
現時点では、下記の10語のみ。

【例】 課 箇国 品(しな) 玉 艇 店 袋 箇寺 箇村 分け

細則 4 動詞連用形と動詞連用形転成名詞の判定基準

(注) 本基準は、元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため、以下に挙げる例のほとんどは、CSJに出現したものである。

なお、BCCWJの構築作業に利用するに当たり、一部修正を行った。

動詞一連用形とするか連用形転成名詞とするかについての判定基準を、次に示す。

1 現在動詞になっているもの

1. 1 動詞の連用形が他の自立語を伴わずに文節を構成する場合

1) 「～に行く、来る、走る、駆け付ける」など …… 動詞

① 後続語が助詞「に」

② 次の文節の先頭が動詞「行く」「来る」「走る」「駆け付ける」など

例：本を買いに行く、息子に会に來た、助けに駆け付ける

[注] 「金策に走り回る」「救助に駆け付ける」の「金策」「救助」は名詞であるが、居体言の場合は、格要素、連用修飾要素を取りやすいので、動詞とする。

[参考] 仲間を助けに駆け付ける、難破船の救助に駆け付ける

2) 強調のために同じ動詞を繰り返す場合 …… 動詞

① 後続語が助詞「に」

② 次の文節が同じ動詞の繰り返しである。

例：選りに選って、悩みに悩んで、ねばりにねばって

3) 「～はしない」の類 …… 動詞

① 後続語が助詞ハ、モ、サエなど

② 続く文節がスル、イタス、ナサルの否定形または仮定形

例：敬語を使いさえすればポライトか

正直に言えば答めはしないよ

女房子供ほったらかして働きもせず

[注] 上の例は「使えば」「答めない」「働かず」の強調形である。この種の「は」は「ありゃしない」「聞こえやしない」のように、融合や転訛を生じやすい。

4) 敬語用法 …… 動詞

① 「お」＋動詞連用形＋「になる」「(「する」「いたす)」

例：お使いになる、おいでになる、(お願いする、お答えする)

5) 上記以外の敬語用法

「お」＋動詞連用形で、気持ちとしては(4)に似ているが、「になる」「する」を伴わず、名詞に似た接続関係を持つ。この類は統一が取れていない。「お＋動詞連用形」が長単位で名詞になるのなら、「お」なしで名詞になりうるもの以外はすべて動詞にしてもいいような気もするが、実際はゆれている。文脈的にも格要素をとる場合と、逆に連体修飾語を持つ場合とがあり、どちらか一方に統一するわけにはいかないようだ。

①格助詞・係助詞を後ろに従える：

浅草寺でお参りをして	……………	名詞
びっくりしてそれからはお支払いが良くなる	……………	名詞
声の小さい人とおしゃべりはしづらい店です	……………	名詞

②命令的用法：ただいまーお帰り、飲みにおいでよ…………… 動詞

③「だ」「か」「と」「の」などを従える：

どの(A オーエス;OS)をお使いですか	……………	動詞
この二つは絶対お勧めです	……………	動詞
示さないことは大体既に見当がお付きであると	……………	動詞
そういうことは古くさいようにお感じでしょうけど	……………	動詞
先程のデータでもお分かりかと思う	……………	動詞
またかと思われる方もおありと存じます	……………	動詞
何で今更音素なんだと(F まー)お思いの方	……………	動詞
今(F あの)皆さんがお持ちの論文集	……………	動詞
お気に入りのカシミヤのセーター	……………	動詞
ここは凄くやり易いというようなお褒めの言葉を	……………	動詞

1. 2. 居体言が複合語の先頭または中間に位置する場合

1) 動詞の連用形が後続の名詞の意味を限定する働きを持つ

これは動詞連用形が「～する人」「～する(ための)もの」「～する(ための)場所」…という感じで後続の名詞または名詞性接尾辞に係るものである。以下のものはすべて動詞として扱われている。その中で確かに名詞だと思われるのは「狭め」1語であるが、他にもあるかどうか検討を要する。

①動詞

遊び仲間, ありよう, 居心地, 書き起こし時, 書き起こしテキスト, 書き起こし例, 書き換え箇所, 書き間違い, 掛け布団, 変わり具合, 頑張り所, 頑張り屋, 聞き取り試験, 聞こえ具合, 切り出し音素認識実験, 切れ目, 繰り返し演算, 繰り返し語, お好み焼き, 立て役者, 例えよう, 使い勝手, 出不精, 通し番号, 入り放題, はやり言葉, 選好振り向き法, 褒め言葉, 申し込み者, 読み上げ音声, 読み上げ原稿, (新聞記事) 読み上げコーパス, (文章) 読み上げシステム, カード読み上げ実験, 文読み上げ方式, 読み間違い

②名詞

(声道の) 狭め形成,

(◆ver. 1.1追加)

③名詞

上記①に該当するもののうち、送り仮名の無いもの。

申込用紙，受付窓口

- 2) 複合動詞の後ろ部分が付属要素（接尾的要素）で、かつそれが体言化して接尾辞となった場合

例：書き/始める/………「書き」「始める」いずれも動詞

書き/始め/から………「書き」が動詞，「始め」が接尾辞

見出し語は以下の通りである。

学び合い，書き終わり，問い掛け，働き掛け，歩き過ぎ，行き過ぎ，使い過ぎ，行き付け，書き始め

(◆ver.1.1追加)

細則5 人名の扱い

1 人名の範囲

- (1) 実在の個人の名。芸名、雅号、しこ名、院号のうち、個人の呼称として広く一般に知られているものを含む。

【例】 小泉純一郎 田中 ジョージ・ブッシュ C・W・ニコル
円融院 朝青龍 三遊亭楽太郎 MEGUMI いっこく堂

- (2) 通称や仮名、一般人のペンネームやハンドルネームなどのうち、形式や語感から人名と見なし得るもの。

【例】 ほりえもん A子 ×太郎 橋龍 さっちゃん 播磨屋菊五郎

それ以外は人名とはみなさない。

【例】 赤シャツ うらなり 饅頭屋 馬鹿旦那

- (3) 創作中の固有名のうち人間（に類するもの）の名。

【例】 ルーク・スカイウォーカー 野比のび太 怪物太郎

それ以外は人名とはみなさない。

【例】 スヌーピー キティちゃん

- (4) グループ名のうち、構成員の名前（芸名を含む。）のみで構成されるものもので、「姓+姓」「名+名」「姓+名+名」に類する形式をとるもの。

【例】 宮川大助・花子 太平サブローシロー おぼんこぼん

それ以外は人名とはみなさない。

【例】 ダウンタウン 雨上がり決死隊

- (5) 神仏名のうち以下のもの。

日本の神話の神	【例】	天照大神	須佐之男命	イザナギ
ギリシャ・ローマ神話の神	【例】	ビーナス	ヘラ	アテナ
キリスト教関連の天使	【例】	ミカエル	ラファエル	ガブリエル
人間由来の神仏名	【例】	シッタルタ	イエス	

上記以外は人名とはみなさない。

【例】 ラー シヴァ オーディーン 阿弥陀如来

- (6) 敬称や尊称などのうち、特定の一個人を指すもの。

【例】 仏陀 キリスト

- (7) 以下の点に注意する。

※ 人名に由来する行政区画名は人名としない。

【例】 豊田市 足利市 ホーチミン市

※ 人名に由来する組織の名称は原則として人名としない。

【例】 トヨタ自動車株式会社 松下電器産業株式会社

ただし、姓名の構成をとるなど形式から明らかに人名であることが分かるものは人名とする。

【例】 マツモトキヨシ

※ 上記以外は原則として由来に応じて人名とみなす。

【例】 ハンセン病 ガウス分布

ただし、動植物等の学名や、普通名詞化が強く進んでいるものは、「名詞-普通名詞-一般」とする。

【例】 地図帳アトラス …… ギリシャ神話の神に由来

※ 名前が土地や職業などに由来する場合であっても、姓や名に相当するものであれば人名とする。

【例】 レオナルド・ダ・ビンチ …… 「ビンチ」は村の名
ムハンマド・アリー・ハッダード …… 「ハッダード」は鍛冶屋の意

※ 爵位が領土（地名）に由来することもあるが、当該の地名と関連する爵位かどうかに関わらず、極めて有名な地名である、あるいは前後の文脈から明らかに地名と判断できる場合のみ地名とし、それ以外は一律に人名とする。

【例】

〔地名〕 エジンバラ公 ブランデンブルク辺境伯領

〔人名〕 アーサー公 アルバート伯

2 品詞

(1) 日本・中国・韓国の人名のうち、姓と名をそれぞれ「名詞-固有名詞-人名-姓」（以下「人名-姓」あるいは「姓」）、「名詞-固有名詞-人名-名」（以下「人名-名」あるいは「名」）とする。

【例】 | 小泉（姓） | 純一郎（名） | | キム（姓） | イルソン（名） |

姓名が特定できない場合、及び最小単位認定規程の規定6. 4により姓名全体をまとめて1最小単位と認定した中国の人名は「名詞-固有名詞-人名-一般」（以下「人名-一般」あるいは「一般」）とする。

【例】 | 阿国（一般） | | 李梅（一般） |

姓と名との間にある読み添えの「の」は「助詞-格助詞」とする。

【例】 | 藤原（姓） | の（格助詞） | 道長（名） |

(2) 日本・中国・韓国以外の人名、及び人名と認定された神仏名は「人名-一般」とする。

【例】 | ジョージ（一般） | ・ | スミス（一般） |
サアド（一般）	・	アル＝ガーミディー（一般）		
クロード（一般）	レヴィ（一般）	=	ストロース（一般）	
天照（一般）	大神		須佐之男（一般）	命
イザナギ（一般）				
ビーナス（一般）		ミカエル（一般）		

人名中の冠詞や前置詞などは「普通名詞-一般」とする。

【例】 | レオナルド（一般） | ・ | ダ（普通名詞） | ・ | ビンチ（一般） |

| ジョン (一般) | ・ | フォン (普通名詞) | ・ | ノイマン (一般) |

(3) 院号・しこ名・通称は「人名-一般」とする。

【例】 | 円融院 (一般) | | 朝青龍 (一般) |
| ほりえもん (一般) | | 橋龍 (一般) |
| さっ (一般) | ちゃん |

(4) 雅号や芸名、グループ名については、実在の人名との類似性や構成などから「人名-姓」「人名-名」と認定できるものはそのように判定し、それ以外は「人名-一般」とする。

【例】 | 三遊亭 (姓) | 楽太郎 (名) | | 明石家 (姓) | さんま (名) |
| MEGUMI (名) | | 宮川 (姓) | 大助 (名) | ・ | 花子 (名) |
| いっこく堂 (一般) |

明らかに普通名詞等の一般語と見なせるものは人名とはせず普通名詞とする。

【例】 | つぶやき (普通名詞) | シロー (名) |
| 猫 (普通名詞) | ひろし (名) | | 怪物 (普通名詞) | 太郎 (名) |

細則 6 終止形・連体形の判定基準

(注) 本基準は、元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため、以下に挙げる例のほとんどは、CSJに出現したものである。

終止形とするか連体形とするかについての判定基準を次に示す。

1 言い直しまたは繰り返し

少し表現を変えて言い直したり、全く同じ文句を繰り返したりした場合、先行用言の活用形を後続語の活用形に合わせる。

例 1 : 一緒に住んで \いる\ いたのですが (F その一) 祖母はとても元気な人で
(連体形)

例 2 : それに対してクロマの正答率はかなり (F ま) 内側に来て \いる\ 低くなっ
ていることが分かります (連体形)

例 3 : 手話なんて (F その) \くたびれる\ (F ま) (F その) 覚えるのは大変だと思
いますけれどもそんなに疲れるものじゃないと (連体形)

例 4 : 実際は (F ま) 直接その先輩方から教えて \もらう\ (D も) もらえるってい
うことはないのですが (終止形)

2 文の挿入

言い直しの一種だが、発言を明示的に取り消す文が挿入される場合は終止形とする。

例 5 : サーフィンやってヨットにヨットじゃ \ない\ ボートに乗ったりして

例 6 : 基本的に多分 (D い) 日本の日本じゃ \ない\ 東京の一大盛り場であった

3 指示詞挿入

終止連体形の直後に「そういう」「そういった」「その」などの指示詞が挿入される場合は、以下の基準にしたがって判定する。

判定の基準 1 : その用言の前から、用言の後ろに係るものがあれば連体形 (例 10)

判定の基準 2 : 指示詞を除くか「ような」と置き換えて差支えない場合は連体形
(例 7・8・11)

判定の基準 3 : 上記のいずれにも該当しない場合は終止形 (例 9・12)

例 7 : 建具を制作っていう風に書くというところを建具制作って書いて \ある\
(F ま) そういう例です (連体形)

例 8 : それからずっと第四十九回まで十三年間 (F ん一) 昭和十四年二月十八日だそう
ですがそこまではずっと (F あの一) 山上会議所で開かれて \た\ そういう
時代があった訳です (連体形)

例 9 : 一人はやっぱイタリア語の方が楽だっておっしゃっ \た\ そのイタリア
語の方が楽だって言った人は (終止形)

例 10 : ここで定例のこういうオーケストラ普段はオペラの伴奏してる人達が (F え) 主

- 役になっ \た\ そういう催し物が(D (? あ))開かれる (連体形)
 例11: キーワードに \なる\ そういう言葉が出てきます (連体形)
 例12: 音韻韻律の情報を付けるとか色んなこと今までやっていただい \てる\ そ
 ういうのを集めた形でこういう研究を進めていければ (終止形)

4 格助詞・係助詞後続

後続語によって終止形か連体形かを判定する基準は、一部分規定されているが、それに含まれないものが少しある。「に」を除く格助詞・係助詞の例を挙げる。文語の場合には形の上から連体形になるものが多い。古風な言いまわしは文語に準じて連体形にしたが、格助詞「に」の前を終止形としたので、それとの関係でゆれが生じる。

- 例13: 一見三の説を支持 \する\ がごとくでございます (連体形)
 例14: 軒下でてんかん起こし \た\ が為に(F その)要は出られなくて (連体形)
 例15: 言わ \ない\ が故に自分の自分の気分の中で喋ってられる (連体形)
 例16: 単語のリジェクションと \いう\ を行なう時 (連体形)
 例17: 何よりの見物じゃと言うてみて音の \する\ を蹴ると言うて (連体形)
 例18: その場合は収録作業の方を優先せ \ざる\ を得ないだろう (連体形)
 例19: (O 髪末を切り \たる\ はかぶろと言うなり (連体形)
 例20: 注意す \べき\ はその前に(F えー)丸四丸五に示しました (連体形)
 例21: 早速イワシをよみ出し申し付か \るる\ は云々 (連体形)
 例22: 進ま \ざる\ は退転という言葉もありますんでね (連体形)

5 言いさし

言いかけて途中で立ち消えになった場合。

- 例23: で(F えっと)どう \いう\ あんまり他に(?)類似の現象は観察されてない
 という風に思ってるんですが (終止形)

細則 7 出現形「に」の品詞分類

(注) 本基準は、元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため、以下に挙げる例のほとんどは、CSJに出現したものである。

1 「に」の情報と先行語

「に」の代表形並びに品詞は、先行語の品詞によって決まる部分が多い。すなわち先行語（フィラー、言いよどみを除く）の品詞が

- | | |
|---------------------------|-----------|
| ① 名詞・代名詞・副詞・記号ならば | 格助詞ニ |
| ② 形状詞ならば | 助動詞ダの連用形 |
| ③ 動詞・形容詞・助動詞の終止形ならば | 格助詞ニ |
| ④ 動詞・助動詞レル・ラレルの連用形ならば | 格助詞ニ |
| ⑤ 助動詞「ず」の連用形ならば | 格助詞ニ |
| ⑥ 「か」「のみ」「だけ」「など」等の副助詞ならば | 格助詞ニ |
| ⑦ 格助詞「と」（並列）「から」ならば | 格助詞ニ |
| ⑧ 準体助詞「の」ならば | 格助詞ニ |
| ⑨ 文語形容詞連体形ならば（例：なきにしもあらず） | 助動詞ナリの連用形 |

と解される。区別が問題になるのは主として上の①②であり、「に」の情報をきちんと付与するためには、名詞・形状詞・副詞の区分をきちんと定める必要がある。

2 品詞判別の手掛かり

以下の8項目を品詞判別の手掛かりとする。ただし、これは長単位での判定であり、「に」の直前の短単位の品詞は、必ずしも「に」の品詞と整合しない。

- ① 主格・対格・与格に立つ。
- ② サ変語尾を伴って動詞になる。
- ③ 「な」を伴って連体修飾する。（「なの」「な訳」などを除く。）
- ④ 単独で連用修飾語になる。
- ⑤ 「の」を伴って連体修飾する。
- ⑥ 程度副詞を受ける。（例：非常に、すごい、あまり、とても、比較的）
- ⑦ 格助詞を支配する。（例：「と同様」「より簡単」「でいっぱい」「に独立」）
- ⑧ 副助詞・係助詞が付き得る。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
名 詞	○	○	×	×	○	×	×	○
形状詞	×	×	○	×	○	○	○	×
副 詞	×	○	×	○	○	○	×	○

メタ的に用いられた場合は、無論例外であるが、それ以外にも多少の例外は認めなければならない（例：もっと前）。⑤のように全部に○が付くのは一見無意味のようであるが、一つの代表形はなるべく一つの品詞にまとめたいので、その際の許容範囲を明示する意味で加えた。①②と③のように排他的な項目について両方の用例を持つものは、

複数の品詞に分ける必要がある。その際、意味に余り差がなく、かつ形態論的にどちらでもよい例については、優先順を次のとおりとする。

- ① 助動詞「だ」「です」が付く場合は、形状詞、名詞、副詞の順
- ② 「に」「の」が付く場合も、明らかに格助詞と認められる場合を除き、形状詞、名詞、副詞の順（例外：必要に迫られる、無理のない計画）
- ③ 上記以外（サ変語幹、複合語など）は名詞、形状詞、副詞の順

なお、品詞によって意味に多少のずれがある場合は、意味の近い方に寄せる（例5）。

例1：必要がある（名詞）、必要な（形状詞）、必要書類（名詞）

例2：共通する（名詞）、共通な（形状詞）、共通の（形状詞）、共通語（名詞）

例3：特別な（形状詞）、特別歴史がある訳ではない（副詞）、特別機（形状詞）

例4：わずかな（形状詞）、わずかに（形状詞）、わずか3例（副詞）、わずかだけ開いてる（副詞）

例5：絶対諦めない（副詞）、絶対音感（名詞）、絶対に（副詞）

例6：幸い当選して（副詞）、幸いなことに（形状詞）、偶然が幸いして（名詞）

細則 8 助詞「か」の分類基準

(注) 本基準は、元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため、以下に挙げる例のほとんどは、CSJに出現したものである。

助詞「か」を副助詞とするか、終助詞とするかについての判定基準を次に示す。

1 先頭に来る場合 …… 終助詞

【例】 清楚で落ち着いた女性がいいと思いますがかと言って見合いは嫌だし

2 先行語が非活用語である場合

2. 1 「か」が陳述性を持たない場合 …… 副助詞

1) 不定称名詞に付いて名詞句または副詞句になる

誰か、何か、どこか、いつか、どちらか、幾らか、何らか、幾つか

【例】 誰かが頑張ってくれば

何か事件が起きた

何回か演奏会重ねるうちに

わざわざどこかに出掛けて行かなくても

左右どちらかの一方だけの赤色ランプが点滅して

2) 助詞、副詞その他連用修飾語に付く場合

とか、にか、でか、よりか、からか、てか

【例】 交通の便とか治安の良さ

面接とかして

ここの道路だけはどうにかしてほしいな

どういう風に繋がたらいいか分からないということでか落ちてしまう方が

防音塀というよりかはもうシェルターですね

どこからか寄ってきて

そのことも関係してかあんまり町が元気じゃない

もしかしたら

どうかうちで事務用品を買ってください

3) 「なぜ」「せい」「わけ」など理由を表す名詞に付いた場合、又は「で」に置き換えられる場合

【例】 なぜか梯子が滑って

皮膚の皮が薄いせいかすぐ青あざになってしまうんです

どういう訳か気に入ってもらえなくてね

共産主義体制の影響か顔に表情を出さぬ

4) 二者択一、三者択一の場合

【例】 視覚提示か聴覚提示かっていう

幸か不幸か女子校におりましたので

中学か高校でラテン語を習う

精度か(A エフ;F)尺度のいずれかを使用する

はいかいいえで答える

2. 2 「か」が陳述性を持つ場合 …… 終助詞

1) 言い切り

【例】 誰を誘うのか
どれが一番近いのか

2) 引用の助詞「と」、終助詞「な」「い」等が付く場合

【例】 ERっていうドラマはどんなドラマかと言いますと
共通語のアクセント体系で正しいアクセントは何かというのも
どっちかって言うと
本当にそうかな
大丈夫かい

3) 挿入

多く「のか」の形で現れる。

【例】 父親もわりと切り替えが早いのか今まで仕事人間だったのがね
大学生に見えたのか高校三年生でも雇ってもらえました

3 先行語が活用語である場合

1) 「と」以外の格助詞、副助詞が後続する場合 …… 副助詞

【例】 後続にどういう単語が来るかが重要です
みんなに私の血液型の標本と言うかが回されてしまった
ネガティブにあざ笑うかのようです
どこの部分にその腫ようが障るかで症状色々違うから
共通語っていうものをどういう風に捉えているかにもよります
何を手掛かりにしているかは分かりません
例えがあんまり良くないかもしれないけど
位置がどう変化するかを観察し
何が起こるかよく分からないまんま

2) 挿入句（除いても本筋に余り影響のないもの） …… 終助詞

【例】 幾つかの［モチーフっていうか］よく多用する小道具ってのがあるんです
車にぶつかって後ろの［何て言うんですか］バンパーの部分をへこまして
これを中学校の二年の時［十三歳ですか］の時に偶然本屋で手に取って
喉の方を［要するに舌ですかね］やられてたもんで

3) 言い切り及び引用の「と」、終助詞「な」「ね」等が付く場合 …… 終助詞

【例】 クリエーティブな使い方の側面だと言えるのではないのでしょうか
表記についてどのような傾向があるかということ
駐車場まで運ぶのにどうしようかなって考えてると

4 二者択一、三者択一の場合 …… 副助詞

1) 典型例

【例】 聞き分け易さに影響を及ぼすかどうかについて

それがいいか悪いかということで

教えに来てるんだか教わってるんだか分からないけれども

2) 余り典型的でない例

- 【例】 ある言語形式を美しいと思うか(副)醜いと思うか(副)あるいは好きか(副)嫌い
か(副)っていったようなそういう評価意識
個々の音節が等間隔で発声される傾向があるか(終)あるいはモーラタイミン
グと言われている日本語に対して個々のモーラが等間隔で発話される傾向が
あるか(副)ないか(副)という研究

3) ただし以下のような例は、単なる疑問文の羅列と考えて終助詞とする。

- 【例】 なぜ訓練が必要なのか(終)訓練のメリットは何か(終)そしてスピーチ訓練を
必要としているのは誰か(終)
何ていうお店でどんな料理を幾らくらいで出しているのか(終)おいしかった
か(終)何を食べたか(終)店の雰囲気はどうだったか(終)

4. 1 体言+「か」を含め、「か」で終わる文が並列する場合

それぞれがセンテンスであっても、内容的に排他的である場合は副助詞とする。

- 【例】 必ずその子が来てる(D こお)来てるか(副)どうか(副)を確認してから自
分の仕事をするっていう感じ
用法によって(F まー)連体修飾の<ベル>節を取るか(副)否(副)かという
ことに明らかにこう違いが見られました

細則 9 出現形「で」の品詞分類

(注) 本基準は、元々CSJの構築作業時に作成した基準である。そのため、以下に挙げる例のほとんどは、CSJに出現したものである。

0 目的

「で」という形で切り出された短単位語に品詞情報及び代表形を付与する際の基準を定める。

「で」の中には、接続詞や接続助詞「て」の連濁形、助動詞「てる」の未然形・連用形の連濁形などもあるが、形態上容易に判別できるものを除くと、残るのは格助詞「で」と助動詞「だ」の連用形「で」である。ここではその両者の仕分けに的を絞って記述する。出現形としては「で」と「は」の融合した「じゃ」というものもあるが、その判別法もこれに準ずる。

方法としては、まず助動詞とすべきものを規定し、そのいずれにも該当しないものを格助詞とする。したがって、格機能の判断に窮する例も出てくるがやむを得ない。下記の九つの規定は相互に排他的なものではないので、用例によっては複数の規則に該当するものもある。

1 形状詞に後続する「で」は、助動詞－連用形とする。

- 例 1 : 構成がかなり複雑でインタビューなんかも入っているものです
- 例 2 : 高校は好きなどこへばらばらで行く訳ですからね
- 例 3 : 私自身は犬は好きで(F ま)(F その一)野犬もかわいがってたんです
- 例 4 : そういう話を平気でできる年代なんで

◇そもそも助動詞「だ」の二つの連用形「で」と「に」の間には一応の役割分担がある。すなわち「で」は連用中止、「に」は連用修飾を担うはずである。したがって、例 2・例 4 のように形状詞＋「で」が連用修飾語になる例は少なく、大体は連用中止となる。

◇先行語の品詞認定とも相互に影響しあうところがある。例えば例 4 については「平気な」という用例があるので「平気で」を形状詞＋助動詞としたが、そうでなければ、名詞＋格助詞とするところである。「で」の直前の語が格要素・修飾要素を伴っている場合(例：保証人に無断で)、先行語が形状詞とみなされ、したがってその「で」は、助動詞－連用形となる。

2 「～\で\ある」「～\で\ない」「～\で\ございます」「～\で\いらっしゃる」「～\で\おる」「～\で\いる」に含まれる「で」は助動詞－連用形とする。

- 例 5 : 距離の総和というものが閾値以下である場合に
- 例 6 : 大事なのはこのコイルの配置でございます
- 例 7 : 母は女の子は字が綺麗でなければいけないからと言って
- 例 8 : とにかくものを持たない主義でいます
- 例 9 : 工場なんかを貸してる人なんかが親しいお得意さんでございました

◇「で」と述語の間に係助詞・副助詞・副詞・フィラーが入る場合も同様である。

例10：ウェアラブルの環境でも音声認識が全て万能ということでは勿論ありません

例11：つげさんは(F あのー)妖怪漫画の(F あの)大御所で(F え)いらっしゃいます

3 原因・理由を表す「～の\で\」「～ん\で\」に含まれる「で」は助動詞一連用形とする。

例12：これは特に評価が高かったので日本で放送されました

例13：(F えーっと)カウントにミスがあったりしたので数字としては悪いんですが

例14：アクション映画で活躍してたんで(F ま)ダーティーハリーなんていう代表作がありますけれども

◇すべての「ので」ではなくて、「原因・理由を表わす」という限定が付く。一般的に例外は少ないが、「いうので」「いうんで」の場合には、「いう」が形式動詞であるため、他の用言の場合ほど明白に原因・理由とすることができず、判定にゆれが生じる。以下の例は比較的はっきりしたものであるが、そうでないものもある。

例15：馴染みのあるもの馴染みのないものっていうので検出速度に差が見られました
(格助詞)

例16：話者適応とかに比べると性能が悪いというので最近使われてない(助動詞)

◇これに似たものとして「～こと\で\」「～もの\で\」「～もん\で\」「～訳\で」がある。特定の後続語に係るのかがどうかあまりはっきりしない場合が多く、人により時により判定のゆれるところであるが、上記に準じて、原因理由に近い「ことで」「もので」「もんで」「訳で」の「で」は助動詞にする。

例17：夕飯食べてないっていうことでね(F あの)(F ま)用意して待ってたんです

例18：疎開先の母の実家というのは農家じゃなかったもんでそんなに食糧が潤沢じゃなかったんです

例19：そういう訳で今日はこのドラマを紹介しようと思いました

4 「であり」「でして」「であって」「でありまして」「で、かつ」等に換言可能な「で」は、助動詞一連用形とする。

これは典型的な連用中止ということである。ガ格が明示されていればもちろん、そうでなくても、想定できる場合はこれに該当するということになる。助動詞と判定される例の多くがこれに該当する。

例20：終戦後いち早く(F あの)できた商店街でその頃は東洋一のアーケード街と言われていたそうです

例21：リコール(A 零. 六七; 0. 67)(F えー)プレシジョン約(D ろ)約五割で(A エフ; F)バリューが(A 零. 六; 0. 6)

5 同格の「で」は助動詞一連用形とする。

これも「で、かつ」に換言可能ということで、4の一部と言えなくもない。

例22：旭川のスキー場で(F え)カムイスキーリンクスっていうところがあるんですけども

例23：キーワード以外で尤度最大となるような単語は

- 6 前後に来る語との接続関係上、助詞一格助詞とは解釈しにくい「で」は、助動詞一連用形とする。

これは多く「では」「でも」の形で格助詞「に」「と」「から」「へ」「で」、接続助詞「て」「ながら」などに後続するもので、全体で副助詞のように働く場合が多い。おおむね機械的に判定できるが、「と」に付く場合は、並列の「と」か純然たる格助詞かで異なってくる。

例24：最初単純に盗難届けはどこにでも出せるもんだと思ってたもんですから

例25：何としてでも一回戦を突破してベスト十六に入れば

例26：現存するタグ付きコーパスからでは量的に不十分であります

例27：初対面の人とでもそのように仲良くできたことで（助動詞）

例28：異なりと延べとで逆の様相を呈している（助詞）

- 7 例示を表す「でも」の「で」は、助動詞一連用形とする。

例29：それってどういうこと(F えー)途中でナンパでもするの

例30：靴箱にしては横幅が広くてお相撲さんの靴でも入れ(D る)たくなるような

- 8 「～べき\で\」「～はず\で\」「～そう\で\」 … 助動詞一連用形とする。

規則2又は4に含まれるものであるが、まず例外なしに助動詞になると思われるものを取り上げた。「そう」には名詞（例：降るそうだ）と形状詞（例：降りそうだ）の二通りがあるが、いずれも同じに扱う。

例31：れる・られる敬語が多いという点はやはり方言差と考えるべきであろうと

例32：何か百五十ぐらいお部屋があるそうで最近一般公開されたそうです

- 9 上記のいずれにも該当しないものは格助詞とする。ただし方言などで、特殊な形態を取るものについては、個別に検討する。

例33：(M (0 ありまっさかい))とか(0 着きますで)という（終助詞）

細則 10 メタ的に使われた漢字等の扱い

1 字の漢字のうち、漢字の解説に用いられたもの（メタ的に使われたもの）や新聞記事の書名等に用いられた姓又は名を略したものなどに対して、語彙素・語彙素読みを付与する際の基準を定める。

【例】 そして過という言葉は漢語にこう付くのが
各話熱気がこもっていて、見応えがある。（野）

1. 読み

読みは、原則として漢音とする。

【例】 かたじけない。（恭） → キョウ
「碍子」の「碍」を当てるべきとの → ガイ

ただし漢音が一般的でない場合は呉音等で読む。なお、音（漢音・呉音等）が一般的でない場合、訓で読むことがある。

【例】 それに、片方から「大」の字を落とせば、 → ダイ
そのための手引きになってくれる。（鷹） → タカ

2. 語彙素のまとめ方等

読みが同じ漢字は、一つの語彙素にまとめる。

【例】 真／新／信 → シン【シン】
阿／亜 → ア【ア】

平仮名・片仮名で漢字の読みを表したもののや、簡条書きの項目名等の1字の平仮名・片仮名も、同じ読みの漢字と同一の語彙素にまとめる。

【例】 真／新／シン／しん → シン【シン】
亜／あ／ア → ア【ア】

参考資料 助詞・助動詞接続一覧（終止形・連体形接続）

終止形・連体形の判別の参考に供するために、助詞・助動詞のうち活用語の終止形・連体形に接続するものを次に示す。文語の助詞・助動詞の接続は、口語と異なる場合にのみ記載した。

1 助詞（口語終止形接続）

口 語		文 語	
語彙素	接 続	語彙素	接 続
【格助】 が と に へ を	終止形 終止形 終止形 終止形 終止形		連体形 連体形 連体形 連体形
【接助】 が から けれど し と とも なり	終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形，形容詞型活用の連用形 終止形		連体形 形容詞型活用及び助動詞「ず」には連用形
【係助】 こそ なむ は も	終止形 終止形 終止形 終止形		連体形 連体形 連体形 連体形
【副助】 か かしら きり さえ しか たって だに たら って など なんて や	終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形		連体形 連体形 連体形 連体形
【終助】 い か かしら け させ ぞ たら な ね や よ わ	終止形 終止形，助動詞「べし」の連体形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形 終止形		連体形

2 助詞（口語連体形接続）

口 語		文 語	
語彙素	接 続	語彙素	接 続
【格助】 の より	連体形, 助動詞「だ」の終止形 連体形		連体形
【接助】		に も を	連体形 連体形 連体形
【係助】		か ぞ や	連体形 連体形 終止形（文末用法）
【副助】 くらい だけ のみ ばかり まで どころ ほど	連体形 連体形 連体形 連体形 連体形 連体形 連体形		終止形（程度・範囲の意） 連体形（限定の意）
		し	連体形
【終助】 の もの	連体形 連体形, 助動詞「だ」「です」の終止形		

3 助動詞

口 語		文 語	
語彙素	接 続	語彙素	接 続
だ です べし らしい	終止形, 助動詞「べし」の連体形 終止形, 助動詞「べし」の連体形 終止形 終止形		終止形, ラ変の連体形 終止形, ラ変の連体形
		らし	

参 考 文 献

- 小椋秀樹・小木曾智信・小磯花絵・富士池優美・相馬さつき (2007) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の短単位解析について」『言語処理学会第13回年次大会発表論文集』, 720-723.
- グループ・ジャマシイ (1998) 『日本語文型辞典』くろしお出版.
- 国立国語研究所 (1962) 『国立国語研究所報告21 現代雑誌九十種の用語用字(1)』秀英出版.
- 国立国語研究所 (1987) 『国立国語研究所報告89 雑誌用語の変遷』秀英出版.
- 国立国語研究所 (1995) 『国立国語研究所報告112 テレビ放送の語彙調査 I』秀英出版.
- 国立国語研究所 (2001) 『現代複合辞用例集』.
- 国立国語研究所 (2006) 『国立国語研究所報告124 日本語話し言葉コーパスの構築法』.
- 中野洋 (1998) 「言語の統計」『岩波講座言語の科学 9 言語情報処理』149-199, 岩波書店.
- 林大監修 (1982) 『角川小辞典 9 図説日本語』角川書店.
- 富士池優美・小椋秀樹・小木曾智信・小磯花絵・内元清貴・相馬さつき・中村壮範 (2008) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の長単位認定基準について」『言語処理学会第14回年次大会発表論文集』.
- 前川喜久雄 (2006) 「特定領域研究「日本語コーパス」のめざすもの」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度全体会議予稿集』, 1-8.
- 前川喜久雄 (2008) 「KOTONOA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の開発」『日本語の研究』4-1, 82-95.
- 前田富祺 (1985) 『国語語彙史研究』明治書院.
- 山崎誠 (2007) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の基本設計について」『特定領域「日本語コーパス」平成18年度公開ワークショップ（研究成果報告会）予稿集』127-136.

資料 要注意語

「ー が 〜」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
568	アメガシタ 天が下	名詞-普通名詞-一般			
660	アラシガオカ 嵐が丘	名詞-固有名詞-一般 映画タイトル、書名。 映画「【嵐が丘】」に付けた音楽がCD化された。			
569	カリガネ 雁が音	名詞-普通名詞-一般			
570	キミガヨ 君が代	名詞-固有名詞-一般 『岩波国語辞典』になし。			
571	ケンガミネ 剣が峰	名詞-普通名詞-一般			
572	タカマガハラ 高天が原	名詞-固有名詞-地名 一般			
573	ホラガトウゲ 洞が峠	名詞-固有名詞-地名 一般			
574	マンガイチ 万が一	名詞-普通名詞-副詞 可能 【万が一】リプレイハズシに失敗した場合			

「ー の 〜」

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
315	アイノコ 合の子	名詞-普通名詞-一般			
316	アイノテ 合の手	名詞-普通名詞-一般			
317	アカノマンマ 赤の飯	名詞-普通名詞-一般			

- 291 アサノハ 名詞-普通名詞-一般
麻の葉
【麻の葉】とか七宝とか
- 292 アジノモト 名詞-固有名詞-一般
味の素 『岩波国語辞典』になし。
アジシオとか【味の素】、タバスコなどを
- 675 アシノヤ 名詞-普通名詞-一般
葦の矢
陰陽寮から桃の杖と弓、【葦矢】が配られた殿上人が、
- 318 アトノマツリ 名詞-普通名詞-一般
後の祭り
- 319 アマノガワ 名詞-普通名詞-一般
天の川
別るるや夢一筋の【天の川】
- 320 アマノジャク 名詞-普通名詞-一般
天の邪鬼
- 663 アマノハシダテ 名詞-固有名詞-地名-一般
天の橋立
京都府宮津市の【天の橋立】などがある。
- 321 アマノハラ 名詞-普通名詞-一般
天の原
- 322 アリノトウ 名詞-普通名詞-一般
蟻の塔
- 293 アリノママ 名詞-普通名詞-副詞-可能
有りの儘
【ありのまま】のわんこを撮り続けて行きたい
- 676 アリノミ 名詞-普通名詞-一般
有の実
- 323 アンノジョウ 副詞
案の定
【案の定】品切れで手に入りにくく、

- 324 イエノコ 名詞-普通名詞-一般
家の子
自分の【家の子】を当てると言うもの。
- 325 イキノネ 名詞-普通名詞-一般
息の根
たちどころに襲われて【息の根】をとめられる
- 326 イタノマ 名詞-普通名詞-一般
板の間
- 327 イチノゼン 名詞-普通名詞-一般
一の膳
- 328 イチノトリ 名詞-普通名詞-一般
一の酉
- 677 イツキノミヤ 名詞-普通名詞-一般
斎宮
姫宮さま方が【斎宮】や斎院にお立ちになって
- 678 イノコ 名詞-普通名詞-一般
猪子
- 329 イノフ 名詞-普通名詞-一般
胃の腑
- 679 イボタノキ 名詞-普通名詞-一般
いぼたのき
- 680 イボタノムシ 名詞-普通名詞-一般
いぼたのむし
- 330 ウオノメ 名詞-普通名詞-一般
魚の目
- 331 ウシノヒ 名詞-普通名詞-一般
丑の日
- 332 ウソノカワ 名詞-普通名詞-一般
嘘の皮

- 333 ウチノヒト 名詞-普通名詞-一般
内の人
- 334 ウノケ 名詞-普通名詞-一般
兎の毛
- 335 ウノハナ 名詞-普通名詞-一般
卯の花
楽浪の志賀の【卯の花】腐しかな
- 336 ウマノアシ 名詞-普通名詞-一般
馬の足
- 337 ウマノホネ 名詞-普通名詞-一般
馬の骨
どこの【馬の骨】ともわからないような
- 338 ウミノオヤ 名詞-普通名詞-一般
産みの親
- 339 ウミノコ 名詞-普通名詞-一般
産みの子
- 340 ウワノソラ 名詞-普通名詞-形状
詞可能
上の空
皆がわいわい言っている言葉を【上の空】で聞いていた。
- 341 ウンノツキ 名詞-普通名詞-一般
運の尽き
- 681 エゴノキ 名詞-普通名詞-一般
えごのき
そこらに生えている樫の木や椎の木、【エゴノキ】やムラサキシキブ、
- 342 エノアブラ 名詞-普通名詞-一般
荳の油
- 294 エノグ 名詞-普通名詞-一般
絵の具
白いエナメル【絵の具】で議員名を記す。
- 682 エノコ 名詞-普通名詞-一般
えのこ

- 343 エンノシタ 名詞-普通名詞-一般
縁の下
【縁の下】の力持ち登場！
- 344 オクノイン 名詞-普通名詞-一般
奥の院
- 345 オクノテ 名詞-普通名詞-一般
奥の手
- 346 オシエノニワ 名詞-普通名詞-一般
教えの庭
- 347 オチャノコ 名詞-普通名詞-一般
お茶の子
- 348 オテノモノ 名詞-普通名詞-一般
お手の物
- 295 オトコノコ 名詞-普通名詞-一般
男の子
天主の人らは【男の子】が出来た時だけ、
- 349 オノエ 名詞-普通名詞-一般
尾の上
- 296 オモイノタケ 名詞-普通名詞-一般
思いの丈
自由に【思いの丈】を書ける
- 297 オモイノホカ 副詞
思いの外
【思いのほか】落ち込む曲が多いと思ったし
- 298 オンナノコ 名詞-普通名詞-一般
女の子
可愛い【女の子】と文通してみたいなあ。
- 350 オンノジ 名詞-普通名詞-一般
御の字
「ありがたい」「しめたものだ」の意。
- 351 カイノクチ 名詞-普通名詞-一般
貝の口

- | | | |
|-----|----------------|--|
| 352 | カギノテ
鉤の手 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 353 | カゴノトリ
籠の鳥 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 354 | カジノキ
梶の木 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 355 | カズノコ
数の子 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 356 | カゼノカミ
風の神 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 357 | カゼノコ
風の子 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 358 | カゼノタヨリ
風の便り | 名詞-普通名詞-一般 |
| 359 | カタノゴトク
型の如く | 名詞-普通名詞-一般 |
| 360 | カノコ
鹿の子 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 361 | カバノキ
樺の木 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 362 | カミノキ
紙の木 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 300 | カミノク
上の句 | 名詞-普通名詞-一般 |
| 299 | カミノケ
髪の毛 | 名詞-普通名詞-一般
『岩波国語辞典』になし。
あんなに【髪の毛】がワッサワッサしてたら |
| 363 | カメノコ
亀の子 | 名詞-普通名詞-一般 |

- 364 カメノコウ
亀の甲 名詞-普通名詞-一般
- 365 カモノハシ
鴨の嘴 名詞-普通名詞-一般
- 366 カリノヨ
仮の世 名詞-普通名詞-一般
- 367 カンノキ
貫の木 名詞-普通名詞-一般
- 368 カンノムシ
瘡の虫 名詞-普通名詞-一般
- 369 キタノカタ
北の方 名詞-普通名詞-一般
- 370 キタノマル
北の丸 名詞-普通名詞-一般
『岩波国語辞典』になし。
- 371 キノカシラ
木の頭 名詞-普通名詞-一般
- 372 キノクスリ
気の薬 名詞-普通名詞-一般
- 373 キノジ
喜の字 名詞-普通名詞-一般
- 301 キノドク
気の毒 形状詞-一般
他の人たちは、【気の毒】だが
- 374 キノミ
木の実 名詞-普通名詞-一般
『岩波国語辞典』になし。
十月の草原で、【木の实】のかおりをかぎながら
- 302 キノメ
木の芽 名詞-普通名詞-一般
サンショウの芽の意。
【木の芽】を何か乗せると

- 375 キノヤマイ 名詞-普通名詞-一般
 気の病
- 376 グウノネ 名詞-普通名詞-一般
 ぐうの音
 【ぐうの音】もでなかった。
- 377 クサノイオリ 名詞-普通名詞-一般
 草の庵
- 378 クサノネ 名詞-普通名詞-一般
 草の根
 【草の根】主義の成果だ
- 683 クスノキ 名詞-普通名詞-一般
 樟
 樹齢二千年を超えるという御神木の【楠】を仰ぎ見る。
- 379 クチノハ 名詞-普通名詞-一般
 口の端
- 684 クノイチ 名詞-普通名詞-一般
 くのいち
 江戸へ行っている【くノ一】たちの中では、最年少の娘だ。
- 380 クビノザ 名詞-普通名詞-一般
 首の座
- 381 クマノイ 名詞-普通名詞-一般
 熊の胆
- 662 クマノミ 名詞-普通名詞-一般
 熊之実
 ツノダシチョウチョウオ【クマノミ】その他色々
- 382 クモノウエ 名詞-普通名詞-一般
 雲の上
- 383 クモノミネ 名詞-普通名詞-一般
 雲の峰
 【雲の峰】ほどの思ひの我にあらば

- 384 コウノモノ 名詞-普通名詞-一般
香の物
- 385 コウノモノ 名詞-普通名詞-一般
剛の者
- 386 コシノモノ 名詞-普通名詞-一般
腰の物
- 387 コトノオ 名詞-普通名詞-一般
琴の緒
- 388 コトノハ 名詞-普通名詞-一般
言の葉
【言の葉】のびらびら降れば
- 389 コトノホカ 副詞
殊の外
桜を【ことのほか】好きだったように思います。
- 303 コノシタ 名詞-普通名詞-一般
木の下
桜散る【このした】風はさむからで
- 390 コノハ 名詞-普通名詞-一般
木の葉
主な食べ物は、【木の葉】や果実である。
- 391 コノマ 名詞-普通名詞-一般
木の間
【木の間】をビューッと吹き抜け。
- 392 コノミ 名詞-普通名詞-一般
木の実
植物は熟した【木の実】を必ず水の中に落とし
- 393 コノメ 名詞-普通名詞-一般
木の芽
- 685 コノワタ 名詞-普通名詞-一般
海鼠腸
なまこ（海鼠）・【このわた】（【海鼠腸】）・かかな（めばる、鮓）

- 394 サイノカワラ 名詞-普通名詞-一般
賽の河原
- 395 サイノメ 名詞-普通名詞-一般
采の目
クリームチーズを【さいの目】に切って
- 396 サキノヒ 名詞-普通名詞-一般
先の日
【先の日】に声をかけていただいた
- 397 サルノコシカケ 名詞-普通名詞-一般
猿の腰掛
- 398 サンノゼン 名詞-普通名詞-一般
三の膳
- 399 サンノトリ 名詞-普通名詞-一般
三の酉
- 400 サンノマル 名詞-普通名詞-一般
三の丸
- 401 シナノキ 名詞-普通名詞-一般
科の木
- 402 シノハイ 名詞-普通名詞-一般
死の灰
- 304 シモノク 名詞-普通名詞-一般
下の句
【下の句】が説明的で、
- 403 ジャノヒゲ 名詞-普通名詞-一般
蛇の髭
- 404 ジャノメ 名詞-普通名詞-一般
蛇の目
- 405 ジョノクチ 名詞-普通名詞-一般
序の口

- 406 シラベノオ 名詞-普通名詞-一般
調べの緒
- 407 スエノヨ 名詞-普通名詞-一般
末の世
【末の世】のかなしき麦を打ちにけり
- 661 スズカケノキ 名詞-普通名詞-一般
篠懸の木
- 408 スノコ 名詞-普通名詞-一般
簀の子
- 409 スノモノ 名詞-普通名詞-一般
酢の物
【酢の物】として食べるのが定番
- 410 セキノヤマ 名詞-普通名詞-一般
関の山
- 411 セノキミ 名詞-普通名詞-一般
兄の君
- 412 ソデノシタ 名詞-普通名詞-一般
袖の下
- 413 ダイノジ 名詞-普通名詞-一般
大の字
- 414 タケノコ 名詞-普通名詞-一般
竹の子
- 415 タコノキ 名詞-普通名詞-一般
蛸の木
- 416 タツノオトシゴ 名詞-普通名詞-一般
竜の落とし子
- 417 タノモ 名詞-普通名詞-一般
田の面

- 418 タビノソラ 名詞-普通名詞-一般
旅の空
- 419 タマノアセ 名詞-普通名詞-一般
玉の汗
- 420 タマノオ 名詞-普通名詞-一般
玉の緒
- 421 タマノコシ 名詞-普通名詞-一般
玉の輿
求婚されて【玉の輿】に乗るのです
- 422 タラノキ 名詞-普通名詞-一般
たらの木
- 423 タラノコ 名詞-普通名詞-一般
鱈の子
- 424 チノアメ 名詞-普通名詞-一般
血の雨
- 425 チノイケ 名詞-普通名詞-一般
血の池
- 426 チノウミ 名詞-普通名詞-一般
血の海
自動車の中は【血の海】で、どこもかしこも粘っていた
- 427 チノケ 名詞-普通名詞-一般
血の気
ハリファの顔から【血の気】が失せた。
- 428 チノナミダ 名詞-普通名詞-一般
血の涙
- 429 チノミチ 名詞-普通名詞-一般
血の道
- 430 チノメグリ 名詞-普通名詞-一般
血の巡り

- 431 チノリ 名詞-普通名詞-一般
地の利
あの【地の利】で、他と比べて一番安い駐車場
- 432 チノワ 名詞-普通名詞-一般
茅の輪
たましひのかたちを想ふ【茅の輪】かな
- 433 チャノコ 名詞-普通名詞-一般
茶の子
- 305 チャノマ 名詞-普通名詞-一般
茶の間
高度成長期の【茶の間】を再現。
- 434 チャノユ 名詞-普通名詞-一般
茶の湯
【茶の湯】のたしなみのない人もその風流な雰囲気
- 435 ツカノマ 名詞-普通名詞-一般
束の間
【束の間】の船長気分を堪能。
- 436 ツキノカツラ 名詞-普通名詞-一般
月の桂
- 437 ツキノサワリ 名詞-普通名詞-一般
月の障り
- 438 ツギノマ 名詞-普通名詞-一般
次の間
- 439 ツキノモノ 名詞-普通名詞-一般
月の物
- 440 ツキノワ 名詞-普通名詞-一般
月の輪
- 441 ツラノカワ 名詞-普通名詞-一般
面の皮
- 442 デクノボウ 名詞-普通名詞-一般
木偶の坊

- 443 テツノハイ 名詞-普通名詞-一般
鉄の肺
- 444 テノウチ 名詞-普通名詞-一般
手の内
- 445 テノウラ 名詞-普通名詞-一般
手の裏
- 446 テノコウ 名詞-普通名詞-一般
手の甲
ほお紅下地を【手の甲】に取り
- 447 テノスジ 名詞-普通名詞-一般
手の筋
- 448 テノヒラ 名詞-普通名詞-一般
掌
【掌】で包んだ湯飲みを見つめ、
- 449 テノモノ 名詞-普通名詞-一般
手の者
- 450 テノモノ 名詞-普通名詞-一般
手の物
- 451 ドウノマ 名詞-普通名詞-一般
胴の間
- 452 トキノコエ 名詞-普通名詞-一般
関の声
- 453 トキノマ 名詞-普通名詞-一般
時の間
- 454 トコノマ 名詞-普通名詞-一般
床の間
正面の【床の間】を背にして座った白鳥医師を中心に、
- 455 トシノイチ 名詞-普通名詞-一般
年の市

- 456 トシノウチ 名詞-普通名詞-一般
年の内
- 457 トシノクレ 名詞-普通名詞-一般
年の暮れ
この【年の暮れ】にGCSB職員が
- 458 トシノコウ 名詞-普通名詞-一般
年の功
さすが【年の功】、誌面にしっくりなじんでいる。
- 459 トシノセ 名詞-普通名詞-一般
年の瀬
【年の瀬】も押し詰まったこの時期の
- 460 トチノキ 名詞-普通名詞-一般
栃の木
- 461 トドノツマリ 名詞-普通名詞-一般
とどの詰まり
【とどのつまり】、デュブレは職を失った。
- 462 トノコ 名詞-普通名詞-一般
砥の粉
- 463 トノモ 名詞-普通名詞-一般
外の面
- 464 トビノウオ 名詞-普通名詞-一般
飛びの魚
- 465 トビノモノ 名詞-普通名詞-一般
鳶の者
- 466トラノオ 名詞-普通名詞-一般
虎の尾
- 467トラノコ 名詞-普通名詞-一般
虎の子
41兆円の【虎の子】の税金からいただくのだ。
- 468トラノマキ 名詞-普通名詞-一般
虎の巻

- 469 トリノイチ 名詞-普通名詞-一般
酉の市
- 470 トリノコ 名詞-普通名詞-一般
鳥の子
- 471 トリノマチ 名詞-普通名詞-一般
酉の待
- 686 ドロノキ 名詞-普通名詞-一般
白楊
最近頭角を現した若い詩人が【白楊】の憂愁さを扱った詩の
- 472 ナカノクチ 名詞-普通名詞-一般
中の口
- 473 ナカノマ 名詞-普通名詞-一般
中の間
宴会に備えての準備を指図して【中の間】に入り
- 474 ナキノナミダ 名詞-普通名詞-一般
泣きの涙
- 475 ナゴリノツキ 名詞-普通名詞-一般
名残の月
- 476 ナナツノウミ 名詞-普通名詞-一般
七つの海
- 477 ナノハナ 名詞-普通名詞-一般
菜の花
ゴールデンウィークは【菜の花】、桜が見頃。
- 478 ナミノハナ 名詞-普通名詞-一般
波の花
- 479 ナミノホ 名詞-普通名詞-一般
波の穂
- 480 ナレノハテ 名詞-普通名詞-一般
成れの果て

- 481 ニシノウチ 名詞-普通名詞-一般
西の内
- 482 ニノアシ 名詞-普通名詞-一般
二の足
開発には【二の足】を踏んだかもしれない
- 483 ニノウデ 名詞-普通名詞-一般
二の腕
たかの友梨に行って美しい【二の腕】に仕上げなきゃ
- 484 ニノカワリ 名詞-普通名詞-一般
二の替わり
- 485 ニノク 名詞-普通名詞-一般
二の句
- 486 ニノゼン 名詞-普通名詞-一般
二の膳
- 487 ニノツギ 名詞-普通名詞-一般
二の次
- 488 ニノトリ 名詞-普通名詞-一般
二の酉
- 489 ニノマイ 名詞-普通名詞-一般
二の舞
父の【二の舞い】にならないとは限らない。
- 490 ニノマル 名詞-普通名詞-一般
二の丸
- 491 ニノヤ 名詞-普通名詞-一般
二の矢
- 306 ネンノタメ 名詞-普通名詞-一般
念の為
【念のため】にここまでお供いたしました
- 492 ノチノヨ 名詞-普通名詞-一般
後の世
【後の世】に逢はば二本の氷柱かな

687 ノノミヤ 名詞-普通名詞-一般

野の宮

六条の御息所は、【野の宮】移徙の折にも趣向を凝らし、

493 ノミノイチ 名詞-普通名詞-一般

蚤の市

494 バケノカワ 名詞-普通名詞-一般

化けの皮

688 ハゼノキ 名詞-普通名詞-一般

黄檗

495 ハチノアタマ 名詞-普通名詞-一般

蜂の頭

496 ハチノコ 名詞-普通名詞-一般

鉢の子

497 ハチノス 名詞-普通名詞-一般

蜂の巣

498 ハツヒノデ 名詞-普通名詞-一般

初日の出

499 ハラノムシ 名詞-普通名詞-一般

腹の虫

500 ハリノキ 名詞-普通名詞-一般

榛の木

501 ハンノキ 名詞-普通名詞-一般

榛の木

502 パンノキ 名詞-普通名詞-一般

パンの木

503 ヒノイリ 名詞-普通名詞-一般

日の入り

【日の入り】時間のチェックをお忘れなく。

- 504 ヒノクルマ 名詞-普通名詞-一般
火の車
お隣りは外車で我が家【火の車】
- 505 ヒノケ 名詞-普通名詞-一般
火の気
【火の気】のないテントの中は寒く、
- 506 ヒノコ 名詞-普通名詞-一般
火の粉
- 507 ヒノタマ 名詞-普通名詞-一般
火の玉
- 508 ヒノテ 名詞-普通名詞-一般
火の手
- 307 ヒノデ 名詞-普通名詞-一般
日の出
【日の出】を迎えることができた。
- 509 ヒノバン 名詞-普通名詞-一般
火の番
- 510 ヒノマル 名詞-普通名詞-一般
日の丸
ロビーに【日の丸】を掲げるように要求した
- 511 ヒノミ 名詞-普通名詞-一般
火の見
- 512 ヒノメ 名詞-普通名詞-一般
日の目
【日の目】を見なかったかつての極秘文書をベースに
- 513 ヒノモト 名詞-普通名詞-一般
日の本
- 514 ヒノモト 名詞-普通名詞-一般
火の元
- 515 フキノトウ 名詞-普通名詞-一般
蔦の臺

- 516 フクノカミ 名詞-普通名詞-一般
福の神
 家族は「素行の悪い、【福の神】」と呼んでいる
- 517 フシノキ 名詞-普通名詞-一般
五倍子の木
- 518 ヘソノオ 名詞-普通名詞-一般
臍の緒
 第一の誕生の際に【臍の緒】の代わりとなった母乳は、
- 519 ホオノキ 名詞-普通名詞-一般
朴の木
- 520 ホソノオ 名詞-普通名詞-一般
臍の緒
- 521 ホトケノザ 名詞-普通名詞-一般
仏の座
- 522 ホノジ 名詞-普通名詞-一般
ほの字
 『岩波国語辞典』になし。
- 523 ボンノクボ 名詞-普通名詞-一般
盆の窪
- 524 マクノウチ 名詞-普通名詞-一般
幕の内
- 525 マゴノテ 名詞-普通名詞-一般
孫の手
- 526 マタノナ 名詞-普通名詞-一般
又の名
- 527 マタノヒ 名詞-普通名詞-一般
又の日
- 528 マツノウチ 名詞-普通名詞-一般
松の内

- 308 マノアタリ 名詞-普通名詞-副詞
可能
目の当たり
現実を【目の当たり】にしていたのである
- 529 ミズノアワ 名詞-普通名詞-一般
水の泡
- 530 ミズノテ 名詞-普通名詞-一般
水の手
- 531 ミチノベ 名詞-普通名詞-一般
道の辺
- 532 ミナノシュウ 名詞-普通名詞-一般
皆の衆
- 309 ミノウエ 名詞-普通名詞-一般
身の上
いまひとつ役割に恵まれない【身の上】を、
- 533 ミノケ 名詞-普通名詞-一般
身の毛
- 534 ミノシロ 名詞-普通名詞-一般
身の代
【身の代】金目的略取等、
- 535 ミノタケ 名詞-普通名詞-一般
身の丈
- 310 ミノホド 名詞-普通名詞-一般
身の程
人間は【身の程】を知るべきです
- 311 ミノマワリ 名詞-普通名詞-一般
身の回り
われわれの【身のまわり】は、
- 536 ムカウノサト 名詞-普通名詞-一般
無何有の郷
- 537 ムギノアキ 名詞-普通名詞-一般
麦の秋

- 538 ムクノキ 名詞-普通名詞-一般
 椋の木
- 539 ムシノイキ 名詞-普通名詞-一般
 虫の息
- 540 ムスビノカミ 名詞-普通名詞-一般
 結びの神
- 312 メノカタキ 名詞-普通名詞-一般
 目の敵
 伝統芸能まで【目の敵】にするような
- 541 メノコ 名詞-普通名詞-一般
 目の子
- 542 メノシタ 名詞-普通名詞-一般
 目の下
- 543 メノタマ 名詞-普通名詞-一般
 目の玉
 二つの【目の玉】が飛び出してしもうての、
- 544 モチノキ 名詞-普通名詞-一般
 藁の木
- 545 モッテノホカ 形状詞-一般
 以ての外
 「魚を裏返すなど【もってのほか】！」とエキサイト。
- 546 モノノカズ 名詞-普通名詞-一般
 物の数
- 547 モノノグ 名詞-普通名詞-一般
 物の具
- 548 モノノケ 名詞-普通名詞-一般
 物の気
- 549 モノノホン 名詞-普通名詞-一般
 物の本

- 550 ヤノジ 名詞-普通名詞-一般
やの字
- 551 ヤノネ 名詞-普通名詞-一般
矢の根
- 552 ヤブノナカ 名詞-普通名詞-一般
藪の中
- 553 ヤマノイモ 名詞-普通名詞-一般
山の芋
- 554 ヤマノカミ 名詞-普通名詞-一般
山の神
- 555 ヤマノサチ 名詞-普通名詞-一般
山の幸
- 313 ヤマノテ 名詞-普通名詞-一般
山の手
【山の手】の閑静な雰囲気漂わせている
- 556 ヤマノハ 名詞-普通名詞-一般
山の端
ビルのかなたの【山の端】
- 557 ユキノシタ 名詞-普通名詞-一般
雪の下
- 558 ユノハナ 名詞-普通名詞-一般
湯の花
- 689 ユリノキ 名詞-普通名詞-一般
百合樹
散歩の途中で【百合樹】の太い幹からひょいと伸びた小枝を
- 559 ヨイノクチ 名詞-普通名詞-一般
宵の口
- 560 ヨノギ 名詞-普通名詞-一般
余の儀

- 561 ヨノツネ 名詞-普通名詞-一般
世の常
- 314 ヨノナカ 名詞-普通名詞-一般
世の中
【世の中】で色々なことが起きている
- 562 ヨノナライ 名詞-普通名詞-一般
世の習い
- 563 ヨノメ 名詞-普通名詞-一般
夜の目
- 564 リュウノヒゲ 名詞-普通名詞-一般
竜の鬚
- 565 ロウノキ 名詞-普通名詞-一般
蠟の木
- 566 ワキノシタ 名詞-普通名詞-一般
脇の下
体温計は、耳式と通常の【脇の下】や舌先で測定できる
- 567 ワタノハラ 名詞-普通名詞-一般
海原

助詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
158	イ い	助詞	終助詞	活用語には終止形、命令形	
	「一緒に来るか【い】」 あとをつけているんだ【い】？ ほう、そうか【い】。これは恐れ入りました。				
159	カ か	助詞	副助詞	活用語には終止形、助動詞「べし」には連体形	
	何と【か】ならないものだろうか。 文化的な背景と【か】、 本物【か】どう【か】の疑問が残る。				

160	力	助詞	終助詞	活用語には終止形，ただし助動詞「べし」には連体形	
	か	/か/い[終助詞]/， /か/な[終助詞]/， /か/も[副助詞]/			
		【か】と言って、相手の言いなりになって チョウチョ【か】な？ 配合がうまくいったの【か】も。			
161	ガ	助詞	格助詞		
	が	認定委員会【が】認めた			
162	ガ	助詞	接続助詞	活用語には終止形	
	が	印象しかないんだろう【が】、 だ【が】東欧加盟の見通しは陰しい。			
163	カシラ	助詞	副助詞	活用語には終止形	
	かしら	何【かしら】の情報はつかめるし、			
164	カシラ	助詞	終助詞	活用語には終止形	
	かしら	どのくらい変わっている【かしら】？ なにをしようとしているの【かしら】？			
165	カラ	助詞	格助詞		
	から	その動機【から】して それ【から】もう一人、			
166	カラ	助詞	接続助詞	活用語には終止形	
	から	だ【から】、肌にうるおいも出てきます。 此处を真如堂と言う【から】には 仲介に乗り出す【から】			
167	キリ	助詞	副助詞	活用語には終止形	ツキリ
	きり	あれ【つきり】、旅宿中は、 二人【きり】になりたいとか思って、 寝た【きり】の状態でありながら			
168	クライ	助詞	副助詞	活用語には連体形	グライ
	くらい	どの【くらい】効果があるの？ 目標は25位としていた【くらい】だから、 選挙区が三十八万人【ぐらい】いて、			

169	ケ け	助詞	終助詞	活用語には終止形	ッケ
		えーと誰だ【っけ】 フォールの操作はどうだった【っけ】？			
170	ケレド けれど	助詞	接続助詞	活用語には終止形	ケド
		/けれど/も[副助詞]/, /けど/も[副助詞]/ 私は質問を避けません【けれど】も、 最近買ったわけではない【けど】 部門にもよるだろう【けど】も、			
171	コソ こそ	助詞	係助詞		
		世界にも例のないほどの多雨【こそ】が、 スクリーンへよう【こそ】			
172	サ さ	助詞	終助詞	活用語には終止形	
		今日の午後持ってくるから【さ】。 見事当選しましたと【さ】			
173	サエ さえ	助詞	副助詞		
		ストロボ位置【さえ】連動範囲を保てば、 楽しみのひとつで【さえ】ある。			
174	サカイ さかい	助詞 方言	接続助詞	活用語には終止形	
175	シ し	助詞	接続助詞	活用語には終止形	
		かむと味がある【し】、腹もちもいい。 自覚していた【し】、			
176	シカ しか	助詞	副助詞	活用語には終止形	
		まだ47名の合格者【しか】いない。 海底1万mの間ぐらいに【しか】			
177	シモ しも	助詞	副助詞		
		誰【しも】すぐ思い浮べるのは 必ず【しも】現実的とはいえない なきに【しも】あらずだったように思います			

178	ズツ ずつ	助詞	副助詞		
				ひとり【ずつ】洗顔し、素顔の状態で測定。 少し【ずつ】慣れて、最後は40分に短縮できた。	
179	スラ すら	助詞	副助詞		
				駆け出しの若い指揮者たち【すら】、 包囲網は狭まりつつある感【すら】ある。	
180	ぜ ぜ	助詞	終助詞	活用語には終止形	
				起きて準備して出掛けよう【ぜ】！	
181	ゾ ぞ	助詞	係助詞		
				知る人【ぞ】知る、フレンチの隠れた名店 これ【ぞ】わが社のUD商品	
182	ゾ ぞ	助詞	終助詞	活用語には終止形	
				誇り高き福溝一族の末裔だ【ぞ】！	
183	ダケ だけ	助詞	副助詞	活用語には連体形	
				できる【だけ】自然な言語生活を示すように 医療機関を選択するときに有用な【だけ】でなく、 給付水準の調整【だけ】でも早めに終え、	
184	タッテ たって	助詞	副助詞	活用語には連用形，終止形，命令形	ッタッテ
				どんなにくやしがつ【たって】、 安く【たって】キュートで優秀なコスメがいっぱい！ すぐしろ【たって】	
185	タラ たら	助詞	副助詞	活用語には終止形	ツタラ
				いやだー、先生【ったら】。 何【たら】プリンターというのが	
186	タラ たら	助詞	終助詞	活用語には終止形	ツタラ
				もういい【ったら】	
187	タリ たり	助詞	副助詞	連用形	

下を向い【たり】、涙を流し【たり】するのに、
日本でミュージカルの問題になっ【たり】すると、

- | | | | | | |
|-----|------------|---|------|------------|----|
| 188 | ツ
つ | 助詞 | 副助詞 | 連用形 | ズ |
| | | 抜き【つ】抜かれ【つ】の関係だったんですが
組ん【ず】ほぐれ【つ】 | | | |
| 189 | ツツ
つつ | 助詞 | 接続助詞 | 連用形 | |
| | | 『補闕記』『伝暦』を念頭に置き【つつ】、
資産デフレ対策を短期的に打ち【つつ】、 | | | |
| 190 | ツテ
って | 助詞 | 副助詞 | 活用語には終止形 | テ |
| | | やつが戻ってきたらおれが何【て】言うか
腰が痛い〜【って】言ってた。
阪神【って】チームは | | | |
| 191 | テ
て | 助詞 | 接続助詞 | 連用形 | |
| | | 彼女をどうし【て】も許すことができなかった。
音とし【て】もラグに新しい世界を与えましたよね。
人工酵素の開発が進ん【で】いる | | | |
| 192 | デ
で | 助詞 | 格助詞 | | |
| | | それ【で】日記に書いていたのであるが、
ところ【で】なんで卓球部だったの？
衆院本会議【で】所信表明演説に立つ小泉首相 | | | |
| 193 | デ
で | 助詞
文語 | 接続助詞 | 文語の活用語の未然形 | |
| | | 3Dなら【で】はの表現を生かして | | | |
| 194 | ト
と | 助詞 | 格助詞 | | ット |
| | | 前接の活用語の活用形を連体形とするのは、助動詞「だ」など終止形と連体形とで
語形が異なる場合のみ。
派遣指導員【と】いう形で
山風にはらはら【と】紅葉が舞った後 | | | |
| 195 | ト
と | 助詞 | 接続助詞 | 終止形 | ット |
| | | チャーハンやとろろ丼にする【と】
誰が何をいおう【と】ダメです！ | | | |
| 196 | ドコロ
どころ | 助詞 | 副助詞 | 活用語には連体形 | |
| | | それ【どころ】か子どもたちはいつも | | | |

月【どころ】か星も見えない。

- | | | | | |
|-----|--|----|------|-------------------------------------|
| 197 | トモ | 助詞 | 接続助詞 | 動詞・動詞型活用の助動詞の終止形、形容詞・形容詞型活用の助動詞の連用形 |
| | とも | | | |
| | 今の日本円で少なく【とも】六億円
二〇〇四年度中に多少なり【とも】 | | | |
| 198 | ナ
な | 助詞 | 終助詞 | 活用語には終止形
ナア |
| | なるほど、こうすれば、いいんだ【な】。
前転はスポーツか【なあ】
時間につぶされる【な】、 | | | |
| 199 | ナガラ
ながら | 助詞 | 接続助詞 | 連用形 |
| | 残念【ながら】現代人のなかには、
しかし【ながら】、表1は仮想的な推計に過ぎません。
これからは試合を生で見【ながら】、 | | | |
| 200 | ナゾ
なぞ | 助詞 | 副助詞 | |
| | 友達の友達【なぞ】は酔っぱらって | | | |
| 201 | ナド
など | 助詞 | 副助詞 | 活用語には終止形 |
| | 十年債【など】に集中する | | | |
| 202 | ナラ
なら | 助詞 | 副助詞 | |
| 203 | ナリ
なり | 助詞 | 副助詞 | |
| | 撫でつける【なり】なん【なり】できるでしょう。
きちんとした法律【なり】条例【なり】を | | | |
| 204 | ナリ
なり | 助詞 | 接続助詞 | 活用語には終止形 |
| | クルマに乗る【なり】話しかけた。 | | | |
| 205 | ナンカ
なんか | 助詞 | 副助詞 | |
| | 「なにか」の転
太って【なんか】ないじゃないですか | | | |
| 206 | ナンテ
なんて | 助詞 | 副助詞 | 活用語には終止形 |
| | 「などと」の転 | | | |

自分に話したいこと【なんて】、
魚がこんなに勢いよく暴れる【なんて】！

- 207 ニ
に
助詞 格助詞 活用語には終止形
適正値を得る【に】はまずシャッター速度を
ランク【に】については行列の教科書を参照
実際【に】は所管官庁OBの天下りも多い。
- 208 ネ
ね
助詞 終助詞 活用語には終止形 ネエ
よく泊めてくれますよ【ね】
- 209 ノ
の
助詞 格助詞 活用語には連体形 シ
ここ【ん】とこの解き方、
薫製だ【の】煮込み料理だ【の】を食べたいかといったら
- 210 ノ
の
助詞 準体助詞 活用語には連体形 シ
手がかりを教えられてきた【の】である。
いったいどれだけバットを振ってきた【の】か
バランスをとる【の】に役立っているようだ。
- 211 ノ
の
助詞 終助詞 活用語には連体形 シ
優勝セールをしていて、こんなのいつ着る【の】？
- 212 ノミ
のみ
助詞 副助詞 活用語には連体形
米国が多者会談に【のみ】固執するなら、
- 213 ハ
は
助詞 係助詞
それからお菓子【は】色々ドイツのシュトーレンですとか
- 214 バ
ば
助詞 接続助詞
浴衣風に着れ【ば】街着っぽく。
- 215 バカリ
ばかり
助詞 副助詞 活用語には連体形 バッカリ
笑みを浮かべる【ばかり】だった。
ことさら強調したい【ばかり】に
- 216 ヘ
へ
助詞 格助詞
翌日からすぐに、ふだんの食事【へ】戻りました。

217	ホド ほど	助詞	副助詞	活用語には連体形	
		それ【ほど】難しいとは感じない。			
218	マデ まで	助詞	副助詞	活用語には連体形	
		被写体【まで】の距離が これほど【まで】に歴史の痕跡が、 12月末【まで】の予定だったが、			
219	モ も	助詞	係助詞		
		二十代と言って【も】おかしくない 「イラク難民」とは言うけれど【も】、			
220	モノ もの	助詞	終助詞	活用語には連体形	
		おのれ風情に偽りなんぞいう【もん】か。 太平洋戦争中も漫画を描き続けた人です【もの】。			
221	ヤ や	助詞	副助詞		
		金融機関から債券【や】手形を買い、 またも【や】ハッサニは半鬚りの微笑を 「りそな国有化」でさらに下落かと思いき【や】、			
222	ヤ や	助詞	終助詞	活用語には終止形	
		どうにかすればいい【や】、と思っているだけだ。			
223	ヤラ やら	助詞	副助詞		
		どう【やら】画期的な疱疹予防法である おかしい【やら】、懐かしい【やら】。			
224	ヨ よ	助詞	終助詞	終止形・命令形	ヨウ
		もっとしっかりしろ【よ】」といっても、 打ち方をしていないからかもしれません【よ】。			
225	ヨリ より	助詞	格助詞	活用語には連体形	
		何【より】の証拠だ。 現状【より】はるかに大量に買い入れる 日本【よ】かストレスが溜まる			

226 ワ 助詞 終助詞 活用語には終止形
わ

構わない【わ】よ、
俺にしがみついてくる【わ】、乗っかってくる【わ】で、

227 フ 助詞 格助詞
を

手拭いで手【を】ふきながら、
やむ【を】得ずフリーターをしている若者たち

助動詞

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
270	キ き	助動詞 過去・完了	文語助動詞-キ	連用形	
		アイドルセイントフォーのような映画かと思い【き】や あり【し】日の祖父の話をするようになって			
271	ケリ けり	助動詞 過去・完了	文語助動詞-ケリ	連用形	
		柚の実のかたえは青く冬去りに【けり】			
286	ゴトシ ごとし	助動詞 比況	文語助動詞-ゴトシ	名詞+助詞「の」、代 名詞+助詞「が」、連 体形、連体形+助詞 「の」	
		当然の【ごとく】座るんですね 怒とうの【ごとき】そのエネルギーに押されるように			
229	サセル させる	助動詞 使役	下一段-サ行-セル (文語下二段-サ行)	五段・サ変以外の未然 形(四段・ナ変・ラ変 以外の未然形)	文語：さす
		言葉を覚え【させ】たいんだと言って その友達に電話を掛け【さし】て いわゆる暗記とかを【させる】んじゃないくて			
244	ザマス ざます	助動詞 断定	文語助動詞-ザマス	体言	
		遊女語【ざます】と類似性があり			
289	ジ じ	助動詞 打ち消し推量	無変化型	未然形	
		Jリーグに負け【じ】といろいろな改革を			

230	シメル しめる	助動詞 使役	下一段-マ行（文語下二段-マ行）	未然形	文語：しむ
	極論を言わ【しめ】ないよう				
238	ジャ じゃ	助動詞 断定	助動詞-ジャ	体言，連体形+助詞「の」，助動詞「べし」の連体形	
	今初めて読んでも何【じゃ】こりゃって				
264	シャル しゃる	助動詞 尊敬	五段-ラ行-一般	未然形	
	お行きやす行か【っしゃる】という助動詞としての				
247	ズ ず	助動詞 打ち消し	助動詞-ズ（文語助動詞-ズ）	未然形	又
	庶務的業務にも力も出せ【ず】にあまり興味も持たずに これが問題にならないように憲法を改め【ざる】を得ない訳です その子の病気は気管支炎ではありません【ん】でした				
228	セル せる	助動詞 使役	下一段-サ行-セル（文語下二段-サ行）	五段・サ変の未然形（四段・ナ変・ラ変の未然形）	文語：す
	いわゆる暗記とかをさ【せる】んじゃないくて 期待に胸を膨らま【し】てて凄くわくわくした気持ちで				
248	タ た	助動詞 過去・完了	助動詞-タ	連用形	
	安く泊まりたいんだっ【たら】朝食は(D つ)(D つ)付けなくて 以前の病院とは違ってウイルスが全然出なかつ【た】ことを その部屋に何と駆け込ん【だ】んですね				
239	ダ だ	助動詞 断定，いわゆる形容動詞及び形容動詞活用型の助動詞の活用語尾を含む。	助動詞-ダ	体言，連体形+助詞「の」，助動詞「べし」の連体形	
	予想されるところは眼前の評価【で】ありますし ひょっとしたら難しいのかなというよう【な】ことも 近似的【に】やる手はあるんですけどもね				
280	タイ たい	助動詞 希望	助動詞-タイ（文語形容詞-ク）	連用形	文語：たし
	電車賃をけちり【たかつ】たちゅうのが 待遇表現行動ということをこう考えてみ【たい】				
235	タガル たがる	助動詞 希望	五段-ラ行-一般	連用形	
	寂しいところに旅に行き【たがる】傾向がありまして O型は目立ち【たがり】屋A型は神経質				

260	タゲル たげる	助動詞 補助動詞縮約形, 「てあげる」の縮約形	下一段-ガ行	動詞連用形	
					ファックスで送っ【たげ】たりして
284	タシ たし	助動詞 希望		連用形	
276	タリ たり	助動詞 断定	文語助動詞-タリ-断定	体言	
					フクロウの声は思想家【たら】しめる 酒造りは食文化の最【たる】もの。 確固【たる】信念による行動であったり
261	タル たる	助動詞 補助動詞縮約形, 「てやる」の縮約形	五段-ラ行-一般	動詞連用形	
					殴っ【たっ】てんという風に
258	チマウ ちまう	助動詞 補助動詞縮約形, 「てしまう」の縮約形	五段-ワア行-マウ	動詞連用形	
					水蒸気か酸素どっちか取っ【ちまえ】ばいい
259	チャウ ちゃう	助動詞 補助動詞縮約形, 「てしまう」の縮約形	五段-ワア行-ヤウ	動詞連用形	
					身振り手振りのコミュニケーションという感じになっ【ちゃっ】た 好きだった子が死ん【じゃう】かもっていう風に思ったのが
262	チャル ちやる	助動詞 補助動詞縮約形, 「てやる」の縮約形	五段-ラ行-一般	動詞連用形	
272	ツ つ	助動詞 過去・完了	文語助動詞-ツ	連用形	
263	ツウ つう	助動詞 補助動詞縮約形, 「という」の縮約形	五段-ワア行-ツウ	動詞連用形, 助動詞 「べし」の連体形	ツツウ・ (ツ) チュ
					会社に何て言うの【つつつ】て どっちか【つつう】と派手な時計なんですね 当然ながら働く【つちゅう】意欲がそこに出てくるはずだ
253	テク てく	助動詞 補助動詞縮約形, 「ていく」の縮約形	五段-カ行-イク (下一段-カ行)	動詞連用形	可能形: て ける
					そっちのルートに持っ【てか】れた訳です 善福寺川に土手沿いに下り【てっ】て 調子悪くて連れ【てけ】ないということで

240	デス です	助動詞 断定	助動詞-デス	体言, 連体形+助詞「の」, 終止形, 助動詞「べし」の連体形
	三人しかいません【でし】て 写真で見てた風景という感じなん【でしょ】うか			
252	テラッシャル てらっしゃる	助動詞 補助動詞縮約形, 「ていらっしゃる」の縮約形	五段-ラ行-アルー一般 動詞連用形	
	隣り合わせの方も一人で参加し【てらっしゃい】ました 安全に心配なく住ん【でらっしゃる】ことと思います			
251	テル てる	助動詞 補助動詞縮約形, 「ている」の縮約形	下一段-タ行 動詞連用形	
	社会的に問題になっ【て】ますけれども その時の印象として覚え【てる】のは 話し合いは済ん【で】たんですけれども			
255	トク とく	助動詞 補助動詞縮約形, 「ておく」の縮約形	五段-カ行-一般 (下一段-カ行) 動詞連用形	可能形: とける
	予め申し上げ【とき】ますけれども 玄関の前に駐車させ【とい】て 結局(F あの一)ほっ【とけ】ないというところで			
241	ドス どす	助動詞 断定	助動詞-ドス	体言, 連体形+助詞「の」, 助動詞「べし」の連体形
257	トル とる	助動詞 補助動詞縮約形, 「ておる」の縮約形	五段-ラ行-一般 動詞連用形	
	標準体重ということになっ【とり】まして			
281	ナイ ない	助動詞 打ち消し	助動詞-ナイ	未然形
	よくある話題かもしれ【ない】んですけれども 家を改造し【なきゃ】いけないとは			
275	ナリ なり	助動詞 断定	文語助動詞-ナリ-断定	体言, 連体形
	浅草【なら】ではと思うのはですね			
273	ヌ ぬ	助動詞 過去・完了	文語助動詞-ヌ 連用形	
	さもあり【な】んとの気にもなる 風と共に去り【ぬ】というミュージカルでした			

246	ネン ねん	助動詞 断定	無変化型	終止形
		これは上方歌舞伎から出た言葉です【ねん】 曲がん【ねん】かあっているのがある		
243	ハル はる	助動詞 尊敬	五段-ラ行一般	未然形, 連用形
		京都が行か【はる】で大阪行きはるだっている 京都奈良は大阪兵庫よりも【はる】敬語の使用が多い		
285	ベシ べし	助動詞 推量	文語助動詞-ベシ	終止形
		策を練り行動す【べき】であると思いますが 働かざる者食う【べから】ずっちゅう		
283	マイ まい	助動詞 打ち消し意志・打ち消し推量	無変化型	五段の終止形, 五段以外には未然形
		もう帰りのことは考え【まい】と振り切るようにして		
288	マジ まじ	助動詞 打ち消し推量	文語助動詞-マジ	終止形, ラ変・形容詞・ラ変型活用の助動詞には連体形
236	マス ます	助動詞 丁寧	助動詞-マス	連用形
		足を取られて転倒したことがござい【ます】		
265	ム む	助動詞 意志・推量	文語助動詞-ム	未然形
		さもありな【ん】との気にもなる		
268	メリ めり	助動詞 推量	文語助動詞-メリ	終止形
245	ヤ や	助動詞 断定	助動詞-ヤ	体言, 連体形+助詞「の」, 終止形, 助動詞「べし」の連体形
		だからなん【や】ねん。 へそくりはどうなる【やろ】か死んだ時		
242	ヤス やす	助動詞 丁寧	助動詞-ヤス	連用形

287	ラシ	助動詞	文語助動詞-ラシ	ラ変・形容詞・ラ変型 活用の助動詞の連体 形、それ以外には終止	
	らし	推量			
	治療【らしき】ものではなく 長男【らしから】ぬ気楽な人間なんです				
282	ラシイ	助動詞	助動詞-ラシイ	体言、形状詞、終止形	
	らしい	推量			
	ローマ人の町という意味【らしい】です 保育園の排水溝【らしき】ところかな				
266	ラム	助動詞	文語助動詞-ラム	終止形	
	らむ	現在推量			
	印なく濡る【らん】袖を交わしつつ思うにひつる我も儚し				
234	ラレル	助動詞	下一段-ラ行-レル (文語下二段-ラ行)	五段・サ変以外の未然 形(四段・ナ変・ラ変 以外の未然形)	文語：らる
	られる	受身・可能・自発・尊敬			
	それはもう日本人には考え【られ】ない贅沢な食事です 目の前で猫に食べ【られ】ちゃったんだけど				
274	リ	助動詞	文語助動詞-リ	サ変の未然形、四段の 命令形	
	り	完了・存続			
	大学院におけ【る】教育実習の在り方について考えたい 自分の持て【る】知識を全て総動員して				
233	レル	助動詞	下一段-ラ行-レル (文語下二段-ラ行)	五段・サ変の未然形 (四段・ナ変・ラ変の 未然形)	文語：る
	れる	受身・可能・自発・尊敬			
	凄く看護婦さんとかに怒ら【れ】て 基礎練習ってのが非常に重要視さ【れ】ておまして				
237	ンス	助動詞	文語助動詞-ンス	四段・ナ変の未然形	
	んす	丁寧			
	とぼされるにはあき【んし】た				

接頭的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
1	アイ	接頭辞			
	相	「相」と1最小単位との結合体が名詞である場合は除く。（相=乗り，相=討ち）			
	本書の他の論文と【相】まって、 カモフラ柄って【相】変わらず人気ですね。 東京の玄関とも言える地に昨年【相】次いで開業し				

- 2 オ
御 接頭辞
次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[お足、お家(芸・流)、お薄、おかか、お鏡、おかき、お陰、おかず、お河童、おかま、おかみ、おから、おかわ、お冠、おぐし、お好み(焼き)、おこわ、お下げ(髪)、お差し、おざなり、おざぶ、おさん(どん)おしっこ、おしぼり、おしめ、おじや、お釈迦、お洒落、お節、お宅、お尋ね(者)、お多福、お陀仏、お玉、おつむ、お手(上げ)、おでき、お手の物、お転婆、お東、お伽(話)、お腹、お握り、お主、お寝しょ、お萩、お払い(箱)、おひたし、お冷や、お袋、おふる、おまえ、おまけ、おまる、お巡り、お娘、お目見え]
書き言葉と話し言葉は、【お】互いにとても異なっています。
また新たな部屋になった時、もう一度【お】願います。
いつもは寡黙な【お】父さんが大活躍するのよ
- 3 オン
御 接頭辞
次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[御曹司、御大、御身]
篤種公、【御】年、五十ノ冬
【御】礼申し上げます
- 4 カク
各 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(各=国、各=地)
【各】ユニットが市松模様のように並ぶ構成が現れる。
【各】スロットにメモリーカードを入れ
- 6 ゴ
御 接頭辞
次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[御供(ごく)、御所、御新、御仁、御神火、御前、御託、御殿、御飯、御辺、御免、御覧、御寮]
ジャンプランニングの【御】存じ
おゆるしのほどを…して、【御】用は？
- 5 コン
今 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(今=回、今=度)
【今】プロジェクトの計画研究メンバー10人のうち
【今】シーズンは計約4トンの出荷を見込んでいる。
- 7 ショ
諸 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(諸=国、諸=所)
【諸】届けとか融資など
- 8 ゼン
全 接頭辞
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(全=国、全=社)
【全】キャリアおよび全機種に対応している。
- 9 タイ
対 名詞-普通名詞-一般
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(対=米、対=人)
あらゆる書類や【対】マスコミ用の原稿が
「【対】北」世論が左右
- 10 ホン
本 接頭辞
「この」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(本件)
【本】ページの下を参照のこと。

【本】カレンダーは日本車両が25年以上の歴史を誇る

11 ミ 御

接頭辞

次に挙げるものは、後の部分と併せて1最小単位とする。[大御, 御門, 御酒, 御籤, 御食, 御子, 御輿, 御簾, 御台, 御霊, 御幸]

誰にでも分かる易しい錦の【御】旗が必要と考え、
父と子と聖霊の【み】名によってという意味です)

接尾的要素

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
13	アガリ 上がり	接尾辞-名詞的-一般 前にその職業・身分だった者の意。 アイドル【上がり】なんですけど			
14	アグネル あぐねる	動詞-非自立可能 信直が納得すまい、と考え【あぐね】ているうちに、 多くの国会議員が答えを出し【あぐね】、	下一段-ナ行 (文語下二段-ナ行)	動詞連用形	
664	アソバス 遊ばす	動詞-非自立可能 三十七生害に及びし跡にて、御尋ね【あそばし】、	五段-サ行 (文語四段-サ行)	動詞連用形, 体言	
665	アタウ 能う	動詞-非自立可能 動作・状態の継続・進行を表す。 余輩をして唯だ語り【能ふ】所を語らしめよ 之を明にする【能は】ずと雖も、	五段-ワア行-タウ (文語四段-ハ行-タウ)	活用語の連用形・連体形	
659	アタリ 当たり	接尾辞-名詞的-副詞可能 一人【当たり】十五文ずつ発声していただき 生起確立を文字【当たり】ので平均化したものの			
15	アテ 宛	接尾辞-名詞的-一般 名あての意。「名宛(人)」の「宛」は除く。 下院議員に立候補し落選した時に娘【宛】に出した 沼さんから私【あて】に解任状が届きました。			
16	アテ 宛	接尾辞-名詞的-一般 「～に対して」の意。 ひとり【宛】五個			
666	アル 有る	動詞-非自立可能 動作・状態の継続・進行を表す。	五段-ラ行-一般 (文語四段-ラ行)	動詞連用形	

試作報告用紙に掲げ【ある】事項を記入して
紙の張り【ある】板何枚かをひつくり返して

- 17 イタス 動詞-非自立可能 五段-サ行（文語四段-サ行）
致す
先生にお預け【いたし】ます。
応募者全員にプレゼント【いたし】ます！！
手術が無事成功し、安堵【いたし】ました。
- 667 イル 動詞-非自立可能 上一段-ア行（文語上一段-ワ行） 動詞連用形
居る
朝寒の庭掃く男變り【居】し
一民族を以て一國民となし【居る】ものは無い。
- 18 ウエ 接尾辞-名詞的-一般
上
「決して父【上】を煩さぬ」と覚悟を決めていた。
作者の母【上】の「ありがたいありがたい」にも、
- 19 エル 動詞-非自立可能 下一段-ア行（文語下二段-ア行） 動詞連用形 ウル
得る
「～することができる」の意。
青山を語る補助線となり【得る】ものなのだ。
コレはあり【得る】注目株！
政権を担い【得る】政党として国民から認知された
- 20 オエル 動詞-非自立可能 下一段-ア行（文語下二段-ア行） 動詞連用形
終える
チョウの図鑑を回し【終え】た
書き【終え】てからは当分音楽を聴かなかったほどです。
うまいタイトルだなあと、読み【終え】て納得。
- 21 オオセル 動詞-非自立可能 下一段-サ行-一般（文語下二段-サ行）
果せる
「すっかり終える」の意。
隠し【おおせる】
- 22 オクレル 動詞-非自立可能 下一段-ラ行-一般（文語下二段-ラ行） 動詞連用形
遅れる
終電に乗り【遅れ】た。
わが国が立ち【遅れ】ている分野について
二塁打は振り【遅れ】だが、
- 668 オル 動詞-非自立可能 五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行） 動詞連用形
居る 動作・状態の継続・進行を表す。
世の物議を醸し【居れ】るに、今一朝にして
『今日も存命であるか、證人は存じ【居ら】ぬか？』

- 669 **オワス** 動詞-非自立可能 文語サ行変格-ス 動詞連用形
御座す 動作・状態の継続・進行を表す。
 御衣その袖を引きまさぐりなどしつつ、紛らはし【おはす】。
- 23 **オワル** 動詞-非自立可能 五段-ラ行一般（文 動詞連用形
 語四段-ラ行）
終わる
 部屋の反対側まで歩き【終わる】と
- 24 **力** 接尾辞-名詞的-一般
化 漢語の1最小単位と結合したものは除く。（特=化，液=化）
 グローバル【化】・少子高齢【化】などの
 ガリウムのワックス【化】へのきっかけには
 1971年にテレビ【化】され、
- 26 **ガカル** 接尾辞-動詞的 五段-ラ行一般（文 動詞連用形
 語四段-ラ行）
がかる
 ベージュ【がかつ】たパールだから
 芝居【がかつ】た演出をしたり
- 29 **カタ** 接尾辞-名詞的-一般
方 「仕方」の「方」は除く。
 体育遊びのあり【方】や、
 大好きな海での過ごし【方】なんだけどさ。
 円高になるとの見【方】が大勢だ。
- 33 **ガタイ** 接尾辞-形容詞的 形容詞-タイ（文語形 動詞連用形
 容詞-ク）
難い 「有り難い」の「難い」は除く。
 よほど扱い【難い】
 何物にも代え【難い】存在だった。
- 34 **カタガタ** 接尾辞-名詞的-一般
旁
 見舞い【かたがた】庚申堂を訪れると、
- 35 **ガチ** 接尾辞-形状詞的
勝ち
 結果オーライになり【がち】で
 太陽政策に傾き【がち】な韓国政府を
 意欲も薄れ【がち】です。
- 36 **ガテラ** 接尾辞-名詞的-副詞
がてら 可能
 紅葉狩り【がてら】楽しめるのが
 あいさつ【がてら】のまくらで

- 37 カネル
兼ねる
接尾辞-動詞的 下一段-ナ行（文語下 動詞連用形
二段-ナ行）
まことに申し【兼ね】ますが
お待ち【かね】の“ハリポタ”最新ニュースを
悪影響が広がり【かね】ない。
- 39 ガル
がる
接尾辞-動詞的 五段-ラ行-一般（文 形容詞・形状詞
語四段-ラ行）
助動詞「たがる」の「がる」は除く。
祖母のかわい【がり】ようが尋常でなく
藻を怖【がる】なんて、
写真を飾るのは嫌【がっ】ていたんだが
- 40 カワス
交わす
動詞-非自立可能 五段-サ行（文語四段 動詞連用形
-サ行）
「互いに～する」の意。
泰安相手に酒を酌み【交わし】ていた。
- 41 カン
間
接尾辞-名詞的-副詞 可能
漢語の1最小単位と結合したものは除く。（空=間、車=間）
サーバ【間】の情報交換に使用される
具体的なデータ【間】の因果関係は
ブランド【間】の価格格差が一段と進む
- 42 ギミ
君
接尾辞-名詞的-一般
姫【君】
母【君】
- 43 キル
切る
動詞-非自立可能 五段-ラ行-一般（文 動詞連用形
語四段-ラ行）
「すっかり～し終える」の意。
すでに大半を使い【きっ】てしまい、
パワーを使い【切っ】て走る爽快感あり
チケットが売り【切れ】ている場合もあります。
- 44 クサイ
臭い
接尾辞-形容詞的 形容詞-サイ
「～めいた感じがする」という意。望ましくない意を強める用法。「かび臭い」
「焦げ臭い」の「くさい」は除く。
青【くさい】ほど未熟な私に
照れ【くさく】で言えなかった「ありがとう」。
米国よりずっと古【くさく】なってしまった。
- 45 クダサル
下さる
動詞-非自立可能 五段-ラ行-アル-サル
（文語四段-ラ行）
ギブミーレターをご覧【下さい】ね。
ご意見、ご感想をお寄せ【下さい】。
- 46 グルミ
ぐるみ
接尾辞-名詞的-一般

身【ぐるみ】剥がされちまうなんて
国家【ぐるみ】の犯罪や脅威から

47 クン
君

接尾辞-名詞的-一般

「同君」の「君」は除く。

ワジム【君】たちの力強い協力であった。
Y【君】からのメールでした。
外野手の桑原将太【君】は天然芝について

48 ゲ
気

接尾辞-形状詞的

闇夜の怖ろし【げ】な海は
やや寂し【げ】なタイトルであるが、
何【げ】ない一言から偶然始まった。

49 ケイ
系

接尾辞-名詞的-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。(文=系, 日=系)

フローラル【系】の香水を使って
懐かし系から超ハイテク【系】トイまで
癒やし【系】、癒やし顔。

50 ゲル
げる

接尾辞-動詞的

下一段-ガ行

『バカ【げ】た事を』と言われたのだ。

51 ゴ
後

接尾辞-名詞的-一般

漢語の1最小単位と結合したものは除く。(戦=後, 老=後)

ストレッチ【後】は体がほのかに温まり、
ゲーム【後】の胃腸には負担となり
プレス試写【後】の記者会見では

52 ゴ
御

接尾辞-名詞的-一般

姉【御】肌の人が凄く多いなっている

53 コト
事

名詞-普通名詞-一般

ヘコキムシ【こと】ミイデラゴミムシは黄色と黒の模様。
私【こと】

54 ゴト
ごと

接尾辞-名詞的-副詞
可能

「～も一緒に」の意。

そのまま丸【ごと】預託したものであり
滝【ごと】持って帰りたいところだが、
1冊丸【ごと】学校に関係ある

55 ゴト
毎

接尾辞-名詞的-一般

そのもの一つ一つ、その時その時の意。

国【ごと】に違うということであろう
 ナンバー【ごと】の細部の変化は
 章【ごと】に文体が変わり、

56 コナス
 熟す

動詞-非自立可能 五段-サ行（文語四段 動詞連用形-サ行）
 「うまく～する」の意。

着【こなし】も上品に。
 2人乗りでコンパクトに乗り【こなせる】。
 美しく澄んだ高音で歌い【こなし】ている。

57 サ
 さ

接尾辞-名詞的-一般

「そうだ」「過ぎる」が接続するときの「なさ」「良さ」の「さ」、ケシ型形容詞に直接する「さ」は除く。

比類のない深【さ】はそこから生まれている。
 ステレオ欲し【さ】に応募して、
 ～なりた【さ】

690 サス
 さす

動詞-非自立可能 五段-サ行（文語四段-サ行）

参照パターン作成用音声で学習を【さし】た後
 椅子やテーブルと日本風とを調和【さし】て、気もちのよい

58 サマ
 様

接尾辞-名詞的-一般

地域の皆【様】はじめ全ての方々から
 それが神【様】の目からの評価だから、真実なのだ。
 『志村けんのバカ殿【様】』に腰元役として出演。

59 サン
 さん

接尾辞-名詞的-一般

皆【さん】すでにご承知のごとく、
 島田【さん】の奥さん手製の
 お巡り【さん】なのに茶髪で、

60 ジ
 時

接尾辞-名詞的-副詞可能
 漢語の1最小単位と結合したものは除く。（戦=時）

コミュニケーション【時】に観察され

61 シキ
 式

接尾辞-名詞的-一般

形式・方法などの意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（洋=式，正=式）

最近ではプッシュ【式】の電話機をよくみかけますが、
 シルバーのスプレー【式】ペイントで
 北部九州で「夜白1【式】」と呼ばれる土器が

62 シナ
 しな

接尾辞-名詞的-副詞可能

帰り【しな】に一撃されて

- 63 ジミル 接尾辞-動詞的 上一段-マ行 (文語上 二段-マ行)
染みる
子供【じみ】た正義感を感じなくもない
- 64 ジュウ 接尾辞-名詞的-副詞 可能
中
部屋【中】何時もちらかつていて
体【中】に生えているトゲで攻撃してくるはりせんぼん。
- 65 ジョウ 接尾辞-名詞的-副詞 可能
上
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(機=上, 車=上)
パープレキシティー【上】は最適化されてることは
- 66 ジョウ 接尾辞-名詞的-一般
状
「～の形・有り様」の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(液=状)
粒【状】若しくは粉【状】
今日の当番表の紙を手の中で筒【状】に丸め、
主役は霧【状】にして吸い込むステロイドを使う治療だ。
- 67 スギル 動詞-非自立可能 上一段-ガ行 (文語上 二段-ガ行) 動詞連用形
過ぎる
背景が明る【過ぎ】たりする。
こり【過ぎ】て当時の歌手たちが歌えず、
- 68 ズク 接尾辞-名詞的-一般
尽く
力【ずく】で戦争して、
- 69 ズクメ 接尾辞-名詞的-一般
尽くめ
裏の活動をするバリスが黒【ずくめ】で
珍し【ずくめ】の応酬
- 70 スル 動詞-非自立可能 サ行変格-為ル (文語 サ行変格-ス)
為る
漢語の1最小単位と結合したものは除く(対=する, 信=ずる)。「～んずる」という形式は除く(甘ん=ずる, 重ん=ずる)。
アドバイス【する】役割もあり、
対応関係ははっきり【し】ていない。
来場者の移動手段と【し】て導入される。
- 71 セイ 接尾辞-名詞的-一般
性
物事の性質・傾向の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。(特=性, 急=性)
枝が水平に伸びるもの、枝垂れ【性】のものなど、
ブラックベリーはつる【性】の植物なので、

- 72 ソウ
そう
形状詞-助動詞語幹
様態の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。
けだる【そう】に行列してゆくところだった。
慢性的な肺の病気の発症には関係がなさ【そう】です。
わかりにくい仕組みだと言え【そう】です。
- 73 ソウ
そう
名詞-助動詞語幹
伝聞の助動詞「そうだ」の語幹に当たるもの。
コラーゲンの量やキメの細かさまで分かる【そう】
「マジシャン」というニックネームで呼ばれている【そう】だが、
四十四年もかかる【そう】です。
- 74 ソコナウ
損なう
動詞-非自立可能 五段-ワア行-ナウ (文語四段-ハ行-ナウ) 動詞連用形
神になり【損なっ】た男の、
日本株を売り【損なっ】たと話したら、
- 674 ソコネル
損ねる
動詞-非自立可能 下一段-ナ行 (文語下二段-ナ行) 動詞連用形
スターズの選手が打ち【損ねる】と容赦ない野次が
なんとなく厭きてしまって、見【損ねる】こともある。
- 75 ソビレル
そびれる
動詞-非自立可能 下一段-ラ行-一般 (文語下二段-ラ行) 動詞連用形
きちんと届いたかどうか聞き【そびれ】た。
- 76 ソンズル
損ずる
動詞-非自立可能 サ行変格-ズル (上一段-ザ行, 文語サ行変格-ズ) 動詞連用形 ソンジル
駆け落をし【損じ】たるは櫻頃
急いては事を仕【損じる】よ。
- 77 タイ
対
名詞-普通名詞-一般
1 【対】 1 で戦う試合。
神【対】巨
- 78 ダス
出す
動詞-非自立可能 五段-サ行 (文語四段-サ行) 動詞連用形
「～し始める」という意。
背中を押されるようにして歩き【だす】。
最前列では子供たちが踊り【だし】た
無口な少年スキッパーがスラスラと話し【だし】、
- 79 タチ
達
接尾辞-名詞的-一般
私【達】は真剣に自分で考えるべきだ。

あなた【達】はバンドを始めた時共同生活していたそうですね。
保護者の方【たち】も親切にしてくれるようになり、

- 670 タテマツル 動詞-非自立可能 五段-ラ行-一般 (文語四段-ラ行) 動詞連用形
奉る

年のはじめの栄えに見【奉る】。

- 80 タマウ 動詞-非自立可能 五段-ワア行-マウ (文語四段-ハ行-マウ) 動詞連用形
給う

篤道公、喜バレ【給フ】。
天が許し【給う】

- 81 ダラケ 接尾辞-形状詞的
だらけ

埃【だらけ】の棚隅のいびつな土甕に
岩【だらけ】のけわしい土地は
タバコのヤニ【だらけ】の、

- 83 チャン 接尾辞-名詞的-一般
ちゃん

ワン【ちゃん】も寒いと思いますよ。
私もお母【ちゃん】って、呼んでもいい？
おじい【ちゃん】のモリゾーと、

- 84 チュウ 接尾辞-名詞的-副詞可能 漢語の1最小単位と結合したものは除く。(空=中)
中

高層階からの夜景を仕事【中】に観ると、
休み【中】

- 85 ツイデ 接尾辞-名詞的-一般
ついで

開き直り【ついで】におデコにこんなマークを入れたら？
くたびれ【ついで】

- 87 ツキ 接尾辞-名詞的-一般
付き

「札付き」(知れわたっていること、悪い評判が世間に広まっている人の意)は除く。

材料費込み、おやつ【付き】。

- 86 ツクス 動詞-非自立可能 五段-サ行 (文語四段-サ行) 動詞連用形
尽くす

「すっかり～する」という意。

野外会場を埋め【尽くし】た数千人のファンに
新しいものは出【尽くし】てしまった

- 88 ツケル 動詞-非自立可能 下一段-カ行 (文語下二段-カ行) 動詞連用形
付ける

習慣の意。

行き【つけ】の雀荘で仕入れた情報を

- 89 ツコ 接尾辞-名詞的-一般
 つこ 「～すること」の意。
 つかまり【っこ】ないから。
 失礼はいい【っこ】なし！
 GHQ（連合国軍総司令部）がいる間は勝て【っこ】ない。
- 90 ツコ 接尾辞-名詞的-一般
 つこ 「～比べ」「互いに～する」という意。
 お馬のかけ【っこ】
- 92 ツヅク 動詞-非自立可能 五段-カ行-一般（文語四段-カ行） 動詞連用形
 続く
 夜が明けるまで降り【続き】そうな勢いだ。
- 93 ツヅケル 動詞-非自立可能 下一段-カ行（文語下二段-カ行） 動詞連用形
 続ける
 限界になるまで黙々と働き【続ける】ので、
 信念を持ち【続け】た。
 同じように給料を払い【続け】ていれば、
- 94 ツライ 接尾辞-形容詞的 形容詞-ライ
 辛い
 人間にはわかり【づらい】ですが、
 元の位置に戻り【づらく】なってしまうので
 意見聴取を進めるほど、結論が出し【づらく】なる
- 95 テキ 接尾辞-形状詞的
 的 漢語の1最小単位と結合したものは除く。（人=的，端=的）
 個々のゲリラ【的】な周旋活動になった。
 たしかにスケジュール【的】にはすごい過酷で、
- 97 デキル 動詞-非自立可能 上一段-カ行（文語上二段-カ行）
 出来る
 売店や茶屋があるのでのんびり【できる】。
 今晚、シングルを一部屋お願い【でき】ますか。
 あまり票読み【できる】人っていないと思うのね。
- 98 トウ 接尾辞-名詞的-一般
 等
 テレビ【等】でも宣伝され、
 各紙のインタビュー【等】に応じている。
 世界的なイベント【等】で極少量の農産物輸出はあったものの、
- 99 ドウシ 接尾辞-名詞的-一般
 同士
 妻【同士】が同じ英会話学校に通っていて
 大人【同士】の対立軸ではなく、

- 100 トオス 接尾辞-動詞的 五段-サ行 (文語四段 動詞連用形-サ行)
通す
彼らは一晩中歩き【通し】だった。
たくさんあって読み【通す】のが大変でした。
ライブをやり【通し】た彼らは、
- 673 トオリ 名詞-普通名詞-副詞
可能
それと同じ状態であるという意。
その言葉【通り】、1週間で3試合をこなす強行日程を
やっぱりなかなか【思い】通りには行かないところがありますよね
- 102 ドノ 接尾辞-名詞的-一般
殿
昨日杉田【殿】の孫に施した種痘は、
むこ【殿】
- 103 トモ 接尾辞-名詞的-副詞
可能
全部の意。
二人【とも】宵越しの金は持たない主義で、
両作【とも】指示代名詞やあいまいな言語を多用する。
- 104 トモ 接尾辞-名詞的-副詞
可能
それを含めての意。
送料【とも】
住所・氏名【とも】
- 105 ドモ 接尾辞-名詞的-一般
共
ガキ【ども】を締め上げて
- 106 ドモ 接尾辞-名詞的-一般
共
それを踏まえて私【ども】でも
- 107 ナイ 接尾辞-名詞的-一般
内
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(室=内, 社=内)
タワー下のビル【内】には
場外からリング【内】に入るときの
- 108 ナガラ 接尾辞-名詞的-一般
作ら
市長に涙【ながら】に訴えにいき
昔【ながら】の民家を改造した
- 109 ナサル 動詞-非自立可能 五段-ラ行-アル-サル
為さる (文語四段-ラ行)

おなかいっぱい食べ【なさい】といいますね。
 言えなかった「ごめん【なさい】」。

110 ナミ
並み

接尾辞-名詞的-一般

その類と同じ、又は同じ程度であることを表す。

人に対して思いやりの心だけは人【並み】以上に持っていたと思うけれど、
 一般的な腕時計【並み】の薄さも実現している。
 日本やアメリカ【並み】のビデオ文化が訪れたかという感がある。

111 ナリ
形

接尾辞-名詞的-一般

そのもの相応である様の意。

低い価格設定には低い【なり】の理由があります。
 それ【なり】の役目を与えて投げさせたいと思うよ。
 不調【なり】に試合をつくり、

112 ナリ
形

接尾辞-名詞的-一般

「～するまま」「～するに従う様」の意。

やっぱりアメリカの言い【なり】！？

113 ナレル
慣れる

動詞-非自立可能

下一段-ラ行-一般
(文語下二段-ラ行)

動詞連用形

風景の一部として見ているから見【慣れ】てしまった。
 カラーマスカラをつけ【慣れ】ていない人もつかいやすい
 通い【慣れ】た青山一帯の江戸時代の風景が、

114 ニクイ
難い

接尾辞-形容詞的

形容詞-クイ

醜悪の意の「醜い」は除く。

ライフスタイルの改善だけでは効果は出【にくい】もの。
 ハイテク株だけが物色される相場は考え【にくい】。
 美化されると、問題が直視し【にくく】なるのです

115 ヌク
抜く

動詞-非自立可能

五段-カ行-一般 (文
語四段-カ行)

動詞連用形

「終わりまでする」という意。

「笑顔で耐え【抜く】しかないな」
 熟練した技と、磨き【抜か】れたセンスをもって作り出される料理
 日本全体の利益はどこにあるかを考え【抜か】なければ、

116 ハジメル
始める

動詞-非自立可能

下一段-マ行 (文語下
二段-マ行)

動詞連用形

九郎は小社の裏手を抜ける参道を拝殿に向かって歩き【始め】た。
 徳利のままグイグイ飲み【はじめ】てしまったんです。
 好調だったブランド品の売れ行きに陰りが見え【はじめ】たのか。

117 ハタス
果たす

動詞-非自立可能

五段-サ行 (文語四段
-サ行)

動詞連用形

「すっかり～し終える」の意。

使ひ【果し】てしまはなければならぬ。

- 118 ハテル 動詞-非自立可能 下一段-タ行（文語下 動詞連用形
二段-タ行）
果てる 「すっかり～する」「～し終わる」という意。
形骸化した官僚主義的機関と成り【果て】ており、
疲れ【果て】て眠り込んだ矢先のことだった。
地域一帯が荒れ【果てる】という、
- 119 ハナシ 接尾辞-形状詞的 ツパナシ
放し
腰板障子戸を開け【っ放し】にしており、
試合中はずっと走り【っぱなし】で疲れましたが、
12時間預け【放し】の親、
- 120 バム 接尾辞-動詞的 五段-マ行-一般（文
語四段-マ行）
ばむ
地に積もる黄【ばむ】孔あく病葉の量
日向は汗【ばむ】程の気候。
- 121 ハン 名詞-普通名詞-一般
版 漢語の1最小単位と結合したものは除く。（新=版）
ロシア語【版】の表紙には、
オリジナルの字幕【版】と
- 122 フウ 接尾辞-名詞的-一般
風 様子の意。漢語の1最小単位と結合したものは除く。（和=風、古=風）
スタンダード仕立て【風】の樹形にすることができます。
もう一方は寅さん【風】のテキ屋スタイル。
- 123 ブリ 接尾辞-名詞的-一般
振り それだけの時間が過ぎたという意を表す。
久し【ぶり】の出勤に自分も気分が高揚している。
プロ野球では今年、18年【ぶり】に阪神タイガースがリーグ優勝し、
- 124 ブリ 接尾辞-名詞的-一般
振り 様子・状態の意。
その若者は、急にぞんざいな口【ぶり】になった。
これで女【っぶり】が上がります！
依田の打ち【ぶり】に感心しきりだった。
- 125 ブル 接尾辞-動詞的 五段-ラ行-一般（文
語四段-ラ行）
振る 「そのように振る舞う」という意。
「そんな、もったい【ぶら】ないで、頼みますよ」
悪【ぶっ】てはいるが、実は心がやさしく、おひとよし。
- 126 ブン 名詞-普通名詞-一般
分
3週間【分】の発芽玄米と、食事記録用紙を渡して、
それが連中の取り【分】で、

その年俸【分】を他の選手の増額に振り向けられる。

- 127 ポイ
ばい
接尾辞-形容詞的 形容詞-ポイ 名詞 ッポイ
形容詞語幹に接続する「ばい」は除く。「いがらっばい」の「ばい」は除く。
タイトスカートで大人【っばい】着こなして
空気が湿【っぼく】ムッとしている。
いたずら【っぼく】笑った。
- 128 ポッチ
ぼっち
接尾辞-名詞的-一般 ッポッチ
これ【っぼっち】も思っていなかった。
- 129 マエ
前
名詞-普通名詞-副詞
可能
テスト【前】の忙しい時間に
- 130 マクル
捲る
動詞-非自立可能 五段-ラ行-一般（文
語四段-ラ行） 動詞連用形
午後一杯を費やして匿名の発言を読み【まくっ】た。
2年間ほど本を読み【まくり】知識を得たつもりですが、
DJブースに近い参加者ほど、楽しそうに踊り【まくる】。
- 133 マワリ
周り
接尾辞-名詞的-一般
「おなか【まわり】がスッカリした」
門【まわり】に1本、ポーチわきに1本、
- 134 ミタイ
みたい
形状詞-助動詞語幹
海水で腹を膨らませたクラゲ【みたい】だと清は思った。
必ずそういう状態になる【みたい】ですけど。
そう言う、うねり【みたい】なものは地方にも出てきている。
- 135 ムキ
向き
接尾辞-名詞的-一般
辛口テストが大人【向き】
- 136 ムケ
向け
接尾辞-名詞的-一般
この髪型は、丸顔の人【向け】です。
ジーン・バトラーが子供【向け】のワークショップを開催。
夏【向け】に、前回より怖い作品を目指すという。
- 137 メ
奴
接尾辞-名詞的-一般
ののしる語。
ああ恐ろしい女子【奴】！

- 138 メ 接尾辞-名詞的-一般
奴 謙その意。
私【め】はこの度お願い申し上げました
- 139 メ 接尾辞-名詞的-一般
目 順序を表す。
兄弟のうち二人【目】の中学進学である。
4回【目】の対決となる今回は、
1日【目】は、首席指揮者ロジャー・ノリントン率いる、
- 143 メク 接尾辞-動詞的 五段-カ行-一般（文語四段-カ行）
めく 擬態語的なものの「めく」は除く。（きら=めく、ざわ=めく）
謎【めかし】ていった。
今を時【めく】
- 672 モウス 動詞-非自立可能 五段-サ行（文語四段-サ行） 動詞連用形
申す
あはれにうれしくも会ひ【申し】たるかな。
- 144 ヤガル 接尾辞-動詞的 五段-ラ行-一般（文語四段-ラ行） 動詞連用形
やがる
馬鹿にし【やがっ】て！
なにを言い【やがる】。
- 145 ヤスイ 接尾辞-形容詞的 形容詞-スイ（文語形容詞-ク） 動詞連用形
易い
住み【やすい】住環境を提案する
かわいくって履き【やすい】パプーシュは
- 146 ヨイ 形容詞-非自立可能 形容詞-オ段-良イ（形容詞-イ段-良イ，文語形容詞-ク） 動詞連用形 イイ
良い
これからも住み【良い】社会に少しでも近付くよう、
- 147 ヨウ 形状詞-助動詞語幹
様 助動詞「ようだ」の語幹に当たるもの。
解釈がやっと思直される【よう】になり、
ミリアリアの【よう】な女の子が
日本のラグビーは日本経済と同じ【よう】に、
- 148 ヨウ 接尾辞-名詞的-一般
様 方法の意。
やり【よう】によってはすごいオイシイ役なんですよ。
天性の能力としか言い【よう】がありません。

- 149 ヨウ
用 接尾辞-名詞的-一般
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(学=用)
賄い【用】にと、鱈の自分の取り分まで渡してくれた
ひとり【用】七輪とびの魚を焼く
- 150 ラ
等 接尾辞-名詞的-一般
複数を表す。
これ【ら】が改善されると、
彼【ら】に希望を託していく。
イラクの子ども【ら】の惨状を理解する
- 151 ラ
等 接尾辞-名詞的-一般
事物をおおよそに指す。
余はなん【ら】の肩書を必要としない。
そこ【ら】のショップとはひと味違う、
- 152 ラシイ
らしい 接尾辞-形容詞的 形容詞-一般(文語形容詞-シク)
助動詞「らしい」は除く。
わざと【らしい】くらいにお金を掛けた作り
“夏【らしい】”体験もしているようで…。
女性【らしい】印象を作り上げる。
- 153 リュウ
流 接尾辞-名詞的-一般
流派の意。
ニイチェ【流】の「健康への意志」を呼びさました。
ピンキー【流】「コマダム」スタイルにちゅーもく！
- 154 ルイ
類 接尾辞-名詞的-一般
漢語の1最小単位と結合したものは除く。(人=類)
貝塚中の貝【類】の組成が、
しめじ【類】
- 155 ワスレル
忘れる 動詞-非自立可能 下一段-ラ行-一般(文語下二段-ラ行) 動詞連用形
お誕生日やご住所を書き【忘れる】方が、
しかも財布を置き【忘れ】、
- 156 ワタル
渡る 動詞-非自立可能 五段-ラ行-一般(文語四段-ラ行) 動詞連用形
「辺り一面に～する」という意。
眼鏡から覗く双眼は澄み【渡っ】ていた。
心に染み【渡る】ような洗練された、
企業までお金が行き【渡ら】ない。
- 157 ワタル
渡る 動詞-非自立可能 五段-ラ行-一般(文語四段-ラ行) 動詞連用形
「徹底的に～する」という意。
さえ【わたる】

全体で1最小単位とするもの

ID	代表形 代表表記	品詞 注記	活用型・その他	接続	異形態
626	アッケラカン あっけらかん	副詞	その他		
	啓太は【あっけらかん】としていた。				
627	アノヨ 彼の世	名詞-普通名詞一般	その他		
	日向ぼこ【あの世】さみしきかも知れぬ				
577	イカニ 如何に	副詞	ニ型		
	現場の光を【いかに】有効に使えるかがポイントだ。 【いかに】もぬった感がなくてつかいやすい 【いかに】技術者が独りよがりに車をつくっていたかを痛感した。				
630	イタルトコロ 至る所	名詞-普通名詞一般	その他		
	あるタイプの指揮者が【いたるところ】で活躍していた。 植物が【いたるところ】にたれ下がっていた。 市内の【いたるところ】で、石油をくみ上げるポンプが動く。				
631	イッショクタ 一緒くた	名詞-普通名詞一般	その他		
	語的情報というのを区別しないでもう【一緒くた】にしてですね				
578	オオイニ 大いに	副詞	ニ型		
	【大いに】時間の節約になることを教えてやろうか。 舞台人としても花開くか、【大いに】注目されるところ。 ラグビー人気を【大いに】高める効果があった。				
636	オモナ 主な	連体詞	その他		
	中性脂肪値やコレステロール値が下がっていることが【主な】要因。 キノボリカンガルーの【主な】食べ物は、木の葉や果実である。 米景気を下降させる【主な】リスクと考えている。				
579	オモニ 主に	副詞	ニ型		
	ヒカゲチョウの仲間は【主に】後翅に顕著な眼状斑を持っています。 梅干しの酸っぱさは【主に】クエン酸によるもの。				

- 580 **ゲニ** 副詞 ニ型
実に
 大晦日 ミソ一文字でミソをつけ 【げに】恐ろしきかなゴマミソズイ
- 581 **ゲンニ** 副詞 ニ型
現に
 【現に】啓太が、信吉とサハシさんの行動を見ていた。
 【現に】船籍国が現に必要な規制を及ぼさない場合
- 582 **コトニ** 副詞 ニ型
殊に
 【殊に】パリでは、街頭のドル買ひにだまされ、
 ローマやマドリッドにおいて、【殊に】鮮やかであった。
- 637 **コノカタ** 名詞-普通名詞-副詞 その他
 此の方 可能
 瓜人先生羽化【このかた】の大霞
- 638 **コノカタ** 代名詞 その他
此の方
 今回のベスト5を制したのは…【この方】でした～！
- 639 **コノゴロ** 名詞-普通名詞-一般 その他
此の頃
 ヤンさんは【このごろ】学校に来ませんね。
 はっきりしないお天気に、いまいちノリノリになれない今日【この頃】。
 「【このごろ】不況のせいか、カットだけでシャンプーいいですっていう
- 640 **コノホウ** 代名詞 その他
此の方
- 641 **コノヨ** 名詞-普通名詞-一般 その他
此の世
 その上で【この世】の地獄を見せてやるのだ。
 【この世】では、ちょっとしたコトバの積み重ねが人生を大きく変えていく。
 26歳で【この世】を去った童謡詩人
- 643 **サラナル** 連体詞 その他
更なる
 今後の課題であり、【さらなる】努力工夫が望まれる。
 【さらなる】使いやすさを実現しています。
- 583 **サラニ** 副詞 ニ型
更に
 【さらに】成長しようというエネルギーを
 皮肉なことに【更に】楽しみが増えたのである。

【さらに】警察庁は、新潟県警を中心に港などで警備活動にあたる。

584 スデニ

副詞

ニ型

既に

自動車を破壊されたとき、【すでに】すべての味方を失ったのである。
現段階で【既に】、頭の中はハムレットでいっぱいなんですね。
【すでに】戦争のむごたらしい実相は、日々次々とあらわになっている。

585 セツニ

副詞

ニ型

切に

再生と再建に取り組んでいただくことを【切に】願う
保護者のみなさまのご協力を【切に】お願いするところで、ございます。

645 ソノホウ

代名詞

その他

其の方

646 タイシタ

連体詞

その他

大した

【たいした】泳ぎ手だとかじまんじゃなかったのかい？
こまかな表現は、【大した】問題ではない。
それがほんとうなら、【たいした】ものだ。

648 タンナル

連体詞

その他

単なる

そう自分と呼ぶのは【単なる】愛称かと思っていた。
僕なんて【単なる】音楽好きのガキだったわけだし。
名匠による武侠映画は、【単なる】チャンバラ映画ではない。

586 タンニ

副詞

ニ型

単に

【単に】単にダンディだというだけで近衛連隊へと登用された
【単に】「手ブレ補正バンザイ！」と唱える気はまったくない。

587 ツイニ

副詞

ニ型

遂に

その思いが【ついに】叶うことはなかった。
コトブキヤから【遂に】フィギュアで登場する。
【ついに】国債発行額が36兆5900億円と過去最高になった。

649 トアル

連体詞

その他

とある

私は、長男を育てるに当たって、【とある】実験をした。
【とある】ロードスター耐久レースの前の1コマ。

588 トクニ

副詞

ニ型

特に

あなたの説明に【特に】付け足すことはありません。
作家や職人さんによる器など、食まわりのものが【とくに】充実している。

【特に】、44道府県議選のうち、35が戦後最低だった

589 トミニ 副詞 二型

頓に

楽しいような町作りに最近【とみに】またなってきましたでもう一つ

590 ヒトエニ 副詞 二型

偏に

その目的は【ひとえに】基本的人権を保障するための装置を
【ひとえに】瀬在総長のお力によるところが大きい

652 ヒョンナ 連体詞 その他

ひょんな

その前に【ひょんな】きっかけで野党の知るところとなり、

653 ホンノ 連体詞 その他

本の

フォルカークとエジンバラは【ほんの】三十分の距離なのだ。
最新アイテムの中から、【ほんの】少しだけご紹介、
【ほんの】人生のひとコマを切り取った言葉がつづられているのに、

591 マサニ 副詞 二型

正に

それはそれらが【正に】異なった種類の事物だからである。
限定グッズをプレゼント、【まさに】いたれりつくせりです。
追い打ちをかけるのが、【まさに】魅力的な色彩と構図の絵です。

592 ユウニ 副詞 二型

優に

寒暖計を読むまでもなく、【ゆうに】四十五度は越えているにちがいはない。

654 ロクナ 連体詞 その他

碌な

「サイフ持つと【ろくな】ことはない」
自分に関わると【碌な】ことはあるまい、とまで思う

593 ロクニ 副詞 二型

碌に

ジョゼフィーヌのほうは【ろくに】読みもしないで
【ろくに】準備もしないで、ステージに立たなきゃいけなくなったし、

655 ワガイ 名詞-普通名詞一般 その他

我が意

【我が意】をえたりという面持ちでこう語った。

656 ワガハイ 代名詞 その他

我が輩

- 657 **ワガママ** 名詞-普通名詞-形状 その他
我侬 詞可能

人間として不遜で【わがまま】だったかを、
あまり【わがまま】なことも言えなかった。
ひよわで【わがまま】な現代っ子だ。

- 658 **ワガヤ** 名詞-普通名詞-一般 その他
我が家

この問題を抱える【我が家】は現代の最前線だ
【我が家】では、賞与の半額以上を住宅ローンにあてています。

研究開発部門言語資源グループ（形態論情報サブグループ）

小椋秀樹*（研究開発部門主任研究員）
小磯花絵*（研究開発部門研究員）
小木曾智信（研究開発部門研究員）
富士池優美*（研究開発部門特別奨励研究員）
宮内佐夜香（研究開発部門研究補佐員）
渡部涼子（研究開発部門研究補佐員）
竹内ゆかり（研究開発部門研究補佐員）
小川志乃（研究開発部門研究補佐員）
小西光（研究開発部門研究補佐員）
原裕*（研究開発部門非常勤研究員）
中村壮範（派遣社員，マンパワー・ジャパン株式会社）

（*印は執筆者）

国立国語研究所内部報告書(LR-CCG-08-03)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

形態論情報規程集 改定版

平成21年3月24日

執筆者 小椋秀樹 小磯花絵 富士池優美 原裕

発行者 独立行政法人国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10番地の2

電話 042 (540) 4300 (代表)

©2009 独立行政法人国立国語研究所

(平20-10)



国立国語研究所

